

FDの制度化に関する研究(2)

－2003年大学教員調査報告－

広島大学高等教育研究開発センター

F Dの制度化に関する研究 (2)

- 2003年大学教員調査報告 -

広島大学高等教育研究開発センター編

広島大学高等教育研究開発センター

COE 研究シリーズの刊行にあたって

広島大学高等教育研究開発センターは、略称を高教研と称し、英語名を Research Institute for Higher Education、略称を R I H E としております。その前身は広島大学大学教育研究センターですが、1972 年 5 月に、さらにその前身の大学問題調査室を発展的に継承して、文部省令による教育研究施設として、日本最初の高等教育研究の専門機関として設置されました。爾来、年輪を重ねる中で着実に研究教育活動を展開し、内外の高等教育研究に重要な役割を果たしてきましたが、お陰様で昨年 2002 年には創立 30 周年を迎えるに至りました。

この節目の年に、文部科学省の 21 世紀 COE プログラムの人文科学領域において、本センターのプロジェクト「21 世紀型高等教育システム構築と質的保証」(拠点リーダー：有本章) が 113 件 (うち人文が 20 件) の拠点の一つとして選定されました。このことは高等教育研究の発展に鋭意取り組んできたセンターの歴史の中でも特筆すべき快挙であると、当センターの関係者一同率直に喜んでおります。とりわけ高等教育の分野では全国唯一の拠点に選定されましたことは、これまでの実績と今後の可能性が認知された点でも、長年にわたって積み重ねてきた努力が報われた点でも、実に名誉なことでありますと同時に、責任の重さを痛感する次第であります。これも高等教育研究が一種のタブー視された時代から盛況を呈するに至った今日まで、数多くの先輩やコリーグ諸氏に支えられて嘗々と築かれた伝統や風土や精神の賜と考えております。したがって、「巨人の肩に乗った小人」であるとの謙虚な気持ちでこのような機会を受け止めますとともに、これを契機にさらなるフロンティア開拓の精神を醸成し、斯界の発展において一層の貢献を実現したいと祈念しているところであります。

本プロジェクトは、主題に掲げました研究を推進するために、5 年間にわたって取り組むものですが、具体的には F D ・ S D の制度化と教育システムの質的保証、研究システムの質的保証、大学組織編成と質的保証などの問題を中心に、データベースの構築、若手研究者の養成などの問題に重点的に取り組むことを期しております。さらに、研究成果を積極的に国内外へ公表し、研究成果を紹介することによって拠点としての研究ネットワークの形成に努め、日英両語による出版物を精力的に刊行することにしております。そして、その一環として、このような体裁で COE 研究シリーズを刊行することにいたしました。その目的は、主として、センターの COE プログラムと関連して取り組んでいる研究活動の実績を記録にとどめることとその国内外への発信によって研究ネットワークの形成を着実に推進することに置かれています。

本企画によって世に送り出される刊行物が、国内外の高等教育研究者はもとより、高等教育に関心のある多くの人々に貴重な価値ある情報を提供することができれば、望外の幸

せであります。また、研究ネットワークの一層の発展のために、読者の皆様から絶大なご支援とご協力を賜りますことができれば、この上ない喜びです。何卒よろしくお願い申し上げます。

2003年3月

21世紀COEプログラム

拠点リーダー 有本 章

はしがき

戦後の新制大学制度の誕生とともに半世紀以上存続した国立大学は、4月から「国立大学法人」に生まれ変わる。新法人では「経営協議会」の導入に端的に具現しているように、「大学経営」そのものに相当大きな比重が置かれるが、それは競争的環境の中で各法人の存亡が問われ、経営の役割が増す以上、当然のことである。

もちろん、今後の大学では学長や役員会のリーダーシップやとりわけ経営の重要性が増す半面、そのみでは組織体の活力が増強されることにならないのは明白であろう。むしろ、大学の「学事」(academic work)の中枢は何よりも「知識」の諸機能に即した活動 研究、教育、サービス に宿っており、特に研究と教育の車の両輪をいかに効果的に回転させ、「学問的生産性」(academic productivity)を上げるかに懸かっている点を看過できまい。その意味では、研究や教育のフロンティアは、大学組織体の上部ではなく下部の「運営単位」に位置すること、研究や教育の活動が活性化するか否かは「運営単位」の主役たる教員自身の資質、能力、やる気によって左右されることを無視できない。

一般に大学の人的資源(human resources)が、役員(学長、副学長、理事など)教員、職員、そして学生の各層によって構成されるとすれば、これら貴重な人材の中で、「学事」に関わる主アクターたる教員の比重が大きき点を見逃せない。大学の生き残り戦略が重視される今後は、人的資源開発が重要性を増すのは必至であり、各役割の開発が重視されざるを得ないが、とりわけ教員の資質開発が問われるのは必至であるとみなされる。それは研究ばかりではなく教育(teaching)において不可欠であり、学生の「学習力」や「学力」を高め、優秀な人材を輩出するには、その実際に携わる教員の「研究生産性」はもとより、それ以上に「教育生産性」への優秀な資質、能力、技術の醸成が期待されるのである。

大学教員の資質開発であるFD(大学教授団の資質開発)を体系的に研究するプロジェクトである本研究は、21世紀COEプログラム「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」の一環を形成している「FD・SD及び教育班」プロジェクトの一翼を担っている。先に公表した「FDの制度化に関する研究(1) 2003年学長調査報告」の姉妹篇である。

主たる目的は、1989年と今回2003年の両方の質問紙調査の結果を比較分析し、FDがシステム、機関、組織、教員個人の中にどの程度定着しているかを追究し、具体的にその現状、問題点、課題を明らかにすることに置かれている。すなわち、「FDの制度化に関する研究(2) 2003年大学教員調査報告」(Study of the Institutionalization of Faculty Development (2): Report of the Nationwide Survey on University Presidents in 2003)によって、1980年代に英米から輸入された概念であるFD(英国ではSD)が、全国の大学教員の意識や行動を通して、日本のシステムや機関へどの程度定着したのかを具体的に実証的かつ客観的に吟味するところに主たるねらいがある。

特に教育活動の改善に特化した「狭義のFD」が制度化される過程には、伝統的な文化、風土、土壌の中に積極的な同調よりも反発や抵抗の動きがみられることも事実であり、

制度化過程において、システム、機関、組織、教員個人の各レベルにかなりの葛藤が見られることは否定しがたい。米国型FDと日本型FDの間、経営と教学の間、研究と教育志向の間、国立と私立セクターの間、建前と本音の間、などにはさまざまな葛藤の状態が観察できるに違いない。現時点では、こうした状態を脱出して次段階への移行が模索されており、制度化は第1期から第2期へ離陸する段階に到達しているが、その間、葛藤もまた深まっていると観察されるのである。このような診断を基にして今後の処方箋を書くとするならば、少なくとも種々の葛藤を克服して所期の制度化を達成し、教育研究活動の活力を高め、「学問的生産性」を一層高める方向への取組みが期待されることになると考えられる。

言うまでもなく、本調査の回答結果は日本の高等教育の研究、政策、実践の各側面に果たす価値が少なくないと考えられる。なぜならば、従来、「FDの制度化」の視座から、日本の大学教育の改革改善に関する体系的研究は殆ど行われていない点を考慮すると、本研究の中間報告で明らかになった事実を基に今後の日本の高等教育、とりわけ大学教育の改革に対して、相応の示唆を付与できるものと見込まれるからである。このことを十分達成するには、教員調査のみの分析を行った本報告は全体の一部であることにかんがみ、学長、学部長、教員の個別調査の中間報告を踏まえた上で今後行う予定の総合的な検討を待たなければならないと考えている。

なお、本調査研究に際しては、全国の大学教員の方々から研究の趣旨をご理解いただき、ご多忙中にもかかわらず、貴重な時間を費やして質問紙調査に回答をお寄せいただいた。当紙面を拝借して、心から感謝の意を表する次第である。

本調査報告の研究組織は次の通りである（印は執筆者）

| | |
|------|----------------------------|
| 有本章 | 広島大学高等教育研究開発センター長・教授（研究代表） |
| 北垣郁雄 | 広島大学高等教育研究開発センター教授 |
| 大膳司 | 広島大学高等教育研究開発センター教授 |
| 大場淳 | 広島大学高等教育研究開発センター助教授 |
| 黄福涛 | 広島大学高等教育研究開発センター助教授 |
| 小方直幸 | 広島大学高等教育研究開発センター助教授 |
| 渡辺達雄 | 広島大学高等教育研究開発センターCOE研究員 |
| 杉本和弘 | 広島大学高等教育研究開発センターCOE研究員 |
| 葛城浩一 | 広島大学高等教育研究開発センターCOE研究員 |
| 福留東土 | 日本学術振興会特別研究員 |

大膳教授をはじめ共同研究者ならびに執筆者の方々には、積極的に研究協力をいただき、お陰様で短期間に中間報告を出版できる運びになった。御礼を述べる次第である。

2004年3月20日

研究代表 有本章

目次

はしがき

| | | |
|------------|-----------------------------|-----------|
| 序章 | FDの制度化と葛藤の類型 | 1 |
| 1. | 広義の概念と狭義の概念の関係 | 1 |
| 1) | 広義の概念 | |
| 2) | 狭義の概念 | |
| 3) | 狭義の概念の定着と葛藤 | |
| 2. | 欧米型概念と日本型概念 | 4 |
| 1) | 欧米型概念 | |
| 2) | 日本型概念 | |
| 3) | 欧米型概念の定着と葛藤 | |
| 3. | 研究と教育の関係 | 6 |
| 1) | 研究志向 | |
| 2) | 教育志向 | |
| 3) | 教育志向の定着と葛藤 | |
| 4. | ボトムアップとトップダウンの関係 | 8 |
| 1) | ボトムアップのFD | |
| 2) | トップダウンのFD | |
| 3) | トップダウンのFDの定着と葛藤 | |
| 5. | 国立大学と私立大学の関係 | 9 |
| 1) | 国立大学のFD | |
| 2) | 私立大学のFD | |
| 3) | セクター間の葛藤 | |
| 6. | FDの特徴 1989年調査と2003年調査の特徴の関係 | 12 |
| 第1章 | 調査の目的と方法 | 15 |
| 1. | 調査の目的 | 15 |
| 2. | 調査の方法 | 16 |
| 1) | 調査の対象 | |
| 2) | 調査方法 | |
| 3. | 回答者の属性 | 17 |
| 1) | 性 | |

| | |
|--|-----------|
| 2) 年齢 | |
| 3) 設置形態 | |
| 4) 専門分野 | |
| 5) 現職名 | |
| 6) 全学レベルの委員の経験 | |
| 7) 所属大学への勤務年数 | |
| 8) 外国で授業を受けた経験の有無 | |
| 9) 授業担当の有無 | |
| 4. 本報告書の内容 | 19 |
| 第2章 学士課程教育に対する大学教員の意識と活動状況 | 21 |
| 1. 「担当授業」の教育目的 | 21 |
| 2. 「担当授業」の達成レベル(質)を高めるための方途 | 25 |
| 3. 授業担当コマ数 | 29 |
| 4. 「担当授業科目」の受講者数 | 30 |
| 5. 教員に期待された諸活動は、昇進審査に際して現実に重視されているか | 31 |
| 6. 教員に期待された諸活動に対してどの程度重きをおいて実際に活動しているか | 32 |
| 7. 教育の改善に対して熱心だと思われますか | 34 |
| まとめ | 35 |
| 第3章 授業の改善とFDの役割 | 37 |
| 1. 授業改善をめぐる認識 | 37 |
| 2. 授業改善のための取り組み | 39 |
| 3. FDの効果 | 41 |
| 4. 今後のFDに対する期待 | 43 |
| 5. 優れた授業や教育改善の試みに対する報償 | 44 |
| 結論と課題 | 47 |
| 第4章 担当授業科目を通してみた教育改善活動 | 49 |
| 1. 担当授業科目の性格 | 49 |
| 2. 「担当授業科目」の自己評価と教員による配慮事項 | 50 |
| 3. 「担当授業科目」の授業評価 | 59 |
| まとめ | 67 |

| | |
|--|-----|
| 終章 全体のまとめと今後の課題 | 69 |
| 1. まとめ | 69 |
| 1) 研究志向から教育志向への転換 | |
| 2) 学士課程教育に対する意識 | |
| 3) 授業改善の必要性 | |
| 4) 授業改善に対する意識と取組み | |
| 5) 学生による授業評価や教員による授業参加に見られる葛藤 | |
| 6) 授業改善に対する取り組みの効果と今後の期待 | |
| 7) 優れた授業や教育改善に対する報賞 | |
| 2. 今後の課題 | 74 |
| 資料 | 77 |
| 資料1 アンケート調査票 | 77 |
| 資料2 データ集計 | 85 |
| 資料3 「担当授業」の質を改善するための重要事項(【問3】) | 114 |
| 資料4 FD活動によって「担当授業」はどのように改善されたか(【問8】) | 126 |
| 資料5 どのような点が学生からの評価につながったか(【問25】) | 140 |
| 資料6 大学教育を活性化するための課題や方策(【問31】) | 161 |

序章 FDの制度化と葛藤の類型

序章 F Dの制度化と葛藤の類型

有本 章

本報告は、「大学教育改善の全国教員調査」の中間報告であり、先般報告した『F Dの制度化に関する研究(1) 2003年学長調査報告』の姉妹篇である。前回のものが学長篇とすれば、今回のものは教員篇である。主題は、大学教育の改善に全国の大学教員がいかに取り組み、実績を上げているかを1989年の同様の調査(有本篇、1990)と比較しながら、実証的に実態を解明することに主眼が置かれている。大学教育の改善は今日の学生が大衆化し、多様化した状況下では、避けて通れない喫緊の課題であることは今更言うまでもなく、この10年間大学内外でひっきりなしに言われてきたことである。にもかかわらず、肝心の大学人がどの程度熱心にその問題に取り組み、どの程度効果が上がっているかは、必ずしも明確にされないままの状態に放置されてきたことも偽らざる事実であると言わなければならない。客観的に現実の事実を把握して、問題の診断と処方を適切に行うことは、高等教育研究の現場にとって不可欠である。その意味で、本報告は、学長篇に続く教員篇として、全国調査に基づいて、現在の状態の客観的かつ実証的な把握を試みる作業である。

この調査報告は、教育改善を調査の中軸に据えているように、現在のF D活動の中軸の問題を対象に設定して推進しているところに特色があり、したがって、日本におけるF Dの制度化の進捗状態に対して最大の関心が置かれていると言ってよからう。

すでに、学長篇の序章において、「F Dの制度化の開始と展開」と題して、本調査研究の背景や問題も論じているので、それを踏まえた上で、現在の「F Dの制度化」(institutionalization of faculty development)に横たわる種々の問題を整理すると、いくつかの論点が見えてくるはずである。本稿では、そのような問題点を整理し、F Dの制度化は現段階において、さまざまな葛藤の状態に直面していることを考察することにした。すべての問題を論じるだけの紙面も力量もないが、現時点において主要と思われる論点=葛藤の類型(typology of conflict)に関して言及するところに主眼がある。

1. 広義の概念と狭義の概念の関係

1) 広義の概念

F Dの概念には広義と狭義の両方の区別があることは通説となっている(Bergquist, et. als., 1975; Cook, 2002; 有本, 2004)。広義の概念は教授団の資質が大学のさまざまな活動の全体を包括する性格を担うとする観念に起因している。大学は古くはギリシ

ヤ時代のプラトンのアカデミアを淵源として、知識の創造や伝達に関わる組織であり、基本的に研究、教育、サービスなどの活動を内包していると考えられる。もちろん、その頃にすでに近代・現代大学と同様の研究機能やサービス機能が確立されていたと考えるのは早計であり、原初的な性格が胚胎されていたに過ぎないかもしれない。教育と言っても、現在のように精密な設計や計画的な営みが組み込まれていたのではなかろう。しかし広く素材としての知識のもつ発見、伝達、応用などの機能が内包された活動が原初的な形態であるとしても展開されていたと考えるのは妥当であろう。その意味で、何らかの知識を扱う学校、とりわけ疑似大学的機関が存在した時点、少なくとも中世大学が誕生した時点から、教授団あるいは教員の資質開発が曲がりなりにも成立したとみなせば、その時点から広範な機能や活動を包括した広義のFDの概念が潜在的に成立していたと考えられるのである。

ライトが指摘したように(Light、1974)、大学教授職が専門職になったのは、19世紀に大学教授が研究を取り入れて研究者への社会化が制度化され、大学教授職の訓練が制度として位置づけられ、キャリアとして定着した時点からであるとみなされる。その時点では、大学は古代や中世とは比べものにならないぐらい明確に知識のあらゆる機能を活動の中に位置つけたというほかないし、従来の教育に対して研究が重視される時代を迎え、大学教授職の使命や役割は知識の機能と同じく広範になったというほかない。実際、アメリカの19世紀から20世紀の前半の頃には、研究こそがFDの内容であったことが分かる。さらに20世紀になると、サービスが明確に導入され、研究、教育、サービスが大学の自他共に認める活動となったのである。大学教授職には、これら諸役割を遂行することの期待が課せられ、これらの資質を開発することが要請されるようになった。さらに、大学の規模が拡大し、官僚制が発達するにつれて、管理運営の役割や資質が期待されるようになったことも見逃せない。かくして、FDの内容は知識の性格を反映した諸活動にまたがる広範な領域に関わることになっても不思議ではないことになる。

2) 狭義の概念

これに対して、狭義のFDは、あれもこれももの広範な活動に対する資質開発を意味しているのではなく、焦点を教育の資質開発に絞っているところに差異が見出せる。しかも一般に「教授団の資質開発」と翻訳されているように、教員個々人のレベルではなく、集団としての教授団のレベルの資質や力量を問題にする点に特徴が見出せる。教授団という「固まり」を対象に設定することは、組織的、体系的な資質開発の取組が前提にされていることは論を待たない。システム、大学、学部、学科などの各組織が意図的に教育の質的改善に向けて自らの活動を展開することを含意していると言って過言ではないのである。

FDの歴史を回顧すると、上述したように広くアメリカの19世紀後半の研究活動への集中を含めれば別であるが、FDが本格的に導入された1970年代以降に焦点を合わせると、

最初は明らかに教育の資質を高める運動として導入されているので、狭義のFDが展開されたとみてさしつかえあるまい。黄金の60年代に頂点を極めたアメリカの高等教育は、70年代には暗転して、経済不況、社会の大学批判、学生人口の減少、社会人学生の増加、大学淘汰の危機などを反映して、教育改革を急ぐことになった(有本篇、1991a; 有本、1997)。教員削減に対応した専攻領域のコンバートや配置転換の必要から教員の再訓練が導入されたこと、大学淘汰へ対応して魅力ある大学を実現するために教育力の増進が不可欠となったこと、社会の大学批判に応答する教育改革が必要になったこと、ニュー・ステューデント(新学生 = new student)へ対応する教授力を醸成すること、などの様々な理由が作用した。大学生生き残りのためには、教員の教育力、技術力、資質の開発が不可欠になったのである。こうして、狭義のFDが徐々に定着することになった。

しかし、その後の歴史を回顧すると、アメリカの場合にも、狭義のみではなく広義のFDが問い直され、狭義と、広義は平行して行われる時代に突入し、現在ではむしろ広義のFDを担保しながら狭義のFDを推進する方向をめざしていると解される。1980年代には学生の学力評価、1990年代には学生の多様化を反映したカリキュラムの見直し、教員に加えてTAの資質開発、1990年代にはIT革命と教育技術の改革、研究大学での教育重視の報賞体系の導入、といった要請がFDの広範な活動を喚起した(Cook、2002; Altbach、2001)。アーネスト・ボイヤーによる「スカラーシップ再考」(Scholarship Reconsidered)もこの時点に提起され、研究 = 学識と化した学識自体を問い直し、その実践による定着を評価によって検証する作業の時代へ突入した(Boyer、1991[有本訳、1994])。したがって、本格的に開始したFDの第1段階が狭義のものであるとするならば、第2段階では広義のFDを包含した方向への展開がなされることになった。

この経緯を日本の現状の展開へ当てはめた場合にも中期的あるいは長期的にはその種の性格を持ったシナリオが書かれるであろうと推察される。実際、今日でも政策・行政レベルでは、文科省による「21世紀COEプログラム」による研究の重視が強調される半面、他方では「特色ある大学教育支援プログラム」による教育の重視が強調されつつある。教育に特化した後者の場合も、その範囲は、「総合的取組」「教育課程」「教育方法」「学生の学習及び課外活動」「大学と地域社会との連携」などへの工夫改善や支援を対象としている(大学基準協会、2004)。COEの場合は研究という広義のFDの領域であるが、狭義のFD活動と直接間接関わる領域である後者の場合でも、「総合的取組」「大学と地域社会との連携」などを基軸にFDが単なる授業や教育の狭い範囲を超えることを先行的に示唆しているのである。

3) 狭義の概念の定着と葛藤

日本のFDの歴史はまだ新しく、アメリカの歴史と照合すれば、いまだ狭義のFDを追求する段階を経過中であると観察できるのであるが、アメリカが経験したように、やがて

狭義と広義の概念の統合をめぐって葛藤を経験する段階に突入すると予想される。大学が知識の府であり、知性の府である以上、知識の性格や機能を反映せざるを得ず、知識の機能間に摩擦や葛藤が生じるように、それを反映したFD活動自体にも必然的に狭義と広義の反復運動を辿らざるを得ないし、当然ながら葛藤を経験せざるを得ない。

大学の活動は知識の発見、伝達、応用、統制にあるとみなせば、伝達である教育のみに特化した教員の資質開発には自ずから限界があるのは明白であり、早晩、壁に突き当たるのは目に見えている。研究と教育とサービスと管理運営を包括的に捉える視座の見直しなしに、大学の発展はあり得ないのであり、教育のみに限定する狭義のFDそのものの見直しが課題となるのである。

2. 欧米型概念と日本型概念

1) 欧米型概念

FD概念は、日本に出自をもつというよりも、海外から渡来してきたものであり、外国産、舶来品である。近代大学の原型を自らは保持しない日本のシステムは、明治維新以来、先進諸国の優れていると思われる大学あるいは高等教育システムのモデルをウィンドウショッピング的に輸入して、日本的風土へと同化、馴化させる実験をしてきたと言って過言ではあるまい。植民地のように強制的移植ではなく、あくまで選択的移植によって取捨選択、採長補短の原理が作用したとはいえ、それは一種の実験であった。当然ながら、実験に成功した概念もあるし、失敗した概念もある。歴史、伝統、文化、風土が異なる国々のシステムはそれなりの固有の理由を反映して形成され制度化されているのであるから、それを直輸入・移植しても、完全に成功するとは限らないし、失敗することも少なくないのは至極当然の成り行きであろう。欧米型の概念であるFDは、そのような輸入型・移植型の特徴を刻印されているはずであり、日本へ輸入されたとき、抵抗を受けたり、反発を受けたりして、なかなか受け入れられなくても不思議ではない。

戦後日本では、高等教育改革の多くはアメリカ型概念の輸入に依拠して追求されてきた。教養部、教養教育、単位制、GPA制(平均点制=Grade Point Average)CAP制、シラバス、オフィスアワー、少人数教育、リメディアル教育、ア kredィテーション(基準認定=accreditation)、学生による授業評価などの多くは大学教育改革の中核概念である。これらの概念は成功を収めているものもあるが、失敗に帰したものも少なくない。現在の大学教育改革の内容が案外、これらの失敗を反省的にとらえ、これら概念を輸入した戦後の改革の原点に回帰して取り組まれていることを想起すると、外来の概念の制度化と定着がいかに困難であるかが如実に証明されるに違いない。

考えてみれば、教育改革の中核概念は狭義のFDの中核概念にほかならないと言って

もよからう。狭義のFD概念が教育改善や改革の追求と直接間接に関わる以上、教授団の資質開発とは抽象的な資質ではなく、これら教育改革を推進する資質や技量にほかなるまい。1970年代にアメリカで発達して、80年代から日本へ輸入されたFD概念は、実際には戦後の教育改革の中枢を占める概念と共に輸入されてきているものであり、その失敗はすなわち狭義のFDの失敗を意味していると解されるのではあるまいか。こうしてアメリカ型の教育改革とFDが表裏の関係を持つと考えれば、1990年代から改めて推進されているFD概念の制度化は、戦後に制度化を試みて失敗したアメリカ型教育改革の新たな追求と裏腹の問題であると言わざるを得ない。

2) 日本型概念

欧米型のFDが改めて追求されている現在、それ以前のあまり意識されなかったとはいえ、教育改革に随伴して輸入されていたと考えられるアメリカ型のFDがなぜ成功しなかったのかは、検討してみる価値がありそうである。その失敗が克服されない以上、新たな装いのFDをいくら追求しても、実現を達成するのは至難であろうと予想するのは難くないからである。

端的に考えれば、欧米型FDに対抗する日本型FDが存在し、その存在によってFDが看過されたり、拒絶されたりするとの仮説が成り立つ。欧米型とりわけアメリカ型の概念は、上に述べた教育の大道具・小道具類が中枢性を占めるのであるから、それらに対して日本型が異なるならば、両者間の概念の相違が識別できることになる。とすれば、総論的にアメリカ型は教育改革を追求し、日本型は追求しないという問題設定ができるはずである。確かに、後述の研究と教育の考察のごとく、教育志向が弱い日本型は教育改革志向も弱いと言えるかもしれない。教育を看過し、無視する以上、教育重視のFDを表面的に、建前的に強調しても定着しないのは無理からぬことである。

日本型FDの実際は、高等教育機関である大学が学生の教育に携わり、毎年70万人前後の学生を受入、卒業させている事実を踏まえれば、当然存在すると推察できる。もし存在しないと仮定すれば、そこには教育が存在しないことになり、授業や教育過程が欠如することになるからである。大学教育が成立している以上、大学教授団には授業や教育に関わる相応の資質や技術が備わっており、機能しているとみなさざるを得ない。かくして、日本型のFDが存在しているとすれば、それは輸入型のFDとは性格を異にするとしか定義できない。

3) 欧米型概念の定着と葛藤

FDの欧米型概念は、1991年の大綱化政策、1998年の大学審答申を契機に制度化を果たしつつある。日本型と欧米型のFD概念が存在するとすれば、そこには、欧米型が日本型の駆逐に成功したこと、日本型と欧米型の統合が実現したこと、日本型と欧米型の

葛藤が深まったこと、などの変化が生じていると推察される。このうち、は移植型が完全に実現するのは困難であるとの仮説を踏まえると、実現しているとは言えないだろう。

は理論的には可能であるが、現実には試行錯誤の過程が予測され、長期の時間がかかるだろうし、10年程度で実現するのは困難であろう。これに対して、は最も現実的な変化として観察できるに違いない。システムへの制度化は、トップダウンとボトムアップの間の角逐を招き、行政と実践現場の間の不協和音を生じ、機関内では学長と教員との葛藤を深める。学長篇の調査で分析したごとく、学長の期待と実際の教員の意識や行動との間には乖離が存在したのはこうした証拠の一端を示す。トップの欧米型への同調とボトムの日本型への同調の間に葛藤が生じているのである。同様にシステムへの制度化は、セクター間、専門分野間、職位間での摩擦や葛藤を招来する。欧米型FDへの同調が早い部分と遅い部分の時間的な遅滞あるいはむしろ「文化遅滞」(cultural lag)が進行する。

3. 研究と教育の関係

1) 研究志向

日本型FDは知識の発見、伝達、応用などの広範な機能を包括した広義のFDに照らせば、知識の伝達や応用よりも発見に価値を置き力点を置いて展開されてきたことが分かる。端的には、それは研究偏重・教育軽視の傾向に具現されている。この傾向は、戦前に制度的に定着し、戦後も助長されて、研究大学もそれ以外の大学も、おしなべて研究志向の意識や行動を促進する方向に報賞体系を整備してきた。国際的にも研究志向のシステムが明確に識別されている(有本編、1991b; Altbach, ed., 1996; 有本・江原編、1996)。したがって、大学において研究志向は当然のことであり、大学教員たるものは教育者や教師よりも、学者、研究者、科学者のイメージや役割を内面化して、自己像やアイデンティティを形成する傾向をもったとみなされる。狭義のFDの教育を重視する考え方は、潜在的には戦後教育改革の中核概念がアメリカ化の試みであったことを想起すれば、そこに潜在的にも顕在的にも包含されて移植されたはずであるにもかかわらず、1998年の大学審答申までは殆ど看過され、無視され続けたのである(大学基準協会、1998)。こうしてアメリカ化はほぼ失敗したが、それは日本型FDの力が強かった側面と、アメリカ型の狭義のFDが政策や行政によって努力義務化されて強制力を未だ持つに至らなかった側面の相乗効果に起因していると考えられる。

2) 教育志向

1990年以降は、その半ば強制力が作用し始めたのであるから、日本型FDの欧米型FDへの転換が目に見えてかなり進行すると予想されるし、実際に今回の調査に依拠した統

計的分析では進行していることが分かる。1989年調査と今回の2003年調査を比較すると、研究志向と教育志向とは順位が逆転しており、この間にFDの制度化に伴う意識変化が生じたことになる(有本編、1991a; 1991b)。特に「熱心である」は3.9%から24.2%と6倍の伸びを示し、「ある程度熱心である」は37.6%から60.9%と1.5%の伸びを示し、これらの合計は41.5%から85.1%と2倍の伸びを示している。熱心だとする教員の割合が半数未満から大多数へと転換したことは、日本の高等教育史上初の画期的な出来事ではないかと推察される。

FDへの意識が喚起されたことは、意識の次元での改革が進行していることであるから、当然ながら授業改善の実践にそれが反映され、授業改善の効果があがるものと期待を抱かせる。しかし、理念が実践に直線的に、あるいは短絡的に直結すると考えるのは尚早にすぎない。現実には紆余曲折して進行するのであり、実際に授業の現場に改革の楔が打ち込まれ、授業の効果が目に見えて顕著にあがるとは限らない。すでに学長調査では、学長の理念と実際の教員の実践の効果には大きな距離が露呈していると学長自身が回答していたのを想起しなければならない。今回の教員調査でも、教員自身の期待値と現実値との間には依然として距離が見出されると言えるのであり、教育を重視する狭義のFDが意識の上で画期的に増進しながらも、授業のインプットに組み込まれ、授業のスループットを通して、授業のアウトプットに結合する歩みは遅々として進まず、決して迅速ではないのである。この点を学長は見抜き、焦燥感を吐露し、教員は反省的なホンネを語っているといえるかもしれない。

同時に、システム、機関、教員の意識・行動において、転換に伴う葛藤が深まっているとみなされるところである。

3) 教育志向の定着と葛藤

教育志向が意識上で顕著に進行したからといえ、肝心の教育の実践が活性化して、教育効果が上がると考えるのは楽観過ぎると言わなければならないことが分かった。その理由は、研究が制度化された近代大学の起点から計算すると、200年間にわたって研究と教育の統合が模索されながら、実際には実現するに至らなかった。研究と教育が遊離して、研究パラダイムが支配的になった。かくして、教育の見直しと改善が不可欠となるのは近代大学では構造的な問題と化したのである。1970年代から欧米を先頭に教育改革の運動が開始され、FDの問題になって帰結したとみなしてさしつかえあるまい。研究志向の定着に200年を要したとみなせば、その解消もまた多くの年月を費やしてこそ実現できうると予想されるに違いないし、今やその第1歩が踏み出されたに過ぎないのであり、200年持続した葛藤の延長線上に新たな葛藤が発生したという観測が成り立つに違いないのである。

4. ボトムアップとトップダウンの関係

1) ボトムアップのFD

教育の現場は授業や教育過程のメカニズムが存在する運営単位にあることは常識であろう。授業は授業を担当する教員、授業を学習する学生、授業の内容を提供するカリキュラムによって構成される。この授業の3点セットが大学教育の基本である。この基本が効果を上げなければ、大学教育全体の効果も上がらない。狭義のFDが学生に学習力や学力をつけ、付加価値を付与することにあるならば、まず授業を改善することに起点が置かれるのは自然であり、言うまでもなくそこにFDの力点が置かれる。教授団の資質開発は、具体的にはカリキュラムの研究、学生の研究、教員自身の研究であり、これらカリキュラム、学生、教員間の相互関係を活性化させて、学生の学習力を促進し、学力を向上させるための知識、技術、能力、活力に支えられた教育力を十分に涵養することこそが中枢の位置を占める。

そのことは、大学組織体の上位相のキャンパス、中位層の学部、下位層の学科、研究所、講座などの中で、下位層にFDの拠点があることを意味する。キャンパスや学部レベルよりも、学科、研究所、講座が主役の座にあると言ってよかろう。それは、大学が「学問の府」であり、「知性の府」であり、「知識」(knowledge)を素材にあらゆる学事(academic work)を展開している事実によって規定されているからである(有本、1997; Brint、2002)。大学は知識の機能を大切にすることによって、学問の発展を可能にし、それを媒介に社会発展に貢献する可能性が開かれる。その意味で、大学が教育の活力を高め、教育効果を発揮せんとすれば、大学組織体の最下位層に位置する授業や教育過程に力点を置くFDを大切にす以外に方法はないことになるのは自明である。それ故に、大学教員が自分の担当する授業に創意工夫によって活力をもたらし、授業効果を上げることが、FDの原点であると言わざるを得ない。こうして、FDは本来ボトムアップの性格を備えているのであり、同時にそれを十分機能させるための条件整備が欠かせないのである。

2) トップダウンのFD

しかし、日本の大学におけるFDの制度化は、逆の方向から開始されてきた点で理念に逆行していると言えるのではなからうか。もちろん、上で述べたように、高等教育が成立している以上、授業の3点セットが機能しているのも事実であり、そうであれば、それなりのFDが奏功していると考えないわけに行かない。つまりそこには高等教育の成立時点から連綿と日本型FDが作用してきたというほかない。これに対して、現在のFDは欧米型FDであり、同じFDでも異質な性格を持つから、旧来の日本型とは異なる方向から政策的、行政的、計画的、強制的に導入し、日本型に沈潜している教員の意識や行動の改革を迫らなければならない。実際、1991年の設置基準の大綱化も、1998年の大学審答申もボ

トムから開始されたのではなく、高等教育システムの上部の文部科学省から機関のトップの学長や執行部を通して開始された(有本、2001)。その結果、学長は誰よりも熱心に教育改革を唱え、誰よりも活発にFDの導入を唱道しているし、学長調査にも熱心な雰囲気も横溢していることが理解できた。学長のリーダーシップが強い大学では、かなりの浸透性がすでに達成され、FDの内容である研修会、FD委員会、学生による授業評価、自己点検評価、外部評価などが急速に進行した。

しかし同時に、多くの学長が不満を表明しているのは、笛吹けど踊らずの教員の体質である。調査結果を分析する限り、教員自身も表面的には熱心に教育改革を唱え、教育改善に努めているように見えるが、一皮むけばかなり消極的な意識や行動が透けて見えるのではあるまいか。頭では理解しているが、実際のスキルの鍛錬から教育効果を上げることまでの実践的な側面は十分に展開されているのではなく、従来のボトムに根付いている伝統型の風土や土壌を媒介した保守的な意識や行動が執拗に温存されて足を引っ張っているのである。

3) トップダウンのFDの定着と葛藤

このような形のボトムアップとトップダウンの衝突は、旧来型に対する新来型のモデルを移植して改革を試みる以上、日本の大学におけるFDの制度化のさらなる深化に向けて決して避けて通れない構造的な問題であり、今後一層葛藤を深めながら紆余曲折の道程を辿るものと推察するのはむつかしくない。

5. 国立大学と私立大学の関係

1) 国立大学のFD

日本のFDの制度化は、日本的な高等教育システムの構造を反映しながら定着すると予想されるし、実際にそうであることが理解できるはずである。戦前以来の高等教育システムの特徴は、中央集権であり、特定の大学群に強力な威信や権威を付与し、重点整備することによってかなり鋭角のピラミッド型成層構造を構築したことである。大学の社会成層を国際比較したバートン・クラークは、イギリスのオックスフォードやケンブリッジと同様に東大と京大が頂点を形成する「尖塔型」(pinnacle)の構造が日本の大学成層の特徴であると指摘した(Clark、1983 [有本訳、1994])。これは、ハーバード、イエール、プリンストン、スタンフォード、MIT、カルテック、カリフォルニア大学バークレー、UCLAといった世界的にもトップクラスの大学群が少なく見積もっても30程度は存在する連峰型のアメリカとは趣を異にしている。ましてや、大学格差が殆どないと言われる平坦型のイタリアやドイツなどとは歴然とした差異が見出されるとみなされている。

日本の大学の成層構造は、天野郁夫が述べたように、戦前に政府によって政策的に意図的に構築された「二元二層構造」の結果であると考えられる(天野、1993)。国立大学と私立大学、大学と専門学校の組み合わせによる重層構造の中で旧帝国大学を基軸にしたピラミッド構造が形成された。その構造によって、日本型FDも規定されてきたと言ってもよからう。研究偏重・教育軽視の意識、行動、風土、土壌、空気は最初は意図的にではあったが、やがて制度として定着し、大学教員が大学院で教育を受け、任用され、昇任し、退任する一連の社会化過程において、大学のエートスや価値として内面化され、意識や行動へと展開されるに至ったのである。最初から、イギリス型の学寮型大学の文化やアメリカのカレッジの文化を日本の大学へ輸入していたら、日本の大学の文化も戦前戦後を通じて現存のものとは異なる文化が形成されたにちがいない。日本型FDの体質も異なった性格をもって形成されたに違いないし、敢えてアメリカ型のFDへ悪戦苦戦しつつ同調を試みる最近の動きも生じるに至らなかったに違いない。

実際には、国立大学と私立大学、大学と専門学校の二元二層構造がいち早く形成され、特に前者のセクター間の格差が形成された。先進国のシステムに追いつき追い越すべく「護送船団」方式の庇護政策によって、資源の重点配備と権威の付与が国立セクター、とりわけ旧帝大グループに対して行われ、その政策は戦前戦後を通じて約130年間にわたって連綿と持続されてきた。戦後改革によって、新制大学の設置を通じて、各県一校の国立大学設置による地方分権を推進したが、戦前に確立された基本的な構図は戦後にも強固な意志によって陰に陽に温存されて現在に至った。この構造の中で日本の高等教育が実際に行われてきたのであるから、そこには日本的な制度と共に日本的な高等教育の風土、土壌、空気が支配してきたとみなされるに違いない。上述した日本型FDの内容はそのような風土、土壌、空気を裏書きする何ものでもない。

国立は研究大学を中心に、戦後大衆化した高等教育の中の25%程度の大学と学生を擁しているのに対して、私立は教育大学を中心に約75%程度の大学や大学生を擁している。日本型FDは国立型を中心に培養されてきた。大衆化した学生の大半を収容している私立大学は、国立の日本型FDに追随するために、大半の学生を抱えるにもかかわらず、教育重視の文化や風土を醸成することができなかった。やればできたかもしれないが、事実としては看過されてきた。その意味で、舶来の狭義のFDは、国立よりも私立セクターにまず変革を迫らざるを得ない不可欠の宿命的な性格を備えているはずであり、私立セクターでのその受容の成否が国立セクターの成否以上に今後の日本の高等教育の改革を決める度合いが大きい。

2) 私立大学のFD

その私立大学のFDは統計的に分析する限り、国立セクターに比較して、多様性が著しく大きい。国立大学の学長や教員がFDへの同調度において比較的まとまった意識傾向を

示すのに対して、私立大学の学長や教員の同調度における意識傾向はかなり変化に富むことが分かる。国立大学は研究志向が強い半面、教育改善の取組みに対しても比較的高い同調傾向を示しているのはセクターとしてのFDに対する集団的な凝集力が高い事実を証明しているし、文科省の政策に対する対応が迅速であることを証明していると解される。これに対して私立セクターは機関数の規模が多く、機関間の多様性が大きい実態を直接間接に反映した結果、比較的同調度の高い機関と比較的同調度の低い機関との2極分解が進行している実態が読みとれるのである。この傾向は、国立セクターが従来の教育改善の取組みが不十分な状態を反省して積極的に改革を断行している事実が見られるのに、私立セクターは同様の傾向を示す部分と、そうでない部分との差異が歴然と具現していることにほかならない。

したがって、明治以来、130年間の歴史を考慮すると、国立型の文化や風土の転換がようやく緒についた最近の動きは画期的な動きであり、それを国立セクターが先導的に遂行していることが判明する半面、私立セクターは同様の転換をしている国立型に近似したグループと国立型とは一線を画すグループの存在が察知されることになる。後者のグループは、大衆化段階の高等教育へ不可欠な教育改善に意識的にも行動的にも緩慢な動きを示すグループであることからすれば、学生の現状に対応した教育力の開発期待には依然として背を向けて旧来型の研究志向や予定調和型の教育力の温存を遂行しているとみなされる。このグループは今後、日本型FDを温存し続けるのか、欧米型FDへ同調を深めるのか、動向が注目される。しかし、少なくとも1世紀に1度のシステムレベルの地殻変動が進行している現在、それに無関心な機関や教員は学生から見放され、淘汰に見舞われる可能性が高いことは明白なのではあるまいか。

ちなみに、ここでは言及しなかった公立セクターは、私立セクターの緩慢な動きのグループ層とほぼ同様の動きに留まっているので、現在のFDへの制度化は各セクター中で最も立ち遅れているとみなされる。この現象は、国立大学法人化後に私立や公立を巻き込んで熾烈化すると予想されるセクター間、機関間の競争を前提に生き残りを真剣に考えるならば、すでに黄信号さらには赤信号が点灯していると読むべきかもしれない。

3) セクター間の葛藤

このように考察すると、セクター間にはFDへの同調意識・行動の側面において決して一律の動きが存在するのではないことが看取できる。130年間に形成されたシステムレベルの高等教育政策と呼応した、システム及び機関の両レベルにおける従来型のFDの制度化は、セクター間の相違を拡大するよりも類似性や画一性を増長することに成功を収めた。その結果、いずれのセクターにも共通して研究志向が強化され、教育志向は看過される事態を推進することになった。現在は、こうした近代大学誕生以来の高等教育に醸成された伝統的な文化、風土、土壌に一大転換を喚起する政策がシステム及び機関の両レベルに導

入され、セクターを越えた改革が着手されている。狭義のFDの中枢に位置づく教育観の転換は、セクターを越えて取組む課題となった。しかし、実際には、セクター間の動きは一律ではなく、国立、私立、公立の順に狭義のFDの制度化を押し進めていることがデータの上で読みとれることが分かったのである。

これを理念、政策、制度化、意識、実践に区別して比較すると、セクター間の差異が理解できるに違いない。日本の近代大学では、理念の上では研究と教育の統合が追求されたはずであるにもかかわらず、実際には研究中心政策とその制度化によって研究パラダイムが優勢を極める傾向を生じた。この制度の価値やエートスの内面化によって大学教員の意識は研究志向と教育軽視の陥穽に陥ったし、実践も「研究生産性」(research productivity)の向上に集中し、「教育生産性」(teaching productivity)は十分に効果を上げることにならなかった。今回の改革は、理念を補強し、教育志向を強化したのを始め、法的に制度化してFDを努力義務化した点で、従来の構造は一新された。しかし機関毎に、研究・教育志向、研究志向、教育志向の性格には差異があり、それが実際の教員の意識や実践のレベルに潜在的顕在的に内面化されており、それ故にシステム及び機関からの新たな改革の制度化へのトップダウン的動きに対応して迅速に動くとは限らず、セクター間の遅滞現象が顕在化する。

6 . FDの特徴 1989年調査と2003年調査の特徴の関係

概観したように、1989年時点の調査は、狭義のFDの制度化以前の段階において行われた調査であるから、旧体制の制度、意識、行動を刻印した調査結果になっていたと言える。既にその時点においても教育改善への期待や意識はある面で発展していたのだが、それはまだ行動や実践の内実を伴わない観念的な段階に留まっていたことは明確である。これに対して、今回の2003年時点では、狭義のFDが高等教育政策の柱に建てられ、行政指導によってシステムから機関の広範な次元に組織的な制度化が図られる段階に移行した結果、制度化は単なる理念や観念の段階にとどまるのではなく、行動や実践の具体的な取組みへと展開されつつある実態が調査結果に刻印されていると解される。その結果、画期的な転換が起こりつつあることが実証的に把握できることになった。

第1に、古い制度から新しい制度への移行期には、古い理念、価値、文化、風土、土壌と新しい理念、価値、文化、風土、土壌が衝突して、緊張、摩擦、葛藤が生じるのは回避できないし、実際にもその兆候が十分見られる。概観したように、そこには広義の概念と狭義の概念、欧米型と日本型、トップダウンとボトムアップ、研究志向と教育志向、国立セクターと私立セクター、古い世代の教員と新しい世代の教員、理系分野と文系分野、といった様々な側面の葛藤が惹起されていると言わなければならない。本稿では、それらの

いくつかスポットを当てて、若干の考察を試みてみた。衝突や葛藤が起こることは、負のイメージが強いとも言えるが、葛藤の発生は改革が進行している証左でもあるから、必ずしも悲観的に捉える必要はないかもしれない。

第2に、これらの葛藤の中では、日本型と欧米型、旧来型と新来型が集約的に具現している研究と教育の葛藤が注目される。これは従来の段階では研究偏重が強かったものが、今回の段階では教育志向が強まったことが原因と考えられ、新たな狭義のFDが制度化を実現しつつある事実を象徴的に示している点で印象的である。その意味で、一世紀以上にわたって経験したことの無い大幅な大学教員の意識改革が胎動しつつあることが明確である。教育改善の必要性や実際の改革への取組みを追求する行動次元の動きも大幅に活発になりつつあることが判明した。

第3に、同時に、制度の上でも古い体制と新しい体制の競合状態が持続しており、古い価値観を内面化し、社会化した教員集団と新しい価値観を内面化し、社会化をしつつある教員集団との間の差異が、セクター、専門分野、教員職位などの指標間に具現している事実も否定しがたい。システム、機関、組織、集団の間に緊張、摩擦、葛藤が出現していると観察される。セクター間では、国立が改革をリードし、私立は先進部分と後進部分が2極化し、公立は概して緩慢であることが判明した。

第4に、欧米型、とりわけアメリカ型のFDの導入は、旧来型のFDと比較して、教育重視のモデルであるが、戦後の大学教育改革がアメリカモデルの移植の改革であったこと、しかもそれは必ずしも成功を収めなかったことを想起すると、今回はそのやり直しを意味している側面があることは否めない。戦後60年間の新制大学の中で種々試みられた改革の理念や道具が結構アメリカの大学改革の翻訳版であることを勘案すれば、それを促進するアメリカ型FDが随伴して移植されたにもかかわらず、日本の文化、風土、土壌へは定着しなかったことを示唆する。その点、旧来の日本型FDとアメリカ型FDが葛藤を伴いながら、いかなる化合や結合を行い、いわゆる「化学変化」を生起するか否かは、今後のFD制度化の成否を占う重要な鍵を握っていると考えられるのであり、その実質化が注目されるのである。

参考文献：

天野郁夫 1993『旧制専門学校』玉川大学出版部。

有本 章 1989「外国の大学授業 FD/S Dの動向と実態」片岡徳雄・喜多村和之(編)『大学授業の研究』玉川大学出版部。

1997「FDの構造と機能に関する専門分野の視点」『大学論集』26集、広島

大学大学教育研究センター。

2001 「FDの制度化における社会的条件の役割」『大学論集』31集、広島大学高等教育研究開発センター。

2004 「FDの制度化の開始と展開」有本章編『FDの制度化に関する研究(1)』広島大学高等教育研究開発センター。

有本章(編)1990『大学教育の改善に関する調査研究 全国大学教員調査報告書』(高等教育研究叢書5)広島大学大学教育研究センター。

(編)1991a『諸外国のFD/SDに関する比較研究』(高等教育研究叢書12)広島大学大学教育研究センター。

(編)1991b『学術研究の改善に関する調査研究 全国高等教育機関教員調査報告書』(高等教育研究叢書10)広島大学大学教育研究センター。

有本章・江原武一(編著)1996『大学教授職の国際比較』玉川大学出版部。

P.G. Altbach、(ed.)、1996 The International Academic Profession: Portraits of Fourteen Countries、Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching.

P.G. Altbach、2001 “The American Academic Model in Comparative Perspective、” P.G. Altbach、P.J. Gumpert、and D.B. Johnstone、(eds.)、In Defense of American Higher Education、pp. 11-57.

W.H. Bergquist、S.R. Phillips、G. Quehl、(eds.)、1975 A Handbook for Faculty Development、The Council for the Advancement of Small Colleges.

E.L. Boyer、1991 Scholarship Reconsidered、Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching。(有本章訳『大学教授職の使命 スカラーシップ再考』玉川大学出版部、1994年)

B. Brint (ed.) 2002 The Future of University of Intellect: The Changing American University Stanford University Press.

B. Clark、1983 Higher Education System、University of California Press。(有本章訳『高等教育システム』1994年。)

C.E. Cook、“Faculty Development”、J.J.F Forest and K. Kinser、(ed.)、2002 Higher Education in the United States: Encyclopedia、pp.211-224.

大学基準協会 2004『特色ある大学教育支援プログラム事例集』文部科学省。

大学審議会 1998『21世紀の大学像と今後の改革方策について』(答申)

伊藤秀子・大塚雄作(編)1999『ガイドブック大学授業の改善』有斐閣選書。

D. Light、1974 “Introduction: The Structure of the Academic Profession”、Sociology of Education、Vol. 47、pp. 2-28.

第1章 調査の目的と方法

第1章 調査の目的と方法

有本 章・大膳 司

1. 調査の目的

本研究は、21世紀COEプログラム「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」(拠点リーダー：有本章)の一環として実施した質問紙調査『大学における教育活動の改善に関するアンケート調査』の第一次報告である。

本調査は、わが国の国公立大学における教育改善活動の現状を明らかにし、大学教育の活性化に向けての今後の課題や方策を検討することを目的として実施した。本調査を必要とする背景には、種々の理由から大学教育改善の現状を調査によって実証的に把握する作業の必要性がある点を指摘できる。それは主として、社会変化(グローバル化、知識社会化、市場化など)が急速に進む中で、大学の教育機能の見直しと改善が必要であること、FD・SDの制度化に関する国際比較の視点から大学教育の質的保証の問題を明らかにする必要があること、それと関連して、わが国におけるFDの制度化の実態に関する調査に基づいて大学教育改善の問題点と方策を明確にする必要があること、などである。

このような調査の目的や必要性を踏まえて、具体的な分析を進める場合には次のような視点に留意することとした。

第1は、大学教育の改善に教員の意識や行動の側面から主要な役割を果たすと考えられる、FD(大学教授団の資質開発)の制度化の現状を分析する視点である。この概念は、外国から輸入され、1990年代に大学へ制度化され始め、1991年と1998年の時点を画期として、この10年間に一躍発展を遂げたことが分かる。その間、どのような形で定着し、どのような問題や課題が出現しているかを検討する必要がある。

第2は、FDを中心とした大学教育改善の取組を縦軸と横軸の比較から分析する視点である。縦軸は、前調査(1989年)と本調査(2003年)を比較して、時系列的にFDの制度化と大学教育改善の実績を検討するものであり、他方、横軸は、システム間、セクター間、機関間等の比較分析を通して制度化の深化の実態を明らかにするものである。

第3には、システム内部に焦点づけて制度化の展開を分析する視点である。そこでは、システム(国の政策・計画)、機関(学長及び執行部)、学部(学部長)、専門分野の各レベル間における制度化に関するトップダウンとボトムアップの角度からの相互作用を検討すると同時に、セクター(国・公・私立)、専門分野(学部・学科・講座・専攻など)、大学類型(教育型、中間型、研究型など)、職階(教授、助教授、講師など)等の類型間の

比較検討を試みる。

2. 調査の方法

1) 調査の対象

2003年5月1日現在、全国の国・公・私立の4年制大学に在職中の教授、助教授、講師を調査対象とした。

2) 調査方法

広潤社編集部編『2002 全国大学職員録 国公立大学編』『2002 全国大学職員録 私立大学編』を用いて、まず最初に対象とする大学を選定するために10分の1の大学を無作為抽出し、続いて、その10分の1の大学に所属する教授、助教授、講師を3分の1無作為抽出した。

2003年5月末から 表1-2-1 アンケート調査票配布数・回答数・回答率

6月上旬までに調査票を郵送し、7月中旬を第一次の締め切りとした。回収率を上げるため、6月下旬と7月中旬に督促状を送り、8月上旬までに回収を終えた。

なお、設置者別・職階別の調査票配布数、回答数、回答率は表1-2-1の通りである。

全体の回答率は38.2%で、郵送法によるアンケート調査としては満足のいく数値といえよう。設置者別に回答率をみてもさほど差がなく、国公立大学ともに協力的であった

| | | 一般教員調査 | | | | |
|-----|-----|--------|-------|-------|------|-------|
| 配布数 | | 教授 | 助教授 | 講師 | * | 計 |
| | 国立 | 508 | 416 | 176 | * | 1100 |
| | 公立 | 120 | 87 | 16 | * | 223 |
| | 私立 | 1213 | 496 | 288 | * | 1997 |
| | 計 | 1841 | 999 | 480 | * | 3320 |
| 回答数 | | 教授 | 助教授 | 講師 | その他 | 計 |
| | 国立 | 216 | 157 | 41 | 0 | 414 |
| | 公立 | 52 | 31 | 5 | 0 | 88 |
| | 私立 | 472 | 194 | 91 | 4 | 761 |
| | その他 | 0 | 0 | 1 | 4 | 5 |
| 計 | 740 | 382 | 138 | 8 | 1268 | |
| 回答率 | | 教授 | 助教授 | 講師 | * | 計 |
| | 国立 | 42.5% | 37.7% | 23.3% | * | 37.6% |
| | 公立 | 43.3% | 35.6% | 31.3% | * | 39.5% |
| | 私立 | 38.9% | 39.1% | 31.6% | * | 38.1% |
| | 計 | 40.2% | 38.2% | 28.8% | * | 38.2% |

ことが伺われる。

3. 回答者の属性

回答者の属性をアンケート調査票の最初で質問した。以下にその単純集計結果を示し、最も近い時点で実施された学校教員統計調査の結果と比較しながら、回答者に偏りはないか明らかにしたい。

1) 性

男性が88.0%、女性が12.0%とほとんどが男性からの回答だった。

平成13年度実施の学校教員統計調査における講師以上の教員の性別構成をみると、男性が86.7%、女性が13.3%となっており、ほぼ同じ比率であった。

表 1-3-1 性別構成

| | |
|---|-----------------|
| 男 | 1108 (88.0%) |
| 女 | 151 (12.0%) |
| 計 | 1259 (100.0%) |

2) 年齢

講師以上の教員において、80代以上の教員はおらず、最も多いのは、50代で(34.2%) 続いて、40代(29.4%)、60代(23.4%)であった。

平成13年度実施の学校教員統計調査における講師以上の教員の年齢別構成は、40代は29.5%、50代は34.2%、60代は20.1%となっており、ほぼ同じ比率であった。

表 1-3-2 年齢別構成

| | |
|-------|-----------------|
| 20代 | 4 (0.3%) |
| 30代 | 142 (11.3%) |
| 40代 | 371 (29.4%) |
| 50代 | 431 (34.2%) |
| 60代 | 295 (23.4%) |
| 70代 | 18 (1.4%) |
| 80代以上 | 0 (0.0%) |
| 計 | 1261 (100.0%) |

3) 設置形態

国立は19.6%、公立は12.9%、私立は67.5%であった。

平成13年度実施の学校教員統計調査における講師以上の設置形態別構成は、国立は27.7%、公立は7.5%、私立は64.7%であった。回答者は、実際の構成に比べて、国立大学教員が比較的少なく回答し、公立大学教員が多く回答していた。私立大学教員は全国平均並みに回答していた。

表 1-3-3 年齢別構成

| | |
|----|-----------------|
| 国立 | 414 (32.8%) |
| 公立 | 88 (7.0%) |
| 私立 | 761 (60.3%) |
| 計 | 1263 (100.0%) |

4) 専門分野

回答者の専門分野は、人文科学系が最も多く(21.7%) 続いて、社会科学系(21.1%) 医歯薬学系(19.9%) 工学系(13.1%) となっていた。

表 1-3-4 専門分野

| | |
|-------|----------------|
| 人文科学系 | 224 (18.3%) |
| 社会科学系 | 207 (16.9%) |
| 理学系 | 138 (11.3%) |
| 工学系 | 227 (18.5%) |
| 農学系 | 47 (3.8%) |
| 医歯薬学系 | 196 (16.0%) |
| 家政系 | 11 (0.9%) |
| 教員養成系 | 49 (4.0%) |
| 総合科学系 | 25 (2.0%) |
| 教養教育系 | 7 (0.6%) |
| その他 | 94 (7.7%) |
| 計 | 1225 (100.0%) |

5) 現職名

回答者の職階別の構成を見ると、配布数の比率でいくと、ほぼ、教授57%、助教授29%、講師14%であるから、教授と助教授は配布比率に比べてわずかに高い回答率を示しており、講師はわずかに低い回答率といえよう。

表 1-3-5 専門分野

| | |
|-----|----------------|
| 教授 | 740 (58.7%) |
| 助教授 | 382 (30.3%) |
| 講師 | 138 (11.0%) |
| 計 | 1260 (100.0%) |

6) 全学レベルの委員の経験

全学レベルの各種委員の経験の有無について質問した結果が表 1-3-6である。

最も多くの経験されている委員が、入試系委員で、続いて、自己評価系委員、教務系委員、となっていた。

逆に、経験の少ない委員が、就職系委員と教養教育系委員、であった。

表 1-3-6 全学レベル委員の経験

| | |
|---------|--------------|
| 入試系委員 | 688 (62.5%) |
| 教務系委員 | 555 (50.5%) |
| 就職系委員 | 282 (25.6%) |
| 教養教育系委員 | 221 (20.1%) |
| 自己評価系委員 | 290 (26.4%) |
| その他 | 308 (28.0%) |

注) 有効回答者数 1,100名

7) 所属大学への勤務年数

所属大学への勤務年数の分布を示したのが表 1-3-7である。

どの年齢項目にもほぼ同じ比率の人数が分布している。

表 1-3-7 所属大学への勤務年数

| | |
|--------|----------------|
| 5年以下 | 308 (24.7%) |
| 6~10年 | 247 (19.8%) |
| 11~20年 | 335 (26.8%) |
| 21~30年 | 233 (18.7%) |
| 31年以上 | 125 (10.0%) |
| 計 | 1248 (100.0%) |

8) 外国で授業を受けた経験の有無

外国で授業を受けた経験の有無を質問した 表 1-3-8 外国で授業を受けた経験の有無結果が表 1-3-8である。

経験のある教員は30.7%あった。大学の国際化が叫ばれているにしては意外と外国での学習の経験が少ないようである。

| | |
|----|----------------|
| 有る | 384 (30.7%) |
| 無い | 866 (69.3%) |
| 計 | 1250 (100.0%) |

さらに、留学経験者に留学先を質問した結果が表 1-3-8-1である。

米国が最も多く(58.1%)、続いて、英国(14.8%)、ドイツ(13.5%)となっていた。

表 1-3-1 外国で授業を受けた国

| | |
|------|--------------|
| 米国 | 191 (15.3%) |
| 英国 | 66 (5.3%) |
| ドイツ | 40 (3.2%) |
| フランス | 33 (2.6%) |
| 中国 | 15 (1.2%) |
| その他 | 78 (6.2%) |

注) 有効回答者数 1,250名

9) 授業担当の有無

現在の担当授業の有無について 表 1-3-9 授業担当の有無

質問した結果が表 1-3-9である。

授業を担当していない教員は 0.4%しかおらず、何らかの授業を担当していた。

なお、教養教育のみ担当の教員は6.0%と少ないようである。

大学教育の大綱化以降、教養教育主担当教員が減った結果がと思われる。

| | |
|--------------------|----------------|
| 学士課程の共通・教養教育のみ | 76 (6.0%) |
| 学士課程の専門教育(専門基礎を含む) | 442 (35.0%) |
| 大学院修士課程 | 384 (30.4%) |
| 大学院博士課程 | 355 (28.1%) |
| いずれの課程も担当していない | 5 (0.4%) |
| 計 | 1262 (100.0%) |

以上の結果から、全国の講師以上の大学教員の属性と比較して時の回答者の属性の特徴は、2点である。1つは、性別や年齢別構成については全教員の構成状況とほぼ等しくなっていた。2つは、設置者別の構成を見ると、全教員の構成に比べて、国立大学教員が比較的少なく回答しており、公立大学教員が多く回答していた。

4. 本報告書の内容

本報告書は、6つの章とアンケート調査で自由記述を求めた回答内容等を示した添付資

料から構成されている。

序章では、すでに、学長篇の序章において、本調査研究の背景や問題を論じてはいるが、それを踏まえた上で、現在の「FDの制度化」に横たわる種々の問題を整理するとともに、FDの制度化は現段階において、さまざまな葛藤の状態に直面していることを考察している。

第1章は、調査の目的と方法について提示し、第2章では、学士課程教育（特に、学士課程で担当している授業）に対する大学教員の意識や活動の実態を明らかにした。

第3章では、授業改善に対する認識、FD研修への参加とその効果を概括した後、今後のFDのあり方を展望した。

第4章では、学士課程で担当した授業のうち、回答者の専門分野に近い講義形式の授業ひとつを「担当授業科目」として想定してもらい、その科目の運営や評価に関して質問した結果をまとめている。

終章では、調査結果全体のまとめと今後の調査・研究課題を示した。

第2章 学士課程教育に対する大学教員の意識と活動状況

第2章 学士課程教育に対する大学教員の意識と活動状況

大膳 司

1990年代以降、18歳人口の減少に伴って、加速度的に大学教育の大衆化が進むと同時に、社会・経済のグローバル化に伴って、国際的競争力をもった人材が養成できる大学教育を維持・発展できるよう強い期待が高まっている。そのために、国レベルでは各種の大学評価の仕組み作り、機関レベルでは教育改善活動や自己点検・評価活動、教職員個人レベルでは各種のFD/SD活動が期待され、実施されてきている。

本報告書は、教員個人レベルでの資質開発活動(FD活動)の意識や実態を明らかにすることを目的として実施されたアンケート調査の第一次報告書である。特に、本章では、学士課程教育(特に、学士課程で担当している授業)に対する大学教員の意識や活動の実態を明らかにし、大学教育の質を保証にするための施策作りの基礎的知見をえたい。

1. 「担当授業」の教育目的

まず最初に、「担当授業」をどのような教育目的のもとに行っているのかを探るため、教育の目的を図2-1の通り2つの分類軸で構成された枠組に従って4種類設定した。

図2-1 「教育目的」の分類枠組み

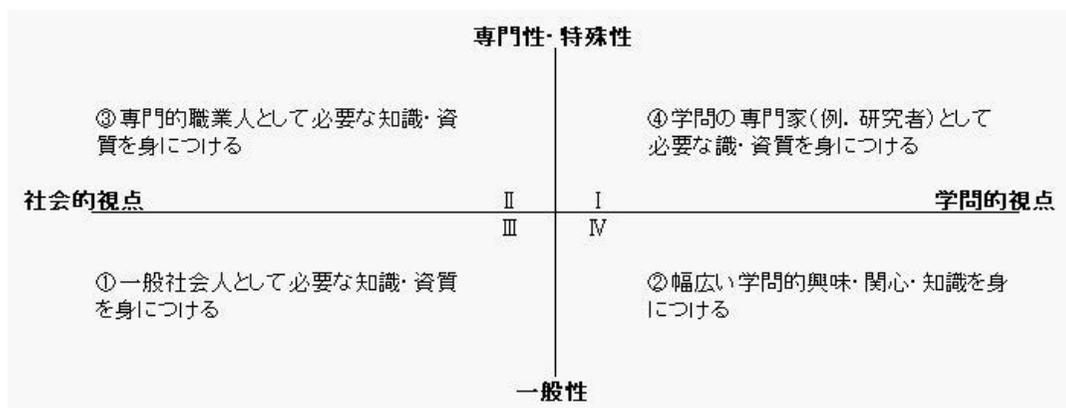


図2-1の縦軸は、教育目的を、専門性・特殊性(専門的な内容や特殊な内容を重視する)

か一般性(一般的な内容を重視する)かによって分類する軸で、横軸は、学問的視点(学問から要請された内容を重視する)か社会的視点(大学外の社会から要請された内容を重視する)かによって分類する軸である。この2つの軸をクロスすることによって、理念としての教育目的を4種類に分類した。

左下の第 象限は、一般性と社会的視点を重視する教育目的を指し、「一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」と表現した。第 象限は、一般性と学問的視点を重視する教育目的を指し、「幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」と表現した。以下同様に、第 象限を、「専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」、第 象限を、「学問の専門家(例・研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる」と表現した。

この4つの理念としての教育目的を用いて、各大学の学士課程の教育目的が、これら4つの教育目的とどの程度関連しているかを以下の通り質問した。

【問1】あなたが、昨年度の「担当授業」を行った際の教育目的は、以下の ~ の各事項とどの程度関連していますか。次の各事項の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

| | 関連がある | ある程度 関連がある | どちらとも 言えない | あまり 関連がない | 関連がない |
|--|-------|---------------|---------------|--------------|-------|
| 一般社会人として必要な知識・ 資質を身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 幅広い学問的興味・関心・知識 を身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 専門的職業人として必要な知識 ・資質を身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 学問の専門家(例・研究者) として必要な知識・資質を 身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

単純集計結果が、表 2-1-1 である。

「専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」のみ「関連がある」を選択した教員が6割を超えていた(62.4%)。続いて多いのは、「幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」(46.8%)であった。

「一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」や「学問の専門家(例・研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる」を「関連がある」と選択した教員はそれぞれ35.8%と32.0%とけっして多くなかった。

以上の結果から、日本の大学は、学生を専門的職業人に育成する専門職業人学校化を強めているのかもしれない。そのような意味で言えば、19世紀初期にフンボルトがベルリン大学を創設する際に掲げた「研究と教育の自由」等の理念は消滅しかけており、市川昭午氏も述べている通り、「本当の大学」は死滅したのかもしれない⁽¹⁾。それ故に、21世紀型の大学教育をどのように指定するかが問われているとも言えよう。

表2-1-1 担当授業の目的に対する意識

| | ①一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる | | ②幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる | | ③専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる | | ④学問の専門家(例・研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる | |
|-----------|---------------------------|--------|-------------------------|--------|----------------------------|--------|-----------------------------------|--------|
| 関連がある | 423 | 35.8% | 596 | 46.8% | 791 | 62.4% | 422 | 32.0% |
| ある程度関連がある | 445 | 35.8% | 471 | 39.1% | 301 | 24.9% | 434 | 33.9% |
| どちらとも言えない | 116 | 9.3% | 85 | 6.9% | 83 | 6.8% | 154 | 13.7% |
| あまり関連がない | 171 | 13.3% | 55 | 5.1% | 50 | 4.5% | 173 | 15.8% |
| 関連がない | 72 | 5.7% | 28 | 2.2% | 17 | 1.5% | 56 | 4.6% |
| 計 | 1227 | 100.0% | 1235 | 100.0% | 1242 | 100.0% | 1239 | 100.0% |

表2-1-2は、担当授業の目的を質問した結果を担当者の属性別に示したものである。

表2-1-2 担当授業の目的に対する意識(属性別)

①一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる

| | 単統集計 | 設置者 | | | | | | 授業担当 | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 関連がある | 34.5% | 30.2% | 20.7% | 38.5% | 37.6% | 31.1% | 27.4% | 61.8% | 36.1% | 31.6% | 29.5% |
| ある程度関連がある | 36.3% | 36.9% | 49.4% | 34.4% | 36.9% | 36.2% | 32.6% | 22.4% | 35.2% | 37.7% | 39.2% |
| どちらとも言えない | 9.5% | 10.5% | 11.5% | 8.7% | 7.3% | 13.0% | 11.1% | 13.2% | 7.6% | 12.0% | 8.2% |
| あまり関係がない | 13.9% | 16.5% | 14.9% | 12.5% | 14.2% | 13.8% | 13.3% | 2.6% | 11.7% | 15.2% | 17.8% |
| 関連がない | 5.9% | 6.0% | 3.4% | 6.0% | 4.1% | 5.9% | 15.6% | 0.0% | 9.4% | 3.5% | 5.3% |
| 合計 | 1227 | 401 | 87 | 738 | 713 | 376 | 135 | 76 | 435 | 374 | 342 |

| | 単統集計 | 専門分野 | | | | | | *** | 年代(歳) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-----|
| | | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 |
| 関連がある | 40.5% | 55.8% | 39.0% | 22.2% | 29.8% | 17.2% | 41.7% | 35.2% | 28.1% | 34.5% | 41.5% | |
| ある程度関連がある | 41.9% | 35.7% | 27.2% | 38.5% | 46.8% | 26.3% | 33.3% | 37.3% | 35.0% | 36.0% | 37.8% | |
| どちらとも言えない | 10.4% | 2.5% | 11.0% | 14.0% | 12.8% | 9.1% | 14.6% | 13.4% | 11.5% | 7.9% | 7.4% | |
| あまり関係がない | 5.4% | 4.5% | 16.9% | 19.9% | 10.6% | 26.9% | 8.3% | 9.2% | 16.4% | 16.1% | 10.4% | |
| 関連がない | 1.8% | 1.5% | 5.9% | 5.4% | 0.0% | 20.4% | 2.1% | 4.9% | 9.0% | 5.5% | 3.0% | |
| 合計 | 222 | 199 | 136 | 221 | 47 | 186 | 48 | 142 | 366 | 417 | 299 | |

②幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる

| | 単統集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 関連がある | 48.3% | 50.2% | 40.2% | 48.2% | 50.8% | 47.4% | 37.0% | 60.5% | 46.1% | 49.3% | 47.1% |
| ある程度関連がある | 38.1% | 36.1% | 44.8% | 38.4% | 37.3% | 39.2% | 40.0% | 32.9% | 37.4% | 37.9% | 40.5% |
| どちらとも言えない | 6.9% | 7.7% | 6.9% | 6.4% | 6.7% | 5.8% | 11.1% | 3.9% | 6.6% | 6.9% | 7.8% |
| あまり関係がない | 4.5% | 4.0% | 5.7% | 4.6% | 3.9% | 5.3% | 5.2% | 2.6% | 5.5% | 4.0% | 4.0% |
| 関連がない | 2.3% | 2.0% | 2.3% | 2.4% | 1.4% | 2.4% | 6.7% | 0.0% | 4.3% | 1.9% | 0.6% |
| 合計 | 1235 | 402 | 87 | 745 | 719 | 378 | 135 | 76 | 438 | 375 | 346 |

| | *** | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|------|
| | 専門分野 | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | |
| 関連がある | 63.1% | 56.7% | 51.1% | 38.8% | 48.9% | 33.5% | 50.0% | 51.0% | 43.3% | 50.2% | 50.3% | |
| ある程度関連がある | 31.1% | 35.8% | 34.3% | 47.8% | 38.3% | 37.8% | 33.3% | 35.7% | 40.1% | 36.4% | 39.1% | |
| どちらとも言えない | 4.5% | 5.0% | 9.5% | 5.8% | 8.5% | 10.6% | 8.3% | 6.3% | 8.2% | 6.9% | 5.6% | |
| あまり関係がない | 1.4% | 2.5% | 3.6% | 5.4% | 4.3% | 8.5% | 8.3% | 3.5% | 4.9% | 5.0% | 3.6% | |
| 関連がない | 0.0% | 0.0% | 1.5% | 2.2% | 0.0% | 9.6% | 0.0% | 3.5% | 3.5% | 1.4% | 1.3% | |
| 合計 | 222 | 201 | 137 | 224 | 47 | 188 | 48 | 143 | 367 | 420 | 302 | |

③専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | *** | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 関連がある | 63.7% | 70.1% | 62.5% | 60.3% | 63.6% | 63.7% | 63.2% | 30.7% | 57.6% | 70.4% | 71.2% |
| ある程度関連がある | 24.2% | 21.2% | 25.0% | 25.8% | 24.7% | 22.8% | 26.5% | 30.7% | 28.1% | 20.6% | 21.9% |
| どちらとも言えない | 6.7% | 4.7% | 6.8% | 7.8% | 6.1% | 8.8% | 4.4% | 16.0% | 8.4% | 5.3% | 4.0% |
| あまり関係がない | 4.0% | 3.2% | 3.4% | 4.6% | 4.5% | 2.9% | 4.4% | 18.7% | 3.9% | 3.7% | 1.4% |
| 関連がない | 1.4% | 0.7% | 2.3% | 1.6% | 1.1% | 1.9% | 1.5% | 4.0% | 2.0% | 0.0% | 1.4% |
| 合計 | 1242 | 405 | 88 | 748 | 726 | 377 | 136 | 75 | 441 | 379 | 347 |

| ③専門的職業人 | *** | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|------|
| | 専門分野 | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | |
| 関連がある | 40.1% | 47.0% | 58.5% | 73.8% | 68.1% | 88.5% | 77.1% | 55.9% | 62.6% | 67.5% | 63.0% | |
| ある程度関連がある | 31.1% | 36.6% | 31.9% | 21.3% | 21.3% | 8.4% | 18.8% | 28.7% | 23.5% | 24.0% | 23.3% | |
| どちらとも言えない | 13.5% | 10.4% | 5.2% | 3.6% | 6.4% | 2.1% | 4.2% | 9.1% | 8.2% | 4.0% | 7.5% | |
| あまり関係がない | 9.5% | 5.0% | 3.7% | 1.3% | 4.3% | 1.0% | 0.0% | 3.5% | 4.1% | 3.3% | 5.2% | |
| 関連がない | 5.9% | 1.0% | 0.7% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.8% | 1.4% | 1.2% | 1.0% | |
| 合計 | 222 | 202 | 135 | 225 | 47 | 191 | 48 | 143 | 366 | 425 | 305 | |

④学問の専門家(例、研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる

| | 単純集計 | *** | | | n.s. | | | *** | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 関連がある | 34.1% | 41.1% | 43.7% | 29.0% | 32.0% | 37.5% | 35.6% | 17.3% | 25.1% | 35.4% | 47.6% |
| ある程度関連がある | 35.0% | 36.4% | 35.6% | 34.3% | 35.4% | 34.0% | 35.6% | 28.0% | 35.2% | 34.3% | 37.2% |
| どちらとも言えない | 12.4% | 10.4% | 8.0% | 14.1% | 12.1% | 13.6% | 11.1% | 18.7% | 14.4% | 12.1% | 8.9% |
| あまり関係がない | 14.0% | 10.1% | 10.3% | 16.5% | 15.6% | 10.9% | 13.3% | 22.7% | 18.5% | 15.6% | 4.5% |
| 関連がない | 4.5% | 2.0% | 2.3% | 6.2% | 4.8% | 4.0% | 4.4% | 13.3% | 6.8% | 2.6% | 1.7% |
| 合計 | 1239 | 404 | 87 | 747 | 725 | 376 | 135 | 75 | 438 | 379 | 347 |

| | *** | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|------|
| | 専門分野 | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | |
| 関連がある | 30.6% | 22.3% | 39.0% | 32.7% | 43.5% | 48.7% | 25.0% | 28.7% | 37.6% | 35.2% | 30.4% | |
| ある程度関連がある | 34.7% | 28.7% | 30.9% | 38.6% | 43.5% | 34.6% | 31.3% | 32.9% | 35.1% | 36.4% | 34.0% | |
| どちらとも言えない | 9.9% | 17.3% | 13.2% | 13.9% | 6.5% | 8.9% | 20.8% | 15.4% | 12.0% | 10.6% | 14.2% | |
| あまり関係がない | 16.2% | 24.8% | 14.0% | 12.1% | 4.3% | 6.3% | 22.9% | 12.6% | 13.4% | 13.2% | 16.5% | |
| 関連がない | 8.6% | 6.9% | 2.9% | 2.7% | 2.2% | 1.6% | 0.0% | 10.5% | 1.9% | 4.5% | 5.0% | |
| 合計 | 222 | 202 | 136 | 223 | 46 | 191 | 48 | 143 | 367 | 423 | 303 | |

設置者と危険率1%において有意な関連性のある教育目的は、「①一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」と「④学問の専門家(例、研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる」である。私立大学所属教員は国立・公立大学所属教員に比べて、「①一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」を自分の担当授業の目的と最も関連があると回答しており、また、国立・公立大学所属教員は私立大学所属教員に比べて、「④学問の専門家(例、研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる」を最も関連があると回答している。

担当授業のレベルで見ると、「①一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」

と「幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」は教養教育のみを担当している教員が、「専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」は修士・博士課程まで担当している教員が、「学問の専門家（例．研究者）として必要な知識・資質を身につけさせる」は博士課程まで担当している教員が「関連がある」と回答していた。

専門分野別にみると、「一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」には社会科学系教員が自分の担当授業の目的として強く関係づけており、「幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」には人文科学系教員が自分の担当授業の目的として強く関係づけており、「専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」には工学系、医歯薬学系、教員養成系教員が自分の担当授業の目的として強く関係づけており、「学問の専門家（例．研究者）として必要な知識・資質を身につけさせる」には農学系と医歯薬学系の教員が自分の担当授業の目的として強く関係づけていた。

年代と危険率1%において有意な関連性のある教育目的は、「一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」のみである。60代以上の教員が最も多く関連があると回答しており、逆に40代の教員が最も少なく関連があると回答していた。

このように、教員の属性によって、担当授業の教育目的に対する認識が異なっている。

2. 「担当授業」の達成レベル（質）を高めるための方途

続いて、日本の教員は「担当授業」の達成レベル（質）を高めるための方途として何が重要であると認識しているか、を確認するために、25項目の施策を示して、どの程度重要であると思うか質問した。項目の詳細は、資料1のアンケート調査票【問2】を参照してもらいたい。

その分析結果が次頁の表2-2である。同表には、「担当授業」の達成レベルを高めるために最も重要であると思われる項目を明らかにするために、「重要である」を1、「ある程度重要である」を2、「どちらとも言えない」を3、「あまり重要でない」を4、「重要でない」を5、として各事項の平均値を計算し、平均値の低い順（重要性の高い順）に項目を並べたものである。

教員が重要であるとした項目の上位6位は全て教員自身の努力項目であった（「担当授業の目的・目標を踏まえた授業内容（カリキュラム）とする」「教員が授業内容を工夫する」「教員が授業の準備を周到に行う」「教員が学生の質問や意見に関心を持つ」「教員が豊富な知識を持っている」「教員が効果的な講義方法を工夫する（例．ポートフォリオ等）」）。

逆に、教員が比較的に重要でないとした項目の上位7位までは大学や学生の努力項目で

あった（「⑭英語を使って授業をする」「⑮国際的に標準とされるテキストを使って授業をする」「⑯ティーチング・アシスタント（TA）を活用する」「⑰受講学生が豊富な知識を持っている」「⑱授業でオフィスアワーを設ける」「(23)受講学生の学習活動を組織的に支援させる（例、学習相談室の設置等）」「(22)厳格な成績評価を行う（GPA制）」）。

表2-2 「担当授業」の達成レベル（質）を高めるための事項の重要度

| | 重要である | ある程度重要である | どちらとも言えない | あまり重要でない | 重要でない | 合計 | | |
|--------------------------------------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|----------------|-----|------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ⇒ | 平均値 | 標準偏差 |
| ⑯担当授業の目的・目標を踏まえた授業内容(カリキュラム)とする | 948 76.1% | 276 22.2% | 16 1.3% | 3 0.2% | 3 0.2% | 1246 100.0% | 1.3 | 0.51 |
| ⑰教員が授業内容を工夫する | 934 74.9% | 293 23.5% | 17 1.4% | 2 0.2% | 1 0.1% | 1247 100.0% | 1.3 | 0.49 |
| ⑰教員が授業の準備を周到に行う | 879 70.5% | 337 27.0% | 24 1.9% | 4 0.3% | 2 0.2% | 1246 100.0% | 1.3 | 0.55 |
| ⑯教員が学生の質問や意見に関心を持つ | 787 63.3% | 411 33.1% | 36 2.9% | 6 0.5% | 3 0.2% | 1243 100.0% | 1.4 | 0.60 |
| ⑰教員が豊富な知識を持っている | 751 60.4% | 441 35.5% | 46 3.7% | 5 0.4% | 1 0.1% | 1244 100.0% | 1.4 | 0.60 |
| ⑱教員が効果的な講義方法を工夫する(例、ポートフォリオ等) | 695 56.0% | 447 36.0% | 82 6.6% | 10 0.8% | 6 0.5% | 1240 100.0% | 1.5 | 0.70 |
| ⑰受講学生が熱心に学習する | 674 54.2% | 474 38.1% | 82 6.6% | 12 1.0% | 2 0.2% | 1244 100.0% | 1.6 | 0.68 |
| ⑰「学部・学科」の教育目的をふまえて授業を行う | 654 52.6% | 467 37.5% | 72 5.8% | 38 3.1% | 13 1.0% | 1244 100.0% | 1.6 | 0.81 |
| ⑰教員が学生の成長発達に関心を持つ | 544 43.8% | 532 42.9% | 126 10.2% | 31 2.5% | 8 0.6% | 1241 100.0% | 1.7 | 0.79 |
| (24)学生の学習施設・設備を充実させる(例、図書館やパソコンの整備等) | 475 38.1% | 573 46.0% | 152 12.2% | 33 2.6% | 14 1.1% | 1247 100.0% | 1.8 | 0.83 |
| (25)教育施設・設備を充実させる(例、視聴覚機器の整備等) | 437 35.1% | 591 47.4% | 154 12.4% | 45 3.6% | 19 1.5% | 1246 100.0% | 1.9 | 0.86 |
| ⑰教員が優れた研究力を持っている | 486 39.0% | 503 40.4% | 169 13.6% | 67 5.4% | 20 1.6% | 1245 100.0% | 1.9 | 0.94 |
| ⑰授業のシラバスを学生に提示する | 417 33.5% | 582 46.8% | 166 13.4% | 60 4.8% | 18 1.4% | 1243 100.0% | 1.9 | 0.89 |
| ⑰教員が学生の授業参加を促す | 398 32.0% | 548 44.1% | 206 16.6% | 72 5.8% | 18 1.4% | 1242 100.0% | 2.0 | 0.92 |
| ⑰少人数で教育を行う | 374 30.1% | 564 45.4% | 232 18.7% | 55 4.4% | 17 1.4% | 1242 100.0% | 2.0 | 0.89 |

| | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|-----|------|
| (21)教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める | 332 26.7% | 645 51.8% | 201 16.1% | 39 3.1% | 28 2.2% | 1245 100.0% | 2.0 | 0.87 |
| ⑦教員が学生をほめるよう努力する | 280 22.5% | 570 45.9% | 302 24.3% | 78 6.3% | 13 1.0% | 1243 100.0% | 2.2 | 0.89 |
| ⑯視聴覚機器を有効に活用する | 288 23.2% | 567 45.7% | 245 19.7% | 83 6.7% | 59 4.8% | 1242 100.0% | 2.2 | 1.03 |
| (22)厳格な成績評価を行う(GPA制) | 230 18.5% | 581 46.7% | 315 25.3% | 80 6.4% | 37 3.0% | 1243 100.0% | 2.3 | 0.94 |
| (23)受講学生の学習活動を組織的に支援させる(例. 学習相談室の設置等) | 135 10.9% | 531 42.7% | 420 33.8% | 112 9.0% | 46 3.7% | 1244 100.0% | 2.5 | 0.93 |
| ⑱授業でオフィスアワーを設ける | 121 10.0% | 437 36.0% | 461 38.0% | 133 11.0% | 62 5.1% | 1214 100.0% | 2.7 | 0.98 |
| ③受講学生が豊富な知識を持っている | 89 7.2% | 425 34.2% | 409 33.0% | 268 21.6% | 50 4.0% | 1241 100.0% | 2.8 | 0.99 |
| ⑳ティーチング・アシスタント(TA)を活用する | 108 8.7% | 412 33.2% | 422 34.0% | 184 14.8% | 114 9.2% | 1240 100.0% | 2.8 | 1.08 |
| ⑮国際的に標準とされるテキストを使って授業をする | 44 3.6% | 214 17.3% | 452 36.5% | 282 22.8% | 246 19.9% | 1238 100.0% | 3.4 | 1.09 |
| ⑭英語を使って授業をする | 14 1.1% | 120 9.7% | 424 34.1% | 333 26.8% | 352 28.3% | 1243 100.0% | 3.7 | 1.02 |

ここに示された項目は、教員の属性による傾向の違いは見られなかった。

教員が、自分の担当授業の質を高めるために最も重要であると思っている項目は、教員自身が努力して授業改善していくことを認識しているようである。そのような努力を支援するようなFD活動が求められているとも言えよう。

続いて、上記した事項以外に、あなたの「担当授業」の質を改善するための重要な事項を記述するよう質問した(【問3】)。その結果以下の通りの項目内容の記述が得られた。詳細については、巻末の資料3をご参照いただきたい。

<教師に関する事項>

【教師が豊富な知識を持つ】【教師自身が今日の社会や人生に展望と自信を持つこと】
【教師の情熱】【他の教員の授業を参考にする】【教員自身の魅力】【受講生の氏名を覚える】
【教官同士の授業参観による相互チェック】【教員の増加】【学外専門家との意見交換】
【他の教育の指導、教育方法を聞き、参考にする】【研究を充実させる】
【教員の体験を授業内容に取り入れる】【教員間の意見交換】
【他専門分野との関連づけを行うこと】【教育・研究に専念できるような環境を整える】
【出席カードへの意見、質問記入、小テストの添削返却等による(個別的)意思疎通】
【担当コマ数の制限】【独りよがりにならない】【学外講師を招く】
【雑務の削減】

< 学生に関する事項 >

- 【学生の知識、関心レベルの把握】【学生の反応、理解度に気をつける】【学生との対話】
- 【学生の授業評価の観点を小分けにする】【学生の授業評価を行う】【学生のレベルに合った講義】
- 【学生に参加させる】【学生が基礎を理解しておく】【学生による発表】
- 【学生の講義と、その評価に対する学生自身あるいは社会的な考え方の改善が必要】
- 【教官が学生の教育に関心を持つこと】【学生の学習意欲を引き出すための工夫・労力が重要】
- 【学生に課題をだす】【学生による授業評価の結果を学生の責任で公表する】
- 【学術研究の成果を学生に紹介する】【学生の学習への主体的な取り組みを促す】
- 【学生が自ら気づくように待つこと】【小テスト等で、学生自身が達成度を確認できるようにする】
- 【学生が先輩と密なコミュニケーションを持つ】【客観的な（学生の）達成度評価】
- 【学生の感想に耳を傾ける】【リアルタイム授業評価】【学生の質】【学生のやる気】
- 【資格試験の実態を学生に説明し、学習意欲を高める】【学生の考える習慣と読書】
- 【やる気のない学生の排除】【学生との連絡を緊密にする】【学生がやらざるを得ない状況を作る】
- 【学生の思い込みに気づかせる】【学生の意見の反映】【学生同士が意見交換のできる環境】
- 【学生がノートできる程度の速度で講義をすすめる】【学生の人格尊重】【学生の自己開示】
- 【学生にも話す機会を与える】【学生が積極的に学園生活を送れるようになって欲しい】
- 【学生の理解し、実践できる態度の育成】【受講者の意識の変化】【TA、RA】
- 【化学反応、物質、変化などを示すことにより学生の注意力や興味を持たせる】
- 【信頼関係】【目的をもたせる】【授業に興味を持たせる】【モチベーションを高める】

< カリキュラムに関する事項 >

- 【カリキュラム体系が明確である】【必修科目であること】【新しい情報を選んでおく】
- 【アップトゥデートした講義内容に変更する】
- 【時事的トピックスを扱う】

< 教育方法に関する事項 >

- 【Power Pointを用いた授業】【毎時間に「質問書」を提出させている】【webの活用】
- 【グループ学習の導入】【授業技術】【豊富な社会教材の蓄積】【練習問題を使用する】
- 【体験から考えるように教育する】【板書の工夫】【習熟度に応じた講義】【具体的な事例教材】
- 【eラーニングを使用した事前学習の実施】【十分な回数の確保】【双方向を目指す】
- 【専門か教養かにより指導のやり方が大きく異なる】【講義終了後に質問時間をもうける】
- 【授業対象となるもの（材料・成型品）を見せさわってもらう】【平易に説明する】
- 【演習・実習を取り入れる】【多くを教えない】【資料を配布する】【サブ教科書を使用している】
- 【あきさせない工夫】【客観的な評価システム】【議論させ、その後解説する】
- 【その場で理解できる授業】【職場体験】【メールで質問を受け付ける】【質問の回答を示す】
- 【基礎知識の充実を図る】【厳格な出欠管理】【当然と思われる定理や知識を解説する】
- 【対象に即した授業】【宿泊】【体験活動】【分かり易い講義】【実権を行う】【考えさせる工夫】
- 【企業等の見学】

< 教育・学習環境に関する事項 >

- 【受講者数を減らす】【視聴覚施設】【教室のサイズの適応化】
- 【エアコンの設置】

< その他 >

- 【成果を焦らない、求めない】【国内外の作例の資料の充実を図る】【国際的な交流を計る】

【教育現場の実態と課題を知る】【目的また問題意識を持たせ、それに沿うように授業を行う】
【鳥瞰の視点を各回の講義で示す】【教室と研究室が近接している】
【現在の研究分野に卓越し、幅広い研究分野にも目を向けて研究すべき】
【使用教室の準備、授業後の処理等が出来るよう、休み時間の長さを十分に確保する】
【時間】【学部に合わせてテキストを選ぶ】【資料作成】【他の科目等との関連を明確に伝える】
【厳しく授業態度を指導すべきである】【参考図書・文献の豊かな常備】
【始、終業時の挨拶】【授業内容と目的を説明する】
【マンガを板書きして「イメージ」として理解させる】【受講生が多いこと】
【専門家の経験を活かせる】【関連する科目との内容調整】【講義以外の学習】
【バーチャルリアリティの活用】【授業内容に関連する職業分野との効果的な連携を図る】
【小・中学校の段階からしっかりと教えてもらいたい】【理解と修練に十分な時間数の確保】
【学外での実践体験が必要】
【到達目標に近づける】【中・高との関連の重視】【インパクトを与える】【私語を必ず中止させる】
【1コマの時間を短くし、回数を増やす】【教育と研究を常に考えていくこと】
【毎月後に自己の授業内容を反省し改善する】【社会での仕事との関連性、成功・失敗の具体例】
【視聴覚機器の活用の仕方に注意している】【机の配置を変える】
【実験を見せる】【「最低」学部の教育目的をふまえて授業すべき】
【新しい知見を授業で講ず】【キャチボール（意見交換）のできる時間と内容】
【到達目標（SBO）を配布する】【専門科目でどのように展開・発展させるかを把握する】
【マイクを座席に設置する】【全国で使用可能な教育素材コンテンツの構築】
【国試の基準、レベルなどを分析する】【目的達成のための必要性から動機づける】
【日常の言語による表現活動に関心を持つこと】【他授業の担当者間で連絡を図る】
【教材作成の支援】【カレントなトピックを教材に用いる】
【フィールドワーク、レポートの重視】【コミュニケーションペーパーの導入】【課外授業】
【全学の共通認識】【幅広い年齢層を対象とする】【礼儀を教える】【情報メディアの研究会】
【目標提示と達成感を持たせる】【演習の結果によって出欠判定を行う】【担当授業の制限】

3. 授業担当コマ数

1学期にどの程度の授業を担当しているのかを以下の通り質問した。

【問15】あなたが想定した「担当授業科目」と同じの開講学期（セメスター）において、下に示した各教育段階の授業をそれぞれ何コマ担当されましたか。（ ）内に数値でご記入下さい。（講義、実習、実験、演習等を含みます。1コマを90～100分としてお考え下さい。複数の教員で担当された場合も1コマと計算してください。）

1. 学士課程の共通・教養教育（専門基礎は除く）（ ）コマ
2. 学士課程の専門教育（専門基礎を含む）（ ）コマ
3. 大学院修士課程（ ）コマ
4. 大学院博士課程（ ）コマ

「担当授業科目」と同じの開講学期（セメスター）において、各教育段階で担当した授業平均コマ数を示したのが表2-3である。

表左列に示された通り、平均的な担当コマ数として、「学士課程の共通・教養教育（専門基礎は除く）」は1.2コマ、「学士課程の専門教育（専門基礎を含む）」は3.0コマ、「大学院修士課程」は0.8コマ、「大学院博士課程」は0.3コマ、合計5.4コマであった。

表2-3 「担当授業科目」と同じ学期に担当した授業コマ数

| | 単純集計 | 年代(歳) | | | | 職階 | | | 設置者 | | | 留学経験 | | | | | |
|--------------------------|------|--------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|---|
| | | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | 教授 | 助教授 | 講師 | 国立 | 公立 | 私立 | 有る | 無い | | | | |
| 1. 学士課程の共通・教養教育(専門基礎は除く) | 1.2 | 1.2 | 1.4 | 1.2 | 1.1 | 1.2 | 1.4 | 1.3 | 0.9 | 0.9 | 1.5 | *** | 1.4 | 1.2 | * | | |
| 2. 学士課程の専門教育(専門基礎を含む) | 3.0 | 3.3 | 3.1 | 2.9 | 2.9 | 2.9 | 3.2 | 3.1 | 2.6 | 2.4 | 3.3 | *** | 3.0 | 3.0 | | | |
| 3. 大学院修士課程 | 0.8 | 0.5 | 0.8 | 0.9 | 0.8 | ** | 0.9 | 0.7 | 0.3 | *** | 1.2 | 1.0 | 0.5 | *** | 0.7 | 0.8 | |
| 4. 大学院博士課程 | 0.3 | 0.1 | 0.3 | 0.4 | 0.3 | ** | 0.4 | 0.3 | 0.1 | ** | 0.5 | 0.5 | 0.2 | *** | 0.4 | 0.3 | * |
| 計 | 5.4 | 5.1 | 5.5 | 5.4 | 5.2 | | 5.3 | 5.6 | 4.8 | ** | 5.3 | 4.7 | 5.5 | * | 5.6 | 5.2 | * |

| | 単純集計 | 専門分野 | | | | | | | 授業担当 | | | | |
|--------------------------|------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-----|
| | | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医療薬学系 | 教員養成系 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | |
| 1. 学士課程の共通・教養教育(専門基礎は除く) | 2.1 | 0.9 | 1.4 | 0.7 | 0.9 | 0.9 | 1.7 | *** | 4.5 | 1.4 | 0.7 | 0.8 | *** |
| 2. 学士課程の専門教育(専門基礎を含む) | 2.7 | 3.3 | 2.3 | 3.3 | 2.9 | 3.2 | 3.2 | *** | 0.0 | 3.5 | 3.4 | 2.6 | *** |
| 3. 大学院修士課程 | 0.6 | 0.8 | 0.8 | 0.9 | 0.8 | 0.4 | 1.4 | *** | 0.0 | 0.0 | 1.4 | 1.2 | *** |
| 4. 大学院博士課程 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.4 | 0.1 | 0.1 | *** | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.1 | *** |
| 計 | 5.8 | 5.3 | 4.8 | 5.1 | 5.1 | 4.9 | 5.4 | *** | 4.5 | 4.9 | 5.6 | 5.7 | *** |

注) 表中の数値は、平均コマ数。 *** p<0.001、 ** p<0.01、 * p<0.05

教員の属性別に授業コマ数を計算した結果、設置者別に見ると、学士課程では私立が国立に比べてコマ数が多く、大学院課程ではその逆となっている。

専門分野別では、「学士課程の共通・教養教育（専門基礎は除く）」では人文科学系が最も多く、「学士課程の専門教育（専門基礎を含む）」では人文科学系が最も少なく、「大学院修士課程」は教員養成系で最も多くなっていた。

4. 「担当授業科目」の受講者数

「担当授業科目」の受講者数を質問した（【問16】）。

受講者数の平均値を示したのが表2-4である。

表2-4 「担当授業科目」の受講者数

| | 単純集計 | 年代(歳) | | | | n.s. | 職階 | | | 設置者 | | | 留学経験 | | n.s. |
|---|------|--------|------|-------|-------|-------|------|------|-----|------|-------|-------|-------|----|------|
| | | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | 教授 | 助教授 | 講師 | 国立 | 公立 | 私立 | 有る | 無い | |
| 計 | 1088 | 91.5 | 98.1 | 114.9 | 121.4 | 116.8 | 98.0 | 95.8 | 735 | 56.1 | 134.6 | 116.0 | 105.9 | | |

| | 単純集計 | 専門分野 | | | | | | | 授業担当 | | | |
|---|------|-------|-------|-----|------|------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医療薬学系 | 教員養成系 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 計 | 739 | 1705 | 790 | 923 | 1202 | 1155 | 1385 | 1372 | 118.7 | 109.8 | 89.8 | |

全体では受講者数の平均は108.8人で、属性別に見ると、私立の134.6人で、国立の73.5人や公立の56.1人に比べて多くなっている。専門分野別に見ると、平均受講者数最大の社会科学系170.5人から、最少の人文科学系73.9人まで範囲があった。

5. 教員に期待された諸活動は、昇進審査に際して現実に重視されているか

あなたの所属学部では、教員の昇進審査に際して、教員に期待されている諸活動は、現実にどの程度重視されているか確認するため、以下の通り質問した。

【問28】あなたの所属学部では、教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、現実にどの程度重視されていますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

| | ある程度 | | どちらとも | あまり | |
|------------|---------|---------|-------|----------|----------|
| | 重視されている | 重視されている | 言えない | 重視されていない | 重視されていない |
| 研究活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教育活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 学内の管理・運営活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 社会サービス活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| その他() | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

分析結果を表2-5に示した。

表中に、「重視されている」を1、「ある程度重視されている」を2、「どちらとも言えない」を3、「あまり重視されていない」を4、「重視されていない」を5、として計算した平均値を示した。平均値が小さいほど重視されているということである。

この度の調査(2003年調査)において、研究活動が教員の昇進審査に際して重視されており、続いて教育活動となっている。この傾向は、1989年当時の調査においても同様の結果となっている。

日本では、教員の昇進審査においては、一貫して、研究活動が重視されているということであろう。

表2-5 教員に期待されている諸活動は現実に重視されていると思うか

| | | 2003年調査 | | | 1989年調査 | | |
|-------------|-------------|---------|-------|---|---------|-------|---|
| ①研究活動 | 重視されている | 818 | 67.1% | 1 | 273 | 52.3% | 1 |
| | ある程度重視されている | 265 | 21.7% | 2 | 183 | 35.1% | 2 |
| | どちらとも言えない | 70 | 5.7% | 3 | 47 | 9.0% | 3 |
| | あまり重視されていない | 36 | 3.0% | 4 | 12 | 2.3% | 4 |
| | 重視されていない | 30 | 2.5% | 5 | 7 | 1.3% | 5 |
| | 計 | 1219 | | ↓ | 522 | | ↓ |
| | | 平均 1.52 | | | 平均 1.65 | | |
| ②教育活動 | 重視されている | 153 | 12.6% | 1 | 29 | 5.6% | 1 |
| | ある程度重視されている | 405 | 33.3% | 2 | 175 | 33.9% | 2 |
| | どちらとも言えない | 299 | 24.6% | 3 | 166 | 32.2% | 3 |
| | あまり重視されていない | 181 | 14.9% | 4 | 99 | 19.2% | 4 |
| | 重視されていない | 178 | 14.6% | 5 | 47 | 9.1% | 5 |
| | 計 | 1216 | | ↓ | 516 | | ↓ |
| | | 平均 2.86 | | | 平均 2.92 | | |
| ③学内の管理・運営活動 | 重視されている | 92 | 7.6% | 1 | 15 | 2.9% | 1 |
| | ある程度重視されている | 349 | 28.8% | 2 | 126 | 24.5% | 2 |
| | どちらとも言えない | 404 | 33.3% | 3 | 222 | 43.2% | 3 |
| | あまり重視されていない | 201 | 16.6% | 4 | 86 | 16.7% | 4 |
| | 重視されていない | 166 | 13.7% | 5 | 65 | 12.6% | 5 |
| | 計 | 1212 | | ↓ | 514 | | ↓ |
| | | 平均 3.00 | | | 平均 3.12 | | |
| ④社会サービス活動 | 重視されている | 30 | 2.5% | 1 | 2 | 0.4% | 1 |
| | ある程度重視されている | 223 | 18.5% | 2 | 56 | 11.0% | 2 |
| | どちらとも言えない | 424 | 35.1% | 3 | 229 | 45.1% | 3 |
| | あまり重視されていない | 263 | 21.8% | 4 | 124 | 24.4% | 4 |
| | 重視されていない | 267 | 22.1% | 5 | 97 | 19.1% | 5 |
| | 計 | 1207 | | ↓ | 508 | | ↓ |
| | | 平均 3.43 | | | 平均 3.51 | | |

6. 教員に期待された諸活動に対してどの程度重きをおいて実際に活動しているか

教員に期待されている諸活動を、教員自身はどの程度重きをおいて実際に活動しているかを確認するため、以下の通り質問した。

【問29】現在、以下に示した各活動に対して、あなたは実際に各々どの程度の重きをおいて活動されていますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。さらに、各活動の右端の()内には、授業期間中の平均的な一週間(月曜日～金曜日)で、実際にどの程度の時間を各活動に使っておられますか、()内に時間数をご記入下さい。

| | ある程度 重視している | どちらとも 言えない | あまり 重視していない | 重視していない | |
|------------|----------------|---------------|----------------|---------|--|
| 研究活動 | 1 ————— 2 | 3 ————— 4 | 5 () | 時間 | |
| 教育活動 | 1 ————— 2 | 3 ————— 4 | 5 () | 時間 | |
| 学内の管理・運営活動 | 1 ————— 2 | 3 ————— 4 | 5 () | 時間 | |
| 社会サービス活動 | 1 ————— 2 | 3 ————— 4 | 5 () | 時間 | |
| その他() | 1 ————— 2 | 3 ————— 4 | 5 () | 時間 | |

分析結果を表2-6に示した。

表中に、「重視している」を1、「ある程度重視している」を2、「どちらとも言えない」を3、「あまり重視していない」を4、「重視していない」を5、として計算した平均値を示した。平均値が小さいほど重視しているということである。

この度の調査(2003年調査)において、教員は教育活動を重視して活動していることがわかる。続いて、研究活動を重視している。この傾向は、1989年当時の調査とは逆になっている。

1991年の大学教育の大綱化に象徴されるこの数年間の教育改革に関わる施策の影響によってか、教育活動に対する教員の意識は急激に高まっている。

これらの調査結果は、期待と現実との間に矛盾を示している。教員自身は教育活動を重視して活動を行っているものの、昇進の際には、教育活動があまり重視されてはいない。このことが、教員自身が教育改善に熱心になれない理由であると思われる(表2-10)。教育活動を評価し、それに見合った処遇を進めていくことが必要ではないか⁽²⁾。

表2-6 教員に期待されている諸活動に現実に重視していると思うか

| | | 2003年調査 | | | | | 1989年調査 | | |
|-------------|------------|------------------|-------|---|----------|-----|---------|---|--|
| ①研究活動 | 重視している | 717 | 58.9% | 1 | (209) | 283 | 53.5% | 1 | |
| | ある程度重視している | 391 | 32.1% | 2 | (126) | 212 | 40.1% | 2 | |
| | どちらとも言えない | 72 | 5.9% | 3 | (9.3) | 31 | 5.9% | 3 | |
| | あまり重視していない | 33 | 2.7% | 4 | (4.4) | 2 | 0.4% | 4 | |
| | 重視していない | 5 | 0.4% | 5 | (2.7) | 1 | 0.2% | 5 | |
| | 計 | 1218 | | | ↓ | 529 | | ↓ | |
| | | 平均 1.54 (16.9) | | | | | 平均 1.54 | | |
| ②教育活動 | 重視している | 721 | 59.7% | 1 | (19.3) | 188 | 35.5% | 1 | |
| | ある程度重視している | 435 | 36.0% | 2 | (14.5) | 298 | 56.2% | 2 | |
| | どちらとも言えない | 39 | 3.2% | 3 | (14.4) | 36 | 6.8% | 3 | |
| | あまり重視していない | 11 | 0.9% | 4 | (6.9) | 7 | 1.3% | 4 | |
| | 重視していない | 2 | 0.2% | 5 | (20.0) | 1 | 0.2% | 5 | |
| | 計 | 1208 | | | ↓ | 530 | | ↓ | |
| | | 平均 1.46 (17.5) | | | | | 平均 1.75 | | |
| ③学内の管理・運営活動 | 重視している | 194 | 16.5% | 1 | (13.0) | 27 | 5.1% | 1 | |
| | ある程度重視している | 494 | 42.0% | 2 | (7.7) | 192 | 36.3% | 2 | |
| | どちらとも言えない | 318 | 27.0% | 3 | (5.1) | 187 | 35.3% | 3 | |
| | あまり重視していない | 114 | 9.7% | 4 | (3.8) | 98 | 18.5% | 4 | |
| | 重視していない | 56 | 4.8% | 5 | (3.2) | 25 | 4.7% | 5 | |
| | 計 | 1176 | | | ↓ | 529 | | ↓ | |
| | | 平均 2.44 (7.2) | | | | | 平均 2.81 | | |
| ④社会サービス活動 | 重視している | 108 | 9.4% | 1 | (8.0) | 24 | 4.5% | 1 | |
| | ある程度重視している | 379 | 33.0% | 2 | (4.3) | 158 | 29.8% | 2 | |
| | どちらとも言えない | 341 | 29.7% | 3 | (2.0) | 190 | 35.8% | 3 | |
| | あまり重視していない | 199 | 17.3% | 4 | (1.1) | 129 | 24.3% | 4 | |
| | 重視していない | 123 | 10.7% | 5 | (0.2) | 29 | 5.5% | 5 | |
| | 計 | 1150 | | | ↓ | 530 | | ↓ | |
| | | 平均 2.87 (2.7) | | | | | 平均 2.96 | | |

注) ()内の数値は、授業のある平日(月～金曜日の5日間)での教員の平均活動時間

7. 教育の改善に対して熱心ですか

教員自身に、教育の改善に対して熱心だと思うか確認するため、以下の通り質問した。

【問30】あなた自身は教育の改善に対して熱心だと思いますか。次の選択肢から最も当てはまるものを選び下さい。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 熱心である | 2. ある程度熱心である | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり熱心ではない | 5. 熱心ではない | |

表2-7に分析結果を示した。

表2-7 あなた自身は教育の改善に熱心だと思いますか

| | 2003年調査 (a) | | 1989年調査 (b) | | (a)-(b) |
|--------------|----------------|--------|----------------|--------|---------|
| 1. 熱心である | 302 | 24.2% | 21 | 3.9% | 20.3% |
| 2. ある程度熱心である | 759 | 60.9% | 200 | 37.6% | 23.3% |
| 3. どちらともいえない | 154 | 12.3% | 234 | 44.0% | -31.6% |
| 4. あまり熱心ではない | 26 | 2.1% | 71 | 13.3% | -11.3% |
| 5. 熱心ではない | 6 | 0.5% | 6 | 1.1% | -0.6% |
| 計 | 1247 | 100.0% | 532 | 100.0% | 0.0% |

「熱心である」は24.2%、「ある程度熱心である」は60.9%、「どちらともいえない」は12.3%、「あまり熱心ではない」は2.1%、「熱心ではない」は0.5%であった。1989年当時に比べて、「熱心である」や「ある程度熱心である」の回答者比率は大幅に増加している。

「熱心である」と回答した教員は24.2%で少数ながらも、この14年間に教育の改善に熱心だと自己認識している教員は大幅に増えた。

まとめ

学士課程における教育目的として、最も多くの教員が強く意識しているのは、「専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」であり、続いて、「幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」であった。教育目的の意識の違いは、教員の専門分野や大学院を担当しているかどうかなどの属性の違いと関連していた。

教員の授業担当コマ数の平均値は、「学士課程の共通・教養教育（専門基礎は除く）」1.2コマ、「学士課程の専門教育（専門基礎を含む）」3.0コマ、「大学院修士課程」0.8コマ、「大学院博士課程」0.3コマ、合計5.4コマであった。

教員に期待されている諸活動に対してどの程度重きをおいて活動しているかを質問したところ、教育活動を最も重視しており、研究活動が2番目であった。この傾向は、この14年間で逆転している。1990年代の大幅な大学教育改革が影響したのであろう。

しかし、教員の所属する学部での昇進審査に際して、現実には教員に期待されている活動は、研究活動で、続いて教育活動であった。この傾向は、1989年当時から変化がなかった。

教員に、教育の改善に対して熱心だと思うか質問したところ、「熱心である」と回答した教員は24.2%、「ある程度熱心である」は60.9%であった。1989年当時に比べて、「熱心

である」や「ある程度熱心である」の回答者比率は大幅に増加している。この14年間に教育の改善に熱心だと自己認識している教員は大幅に増えた。

「担当授業」の達成レベルを高めるために重要であると教員が強く認識している方途は、「担当授業の目的・目標を踏まえた授業内容（カリキュラム）とする」「教員が授業内容を工夫する」「教員が授業の準備を周到に行う」「教員が学生の質問や意見に関心を持つ」「教員が豊富な知識を持っている」「教員が効果的な講義方法を工夫する（例・ポートフォリオ等）」など教員自身の改善努力によって達成可能なものであった。

これらの結果から察することは、教員個人レベルでは、教育活動を改善していくことに対する意識が高まっている。今後は、これらの意識を教育活動として実体化させるために、国・機関レベルでの具体的な施策の展開が期待されているのではないだろうかと思われる。それでは、どのような施策が求められているのか、それらを探るための基礎データは次章以下の報告をご参照頂きたい。

<注>

- (1) 市川昭午『未来形の大学』玉川大学出版部、2001年、38～46頁。
- (2) 大学の教育評価活動の実態については、本報告書の姉妹編である有本章編『FDの制度化に関する研究(1)』広島大学高等教育研究開発センター、2004年、を参照下さい。

第3章 授業の改善とFDの役割

第3章 授業の改善とFDの役割

小方 直幸

この章では、授業改善に対する認識、FD研修への参加とその効果を概括した後、今後のFDのあり方を展望する。

1. 授業改善をめぐる認識

まず、担当している授業の改善や活性化がどの程度必要と認識されているかをみてみよう(表3-1)。

【問4】あなたの「担当授業」の改善や活性化は必要であると思われますか。次の選択肢から最も当てはまるものをお選び下さい。

1. 必要である 2. ある程度必要である 3. どちらとも言えない
4. あまり必要でない 5. 必要でない

表3-1 担当授業の改善や活性化の必要性(経年変化)

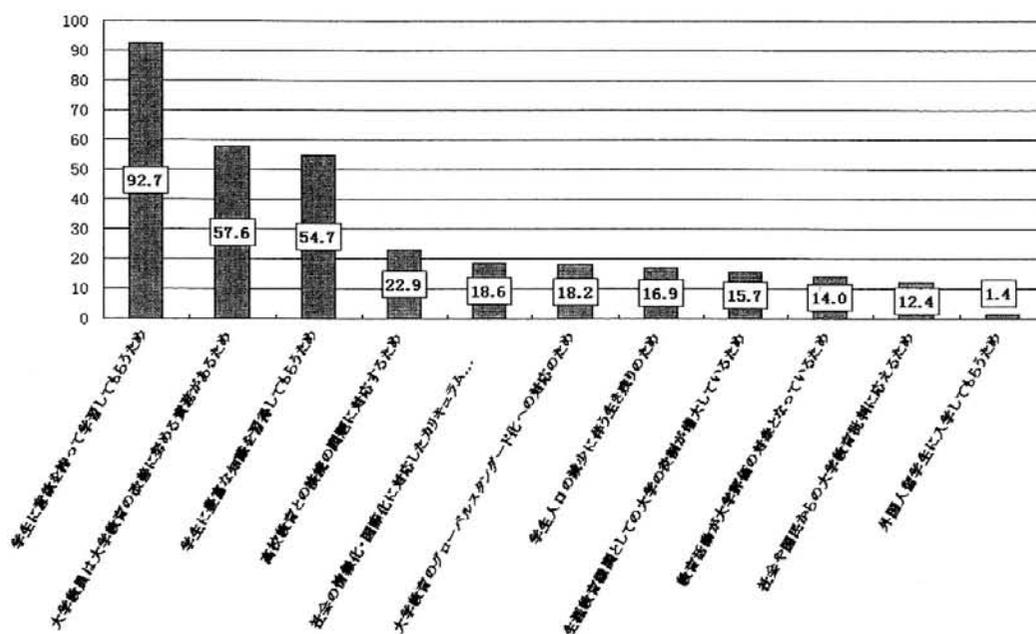
| | 2003年調査 (a) | | 1989年調査 (b) | | (a)-(b) |
|-----------|----------------|--------|----------------|--------|---------|
| 必要である | 521 | 41.9% | 491 | 93.0% | -0.8% |
| ある程度必要である | 625 | 50.3% | | | |
| どちらとも言えない | 64 | 5.1% | 31 | 5.9% | -0.7% |
| あまり必要でない | 27 | 2.2% | 6 | 1.1% | 1.5% |
| 必要でない | 6 | 0.5% | | | |
| 計 | 1243 | 100.0% | 528 | 100.0% | |

全体では9割の者が授業改善の必要性を感じており、89年調査とその傾向は変わらない。必要性を最も認識しているのは、設置者では私立大学、年齢では60代以上、職階では教授である。なお、特にこれらのカテゴリーで「授業がうまくいっていない」という認識が高いわけではない。このことから、授業がうまくいっているか否かの認識と授業改善の必要性の認識とは、直接結びついているとは考えにくい(表3-2)。

表3-2 授業改善や活性化の必要性の認識（属性別）

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 年代(変) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 必要である | 41.9% | 38.5% | 33.7% | 44.7% | 44.9% | 37.2% | 39.3% | 38.7% | 36.6% | 42.2% | 49.0% |
| ある程度必要である | 50.3% | 53.1% | 61.6% | 47.4% | 47.7% | 53.7% | 54.8% | 54.2% | 53.8% | 49.8% | 45.1% |
| どちらとも言えない | 5.1% | 6.2% | 3.5% | 4.8% | 4.9% | 5.3% | 5.2% | 4.2% | 6.0% | 5.2% | 4.5% |
| あまり必要でない | 2.7% | 2.2% | 1.2% | 3.1% | 2.5% | 3.7% | 0.7% | 2.8% | 3.6% | 2.8% | 1.3% |
| 合計 | 1243 | 405 | 86 | 751 | 729 | 376 | 135 | 142 | 366 | 424 | 308 |

図3-1 授業改善や活性化が必要な理由



では、なぜ授業の改善や活性化が必要と考えているのだろうか。質問票は11項目について理由を尋ねているが（【問5】）、最大の理由は「学生に意欲を持って学習してもらうため」であった（図3-1）。これに次ぐのが、「大学教員は大学教育の改善に努める責務があるため」という役割認識論からの発想、そして「学生に豊富な知識を習得してもらうため」という授業の目的論に基づく認識となっている。この他の項目を選択した者は何れも低く、「高校教育との接続の問題に対応するため」や「教育活動が大学評価の対象になっているため」は2割前後の回答にとどまった。教育改善や活性化の必要性は、外的な変化や圧力という以前に、当然のこととして認識されているといっていいただろう。

2 . 授業改善のための取り組み

授業改善の必要性の高い認識は、授業改善に向けた取り組みにも反映されているのだろうか。各種の研修会への参加状況をみてみよう(図 3 - 2)。

【問 6】あなたは、この 5 年の間に、講義の内容・方法や学生の指導法に関するセミナーや研修会（FD 活動）に参加された経験がありますか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

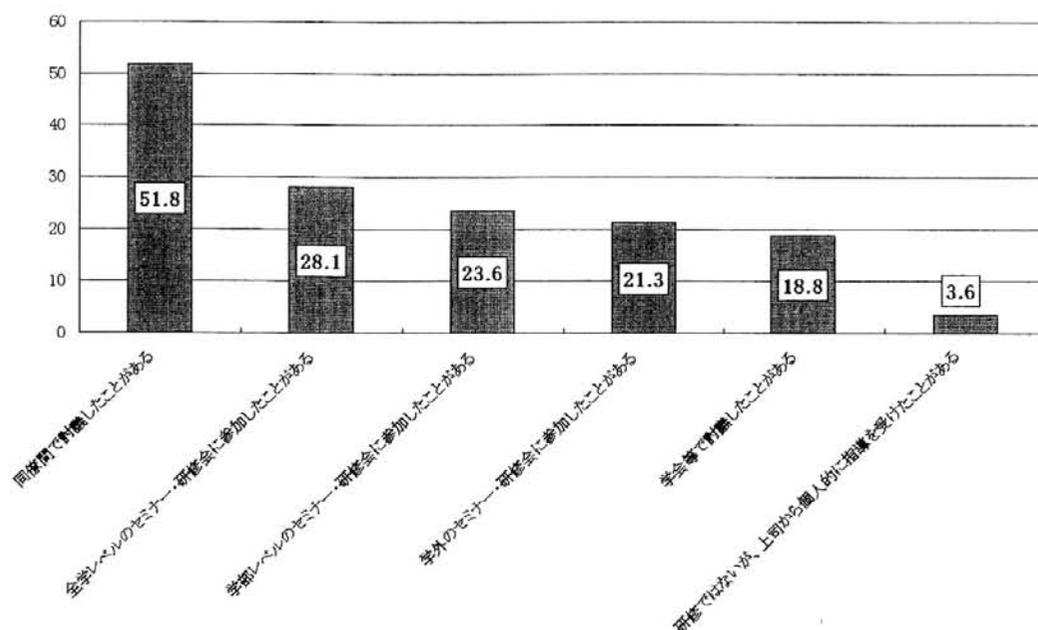
- 1 . 全学レベルのセミナー・研修会に参加したことがある
- 2 . 学部レベルのセミナー・研修会に参加したことがある
- 3 . 学外のセミナー・研修会に参加したことがある
- 4 . 学会等で討議したことがある
- 5 . 研修ではないが上司から個人的に指導を受けたことがある
- 6 . 同僚間で討議したことがある
- 7 . その他 ()
- 8 . まったくない

まず、そうした経験がまったくないと回答した者は17%であり、8割以上が何らかの研修会に参加している。どのような経験が多いかという点、「同僚間で討議したことがある」が最も多い。これに続くのが「全学レベルのセミナー・研修会に参加したことがある」、「学部レベルのセミナー・研修会に参加したことがある」である。

例えばアメリカやイギリスの大学の中には、上司が指導・助言等を行うメンター制度が存在している場合もあるが、「研修ではないが上司から個人的に指導を受けたことがある」は4%に過ぎない。ただし、20・30代(12%)や講師(9%)では、多少この割合が上昇する。また、「全学レベルのセミナー・研修会に参加したことがある」は20・30代の教員で(36%)、「学会等で討議したことがある」は60代以上の教員(23%)で経験が多く、年齢別の役割分担も垣間見られる。

教員によっては、全学レベルでも対応が可能な一般的なスキルの研修が役に立つ場合もあれば、その専門分野に特有のスキルの研修が役に立つ場合もあろう。類似の科目内容の中で、経験者が経験の浅い者の指導・助言を行う、インビジブルなFDがもっと展開されてもよいのかも知れない。もちろんそのためには、ベテラン教員ほど教授能力にも長けているという前提条件が必要である。

図3-2 FD研修への参加経験（5年間）



なお、「全学レベルのセミナー・研修会に参加したことがある」は国立大学（40%）で、「学外のセミナー・研修会に参加したことがある」は私立大学で多い（26%）。国立大学では自前で研修会を組織化していることを示す結果である。他方で昨今は、学内、学外を問わず、多様な研修の機会が提供されていると思われるが、公立大学では、研修会への参加経験のない教員が31%と多い（国立大学17%、私立大学15%）。研修会への参加が教授能力の改善を必ずしも示すものではないが、設置者別に相違がある点は興味深い。この点の議論は、機関調査の報告を参照されたい。

この他、研修会への参加状況は授業担当別にも異なる。参加経験のない者は、教養教育のみの担当者では12%と少ないが、博士課程まで担当している者では20%にまで上昇する。年齢の影響もあり得るが、大学院まで担当している者ほど参加経験がないのは、現在の授業改善の問題が、主として学士課程レベルものとして捉えられていることを示している。これは常識的理解とも合致する。だが今後は専門職大学院にみられるように、研究者養成ではない大学院、とりわけ修士課程が拡大する見込みである。そうなれば、以前よりもコース・ワークの重要性が増してくるであろうし、大学院担当者の教授能力の問題は、今以上に問われることになってくるだろう。

3. F D の効果

では、F D の研修会への参加は担当授業の改善、即ち実践レベルで役に立っているのだろうか（【問7】）。「改善された」（7%）と「ある程度改善された」（41%）を加えると、5割近くが何らかの効果があったと回答しており、一定の成果はあげているようである。

しかし異なる見方もまた可能である。最も多かった回答は、「どちらともいえない」（47%）である。これにはいくつかの解釈があり得る。1つは、各種のF D 活動への参加は、効果がすぐに現れるものではなく、長期的にみる必要があるというものである。もう1つは、F D にも段階論があるとすれば、現在は第1段階、つまり不断の授業改善が必要だという意識レベルの改革を目的とする内容が多く、実践的なスキルの改善等を含むF D 活動は今後の展開になるというものである。

再びアメリカの例をひけば、アメリカの大学では教育に対する教員の「構え」が日本とは基本的に異なっているようにみえる。それは、先に見た「大学教員は授業を改善する必要を常に認識している」という一般的なレベルではなく、教育に熱心であらねばならない、またそれを実践に結びつける構造が制度として埋め込まれていることに起因している。中等教育までの水準がわが国と比べて低い点、テニユアの審査の過程に、学生による授業評価の結果が反映されており、受講者の多くが理解できかつ面白いと思う授業が要求されている点、GSI（Graduate Student Instructor）、つまり大学院生時代のTAの経験が、教育実践能力を培う貴重な機会となっている点、などがその一端である。

意識改革が済んだら今度は実践レベルの改善といえ、F D がリニアに発展するかのよ様な錯覚を受ける。しかしそれを裏付ける制度的な背景がなければ、なかなか実践レベルでの改革は進まないような気もする。後述するように、優れた授業や教育改善の試みに対しては、何らかのかたちで報われるのがよいと、日本でも多くの教員が考えている。教員の評価制度との関連からも、F D の効果を議論する時期が到来しているのではなからうか。

なお、F D を通した具体的な改善の内容（【問8】）を参考までに挙げておく（詳細については、巻末の資料4をご参照いただきたい。）

< 教育目標 > に関連した改善内容

【学部の教育目的をふまえた内容に改善】【授業の意義を明示する】【教育の目標、目的が明確になった】【目標を立て、方略を決めて授業を進める】【目標到達に必要なレベルにまで教える】【各回の講義の目標を明確にする】【授業の重要性を自覚した】【独善的態度があらたまった】【授業を相対化して見ることができる】

< 学生 > に関連した改善内容

【学生のニーズの把握】【学生に関する情報の共有】【教員と学生の距離が縮まった】【学生の出席率の

増加】【学生の学習・理解度に応じた進行を心がけるようになった】【学生との意見交換】【学生気質の変化に応じた授業】【学生の授業態度】【学生の自主性が養われた】【学生のレジュメの質の向上】【相談対応の向上】【学生の興味のある内容、最新のデータ等を追加した】【学生との相互作用】【学生が興味を示してきた】【学生の興味の把握】【学生の意欲が向上した】【学習動機づけ】【学生との対話を重視する】【学生の参加の促し方】【学生の授業評価を授業改善のために検討した】【学生に興味を持つようになった】【学生との信頼関係が向上した】【学生の参加意欲が高まった】【学生が実力を身につけること】【学生の視点に立って評価する】

< シラバス > に関連した改善内容

【シラバスの見直し】【シラバスの活用】【シラバスに忠実に授業する】

< 話し方 > に関連した改善内容

【声を明瞭に聞き取れるようにした】【話し方のスピード、板書の仕方等について、改善するよう努力している】【分かりやすい授業になるように工夫する】【演習を取り入れる】【学生の要望を聞く】【学生のレベルの把握】【学生に刺激を与える授業】【学生の立場を考える】【学生の理解度のチェック】【学生の理解度の向上】【学生の理解度を意識した授業】【質問票の活用】【学生の反応を確かめる】【授業内容の学生への提示の仕方を工夫する】【学生とのディベート】【双方向授業とする】【学生に主体を置くようになっている】

< カリキュラム・教育内容 > に関連した改善内容

【体験学習的内容の増加】【資料を精選する】【教材開発】【教材の工夫】【内容の改善】【プリントの配布】【カリキュラム・授業テーマの明確化】【枝葉末節にこだわらない】【ビデオや教材を用いるタイミング】【資料の工夫】

< 教育方法 > に関連した改善内容

【小テストの実施】【ポイントをしぼる】【授業方法の工夫】【活動を内省する方法を工夫する】【知識の確認】【板書、話す内容を改善】【板書の仕方】

< 視聴覚機器 > に関連した改善内容

【視聴覚機器をさらに増加した】【パソコンの活用】【webの活用】【OHP・パソコンの活用】【ハードウェア・ネットワーク環境の整備】【パソコンによる実習指導】【パワーポイントの活用】

< 評価 > に関連した改善内容

【相互評価を行う】【評価がきめ細かくなった】【成績評価（GPA）】【試験を複数回実施する】【授業評価が上がった】【授業評価をとり入れた】【学生の授業成果の評価法の改善】【評価方法や到達点を設定してから授業の進行や内容を決定する】【学生による授業評価、学習評価の多様化】【自己点検】

< その他 >

【出席のとり方】【他の授業との関連】【他の教員を参考にする】【授業のスピード】【グループ学習を取り入れる】【教育手法について学んだ】【自信が持てた】【授業準備】【授業方法】【落ち着いて授業を行う】【内容量を減らす】【TAの活用】【内容に幅が出た】【教員間の授業交換】【後続授業への準備】【授業の工夫】【学習環境の維持】【マナーの奨励】【座席指定方式】【専門分野の現状と展望の理解】【進展している知識や技術の理解】【例題の改善】【現場や実験を見せる】【討論を取り入れる】【授業への集中度】【資料の提示の仕方】【学生の理解力を重視】【e-learningの導入】【めりはりをつける】【問題解決型の授業】【感想を書かせる】【質問しやすい雰囲気づくり】【感覚的に教授させる必要性を感じた】【改善さ

れている】【大教室授業のティーチングノウハウ】【話し方の改善】【ビデオやレジュメを配る】【工夫の幅が広がった】【カリキュラムの中で担当講義の位置付けを意識する】【実験の導入】【重視していなかった事項を重視するようになった】【身近な話題に置き換えて説明する】【本質が打ち出されるようになった】【フィードバックの実施】【新しい情報を取り入れる】【資料の配付】【若者への対応】【基礎知識を取り入れる】【他大学の工夫を取り入れる】【授業の進め方などを実際にとりいれてやってみた】【外国の大学の例を取り入れる】【小レポート】【私語が少なくなった】【習熟度別クラス】【SBOを明示する】【高校科目の習得・未習得の害を無くす】【あらゆる面で改善された】【内容の方向性、充実が図られた】【授業の進め方が効率的になった】【意識をもって授業をする】【ケーススタディ】【環境の整備】【実技科目の工夫】【レポートを課す】【小規模大学での改善方法を認識】【アドバイザーを設ける】【集団の活用】【ミニッツペーパーの導入】【コメントカードの活用】【遅刻や私語への対応】【前回の授業の復習】【海外の研究を参考にする】【1つ良くなると別のところが悪くなる】【授業内容の整理】【実習指導の充実】【実際の応用に結びつく授業】【チュートリアル制度の導入】【深層心理に影響を受けた】【教育の重要性を意識する】【今後も改善の検討を続ける】【知識の向上】【学習支援強化】

4. 今後のFDに対する期待

担当授業を改善する上で、セミナーや研修会の必要性を尋ねると（【問9】）、「必要である」と回答したのは15%で、「ある程度必要である」（50%）まで含めれば6割を越える。だがここでも、「どちらともいえない」（20%）や「あまり必要でない」（11%）の割合が3人に1人と決して低くない（表3-3）。89年調査と比較すると、「必要である」あるいは「ある程度必要である」を選択した割合が17%増加しており、今後もセミナーや研修会の必要性の認識は高まっていくことも予想される。しかし、既に多くの教員が各種のセミナーや研修会に参加した上での判断であると考えれば、従来型のセミナーや研修会は、その役割を終えようとしている、と読み取ることもまた可能である。

表3-3 授業改善を促すセミナー等の必要性

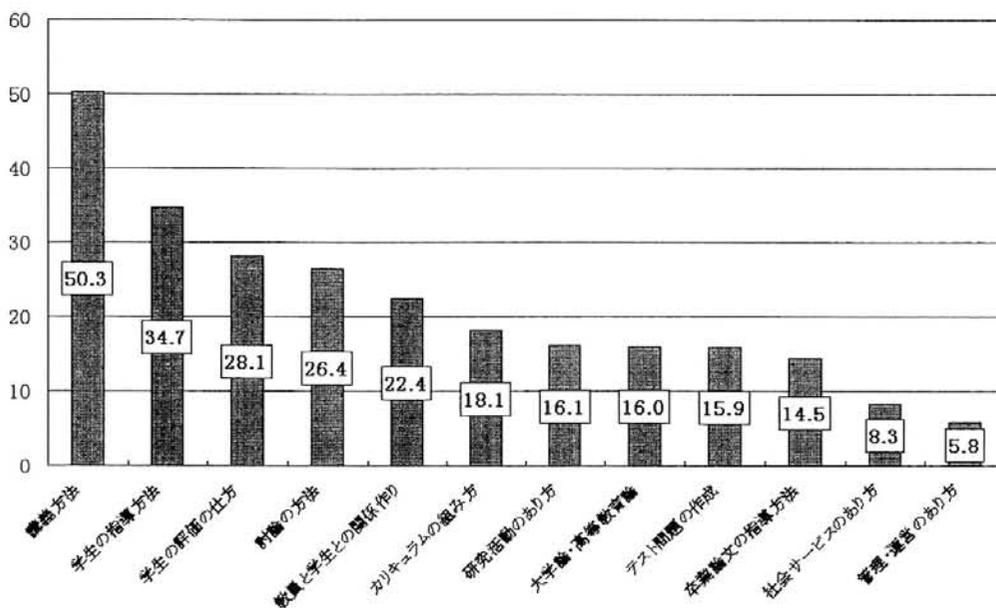
| | 2003年調査 (a) | | 1989年調査 (b) | | (a)-(b) |
|-----------|----------------|--------|----------------|--------|---------|
| 必要である | 185 | 15.0% | 253 | 47.8% | 17.1% |
| ある程度必要である | 614 | 49.9% | | | |
| どちらとも言えない | 249 | 20.2% | 162 | 30.6% | -10.4% |
| あまり必要でない | 129 | 10.5% | | | |
| 必要でない | 53 | 4.3% | 114 | 21.6% | -6.8% |
| 合計 | 1230 | 100.0% | 529 | 100.0% | |

注）選択肢は2003年調査で使用したもの。1989年調査では、「必要だと思う」「どちらとも言えない」「必要だと思わない」となっており、上掲の対応する選択肢にわたり分った

では教員はどういった内容の研修やセミナーに期待しているのか（【問10】）。質問票

では12項目を尋ねている（図3-3）。最も期待が寄せられているのは「講義の方法」（50%）、その次は「学生の指導方法」（35%）であった。これらへの期待は、年齢では20・30代、職階では講師、担当授業では教養教育のみの者で高くなっている。その他では、「学生の評価の仕方」（28%）、「討論の方法」（26%）、「教員と学生との関係作り」（22%）が、比較的期待の高い項目である。

図3-3 現在受けてみたいセミナーや研修会のテーマ



ちなみに、大学・学部内における講義法についての相談や、授業改善のための資料・情報の提供を行うサービス窓口の存在をたずねたところ（【問11】）、既にあると回答したのは12%であった。これに対して、そのようなサービス窓口があったほうが良いと考えている者は（【問12】）、72%とかなり高い。89年調査でも既にその必要性はかなり認められていたが、そうしたサービスの導入はまだ進んでいない（表3-4）。

だが考えてみれば、「講義の方法」や「学生の指導方法」などは、実践の中での工夫や改善、また日常的な指導・助言の中で身に付けていくもので、単発的なセミナーや研修で対応できるかは疑問が残る。また、最も期待している項目でも、選択者の割合が5割にとどまるという事実は、セミナーや研修会以外のソースを通じて期待されている事柄があり、それが把握しきれていない可能性もある。今回の質問紙調査を通して、むしろ今回の質問紙調査で扱った内容の限界が見えてきたともいえる。

表3-4 授業改善を支援するサービスの必要性

| | 2003年調査 (a) | | 1989年調査 (b) | | (a)-(b) |
|---------------------|----------------|--------|----------------|--------|---------|
| あった方がよい | 369 | 29.7% | 230 | 43.4% | -13.7% |
| どちらかといえば あった方がよい | 528 | 42.4% | 182 | 34.3% | 29.9% |
| あまり必要ない | 271 | 21.8% | | | |
| 必要ない | 76 | 6.1% | 118 | 22.3% | -16.2% |
| 合計 | 1244 | 100.0% | 530 | 100.0% | 0.0% |

注) 1989年調査では、「必要だと思う」「どちらとも言えない」「必要だと思わない」の3つのカテゴリに分かれていた。

5. 優れた授業や教育改善に対する報償

最後に、教育活動に対する報償への考え方をみておこう。質問票では、優れた授業や教育改善の試みに対して、何らかのかたちで報われるのがよいと考えているかをたずねており（【問13】）、その結果を示したのが表3-5である。

ある程度報われるのがよいまでを含めると、3人に2人は報われるのがよいと考えている。89年調査ではこの値が4割であったことを考えると、教育活動も何らかの形で報われるべきだという考え方は着実に高まっている。

しかし、報償に対する考え方は、属性別にも異なる（表3-6）。まず年代別には、20・30代で「報われるのがよい」とする割合が高い。同様に職階別では、講師層で「報われるのがよい」とする割合が高く、若年層で報償を望む声が強い。なお専門分野別では、理学系や医歯薬学系で「報われるのがよい」と考える者が多くなっている。

表3-5 教育活動への報償に対する意見

| | 2003年調査 (a) | | 1989年調査 (b) | | (a)-(b) |
|--------------|----------------|--------|----------------|--------|---------|
| 報われるのがよい | 422 | 34.1% | 209 | 39.7% | 25.5% |
| ある程度報われるのがよい | 385 | 31.1% | | | |
| どちらとも言えない | 296 | 23.9% | 133 | 25.2% | -1.3% |
| あまり報われなくてよい | 41 | 3.3% | 185 | 35.1% | -24.2% |
| 報われなくてよい | 94 | 7.6% | | | |
| 計 | 1238 | 100.0% | 527 | 100.0% | |

注) 選択肢は2003年調査で使用したもの。1989年調査では、「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」となっており、上掲の対応する選択肢にわたり分けた。

表3-6 教育活動への報償に対する意見（属性別）

| | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 専任教育のみ | 専門教育を含む | 専任講師まで | 博士課程まで |
| 報われるのがよい | 34.4% | 36.8% | 33.6% | 30.7% | 35.5% | 48.1% | 28.9% | 36.2% | 32.9% | 33.8% |
| ある程度報われるのがよい | 32.4% | 23.0% | 31.4% | 31.5% | 31.0% | 28.9% | 27.6% | 31.0% | 27.5% | 35.8% |
| どちらとも言えない | 24.3% | 29.9% | 22.9% | 26.5% | 23.3% | 17.0% | 28.9% | 23.7% | 25.4% | 21.5% |
| あまり報われなくてよい | 2.2% | 3.4% | 3.9% | 3.3% | 3.2% | 3.7% | 7.9% | 2.1% | 4.5% | 2.6% |
| 報われなくてよい | 6.7% | 6.9% | 8.2% | 9.0% | 7.0% | 2.2% | 6.6% | 7.1% | 9.6% | 6.3% |
| 合計 | 404 | 87 | 746 | 726 | 374 | 135 | 76 | 439 | 374 | 349 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師歯学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 報われるのがよい | 23.5% | 37.3% | 41.5% | 35.9% | 34.0% | 41.1% | 27.1% | 44.7% | 36.3% | 33.7% | 27.0% |
| ある程度報われるのがよい | 31.7% | 33.8% | 26.9% | 34.1% | 17.0% | 35.8% | 18.8% | 27.0% | 35.6% | 30.2% | 28.6% |
| どちらとも言えない | 29.4% | 17.9% | 20.0% | 18.8% | 40.4% | 19.5% | 35.4% | 19.1% | 19.7% | 25.9% | 28.6% |
| あまり報われなくてよい | 4.5% | 3.0% | 4.4% | 4.9% | 0.0% | 1.1% | 6.3% | 3.5% | 2.5% | 2.6% | 5.3% |
| 報われなくてよい | 10.9% | 8.0% | 8.1% | 6.3% | 8.5% | 2.6% | 12.5% | 5.7% | 5.7% | 7.5% | 10.5% |
| 合計 | 221 | 201 | 135 | 223 | 47 | 190 | 48 | 141 | 366 | 424 | 304 |

注) *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

では、報われるのがよい（ある程度報われるのがよいも含む）と考えている者は、具体的にどのような報われ方を望んでいるのだろうか（【問14】）。

表3-7みると、必ずしもある特定の報償形態を望んでいるわけではないことがわかる。つまり、「研究費や研究旅費を給付する」が最多ではあるが、その割合は4割程度であり、「教育の準備や研究のための特別休暇を与える」や「昇進時に重視する」もほぼ同様の値である。89年調査との比較では、「給料やボーナスを上げる」ことを期待する割合が高まっていることが大きな変化である。

表3-7 どのように報われるのがよいと思うか

| | 2003年調査 | | 1989年調査 | | (a)-(b) |
|-------------------------|---------|-------|---------|-------|---------|
| | (a) | (b) | (a) | (b) | |
| 1. 教育賞のような賞を与える | 201 | 25.1% | 34 | 16.6% | 8.5% |
| 2. 昇進時に重視する | 313 | 39.0% | 86 | 42.0% | -2.9% |
| 3. 給料やボーナスを上げる | 267 | 33.3% | 37 | 18.0% | 15.2% |
| 4. 教育の準備や研究のための特別休暇を与える | 324 | 40.4% | 84 | 41.0% | -0.6% |
| 5. 研究費や研究旅費を給付する | 335 | 41.8% | 99 | 48.3% | -6.5% |
| 6. その他 | 59 | 7.4% | 15 | 7.3% | 0.0% |

先に、若年層ほど教育活動が何らかの形で報われるべきだと考えていることを指摘したが、期待する報償の形態にも明確な相違が認められる。具体的には、「昇進時に重視する」「給料やボーナスを上げる」を望む者が、この層では5割を越え、他の層よりも多くなっている。同様に講師層でもこれらを期待する割合が高い。仮に教育活動に対する報償制度を一律に導入する場合には、年齢や職階などに相違なく構成員全員が納得できる形

態が採用されることになるだろう。しかし、若年層では任期制等が導入される傾向もあり、教育活動をめぐっても、今後は年齢層や雇用形態によって処遇を変えていく必要性が出てくるかもしれない。

結論と課題

教育改善の必要性の認識や、そのためのFDの必要性、そして実際に各種の研修会への参加状況は着実に進んでいるようである。それは、89年調査との比較をみても明らかである。この結果をもって、わが国の大学教育の改善は進展していると解釈することが可能かもしれない。しかし、今後も今までの取り組みをそのまま延長していけばよいかといえば、必ずしもそうとはいえない側面もある。89年調査との単純な比較には、ある種の落とし穴が潜んでいる。

現在のFDの進捗状況がどの段階にあるかは議論の分かれるところだろうが、FDがまだ揺籃期にある時の意見と、(仮にだが)成人式を迎えた時の意見とでは、意見の背景となる文脈が異なる。特にFDの評価に対する解釈には慎重であらねばならないだろう。これはあくまで個人的な意見に過ぎないが、例えば全学の研修会といった初期のFDの形態はその役割を終えようとしていると思う。FDの効果に対して積極的な評価をしない層も出てきている。89年時点であれば、それはFDを理解していないと一蹴することができたかもしれないが、現在の彼ら・彼女らの多くは既にFDの経験者である。

また、欧米の状況をみていると、大学教育の改善、とりわけ大学教員の教育改善への取り組みは、中等教育の水準と密接に連動しているように見える。十分な基礎的学習ができていない大学生が増えてくると、それに見合ったカリキュラムを組み、それに見合った教え方が必要になる。日本も急速に中等教育の水準が低下する方向にあるが、その時になって大学教育は本腰を入れて代わり始めるのかもしれない。中等教育のピンチは皮肉なことに高等教育が変革するチャンスでもある。その意味では、今後は大学のタイプも踏まえながら、教育改善の事例分析も地道に行っていく必要がある。

また、外部評価の導入や教員評価のあり方といった制度的な側面も、その善し悪しという判断は別としても、欧米では大学教育を改善に導く駆動力になっているように見える。今回の調査では、教育改善をしなければいけないという背景に、こうした外的な状況の変化が挙げられることはなかったが、特に若年教員の間で、教育活動を報償に結びつけるべきだという意見が出てきている点は注目される。例えば任期制の導入が、研究の側面だけでなく教育改善とどのように結びつくかといった視点も、今後は重要になってくるだろう。

最後に、教育の改善を何をもって測定するかという問題を提起しておきたい。当然のこ

とながら、FDは教育の質を向上させ、よりよい教育のアウトプットを得るために行うものである。FDを行うこと自体が自己目的化してはならない。そのためには、システムレベルあるいは各大学のレベルで、良い教育の質とは何なのか、それに伴う望ましいアウトプットとは何なのかを議論し、合わせてその測定方法を議論し、実証的に明らかにしていかなければならない。FDは黒衣であって、主役ではない。FDが教育改善のサイクルにどう位置づいているのか、FDの研究をしながら常にFDを相対化する姿勢が求められている。

第4章 担当授業科目を通してみた教育改善活動

第4章 担当授業科目を通してみた教育改善活動

福留 東土

2003年度（調査時点において昨年度）、学士課程で担当した授業のうち、回答者の専門分野に近い講義形式の授業ひとつを「担当授業科目」として想定してもらい、その科目の運営や評価に関して、問15から問27までの設問に回答してもらった。

1. 担当授業科目の性格

まず、回答者の想定した「担当授業科目」が教養教育科目と専門教育科目のどちらに属するののかについて尋ねた（【問17】）。その結果が表4-1である。

「担当授業科目」として想定された科目はそのほとんど（85.5%）が、専門教育科目であり、教養教育科目は13.5%に過ぎない。「回答者の専門分野に近い」授業を想定してもらうよう設問を設定したため、これはある意味当然の結果かもしれない。実際に、教養教育科目を「担当授業科目」とした者のうち87.5%は教養教育のみを担当しており、専門教育科目は担当していない。

回答者の属性別にみると、特に国立大学の教員には専門教育科目を「担当授業科目」と想定した者が多く、92.3%に上った。また、専門分野別にみると、専門教育科目を「担当授業科目」と想定した者の比率が高かったのは、医歯薬学系、工学系、社会科学系であった。逆に、専門教育科目の比率が相対的に低かったのは人文科学系、理学系で、これらの分野ではその分、教養教育科目を「担当授業科目」とした者が多かった。

表4-1 担当授業科目の性格

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 教養教育科目 | 13.5% | 5.6% | 16.1% | 17.4% | 14.3% | 12.2% | 12.2% | 87.5% | 14.3% | 5.4% | 5.6% |
| 専門教育科目 | 85.6% | 92.3% | 83.9% | 82.0% | 84.5% | 87.2% | 86.3% | 9.7% | 85.5% | 93.5% | 92.9% |
| その他 | 1.0% | 2.0% | 0.0% | 0.5% | 1.1% | 0.5% | 1.5% | 2.8% | 0.2% | 1.1% | 1.5% |
| 合計 | 1207 | 391 | 87 | 728 | 705 | 368 | 131 | 72 | 428 | 369 | 338 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 教養教育科目 | 30.2% | 7.7% | 27.4% | 2.3% | 15.9% | 2.2% | 10.9% | 10.1% | 12.5% | 13.2% | 16.1% |
| 専門教育科目 | 66.6% | 92.3% | 72.6% | 95.9% | 84.1% | 97.3% | 82.6% | 88.4% | 86.7% | 85.3% | 83.6% |
| その他 | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 1.8% | 0.0% | 0.5% | 6.5% | 1.4% | 0.8% | 1.5% | 0.3% |
| 合計 | 215 | 195 | 135 | 218 | 44 | 186 | 46 | 138 | 360 | 408 | 298 |

注) *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

また、教養教育科目を「担当授業科目」とした者のうち大学院の授業を担当している者は修士課程で5.4%、博士課程で5.6%しかいない。逆に、専門教育科目を「担当授業科目」とした者の93.5%が修士課程の授業を、92.9%が博士課程の授業を担当している。

このように、以下で分析する「担当授業科目」は、その大部分が専門教育科目についてのものであること、また、「担当授業科目」を教養教育科目と想定した者と専門教育科目と想定した者との間には、大学院の授業担当の有無についても大きな格差があるということをも前提として認識しておく必要がある。

続いて、回答者の想定した「担当授業科目」が必修科目と選択科目のどちらに属するかについて尋ねた（【問18】）。その結果が表4-2である。

回答結果をみると、必修科目と選択科目の比率はほぼ同等であり、必修44.8%、選択50.8%であった。

設置形態別にみると、私立大学では他に比べて若干必修科目を「担当授業科目」とする者が多く、選択科目が少ない結果となった。専門分野別にみると、医歯薬系で93.1%が必修科目を「担当授業科目」としており、他分野に比して飛び抜けて高い数値を示している。逆に、必修科目が少なく、選択科目が多いのは社会科学系であり、選択が78.3%を占めた。また、選択科目を「担当授業科目」とした者の方が若干大学院科目を担当する比率が高かった。

表4-2 「担当授業科目」は必修科目か選択科目か

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 必修科目 | 44.8% | 41.8% | 41.9% | 46.7% | 42.7% | 43.6% | 58.8% | 52.9% | 49.1% | 39.9% | 43.2% |
| 選択科目 | 50.8% | 55.4% | 53.5% | 48.1% | 53.7% | 51.1% | 35.1% | 42.9% | 46.0% | 55.2% | 53.6% |
| その他 | 4.3% | 2.8% | 4.7% | 5.1% | 3.6% | 5.2% | 6.1% | 4.3% | 5.0% | 4.9% | 3.0% |
| 合計 | 1198 | 392 | 86 | 719 | 702 | 362 | 131 | 70 | 422 | 368 | 338 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(実) | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 必修科目 | 33.0% | 18.2% | 40.7% | 43.3% | 40.9% | 93.1% | 34.1% | 42.8% | 43.0% | 45.6% | 46.7% |
| 選択科目 | 61.3% | 78.3% | 53.3% | 53.0% | 56.8% | 6.3% | 58.5% | 52.9% | 51.1% | 50.7% | 49.8% |
| その他 | 5.7% | 3.5% | 5.9% | 3.7% | 2.3% | 0.5% | 7.3% | 4.3% | 5.9% | 3.7% | 3.4% |
| 合計 | 212 | 198 | 135 | 217 | 44 | 189 | 41 | 138 | 356 | 410 | 291 |

注) *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

2. 「担当授業科目」の自己評価と教員による配慮事項

回答者に想定してもらった「担当授業科目」がどの程度うまくいったと考えているのかについて尋ねた（【問19】）。その結果が表4-3である。

7割近くが「ある程度うまくいった」を選択した。続いて、「どちらともいえない」(16.

2%)、「うまくいった」(11.7%)が多く、「あまりうまくいかなかった」としたのは2.4%、「うまくいかなかった」としたのは0.3%と、否定的な自己評価を下している者はきわめて少数にとどまった。「うまくいった」と「ある程度うまくいった」を合わせると、8割以上の回答者が自分の「担当授業科目」がうまくいったと自己評価していることになる。

この結果を年代別にみると、「20・30代」でうまくいったとする者の比率が若干低く、その分「どちらともいえない」、「あまりうまくいかなかった」がやや多かった。しかし、他の年代と比べてもそれほど顕著な違いではない。また、職階別にみても、「講師」で「うまくいった」と回答した者がやや少なかった。専門分野別にみると、理学系と工学系で若干「あまりうまくいかなかった」が多い結果が出たが、これもそれほど大きな違いとはいえない。

表4-3 「担当授業科目」がどの程度うまくいったか

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| うまくいった | 11.7% | 11.3% | 14.9% | 11.4% | 12.2% | 12.9% | 6.1% | 16.9% | 10.1% | 10.7% | 13.8% |
| ある程度うまくいっ | 69.4% | 73.9% | 64.4% | 67.6% | 69.1% | 69.6% | 70.5% | 64.9% | 70.0% | 69.0% | 72.1% |
| どちらともいえない | 16.2% | 12.0% | 17.2% | 18.3% | 15.9% | 15.9% | 18.2% | 25.4% | 16.9% | 16.8% | 12.6% |
| あまりうまくいかなか | 2.4% | 2.5% | 3.4% | 2.2% | 2.4% | 1.4% | 5.3% | 2.8% | 2.8% | 2.9% | 1.2% |
| かった | | | | | | | | | | | |
| うまくいかなかった | 0.3% | 0.3% | 0.0% | 0.4% | 0.4% | 0.3% | 0.0% | 0.0% | 0.2% | 0.5% | 0.3% |
| 合計 | 1212 | 399 | 87 | 725 | 712 | 365 | 132 | 71 | 426 | 374 | 341 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(支) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| うまくいった | 14.8% | 9.3% | 9.6% | 7.8% | 8.5% | 11.8% | 11.1% | 10.2% | 11.8% | 10.9% | 12.8% |
| ある程度うまくいっ | 68.1% | 70.6% | 71.3% | 63.9% | 74.5% | 70.6% | 73.3% | 67.2% | 72.2% | 71.4% | 64.6% |
| どちらともいえない | 13.9% | 16.6% | 14.7% | 23.7% | 14.9% | 16.6% | 13.3% | 18.2% | 14.0% | 15.0% | 19.5% |
| あまりうまくいかなか | 2.8% | 1.0% | 4.4% | 3.7% | 2.1% | 1.1% | 2.2% | 4.4% | 1.7% | 2.2% | 2.7% |
| かった | | | | | | | | | | | |
| うまくいかなかった | 0.5% | 0.5% | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.3% | 0.5% | 0.3% |
| 合計 | 216 | 194 | 136 | 219 | 47 | 187 | 45 | 137 | 363 | 412 | 297 |

注) *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

続いて、「担当授業科目」を行ってゆく上でどのような事項に配慮したのか、25項目にわたって尋ねた(【問20】)。その結果が表4-4-1である。

自分の「担当授業科目」に「当てはまる」、あるいは「ある程度当てはまる」とした回答が最も多かったのは、「担当授業の目的・目標を踏まえた授業内容(カリキュラム)とする」(96.1%)であり、以下、当てはまるとの回答が多かった順に項目を並べると以下ようになる。

「教員が授業内容を工夫する」(93.4%)、「教員が授業の準備を周到に行う」(92.6%)、「教員が学生の質問や意見に関心を持つ」(91.5%)、「教員が豊富な知識を持っている」(87.0%)、「「学部・学科」の教育目的をふまえて授業を行う」(86.0%)、「授業のシラバスを学生に提示する」(80.1%)、「教員が効果的な講義方法を工夫する」(75.7%)、「教員が学生の成長発達に関心を持つ」(75.5%)、「教員が優れた研究力を持っている」(75.5%)

る」(71.3%)、「受講学生が熱心に学習する」(70.3%)、「教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める」(67.7%)、「教員が学生の授業参加を促す」(67.1%)、「学生の学習施設・設備が充実している」(66.2%)、「教育施設・設備が充実している」(61.5%)、「視聴覚機器を有効に活用する」(61.2%)、「教員が学生をほめるよう努力する」(56.5%)、「少人数で教育を行う」(48.9%)、「厳格な成績評価を行う」(48.4%)、「授業でオフィスアワーを設ける」(36.4%)、「受講学生の学習活動が組織的に支援されている」(28.2%)、「ティーチング・アシスタント(TA)を活用する」(26.3%)、「受講学生が豊富な知識を持っている」(25.1%)、「国際的に標準とされるテキストを使って授業をする」(15.9%)、「英語を使って授業をする」(7.6%)。

表4-4-1 「担当授業科目」を行ってゆく上でどのような事項に配慮したのか

| | | | | | | | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ |
| 当てはまる | 40.7% | 56.0% | 4.3% | 25.8% | 26.8% | 44.7% | 16.9% | 24.8% | 28.6% |
| ある程度当てはまる | 45.3% | 40.1% | 20.8% | 44.5% | 48.7% | 46.8% | 39.6% | 42.3% | 42.7% |
| どちらともいえない | 10.0% | 2.8% | 40.2% | 21.1% | 17.6% | 6.6% | 30.7% | 22.7% | 21.1% |
| あまり当てはまらない | 2.6% | 0.7% | 25.6% | 6.6% | 5.4% | 1.1% | 9.6% | 7.7% | 5.4% |
| 当てはまらない | 1.4% | 0.4% | 9.1% | 2.0% | 1.5% | 0.7% | 3.2% | 2.5% | 2.2% |
| 合計 | 1215 | 1213 | 1209 | 1215 | 1213 | 1218 | 1216 | 1209 | 1208 |
| | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ | ⑭ | ⑮ | ⑯ | ⑰ | ⑱ |
| 当てはまる | 41.8% | 50.4% | 50.8% | 34.9% | 1.3% | 3.6% | 21.8% | 39.7% | 18.3% |
| ある程度当てはまる | 45.2% | 42.2% | 42.6% | 40.8% | 6.3% | 12.3% | 39.4% | 40.4% | 30.6% |
| どちらともいえない | 11.0% | 6.2% | 5.6% | 19.2% | 24.1% | 24.6% | 17.5% | 12.6% | 21.1% |
| あまり当てはまらない | 1.6% | 0.8% | 0.5% | 3.5% | 20.4% | 21.0% | 9.3% | 4.5% | 12.3% |
| 当てはまらない | 0.5% | 0.4% | 0.5% | 1.6% | 47.9% | 38.4% | 12.1% | 2.9% | 17.7% |
| 合計 | 1211 | 1215 | 1212 | 1201 | 1213 | 1208 | 1209 | 1211 | 1211 |
| | ⑲ | ⑳ | (21) | (22) | (23) | (24) | (25) | | |
| 当てはまる | 11.2% | 7.4% | 20.3% | 12.3% | 4.7% | 20.5% | 17.7% | | |
| ある程度当てはまる | 25.2% | 18.9% | 47.4% | 36.1% | 23.5% | 45.7% | 43.8% | | |
| どちらともいえない | 32.4% | 23.1% | 17.3% | 31.4% | 31.9% | 21.6% | 24.5% | | |
| あまり当てはまらない | 13.3% | 14.1% | 6.7% | 9.7% | 19.0% | 8.5% | 9.6% | | |
| 当てはまらない | 17.8% | 36.5% | 8.2% | 10.5% | 20.9% | 3.8% | 4.5% | | |
| 合計 | 1184 | 1209 | 1214 | 1213 | 1215 | 1215 | 1213 | | |

注) 表中の①～(25)の項目内容は以下通りである。

①「学部・学科」の教育目的をふまえて授業を行う、②担当授業の目的・目標を踏まえた授業内容とする、③受講学生が豊富な知識を持っている、④受講学生が熱心に学習する、⑤教員が学生の成長発達に関心を持つ、⑥教員が学生の質問や意見に関心を持つ、⑦教員が学生をほめるよう努力する、⑧教員が学生の授業参加を促す、⑨教員が優れた研究力を持っている、⑩教員が豊富な知識を持っている、⑪教員が授業の準備を周到に行う、⑫教員が授業内容を工夫する、⑬教員が効果的な講義方法を工夫する、⑭英語を使って授業をする、⑮国際的に標準とされるテキストを使って授業をする、⑯視聴覚機器を有効に活用する、⑰授業のシラバスを学生に提示する、⑱少人数で教育を行う、⑲授業でオフィスアワーを設ける、⑳ティーチング・アシスタント(TA)を活用する、(21)教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める、(22)厳格な成績評価を行う(GPA制)、(23)受講学生の学習活動が組織的に支援されている(例、学習相談室の設置等)、(24)学生の学習施設・設備が充実している(例、図書館やパソコンの整備等)、(25)教育施設・設備が充実している(例、視聴覚機器の整備等)

全体として上位にきたのは、授業の目的・目標の明確化に関する項目や、教員の授業に対する取り組みに関する項目であった。それに対して、施設・設備に関する項目や、授業サポートの手法に関する項目などは概して下位にくる結果となった。この結果をみると、授業の目的・目標はほとんどの教員が意識しており、授業に対する十分な準備や内容の工夫もほとんどの教員が行っていると自己認識していることが分かる。しかし、それに比べて、施設・設備、少人数教育、オフィスアワー、T A、成績評価、学生の学習支援など、授業や学生の学習をサポートすべき多様なインフラストラクチャーに対しては十分に提供、あるいは活用されているとはいえない現状が窺われる。

以下では、属性別にみた場合に特徴的な点を挙げておく(表4-4-2)。

まず、大学の設置形態別にみると、「教員が学生の授業参加を促す」で、公立、私立、国立の順に肯定的回答が下がるという傾向がみられた。また、「教育施設・設備が充実している」では国立大学で否定的回答が多かった。

また、職階別にみると、「教員が学生の成長発達に関心を持つ」で職階が上がるに従って肯定的回答が多くみられるようになる。また、「教員が優れた研究力を持っている」については職階が上がるにつれて肯定的回答が多くなるという傾向が明確にみられた。

さらに、留学経験の有無によって回答の傾向に格差がみられる項目が多くあった。「教員が効果的な講義方法を工夫する」、「教員が学生の成長発達に関心を持つ」、「教員が優れた研究力を持っている」、「教員が学生をほめるよう努力する」、「授業でオフィスアワーを設ける」、「国際的に標準とされるテキストを使って授業をする」、「英語を使って授業をする」といった項目で、留学経験のある者ほど肯定的回答が多いという傾向がみられた。アメリカなど諸外国の大学教育のあり方が日本のそれと異なっているということはしばしば指摘されることだが、そのような教育を経験していることが教える立場になった場合の考え方にも影響を及ぼしているものと考えられる。

続いて、専門分野別にみたときに格差があらわれたのは次のような項目である。

「学部・学科」の教育目的をふまえて授業を行う」では、工学系、農学系、医歯薬系、教員養成系では否定的回答がほとんど見られなかったのに対し、人文科学系、社会科学系、理学系では若干否定的な回答がみられた。「教員が優れた研究力を持っている」では、工学系、医歯薬系、教員養成系で否定的回答がやや多くみられた。「教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める」では、大きな格差がみられ、工学系では肯定的回答が多かったのに対し、人文科学系、農学系では否定的回答が多かった。「教員が学生の授業参加を促す」では、教員養成系、人文科学系で高かったのに対し、農学系、医歯薬系では低かった。「視聴覚機器を有効に活用する」では、医歯薬系、教員養成系、農学系で肯定的回答が多かったのに対し、社会科学系、理学系では少なかった。「少人数で教育を行う」では、人文科学系、教員養成系、工学系で高かったのに対し、農学系、社会科学系では低かった。「授業でオフィスアワーを設ける」については社会科学系、教員養成系、

工学系で高かったのに対し、医歯薬系と農学系では低かった。「受講学生の学習活動が組織的に支援されている」は医歯薬系で高かった。「ティーチング・アシスタント(TA)を活用する」は工学系で高く、人文社会系、社会科学系で低かった。「受講学生が豊富な知識を持っている」は工学系、理学系で低かった。「国際的に標準とされるテキストを使って授業をする」は医歯薬系で高く、「英語を使って授業をする」は医歯薬系、人文科学系で高かった。

最後に、年代別にみたときに格差があらわれたのは以下のような項目である。「教員が学生の成長発達に関心を持つ」では、60代以上の層で肯定的回答が多くみられた。「厳格な成績評価を行う」では年代が上がるにつれて、肯定的回答が増える傾向がみられた。以上の結果からは、専門分野ごとに教育の特性や重点の置き方が異なってくるのが窺われた。教養教育に焦点化した場合には、分野を超えた教員間で目的・内容・方法などの共有化が図られる必要が言われる。しかし、ここで想定されている「担当授業科目」は、はじめにも述べたように専門教育科目がほとんどである。その場合の改善活動を考える場合、むしろ分野の特性によって重点の置き方を変えた内容も考えられる必要があるのかもしれない。

表4-4-2 「担当授業科目」を行ってゆく上でどのような事項に配慮したのか(属性別)

①「学部・学科」の教育目的をふまえて授業を行う

| | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 当てはまる | 39.1% | 38.4% | 41.7% | 40.8% | 41.4% | 37.1% | 23.6% | 41.3% | 42.2% | 41.8% |
| ある程度当てはまる | 46.9% | 46.5% | 44.4% | 44.5% | 45.2% | 50.8% | 52.8% | 45.5% | 45.7% | 43.3% |
| どちらともいえない | 10.5% | 9.3% | 9.7% | 11.0% | 8.8% | 7.6% | 13.9% | 9.6% | 9.1% | 10.5% |
| あまり当てはまらない | 1.8% | 4.7% | 2.8% | 2.4% | 2.7% | 3.8% | 5.6% | 2.6% | 1.9% | 2.6% |
| 当てはまらない | 1.8% | 1.2% | 1.2% | 1.3% | 1.9% | 0.8% | 4.2% | 0.9% | 1.1% | 1.8% |
| 合計 | 399 | 86 | 729 | 715 | 365 | 132 | 72 | 429 | 372 | 342 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(代) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 38.1% | 30.3% | 31.6% | 38.9% | 42.6% | 53.2% | 45.7% | 38.0% | 39.1% | 42.5% | 41.7% |
| ある程度当てはまる | 47.0% | 51.5% | 52.9% | 45.4% | 44.7% | 36.6% | 47.8% | 48.2% | 47.1% | 41.5% | 46.7% |
| どちらともいえない | 9.3% | 12.6% | 8.8% | 11.8% | 10.6% | 8.1% | 6.5% | 8.8% | 10.2% | 10.6% | 9.3% |
| あまり当てはまらない | 3.7% | 4.5% | 2.9% | 2.3% | 2.1% | 0.5% | 0.0% | 3.6% | 2.2% | 3.0% | 1.3% |
| 当てはまらない | 1.9% | 1.0% | 3.7% | 0.5% | 0.0% | 1.6% | 0.0% | 1.5% | 1.4% | 1.7% | 1.0% |
| 合計 | 215 | 198 | 136 | 218 | 47 | 186 | 46 | 137 | 361 | 414 | 300 |

②担当授業の目的・目標を踏まえた授業内容(カリキュラム)とする

| | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 当てはまる | 54.5% | 59.3% | 56.4% | 56.6% | 56.3% | 52.3% | 45.1% | 54.5% | 57.5% | 58.4% |
| ある程度当てはまる | 40.5% | 38.4% | 40.2% | 40.3% | 38.1% | 41.7% | 52.1% | 40.6% | 38.7% | 38.7% |
| どちらともいえない | 3.7% | 2.3% | 2.3% | 2.5% | 2.7% | 4.5% | 2.8% | 3.7% | 2.4% | 2.1% |
| あまり当てはまらない | 0.2% | 0.0% | 1.0% | 0.4% | 1.1% | 0.8% | 0.0% | 0.9% | 0.8% | 0.9% |
| 当てはまらない | 1.0% | 0.0% | 0.1% | 0.1% | 0.8% | 0.8% | 0.0% | 0.2% | 0.5% | 0.6% |
| 合計 | 402 | 86 | 724 | 710 | 368 | 132 | 71 | 429 | 372 | 341 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(代) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 55.3% | 48.2% | 51.5% | 56.0% | 57.4% | 61.1% | 64.4% | 56.1% | 54.6% | 55.0% | 59.6% |
| ある程度当てはまる | 39.1% | 48.2% | 45.6% | 39.9% | 40.4% | 35.7% | 35.6% | 39.6% | 40.4% | 40.9% | 38.4% |
| どちらともいえない | 2.8% | 3.0% | 2.9% | 3.2% | 2.1% | 2.7% | 0.0% | 2.2% | 3.9% | 2.7% | 2.0% |
| あまり当てはまらない | 1.4% | 0.5% | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.7% | 0.8% | 1.0% | 0.0% |
| 当てはまらない | 1.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 1.4% | 0.3% | 0.5% | 0.0% |
| 合計 | 215 | 197 | 136 | 218 | 47 | 185 | 45 | 139 | 361 | 413 | 297 |

③受講学生が豊富な知識を持っている

| | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 当てはまる | 3.8% | 8.1% | 4.1% | 3.5% | 5.5% | 5.3% | 4.2% | 4.0% | 3.5% | 5.6% |
| ある程度当てはまる | 23.6% | 19.8% | 19.5% | 19.0% | 23.3% | 24.2% | 12.5% | 20.0% | 19.3% | 25.4% |
| どちらともいえない | 41.2% | 37.2% | 39.9% | 42.2% | 38.4% | 39.3% | 41.7% | 41.4% | 38.9% | 39.8% |
| あまり当てはまらない | 22.9% | 26.7% | 26.9% | 26.4% | 23.3% | 28.0% | 33.3% | 25.1% | 28.8% | 20.9% |
| 当てはまらない | 8.5% | 8.1% | 9.5% | 8.9% | 9.6% | 9.1% | 8.3% | 9.5% | 9.5% | 8.3% |
| 合計 | 398 | 86 | 724 | 708 | 365 | 132 | 72 | 430 | 366 | 339 |

| | 専門分野 | | | | | | | * 教員養成系 | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | n.s. | | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 4.6% | 5.6% | 4.4% | 3.2% | 4.3% | 4.3% | 8.7% | 7.2% | 3.0% | 4.6% | 5.7% | |
| ある程度当てはまる | 19.0% | 20.7% | 25.2% | 23.7% | 18.1% | 35.1% | 21.7% | 21.6% | 22.7% | 24.9% | 23.2% | |
| どちらともいえない | 31.5% | 30.3% | 27.4% | 28.3% | 31.8% | 34.6% | 39.1% | 32.4% | 30.7% | 32.7% | 31.8% | |
| あまり当てはまらない | 19.8% | 20.2% | 20.7% | 20.5% | 21.3% | 16.8% | 15.2% | 15.1% | 20.4% | 18.2% | 20.5% | |
| 当てはまらない | 25.0% | 23.2% | 22.2% | 24.2% | 23.4% | 9.2% | 15.2% | 23.7% | 23.2% | 19.6% | 18.6% | |
| 合計 | 216 | 198 | 135 | 219 | 47 | 185 | 46 | 139 | 362 | 413 | 298 | |

(24)学生の学習施設・設備が充実している例。図書館やパソコンの整備等)

| | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教 | 講師 | 教員養成のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 当てはまる | 18.5% | 17.4% | 22.0% | 21.1% | 19.6% | 20.5% | 26.6% | 19.1% | 19.8% | 21.6% |
| ある程度当てはまる | 42.1% | 45.3% | 47.6% | 46.1% | 44.3% | 47.0% | 38.2% | 50.1% | 42.4% | 45.9% |
| どちらともいえない | 24.4% | 20.8% | 20.1% | 21.3% | 21.7% | 22.0% | 25.4% | 19.6% | 23.1% | 21.3% |
| あまり当てはまらない | 10.5% | 11.6% | 7.0% | 7.7% | 10.1% | 8.3% | 12.7% | 7.0% | 10.2% | 7.6% |
| 当てはまらない | 4.5% | 4.7% | 3.3% | 3.6% | 4.3% | 2.3% | 0.0% | 4.0% | 4.6% | 3.5% |
| 合計 | 401 | 86 | 727 | 712 | 368 | 132 | 71 | 429 | 373 | 342 |

| | 専門分野 | | | | | | | * 教員養成系 | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | n.s. | | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 26.5% | 20.7% | 18.5% | 17.7% | 12.8% | 16.8% | 17.4% | 22.3% | 19.6% | 20.9% | 20.4% | |
| ある程度当てはまる | 41.8% | 44.4% | 41.5% | 46.4% | 57.4% | 49.7% | 56.5% | 41.7% | 45.6% | 47.3% | 44.8% | |
| どちらともいえない | 16.7% | 22.7% | 25.9% | 23.6% | 19.1% | 23.2% | 19.6% | 19.4% | 22.4% | 19.9% | 24.1% | |
| あまり当てはまらない | 9.8% | 8.1% | 7.4% | 8.6% | 10.6% | 8.6% | 6.5% | 10.8% | 8.8% | 8.0% | 7.7% | |
| 当てはまらない | 5.1% | 4.0% | 6.7% | 3.6% | 0.0% | 1.6% | 0.0% | 5.8% | 3.6% | 3.9% | 3.0% | |
| 合計 | 215 | 198 | 135 | 220 | 47 | 185 | 46 | 139 | 362 | 412 | 299 | |

(25)教育施設・設備が充実している例。視聴覚機器の整備等)

| | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教 | 講師 | 教員養成のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで |
| 当てはまる | 14.7% | 15.3% | 19.7% | 17.6% | 18.0% | 18.2% | 23.9% | 17.8% | 16.9% | 17.3% |
| ある程度当てはまる | 39.4% | 48.2% | 45.6% | 44.5% | 42.3% | 42.4% | 36.6% | 47.9% | 40.2% | 44.0% |
| どちらともいえない | 27.4% | 20.0% | 23.4% | 25.4% | 23.0% | 24.2% | 22.5% | 22.9% | 26.0% | 25.2% |
| あまり当てはまらない | 13.5% | 11.8% | 7.2% | 8.6% | 11.7% | 9.1% | 15.5% | 6.8% | 11.8% | 9.4% |
| 当てはまらない | 5.0% | 4.7% | 4.1% | 3.9% | 4.9% | 6.1% | 1.4% | 4.7% | 5.1% | 4.1% |
| 合計 | 401 | 85 | 726 | 712 | 366 | 132 | 71 | 428 | 373 | 341 |

| | 専門分野 | | | | | | | * 教員養成系 | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | n.s. | | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 21.3% | 16.2% | 12.7% | 16.9% | 14.9% | 16.8% | 15.2% | 18.0% | 18.5% | 18.5% | 15.8% | |
| ある程度当てはまる | 40.3% | 40.6% | 39.6% | 43.4% | 46.8% | 50.3% | 50.0% | 38.8% | 41.4% | 46.5% | 45.0% | |
| どちらともいえない | 20.8% | 28.9% | 29.1% | 27.4% | 29.8% | 21.1% | 26.1% | 23.0% | 23.5% | 22.9% | 28.5% | |
| あまり当てはまらない | 9.7% | 9.6% | 12.7% | 7.8% | 8.5% | 10.3% | 8.7% | 12.8% | 12.2% | 7.5% | 7.7% | |
| 当てはまらない | 7.9% | 4.6% | 6.0% | 4.6% | 0.0% | 1.6% | 0.0% | 7.2% | 4.4% | 4.6% | 3.0% | |
| 合計 | 216 | 197 | 134 | 219 | 47 | 185 | 46 | 139 | 362 | 411 | 298 | |

3. 「担当授業科目」の授業評価

「担当授業科目」に対する授業評価の実施状況について尋ねた。まず、授業評価を実施しているか否かを尋ねた(【問21】)。その結果が表4-5-1に示されている。7割近くが「実施した」と

表4-5-1 授業評価の実施の有無

| | 2003年調査 (a) | | 1989年調査 (b) | | (a)-(b) |
|---------|----------------|--------|----------------|--------|---------|
| 実施した | 844 | 69.1% | 186 | 35.2% | 33.9% |
| 実施しなかった | 377 | 30.9% | 53 | 10.0% | -33.9% |
| 合計 | 1221 | 100.0% | 529 | 100.0% | |

注) 選択肢は2003年調査で使用したもの。1989年調査では、「実施経験がある」「今まではないが、検討中」「実施経験はない」となっており、上掲の対応する選択肢こわりふった

回答している。14年前の調査結果と比べると、「実施した」とする回答者の比率が33.9%も増加している。ここ数年の間に広がった授業評価の動きが急激なものであったことが数

字の上からも確認できる。表4-5-1a 教員属性別の授業評価実施率の時系列変化

表4-5-1aは、属性別の授業評価の実施状況について、今回の調査と前回の調査を比較したものである。

教員全体での差33.9%を上回っている属性（平均以上に授業評価の実施率を上げた教員の特徴）に*印をつけた。

60代以上、教授、専門分野が工学系、農学系、医歯薬学系の教員が、それ以外の属性の教員以上に、14年前に比べて授業評価を実施するようになっていることが分かる。

今回の調査における授業評価実施状況を属性別にみると（表4-5-2）、職階別では、講師、助教授、教授の順に実施した比率が高くなる傾向がみられ、特に講師は実施率が低いという特徴が出た。設置形態別では公立大学で実施率が高かった。専門分野別では、工学系、農学系でやや高く、逆に教員養成系で低いという傾向がみられた。

| | | 2003年調査 (a) | 1989年調査 (b) | (a)-(b) |
|--------|---------|----------------|----------------|---------|
| 全体 | | 69.1% | 35.2% | 33.9% |
| 性 | 男 | 69.1% | 35.0% | 34.1% |
| | 女 | 69.4% | 36.0% | 33.4% |
| 年齢 | 20・30代 | 69.8% | 40.2% | 29.6% |
| | 40代 | 65.9% | 37.4% | 28.5% |
| | 50代 | 67.4% | 32.2% | 35.2% |
| | 60代以上 * | 74.8% | 30.3% | 44.5% |
| 職階 | 教授 * | 72.0% | 34.1% | 37.9% |
| | 助教授 | 68.2% | 37.4% | 30.8% |
| | 講師 | 57.1% | 35.3% | 21.8% |
| 設置者 | 国立 | 67.0% | 33.9% | 33.1% |
| | 公立 | 78.2% | 53.8% | 24.4% |
| | 私立 | 69.2% | 34.6% | 34.6% |
| 専攻分野 | 人文科学系 | 63.1% | 36.3% | 26.8% |
| | 社会科学系 | 69.2% | 35.4% | 33.8% |
| | 理学系 | 66.7% | 42.9% | 23.8% |
| | 工学系 * | 87.3% | 38.0% | 49.3% |
| | 農学系 * | 74.5% | 28.1% | 46.4% |
| | 医師薬学系 * | 61.9% | 21.2% | 40.7% |
| | 教員養成系 | 56.5% | 38.9% | 17.6% |
| の大有学無院 | 修士課程まで | 79.2% | 36.4% | 42.8% |
| | 博士課程まで | 74.2% | 34.8% | 39.4% |
| | なし + | 82.1% | 33.8% | 48.3% |

注) *は37%以上実施率が増加した属性

表4-5-2 授業評価の実施の有無（属性別）

| | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学籍 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | 有る | 無い |
| 実施した | 67.0% | 78.2% | 69.2% | 72.0% | 68.2% | 57.1% | 68.1% | 68.8% | 71.8% | 66.9% | 72.3% | 67.7% |
| 実施しなかった | 33.0% | 21.8% | 30.8% | 28.0% | 31.8% | 42.9% | 31.9% | 31.3% | 28.2% | 33.1% | 27.7% | 32.3% |
| 合計 | 400 | 87 | 733 | 717 | 368 | 133 | 72 | 432 | 373 | 344 | 372 | 836 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 実施した | 63.1% | 69.2% | 66.7% | 87.3% | 74.5% | 61.9% | 56.5% | 69.8% | 65.9% | 67.4% | 74.8% |
| 実施しなかった | 36.9% | 30.8% | 33.3% | 12.7% | 25.5% | 38.1% | 43.5% | 30.2% | 34.1% | 32.6% | 25.2% |
| 合計 | 217 | 198 | 135 | 221 | 47 | 189 | 46 | 139 | 364 | 417 | 298 |

注) *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

続いて、上の質問で授業評価を「実施した」と回答した者に対して、どのような形態の評価を実施したのかについて尋ねた（【問22】）。

単純集計の結果が表4-6-1である。最も回答が多かったのは、「大学（学部・学科）で作成した講義評価表を配布して学生に記入させた」であり、78.0%を占めた。その他の選択肢については、「自分独自に作成した講義評価表を配布して学生に記入させた」は13.2%であり、「授業の中で、講義方法や内容について学生と話し合う時間を設けた」は2.2%、「学生に直接面接して意見を聞いた」は0.9%にとどまった。このように、ほとんどの教員は大学が主体となって行う授業評価を用いているが、一部、自ら自主的に授業評価を行っている教員もいる。

続いて、属性別クロス集計を行った結果が、表4-6-2である。

表4-6-1 授業評価の形態

| | 単純集計 |
|-----------------|-------|
| 大学で作成した講義評価表 | 78.0% |
| 自分独自に作成した講義評価表 | 13.2% |
| 学生に直接面接して意見を聞いた | 0.9% |
| 授業の中で時間を設けた | 2.2% |
| その他 | 5.8% |
| 合計 | 812 |

表4-6-2 授業評価の形態（属性別）

| | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 博士課程まで | 博士課程まで | 有る | 無い |
| 大学で作成した講義評価表 | 80.2% | 76.0% | 77.1% | 80.3% | 77.2% | 63.9% | 69.6% | 74.4% | 85.5% | 75.3% | 76.7% | 78.5% |
| 自分独自に作成した講義評価表 | 11.2% | 15.6% | 13.9% | 10.8% | 15.2% | 23.6% | 19.6% | 17.4% | 8.0% | 12.6% | 13.0% | 13.1% |
| 学生に直接面接して意見を聞いた | 1.2% | 0.0% | 0.8% | 0.8% | 1.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 2.2% | 1.6% | 0.5% |
| 授業の中で時間を設けた | 1.9% | 0.0% | 2.7% | 2.4% | 2.5% | 0.0% | 2.2% | 2.8% | 1.9% | 1.8% | 3.6% | 1.6% |
| その他 | 5.4% | 9.4% | 5.5% | 5.8% | 3.8% | 12.5% | 8.7% | 5.3% | 3.8% | 8.1% | 5.1% | 6.2% |
| 合計 | 258 | 64 | 489 | 502 | 237 | 72 | 46 | 281 | 262 | 223 | 253 | 550 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 大学で作成した講義評価表 | 76.7% | 74.0% | 76.5% | 91.4% | 77.1% | 78.1% | 73.1% | 74.7% | 68.5% | 81.9% | 84.2% |
| 自分独自に作成した講義評価表 | 12.8% | 17.6% | 15.3% | 4.9% | 20.0% | 14.0% | 7.7% | 18.7% | 18.5% | 10.3% | 8.8% |
| 学生に直接面接して意見を聞いた | 1.5% | 0.8% | 2.4% | 0.0% | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 1.1% | 0.9% | 0.4% | 1.4% |
| 授業の中で時間を設けた | 3.8% | 3.1% | 1.2% | 0.5% | 0.0% | 0.0% | 15.4% | 1.1% | 3.0% | 1.5% | 2.6% |
| その他 | 5.3% | 4.6% | 4.7% | 3.2% | 2.9% | 7.0% | 3.8% | 4.4% | 9.1% | 5.9% | 2.8% |
| 合計 | 133 | 131 | 85 | 185 | 35 | 114 | 26 | 91 | 232 | 271 | 215 |

注) *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

年代別にみると、大学が行う評価に依存する比率は年代が上がるほど高くなる傾向があり、逆に、独自の評価方法を工夫する者は年代の若い層に多い。また、職階別では講師、助教授、教授の順に独自に評価を行う者が多かった。年齢が若く、職階の低い者の方に、より主体的に自分の授業の現状を把握しようと試みている様子が分かる。設置形態別にみると、公立と私立で独自の評価を行う者がやや多かった。専門分野別では、独自に評価を

行う者は農学系と社会科学系に多く、逆に工学系では大学の評価に依存する比率が高かった。特徴的だったのは、教員養成系において「授業の中で、講義方法や内容について学生と話し合う時間を設けた」が飛び抜けて高い数値を示していることである。

また、授業評価が授業の改善に役立ったか

が授業の改善に実際に役立ったかどうかについて尋ねた（[問23]）。

その単純集計結果が表4-7-1である。「役立った」と回答した者は

| | 2003年調査 (a) | | 1989年調査 (b) | | (a)-(b) |
|------------|----------------|--------|----------------|--------|---------|
| 役立った | 174 | 20.7% | 24 | 12.9% | 7.8% |
| ある程度役立った | 472 | 56.3% | 129 | 69.4% | -13.1% |
| どちらともいえない | 110 | 13.1% | 7 | 3.8% | 9.3% |
| あまり役立たなかった | 61 | 7.3% | 19 | 10.2% | -2.9% |
| 役立たなかった | 22 | 2.6% | 4 | 2.2% | 0.5% |
| 計 | 839 | 100.0% | 527 | 100.0% | |

注) 選択肢は2003年調査で使用したもの。1989年調査では、「大いに改善された」「少し改善された」「あまり改善されなかった」「全然改善されなかった」「その他」となっており、上掲の対応する選択肢に割りあてた。

20.7%、「ある程度役立った」と回答した者は56.3%で、全体で4分の3以上が、何らかの程度で評価が改善に役立ったと判断している。また、前回の調査と比較してみると、「役立った」とする最も積極的な評価が増加している反面、「ある程度役立った」は減少しており、また「どちらともいえない」が増加している。全体としては、若干ではあるが肯定的な評価が減少する結果となっている。

属性別に授業評価が役立ったかどうかを示したのが表4-7-2である。

表4-7-2 授業評価が授業の改善に役立ったか（属性別）

| | 評読者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学期間 | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 専任課程まで | 兼任課程まで | 有る | 無い |
| 役立った | 23.8% | 32.4% | 17.6% | 20.9% | 18.3% | 28.4% | 20.8% | 17.9% | 21.1% | 24.0% | 22.1% | 20.4% |
| ある程度役立った | 54.0% | 52.9% | 58.0% | 56.3% | 58.6% | 48.6% | 52.1% | 55.1% | 55.3% | 59.8% | 52.4% | 58.1% |
| どちらともいえない | 13.2% | 7.4% | 13.9% | 12.5% | 13.9% | 13.5% | 14.6% | 15.9% | 13.5% | 8.7% | 12.7% | 13.1% |
| あまり役立たなかった | 7.2% | 5.9% | 7.3% | 6.8% | 7.6% | 9.5% | 6.3% | 9.5% | 7.5% | 3.5% | 8.2% | 6.6% |
| 役立たなかった | 1.9% | 1.5% | 3.2% | 3.5% | 1.6% | 0.0% | 4.2% | 1.7% | 2.6% | 3.5% | 4.5% | 1.8% |
| 合計 | 265 | 68 | 505 | 513 | 261 | 74 | 48 | 296 | 266 | 229 | 267 | 563 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(更) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師養成系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 役立った | 17.6% | 21.9% | 22.5% | 19.8% | 20.0% | 20.9% | 26.9% | 29.9% | 20.8% | 18.9% | 19.4% |
| ある程度役立った | 58.8% | 58.4% | 49.4% | 60.4% | 57.1% | 52.2% | 53.8% | 50.5% | 55.9% | 58.4% | 56.3% |
| どちらともいえない | 11.0% | 8.8% | 16.9% | 13.5% | 17.1% | 16.5% | 11.5% | 8.2% | 14.0% | 13.5% | 13.6% |
| あまり役立たなかった | 8.8% | 7.3% | 9.0% | 4.2% | 5.7% | 7.0% | 3.8% | 11.3% | 6.8% | 5.7% | 8.1% |
| 役立たなかった | 3.7% | 3.6% | 2.2% | 2.1% | 0.0% | 3.5% | 3.8% | 0.0% | 2.5% | 3.6% | 2.7% |
| 合計 | 136 | 137 | 89 | 192 | 35 | 115 | 26 | 97 | 236 | 281 | 222 |

注) *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

年代別にみると、「20・30代」において「役立った」と回答する比率が高く、この年齢層では評価により積極的な態度を示している。もっとも、「ある程度役立った」を加えると、年代による違いはそれほど際立ったものではない。職階別にみると、講師の層で「役立った」とする積極的な態度が目立つが、ここでも「ある程度」を加えると明らかな違いは

ない。設置形態別では、公立大学で「役立った」が高く、以下、国立、私立の順となった。専門分野別にみると、教員養成系で「役立った」が高いが、「ある程度役立った」を加えると、分野間の格差はそれほど大きなものではない。もっとも、理学系、人文科学系では否定的な見解がやや多くみられた。

さらに、授業評価の結果、どのような評価を得たのかについて尋ねた（【問24】）。
表 4-8-1 授業評価はどのような評価を得たか

単純集計結果を示したのが表 4-8-1 である。「高い評価を得た」は11.7%、「ある程度高い評価を得た」は55.2%で、全体で7割近くが高い評価を得たと判断している。それ以外の選択肢では「普通であった」が29.3%、「評価は少し低かった」は2.9%、「評価は低かった」は0.8%であり、低い評価を得た教員はごく少数にとどまることが分かった。もっとも、「高い」、「低い」の判断は回答者の主観に委ねられている。

| | 単純集計 |
|-------------|-------|
| 高い評価を得た | 11.7% |
| ある程度高い評価を得た | 55.2% |
| 普通であった | 29.3% |
| 評価は少し低かった | 2.9% |
| 評価は低かった | 0.8% |
| 合計 | 826 |

属性別に授業評価が役立ったかどうかを示したのが表 4-8-2 である。

この結果を年代別にみると、「20・30代」および「40代」の層で高い評価を得たと回答する者がやや多く、年齢が高い層ほど「普通であった」という回答が増える傾向がみられた。職階別では、講師の層で高い評価を得たとする者が多かった。また、設置形態別では公立大学で高い評価を得たとする者がとりわけ多かった。専門分野別では、教員養成系で高い評価を得たとする者がやや多く、逆に工学系、理学系で「普通であった」との回答が多かった。担当授業別にみると、教養教育科目を担当するの方が専門教育科目を担当するものに比べて高い評価を得たと回答する者が多い傾向がみられた。

表 4-8-2 授業評価はどのような評価を得たか（属性別）

| | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|-------------|-------|-------|---------|-------|-------|---------|--------|---------|-------------|--------|-------|-------|
| | 国立 | 公立 | n.s. 私立 | 教授 | 助教授 | n.s. 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | n.s. 博士課程まで | 博士課程まで | 有る | 無い |
| 高い評価を得た | 9.1% | 21.2% | 11.9% | 12.1% | 11.0% | 12.0% | 16.7% | 11.0% | 9.5% | 14.3% | 18.1% | 8.5% |
| ある程度高い評価を得た | 53.8% | 59.1% | 55.4% | 54.7% | 54.3% | 61.3% | 54.2% | 54.6% | 54.4% | 57.1% | 54.0% | 56.2% |
| 普通であった | 33.3% | 15.2% | 29.1% | 28.9% | 32.2% | 22.7% | 27.1% | 30.2% | 31.6% | 25.9% | 24.2% | 31.9% |
| 評価は少し低かった | 3.0% | 4.5% | 2.6% | 3.0% | 2.4% | 4.0% | 0.0% | 4.1% | 3.0% | 1.8% | 3.0% | 2.5% |
| 評価は低かった | 0.8% | 0.0% | 1.0% | 1.4% | 0.0% | 0.0% | 2.1% | 0.0% | 1.5% | 0.9% | 0.8% | 0.9% |
| 合計 | 264 | 66 | 495 | 506 | 245 | 75 | 48 | 291 | 263 | 224 | 265 | 552 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(実) | | | |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|--------|-------|-------|------------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | n.s. 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | n.s. 60代以上 |
| 高い評価を得た | 17.6% | 9.8% | 14.8% | 4.7% | 5.9% | 9.3% | 19.2% | 13.5% | 15.3% | 8.9% | 10.9% |
| ある程度高い評価を得た | 52.9% | 57.9% | 46.6% | 52.4% | 67.6% | 54.6% | 57.7% | 60.4% | 53.6% | 56.5% | 52.9% |
| 普通であった | 24.3% | 30.1% | 33.0% | 37.2% | 26.5% | 33.3% | 29.1% | 22.9% | 27.7% | 30.3% | 32.6% |
| 評価は少し低かった | 4.4% | 0.8% | 4.5% | 4.7% | 0.0% | 1.9% | 0.0% | 3.1% | 3.0% | 3.0% | 2.7% |
| 評価は低かった | 0.7% | 1.5% | 1.1% | 1.0% | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.4% | 1.5% | 0.9% |
| 合計 | 136 | 133 | 88 | 191 | 34 | 108 | 26 | 96 | 235 | 271 | 221 |

注) *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

続いて、どのような点が上の表4-8のような学生からの評価につながったと思われるか質問したところ以下の通りの内容の回答があった。詳細については、巻末の資料5をご参照いただきたい。

A．ある程度高い評価を得た教員の理由説明

【明確な目的の提示】【演習・実習を取り入れた】【熱意】【評価に対する改善】【パワーポイントの活用】【授業の進め方の工夫】【講義の周到な準備】【考え方の習得を重視した講義】【事例に基づいた教育】【学生の質問・意見への対応】【学生の理解を意識した講義】【分かりやすい授業】【理論と実践】【他の授業の質が低い】【コミュニケーションを重視】【グループ討論】【パソコンを用いた授業】【小レポートを課す】【メリハリのある授業】【学生の関心を引く】【授業内容の工夫】【豊富な知識】【学生の到達度の把握】【講義レベルの維持】【幅広い内容をカバーする】【目標の明確化】【学生の要望を反映させる】【動機付けを行う】【視聴覚機器の活用】【学生の興味を取り入れる】【少人数】【前回の講義内容を復習する】【授業内容の改善】【生活していくうえで重要な内容であった】【学生の授業参加を促したこと】【最新の成果を紹介した】【学生と対話をする】【「毎回の授業でわくわくした」という感想を多数の学生から得た】【学生が達成感を持てた】【専門教育との関連性を持たせる】【評価表を参考にした】【実践にむすびつける】【テーマ設定】【講義方法】【視聴覚機器】【筋道だった授業内容】【授業の進め方】【分かり易い説明】【小テストの実施】【資料の配布】【声の大きさ】【出席重視】【科学、人間、生命、健康の理解】【内容、重要な箇所を示す】【作業させる】【日常例を挙げて説明】【社会問題に関連して講義した】【1人1人の結果を時間ごとに評価した】【学生の人格を尊重する】【補助プリント】【学生に公平に接する】【準備を良く行う】【板書】【補助教材の工夫】【質問しやすい雰囲気】【質問して学生に答えさせる】【豊富な知識】【幅広い内容】【学生の学習意欲】【ポイントをイメージとして理解させた】【目的をふまえた授業】【知識の付与】【関心領域の高い分野】【時事問題】【学生からの質問に答える】【バランスの工夫】【専門性】【授業の明快感】【学生の達成度を考える】【内容への関心・発見】【日本社会の問題と授業の問題意識を関連させる】【シラバスに沿った授業】【受講生に適した教室】【丁寧な板書】【教室内を静粛に保つ】【学力をもっている】【年齢が若い】【全力であった】【課題の相談を丁寧に行った】【質問表の配布とその回答】【情報提供】【個別に対応】【詳しい解説やエピソード】【テストを行い、理解度を確認した】【講義の計画性】【授業の工夫】【複数回の試験】【質問の受け付け】【再講義】【誠実に学生対応ができた】【出席率】【携帯電話・おしゃべりの禁止】【宿題を課す】【板書の時間を取る】【考え方を詳細に説明した】【重複的に復習を行った】【Webでの資料公開】【評価を明確にした】【教員の熱意・学生の関心を引き出す努力】【テーマ・教材の選択】【まじめに授業に取り組む】【良い学生を少数取る】【学生に対するサービス精神】【学生の想像を超えた内容を加える】【教師の無遅刻・無休講】【学生の理解度を促す】【選択必修科目であること】【やる気のない学生が減った】【実務経験の利用】【講義の重要性を理解してもらえた】【本のみからは得られない知識の提供】【課題を明確にしたこと】【言葉を平易にした】【学生のレベルに合わせた授業】【学生から指摘のあった事項の改善】【理解できるところから順序立てて話した】【各講義に目的を設けた】【学生の知りたい内容を取り入れた】【毎回、学生の意見を記入するレポートを提出させた】【豊富な事例】【じっくりゆっくり説明した】【個人指導】【真面目に勉強する学生の期待に答えられなかった】【協調型学習】【ソフトウェアの整備】【TAの支援】【教材の選定】【丁寧な説明】【誰でも解りやすい表現】【題材の精選】【事前学習】【意欲的であること】【教材の工夫】【ゲスト講師の活用】【考えさせる】【授業評価が画一的で、参考にならない】【休講がない】【レジュメを毎回配布】【授業評価項目によって】【欠席者に対するeラーニング型補習】【学生の話合いによって感触を得た】【真剣に学生と向きあう】【高校教員としての経験が役立った】【具体的にのおもしろくした】【テキストの選択】【出席率の重視】【興味深い・理解しやすい内容】【厳選された内容】【学生が厳密に評価したとは思えない】【はっきりしゃべる】【問題意識をもたせる】【学習意欲の向上】【学生一人一人への目配り】【学生が熱心であった】【グループ活動】【模擬授業】【具体的な話】【情報の重層的な提供】【実践的な内容】

B . 評価が低かった教員の理由説明

【授業内容】【理解不十分な学生がいた】【英語表記】【難しい】【苦勞の多い勉強をさせる】【詳細になり過ぎた】【専門分野に対する関心がばらばらである】【教材選択】【課題が多い】【話し方】【厳格な成績評価】【学生の理解度を意識した講義】【学生の興味の対象とならない】【板書】【スピード】【受講者数】【試験直前であったため、出席率が多かった】【進度が速かった】【講義ノートを配布している】【フィードバックされなかった】【説明不足】【学生自身の学習態度の反省】【学生と教員の目的のズレ】【討議が盛り上がりなかった】【知的好奇心を前提とした講義を行った】【アンケートに真剣に答えない学生がいる】【ノートの取り方】【学生に媚びを売る授業が増えている】【学生の意欲が低い】【学生の理解力に差がある】【学生をひきつける努力が必要】【これ以上レベルダウンできない】【高い評価と低い評価があった】【講義スケジュールが過密】【学生がついて来れない】【内容が盛りだくさん】【今後検討】【授業内容を学生に分かって貰うことが大変】【わかりやすい授業への努力】【ていねいすぎる板書やプリントにしない】【テキスト】【熱意】【教材】【内容が高度】【教科書ができていない】【受講生が多い】【学生の主体的関与がされなかった】【資料が多すぎる】【進度が速い】【TAがいない】【内容が多い】【視聴覚機器の過信】【説明が下手】【質問時間を取る】【学生の資質】【講義内容】【進め方】【科目の設置意義を理解していない】【必修である点】【講義の進度】【授業時間】【授業への興味】【学生数が多い】【アンケートの設問形式】【資料提示の方法】【話し方が明瞭】【板書の字】【学生の名前を覚えていない】【内容が多い】【学生の学力の差が大きい】【学生は正当な意見を述べている】【練習問題を多く行う】【シラバスの尊重】【学生の意見を取り入れる】【中程度の学生レベルに合わせた講義内容】【ポイントを絞りきれなかった】【レジュメ】【資料の配布】【豊富な知識】【授業の構造的組立て】【プレゼンテーションの仕方】【パーソナリティー】【知識】【準備】【プリントの使用】【視聴覚機器】【講義内容の価値が学生に伝わらない】【授業改善と学生の勉強不足】【授業時間が長い】【内容が難しい】【話がへた】【声の大きさ】【黒板の使い方】【英語の使用】【学生の意識が身近に感じるようになった】【黒板の字が読みにくい】【授業内容が難解】【熱心で意欲的である】【フィードバックしきれなかった】【休講があった】【学生に不向きである】【第三者による授業成果の評価がない】【質問がなかった】【学生の理解度を確認しながら授業を進めた】【準備不足】【板書が整理されていなかった】【教員全体の共通理解】【平均的な授業をした】【講義内容を丁寧に行う】【熱心に行う】【学生個々人への対応】

また、授業評価とは異なるが、授業を改善するための方策のひとつとして授業参観についても尋ねた。まず、授業参観の経験の有無について尋ねた（【問26】）。

単純集計結果を示したのが表4-9-1である。59.2%が「したことがない」と答えた。経験した授業参観のうち多かったのは、「他の教員の授業を参観した」の17.4%、「他の教員の授業を参観したし、自分の授業を他の教員が参観した」の16.1%であった。「自分の授業を他の教員が参観した」は7.2%にとどまった。総じて、他の教員の授業を参観した経験に比べて、自分の授業を参観させた経験は少ないようである。

属性別に示したのが表4-9-2である。年代別にみると、「他の教員の授業を参観した」

表4-9-1 授業参観の経験の有無

| | 単純集計 |
|------------------------------|-------|
| 他の教員の授業を参観+ | 17.4% |
| 自分の授業を他の教員が参観 | 7.2% |
| 他の教員の授業を参観+ 自分の授業を他の教員が参観 | 16.1% |
| したことがない | 59.2% |
| 合計 | 1217 |

と「他の教員の授業を参観したし、自分の授業を他の教員が参観した」の2項目は年齢の若い教員ほど多く経験している。職階別では「他の教員の授業を参観した」は職階が低いほど多く経験している。初任者研修等で授業経験の豊富な教員の授業を参観する動きがみられるからであろうか。他の項目については明確な関係はみられない。また、設置形態別にみると、国立大学と私立大学で「他の教員の授業を参観した」が多く、公立大学では「他の教員の授業を参観したし、自分の授業を他の教員が参観した」が多くなっている。分野別には、医歯薬系でいずれの項目でも経験者が多く、また教員養成系で「他の教員の授業を参観した」が特に多くなっている。

表4-9-2 授業参観の経験の有無 (属性別)

| | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|-------|
| | 国立 | 公立 | n.s. | 教授 | 助教授 | n.s. | n.s. | 専門教育を営む | 専門教育を営む | 専門教育を営む | 専門教育を営む | 有る |
| 他の教員の授業を参観 | 17.1% | 6.9% | 18.9% | 15.0% | 20.5% | 22.6% | 10.0% | 20.2% | 15.3% | 17.8% | 19.6% | 16.6% |
| 自分の授業を他の教員が参観 | 6.3% | 9.2% | 7.5% | 8.0% | 6.8% | 4.5% | 10.0% | 6.3% | 7.8% | 7.3% | 7.1% | 7.2% |
| 他の教員の授業を参観+自分の授業を他の教員が参観 | 15.4% | 21.8% | 15.8% | 15.1% | 18.0% | 15.8% | 12.9% | 17.6% | 14.5% | 16.6% | 19.9% | 14.4% |
| したことがない | 61.2% | 62.1% | 57.8% | 62.0% | 54.6% | 57.1% | 67.1% | 55.9% | 62.5% | 58.3% | 53.4% | 61.8% |
| 合計 | 397 | 87 | 732 | 715 | 366 | 133 | 70 | 431 | 373 | 343 | 367 | 836 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(業) | | | | |
|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | n.s. | 20-30代 | 40代 | 50代 | n.s. |
| 他の教員の授業を参観 | 17.8% | 17.2% | 14.7% | 17.3% | 10.6% | 21.3% | 26.1% | 22.9% | 19.9% | 16.7% | 13.0% | |
| 自分の授業を他の教員が参観 | 6.5% | 6.1% | 8.1% | 5.5% | 8.5% | 9.0% | 6.5% | 6.4% | 7.2% | 6.3% | 9.0% | |
| 他の教員の授業を参観+自分の授業を他の教員が参観 | 14.5% | 12.6% | 11.8% | 11.4% | 10.6% | 20.7% | 15.2% | 20.0% | 16.6% | 16.2% | 13.3% | |
| したことがない | 61.2% | 64.1% | 66.4% | 66.9% | 70.2% | 48.9% | 52.2% | 50.7% | 56.2% | 60.8% | 64.7% | |
| 合計 | 214 | 198 | 136 | 220 | 47 | 188 | 46 | 140 | 361 | 413 | 300 | |

注) *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

続いて、授業参観を経験した者に対して、それが自らの授業の改善に役立ったか否かについて尋ねた(【問27】)。単純集計と属性とのクロス分析の結果を表4-10に示した。

「役立った」は24.1%、「ある程度役立った」は48.0%で、何らかの程度で役に立ったと考えている者は経験者全体の7割を超えた。授業評価が役立ったと考える者の比率よりも若干低い程度である。「どちらともいえない」は19.2%であるので、否定的な見解を示した者は1割以下に過ぎない。

年代別、設置形態別にはあまり明確な傾向はみられない。職階別には講師の層に積極的評価を示す者が多い。専門分野別にみると、理学系、農学系で中立的、あるいは否定的評価を示した者がやや多く、逆に教員養成系では役立ったとする者が多かった。

また、授業参観の形態と自らの授業の改善に役立ったか否かをクロス分析したところ(表4-10-1)、「自分の授業を他の教員が参観」よりも、「他の教員の授業を参観」の方が役に

立ったと回答する比率が高くなっていった。授業を参観される側の教員に対して、参観する側からのフィードバックが十分に行われていないのか、または行われていても有効とは考えられていないのかは不明だが、授業実践の改善という点からは、授業を行っている側に対するフィードバックは今後、重要な要素となってくるだろう。

表4-10 授業参観は自らの授業の改善に役立ったか（属性別）

| | 甲種集計 | | | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|-------|------|--|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 教養教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | n.s. | 有る | n.s. | 無い | |
| 役立った | 24.1% | 22.9% | 30.3% | 24.0% | 23.9% | 20.7% | 33.3% | 25.0% | 25.1% | 17.3% | 29.2% | 25.6% | 23.1% | | |
| ある程度役立った | 48.0% | 49.7% | 39.4% | 48.1% | 48.2% | 47.4% | 45.8% | 46.1% | 51.1% | 47.9% | 51.2% | 46.6% | | | |
| どちらともいえない | 19.7% | 19.6% | 24.2% | 19.2% | 19.2% | 22.6% | 14.0% | 12.5% | 19.9% | 24.5% | 16.0% | 16.3% | 21.3% | | |
| あまり役立たなかった | 5.2% | 4.6% | 3.0% | 5.6% | 5.6% | 4.9% | 3.5% | 12.5% | 6.3% | 3.6% | 4.2% | 4.7% | 5.6% | | |
| 役立たなかった | 3.0% | 3.3% | 3.0% | 2.9% | 2.9% | 3.7% | 1.8% | 4.2% | 2.6% | 3.6% | 2.8% | 2.3% | 3.4% | | |
| 合計 | 498 | 153 | 33 | 312 | 276 | 164 | 57 | 24 | 191 | 139 | 144 | 172 | 320 | | |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(年) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 役立った | 20.7% | 22.2% | 17.0% | 23.7% | 28.6% | 25.0% | 36.4% | 27.6% | 24.2% | 26.2% | 20.4% |
| ある程度役立った | 46.3% | 48.6% | 42.6% | 48.7% | 35.7% | 55.2% | 59.1% | 46.4% | 45.9% | 49.1% | 50.0% |
| どちらともいえない | 20.7% | 19.4% | 29.8% | 15.8% | 28.6% | 16.7% | 0.0% | 18.8% | 20.4% | 16.0% | 25.0% |
| あまり役立たなかった | 8.5% | 5.6% | 6.4% | 6.6% | 7.1% | 3.1% | 0.0% | 4.3% | 5.7% | 6.1% | 3.7% |
| 役立たなかった | 3.7% | 4.2% | 4.3% | 5.3% | 0.0% | 0.0% | 4.5% | 2.9% | 3.8% | 3.7% | 0.9% |
| 合計 | 82 | 72 | 47 | 76 | 14 | 96 | 22 | 69 | 157 | 163 | 108 |

注) *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

表4-10-1 授業参観は授業改善に役立ったか（授業参観の形態別）

| | 役立った | ある程度役立った | どちらともいえない | 役立たなかった | 合計 |
|--------------------------|--------------|--------------|-------------|-------------|---------------|
| 他の教員の授業を参観 | 60 28.3% | 109 51.4% | 29 13.7% | 13 6.1% | 212 100.0% |
| 自分の授業を他の教員が参観 | 5 5.7% | 33 37.5% | 36 40.9% | 14 15.9% | 88 100.0% |
| 他の教員の授業を参観+自分の授業を他の教員が参観 | 55 28.2% | 96 49.2% | 32 16.4% | 12 6.2% | 195 100.0% |
| 合計 | 120 24.1% | 239 48.1% | 97 19.5% | 40 8.0% | 497 100.0% |

注) *** p<0.001

まとめ

「担当授業科目」として想定された科目はその多くが専門教育科目であり、そのため本章で分析してきた内容は専門教育科目に対してより妥当すると考えられる。その「担当授業科目」については、多くの回答者がうまくいっているとの自己認識を持っていた。また、「担当授業科目」を行う際には、多くの者が授業の目的・目標を意識しており、授業に対する準備や内容の工夫も行っていると自己認識している。しかし、

その一方で、授業をサポートする多様な小道具、ないしインフラストラクチャーに対しては十分な利用がはかられているとはいえない様子も窺われた。

また、「担当授業科目」の多くが専門教育科目であることから、授業における教員の配慮事項には分野間の格差が多く見受けられた。授業改善としてのFD活動を具体的なレベルで行ってゆくためには、ある面、各専門分野の内容にまで踏み込んだ検討が求められる。つまり、今後はFDのあり方を無理に一般化させようとするのではなく、むしろ各専門分野の特性に即した内容を全面に押し出したものも求められるであろう。そうなってくると、学部や学科を主体とした、あるいは同一専門分野内の大学横断的な組織によるFD活動が必要を増してゆくのかかもしれない。

いまひとつ興味深い点は、留学経験の有無によって授業での配慮事項に格差がみられたことである。教員の教育実践は自分が受けた教育体験に根差しているとはよく言われることだが、海外の大学での教育経験が、日本の大学教育の実践にとって正の効果を及ぼすのだとしたら、海外の大学教育の現実から我々が学べることは多いということになるだろう。

授業評価は7割程度が実施していた。一部、主体的に独自の評価を行っている者もみられたが、基本的には大学が行う授業評価として行われている。多くの場合、授業評価は授業の改善にとって有用であると考えられている。しかし、授業評価の動きが広がる以前の14年前の調査と比較してみると、有用と考える者の比率は逆に若干低下していた。授業評価が今後さらに広がっていくとしても、それを単なる上からの動きとしてではなく、主体的に改善に用いていくことが常に意識される必要があるだろうし、そのための方策も講じられる必要がある。

一方、授業参観については授業評価ほど広がってはいないが、授業の改善にはほぼ同じ程度で役立っていると考えられている。もっとも、授業評価にしても授業参観にしても、「役立った」とする回答よりは「ある程度役立った」と回答するの方が圧倒的に多く、より積極的な意義を見出しうるものとするという課題は依然として残されているようである。

今後の研究課題としては次の点が挙げられる。上でみたように、多くの授業が「うまく行って」おり、「目的・目標を意識し」、「準備や内容の工夫も行っている」としても、それらはいくまでも授業担当者の自己評価に基づくものであり、また質問紙調査という手法では回答の類型を単純化したかたちで尋ねざるを得ない。そのため、各授業がどの程度、あるいはどのように「うまく行って」いるのかという実態を明らかにすることは困難である。だが、大学教育について問題となっているのは、まさに授業現場の実態であり、そこに接近してゆくような研究を今後、我々は模索してゆかなければならない。

終章 全体のまとめと今後の課題

終章 全体のまとめと今後の課題

有本 章・大膳 司

1. まとめ

1) 研究志向から教育志向への転換

第1に、今回の調査で最も注目すべき結果は、教員の意識が研究志向から教育志向への転換を生じている事実である。すなわち、「重視している」の回答を見ると、「教育活動」（2003年、60%；1989年、36%）を最も重視して活動しており、続いて「研究活動」（203年、59%；1989年、54%）になっているのである。2003年段階のこの順位は14年前の1989年の意識と比較すると教育（36% → 60%）と研究（54% → 59%）とが僅少差ながら逆転していることが分かる。前回は研究志向が教育志向を大幅に凌いでいたのに対して、今回は両者が互角になっており、従来のギャップを短期間に解消した事実を考慮すると、すでに逆転が生じたとみて差し支えあるまい。その理由は一体なぜであろうか。

1990年代の大幅な大学教育改革の影響によって、教員の意識を形成する価値、文化、風土が転換したことによるものではないかと推察するのは難しくないに違いない。しかしながら、興味ある事実は、教員の所属する学部での昇進審査に際して、現実に教員に期待されている活動は、1番目に研究活動（67%）であり、続いて教育活動（13%）であることである。いまだ圧倒的に研究が重視されているのであり、そのことは1989年当時と比較して変化が見られない。

その結果、せっかくの画期的な意識改革が生じているにもかかわらず、教員の昇進審査という報賞体系の変革がそれに呼応して生じていないため、教員の意識と行動の間に緊張や葛藤がもたらされていると解される。今回の調査結果にはタテマエとしての教育志向とホンネとしての研究志向の乖離が見られる。その証拠に、教育志向が多くなっているにもかかわらず、肝心の教育改善に対して「熱心である」と回答した教員は4分の1（24.2%）に過ぎない。この乖離の現実を克服するためには、タテマエの意識とホンネの意識の距離を埋めるための方策を促す必要があると言わなければなるまい。実際に教員が教育改善に積極的に取り組む条件を整備して、そのような活動に対して十分に報いる条件を用意することが不可欠となる。

下でも言及するように、その条件が整えば、教員のタテマエとしての意識を実際の教育改善へと転換する条件は次第に醸成されていると言えよう。具体的には、教員の教育活動に対する努力や成果に報いる「報賞体系」(reward system)の仕組みづくりが国・機関・

組織レベルで求められている。

2) 学士課程教育に対する意識

第2に、注目すべきことは、学士課程教育に対して、従来の専門教育を重視する学部教育型の教育目的観が根強く見られることである。このことは、学長の見解とも異なっていることが興味深い事実となっている。学士課程における教育目的として、最も多くの教員が強く意識しているのは、「専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」(62%)であり、続いて、「幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」(47%)、「一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」(36%)、「学問の専門家(例、研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる」(32%)であった。この結果は、

の順となる学長調査の結果とは異なり、の順序が全く逆になっていることが分かる。は専門教育、は教養教育と関係が深いが、学長が教養教育を重視しているのに対して、教員は教養教育よりも専門教育を重視していることが明白である。これは、なぜであろうか。

学士課程教育へ学長が教養教育を期待するのに対して、教員は専門教育を期待するという両者の意識のズレは、教員には依然として伝統的な学部教育中心になっている学士課程教育の影響が根強いことを示唆しているのではあるまいか。学長篇において、学長がFDを期待しても、教員が「笛吹けど踊らず」の状態になるのを嘆く傾向が観察されたのを想起すると、こうした伝統的な学部教育＝学士課程教育という意識の差異にかなり起因する側面があるに違いない。

こうした教育目的に関する意識は、教員の専門分野や大学院を担当しているかどうかなどの属性によって異なっている事実が判明した。本調査では教養教育よりも専門教育を強調する教員が多いという結果が得られたのは、教員のこうした属性のうち、専門教育担当者の回答が多いことを考慮しておく必要がある。2000年に実施した大学カリキュラム改革に関する全国調査では、教養教育の担当者は専門教育の担当者よりも教養教育への理解を示し、教育改善へも積極的であったが、今回の調査では教養教育担当者が少ない点から同様のことが推察される(有本章編『大学のカリキュラム改革』玉川大学出版部、2003年参照)。

上記のように、教員が「担当授業科目」として対象に想定した科目は、その多くが専門教育科目であることから、分析内容は専門教育科目に対してより妥当すると考えられる。その専門教育担当中心の「担当授業科目」については、多くの回答者がうまくいっているとの自己認識を持っていること、また、このような「担当授業科目」を行う際には、多くの教員が授業の目的・目標を意識しており、授業に対する準備や内容の工夫も行っていると自己評価していることが判明した。しかし、その一方で、授業をサポートする多様な小道具、ないしインフラストラクチャーに対しては十分な改善がなされているとはいえない

様子も窺われ、その点では教育改善への取組への物足りない状況が窺える。

3) 授業改善の必要性

第3に注目すべきことは、タテマエとホンネという意識における二重構造が浮上していることである。教育の改善に対して熱心だと自己評価した教員は少ないにもかかわらず、9割の教員が授業の改善や活性化が必要であると回答していることは興味深い。このことは、上で述べた教育志向のタテマエ性と符合するかもしれない。必要性を最も認識しているのは、設置者では私立大学、年齢では60代以上、職階では教授である。学長篇の調査を考慮すると、学長は概してその傾向を示したのに加え、私立大学の年配教員が最も熱心に授業の改善や活性化が必要とみなしていることになる。このような傾向は、私立大学において大衆化段階の多様化した学生への教育改善が求められ、定員割れや大学淘汰のきびしさが増大している機関が少なくない現実を勘案すると、納得できる結果であると解される。

授業の改善や活性化が必要と考えている最大の理由は「学生に意欲を持って学習してもらうため」であり、これに次ぐのが、「大学教員は大学教育の改善に努める責務があるため」という役割認識論、「学生に豊富な知識を習得してもらうため」という授業の目的論、の各々の理由に基づく認識であると解される。その意味では、教育改善や活性化の必要性は、外的な変化や圧力という以前に、当然のこととして認識されているとみなして差し支えあるまい。問題は意識レベルにおける単なる必要性の認識にとどまらず、実際に改革の行動へと意識が転換されるか否かであり、その点は、上での結果を踏まえると、かなり不十分な状態になって留まっていると診断せざるを得ない現状にある。

4) 授業改善に対する意識と取組み

第4に、授業改善に熱心ではないと言いながら、授業改善の必要性を主張し、授業改善の取組みには一定の効果を認めていることも指摘できる。「担当授業」の達成レベルを高めるために「重要である」と教員が強く認識している方途は、「担当授業の目的・目標を踏まえた授業内容とする」(76%)、「教員が授業内容を工夫する」(75%)、「教員が授業の準備を周到に行う」(71%)、「教員が学生の質問や意見に関心を持つ」(63%)、「教員が豊富な知識を持っている」(60%)、「教員が効果的な講義方法を工夫する」(56%)など、概して教員自身の改善努力によって達成可能なものであることが判明した。

授業改善に教員自身は熱心でないと回答していることは上記のとおりであるが、授業改善の必要性に対する高い認識は、授業改善に向けた取組みに反映している事実も否めない。例えば、8割以上の教員が何らかの研修会に参加している事実が見られる。どのような経験が多いかという点、「同僚間で討議したことがある」(52%)が最も多い。これに続くのが「全学レベルのセミナー・研修会に参加したことがある」(28%)、「学部レベルのセミナ

一・研修会に参加したことがある」(24%)である。こうしたFDの成果が実際に上がっているのか尋ねた結果、「改善された」(7%)、「ある程度改善された」(41%)となり、5割近くが何らかの効果を認めている。しかし、全体には第1段階に留まっていると観察される結果である。

5) 学生による授業評価や教員による授業参加に見られる葛藤

第5に、現在のFDは第1段階から第2段階への移行を模索し始めているが、それと呼応して、内容的に反省や見直しの動きが察知できる点が窺える。FDの制度化を占う重要な動きである、学生による授業評価、教員による授業参観には、その種の苦悩が露呈しつつあると観察できるのではあるまいか。

FDの重要な取組みの1つは学生による授業評価である。教員の回答では7割程度(69%)が実施しており、これは1989年の35%に比較すると、2倍の伸びを示している。それも大学が行う授業評価として行われていることが多い。授業評価は授業の改善にとって有用であると考えられているものの、しかし、授業評価の動きが広がる以前の14年前の調査と比較してみると、有用と考える者の比率は逆に若干低下(82%→77%)しているという結果が見られた。この点を考慮すると、授業評価が今後さらに広がっていくとしても、それを単なる上からの動きとしてではなく、教員自身が主体的に改善に用いていくことが常に意識される必要があるだろうし、学生へのフィードバックの実施が欠かせないであろうし、そのための方策も講じられる必要があるだろう。少なくとも、14年前よりも授業評価の経験者が増えていながらも、その有用性が認められていないという事実は、教員の中に葛藤が生じている証拠であると推察されるし、質的な変化が生じていると解されよう。その点の分析は、インタビューのような質的分析によって補完されなければならないと言えよう。

一方、教員による授業参観については学生による授業評価ほど広がってはいないが、授業の改善にはほぼ同じ程度で役立っていると考えられている。もっとも、授業評価にしても授業参観にしても、「役立った」(21%)とする回答よりは「ある程度役立った」(48%)と回答する者の方が圧倒的に多く、より積極的な意義を見出しうるようなものとするという課題は依然として残されているようである。学生による授業評価に関して指摘した同様の分析が必要であると考えられる。

6) 授業改善に対する取り組みの効果と今後の期待

第6に、研修型のFDの効果がある半面、それでは不十分な状況が認識されており、もっと専門的な対応や措置が講じられる必要性が生じていることを指摘できる。教員は、FDの研修会への参加は担当授業の改善に一定の効果があったと認識しており、その改善の内容についての詳細は資料4に示されている通りである。

担当授業を改善する上で、セミナーや研修会の必要性を尋ねると、必要であると回答し

た教員は6割を越えており、1989年調査と比較すると、「必要である」あるいは「ある程度必要である」を選択した割合が17%増加しており、今後もセミナーや研修会の必要性の認識は高まっていくことが予想される。

それでは教員はどういった内容の研修やセミナーに期待しているのか。最も期待が寄せられているのは「講義の方法」(50%)、その次は「学生の指導方法」(35%)であり、その他では、「学生の評価の仕方」(28%)、「討論の方法」(26%)、「教員と学生との関係作り」(22%)が、比較的期待の高い項目である。内容的には、授業と関係した問題に大きな関心が払われていることが分かる。

こうした研修やセミナーへの期待が高まっていることは、実際にニーズが充足されることとは、必ずしも一致しているのではない。もう少し身近な要請に具体的に対応するシステムが求められていることも偽らざる現実であるとみなされる。

ちなみに、大学・学部内に講義法についての相談や、授業改善のための資料・情報の提供を行うサービス窓口の存在をたずねたところ、既にあると回答したのは12%であった。これに対して、そのようなサービス窓口があったほうが良いと考えている者は、72%とかなり高い。89年調査でも既にその必要性はかなり認められていたが、そうしたサービスの導入はまだ進んでいない。学内での組織化がいまだ未発達の状態にあるが、個々の教員は研修会やセミナーを要求するばかりか、さらに個々人のニーズに即した知見、情報、技術を求めていると推察される以上、学内でのサービス窓口の設置が必要となってきたと観察できる。さらに、今後FDの第2段階へ移行していくにつれて、個々の大学での大学教育研究センターやその他の専門機関を整備するのに加え、アメリカで発達しているPOD (Professional and Organizational Development in Higher Education)のような個々の大学のサービス窓口を広範にネットワーク化する組織が不可欠となろう。

7) 優れた授業や教育改善に対する報賞

第7に、教育志向から教育実践へと確実に定着を促すには、報賞体系のあり方を如何に考えるかが避けて通れない問題になりつつあると言える。教育活動に対する報賞への考え方として、優れた授業や教育改善の試みは何らかの形で報われるべきだという意識が着実に高まっていることに注目すべきである。そのことは、すでに報賞体系の整備の必要性として指摘した点と関係している。

しかし、その考え方も属性によって異なっており、年代別には20・30代で、職階別では講師層で、専門分野別では理学系や医歯薬学系において「報われるのがよい」と考える者が多くなっている。概して理系の教員は専門教育志向が強く、同時に研究志向が強い傾向が従来の調査結果で得られているが(『大学のカリキュラム改革』前出書、参照)その点を勘案すると、研究志向から教育志向への転換に緊張や葛藤が高いのかもしれない。理系の若手教員は研究志向が強い傾向にあるが、研究から教育への役割転換にはやや意識的な

抵抗があり、その代償として報酬を期待することが作用していると読める事実かもしれない。物的報賞によって、研究と教育への志向が左右される傾向が進行すると、研究と教育の分業化は一段と進行せざるを得ない。研究と教育を統合することを理念として成立した近代大学では、同じ給料の中で研究志向と教育志向が求められた。これに対して、給料に差をつけることによって、研究と教育が差異化される方向へ向かう。研究志向が強い日本の風土では、教育へ研究以上の高い報賞を用意することによって、教育を強化する方向へ向かう可能性がある。今後の方向は別途考える必要があるが、当面は現在生じつつある教員の意識変化をさらにクロス集計や面接調査などの手法を活用して、詳細に検討する必要があると考えられる。

報われるのがよいと考えている教員が望む報われ方は、「研究費や研究旅費を給付する」が最多で、「教育の準備や研究のための特別休暇を与える」や「昇進時に重視する」もほぼ同様の値である(4割程度)。89年調査との比較では、「給料やボーナスを上げる」という金銭的な報賞を得ることを期待する割合が高まっていることが、この間に生じた大きな変化である。これは、好むと好まざるとにかかわらず、大学教授職が「天職」と考えられ、「専門職の中の専門職」、すなわち「鍵専門職」と考えられる時代から、次第に変貌しつつある徴候を代弁している傾向と読めるかもしれない。換言すれば、大学教員が内的・精神的なものよりも外的・金銭的な充実感を追求する徴候が現れつつあると読める動きかもしれない。この点も、さらに詳細な検討が必要である。

以上7点は、本調査結果を踏まえ、種々の傾向が把握できる中で、特に注目される傾向に即して若干のコメントをしたものである。

2. 今後の課題

この度の全国調査では、日本における教育改善活動を中心とした教育活動の実態調査を、学長・学部長・教員を対象として、アンケート調査手法によって行っている。こうした調査全体の中で、本報告が対象にして分析したのは最大の規模を誇り、全体の中で中心となる教員調査である。その意味で、調査結果に具現した各種の傾向や特徴は注目すべき事柄の各々である。序章において、FDの制度化に生じる各種の葛藤を指摘したが、また、いくつかの問題に関しては上記のまとめの部分において言及したが、それらのすべてに関して論じる紙幅がないので、今回の調査結果を踏まえて総括的に若干の論点に言及してみたいと思う。

第1に、14年前に比較して、研究志向から教育志向への転換が教員全体の意識の上で進行している事実は、改めて注目すべきである。日本の高等教育が明治以来一貫して研究志向を追求してきており、世界的にも研究志向型を明確に示してきた事実が、ここに至って転換期を迎えていることを示している点で、極めて画期的出来事であると言わなければなら

らない。

このことは、研究志向と教育志向がシステマ的にも、機関的にも、組織的にも、意識的にも緊張や葛藤を生じている事実を示唆していると読めるのではあるまいか。とりわけ教員の意識に限れば、研究志向がタテマエでもホンネでもあった時代から、タテマエが先行して教育志向が意識調査に浮上しているのにもかかわらず、ホンネの部分は依然として研究志向にあるという時代への動きが始まっている。システムでのFDの法的、政策的、業績的制度化の開始、その機関や組織への刻印、さらには教員の意識への内面化が急速に進行し始めているために、緊張や葛藤が惹起されざるを得ない。教育志向であるにもかかわらず、教育改善に熱心ではない意識、教育改善を強調しながら、実際には抵抗がある意識、研究志向と教育志向への分化過程を辿る報賞体系の動き、といった現実が露呈しているのである。詳細な分析が必要である。

第2に、トップダウンとボトムアップの葛藤が深まっている事実を指摘せざるを得ない。学長篇では、学長のFDへの期待と実際の教員の実践との間にギャップがあることを学長自身が指摘している事実が明らかになった。今回の教員調査は教員自身が自らの意識を介してFDの期待と実際の間の関係を明らかにした。この両者の意識の距離を測定するならば、学長の指摘は当たらずといえども遠からずとみなせるに違いない。似通った結果は、同じ大学の価値、文化、風土、土壌、空気が学長にも、教員にも作用している現実を考えれば当然のことである半面、そこにはトップダウンとボトムアップの価値、文化、風土、土壌、空気の相違が反映されていることも否めない事実である。例えば、学士課程の教育目的に関する両者の相違には、学長と教員のベクトルの違いが反映されていると介される。学士課程に教養教育を期待する学長と、専門教育を期待する教員の間横たわる意識の乖離は、教育改革を志向する狭義のFDの制度化にとって重要な問題を提起している。さらなる分析が必要であろう。

第3に、アメリカ型FDと日本型FDの葛藤の問題がある。上で述べた2つの問題は、いずれもこの舶来型と土着型のFDに直接間接関わっている問題である。研究志向は戦前から日本の大学へ輸入され、定着したので、130年間にあたかも日本の土着型に見えるほど同化した価値、文化、風土である。これをアメリカのFDに内包される狭義のFDによって改革を図ることが目下の懸案となっている以上、FDの制度化は両者の対峙、対立、同化の過程を意味するのは自明である。1990年代から開始されたFDの制度化は、さしあたって対峙、対立の時代であり、あるいはそれを克服して同化を模索する時代に該当する。制度的にも、意識的にもタテマエとホンネの間の動揺が生じるのは不思議ではない。

トップダウンとボトムアップの葛藤の問題も伝統と革新の葛藤の問題である。概して学長は前者、教員は後者の動きである。狭義のFDの制度化に熱心なのは、学長であり、その意識には教育改革への期待が強く見受けられる。これに対して、教員はかなり革新的な部分も見られるが、概して教育への革新性は弱い傾向を示している。両者の間の角逐が各

機関の中で日常的に発生していることが、今回の学長調査、教員調査を比較するとき察知されることが理解できると言って過言ではあるまい。今後これらの事実を学長、学部長、教員の各回答を詳細に分析して、そのような現状を解明して、FDの制度化に横たわる問題点を踏まえた改革策を考えることが課題となる。

第4に、すでに学長篇において指摘したように、様々な課題があることを再度指摘しておきたい。調査項目の不適切さなどのアンケート調査自体にも改善すべき余地が多々残されていると考えられるが、大学教育活動の質的保証を行う仕組み作りにおいて、課題が残されている。

(1) 本報告で行った教員調査の分析結果を他の学長、学部長調査と比較し、三者の意識の違いを明らかにし、大学機関内にある意識の構造を明らかにする必要がある。

(2) 大学評価・学位授与機構や大学基準協会のような国レベルや大学以外の組織レベルでの教育改善活動の情報収集に努めることが肝要である。さらに、対象となった大学機関や大学教員に対して質問調査票では得られない情報を補完するためにインタビュー調査などによって詳細なデータを収集することも必要である。

(3) 教育の質的保証の観点から教育の構成要素の中で本調査の対象となっている教員以外の学生やカリキュラムなどを対象とした調査・研究を進めていくことが肝要である。教育を支える人的資源としては、教員以外に事務職員の資質開発＝SDとの関連性を考慮することは欠かせないからである。教員・学生・カリキュラムという授業の3点セットの中軸たる学生の研究が補完されることは不可欠である。同様に、学生の教育における到達目標や指標に関する研究、あるいは教育内容・方法に直接関係するカリキュラムの研究が重要であることは、論を待たない。

(4) 外国の大学や教員を対象としたFDの制度化の比較研究を欧米やアジア諸国などを対象に行うことが必要である。これらの比較研究は、日本の大学教育改善を進める上で重要な知見を得るためにも重要である。アメリカ型FDに対して、日本型FDが成立するとすれば、中国型、韓国型、タイ型などのFDも成立するはずであり、システム間の類似性や相違性を比較することによって、FD制度化の国際比較を行い、それによって日本型の長所や短所を明らかにする作業が必要と考えられる。

(5) この度の調査でも14年前の同様の調査との比較によって、FDを基軸とした教育改善の問題点、課題などが明らかとなり、比較の重要性が明らかになったとおり、教育改善活動の有効性を探るためには、数年間隔の継続調査が必要であろう。改革や改善のやりっぱなしではなく、絶えず点検・評価し、有効な改善手法の構築に努めなければならない。

資 料

資料1 アンケート調査票

資料2 データ集計結果

資料3 「担当授業」の質を改善するための重要事項（【問3】）

資料4 FD活動によって「担当授業」はどのように改善されたか（【問8】）

資料5 どのような点が学生からの評価につながったか（【問25】）

資料6 大学教育を活性化するための課題や方策（【問31】）

資料3～資料6における各回答には回答者の属性を（ ）内に示した。属性は、左から、【設置者】、【年代】、【職階】、【専門分野】、【授業担当】、【担当授業の授業評価】である。

資料1 アンケート調査票

大学における教育活動の改善に関するアンケート調査

- ご協力のお願い -

本アンケート調査は、わが国の国公私立大学における教育の改善活動に対する意識や現状を明らかにし、日本の大学教育の活性化に向けての課題や今後の方策を検討することを目的としたものです。

本調査は、文部科学省科学研究費の支援を受けて大学教育研究センター等協議会の協力を得て実施している「大学におけるFD・SD（教員職員資質開発）の制度化と質的保証に関する総合的研究」（代表者 有本章）と21世紀COEプログラム「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」（拠点リーダー 有本章）の一環として実施するものです。ご多忙とは存じますが、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

調査の結果につきましては、本センターの研究刊行物を通して公表し、日本の大学教育の改善に資したいと考えています。なお、結果の公表によって皆様にご迷惑をおかけすることのないよう、細心の注意を払う所存です。どうか率直なご意見をお寄せ下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

研究代表者 広島大学高等教育研究開発センター長 有本章

ご記入上の注意

1. 以下の質問では、あなたが昨年度、学士課程教育で担当した授業（以下では「担当授業」と呼ぶ）を想定してご回答下さい。
2. 各問の各項目について、該当する番号を で囲んで下さい。回答の「その他」には、用意した選択肢に該当するものがない場合に、あなたのご意見や必要事項を、
() または _____ の部分にご記入下さい。
3. 本アンケートに関する質問等がございましたら、以下までお問い合わせ下さい。
大膳 司（0824-24-6709 / tdaizen@hiroshima-u.ac.jp）
小方 直幸（0824-24-6237 / nogata@hiroshima-u.ac.jp）
渡辺 達雄（0824-24-6241 / tatsuode@hiroshima-u.ac.jp）
4. 回答がお済みになりましたら、同封の返信用封筒に入れて、7月14日(月)までにご投函下さい。

同様のアンケートを、貴校の学長・学部長にも実施しております。この度のアンケートの目的上、それらの回答を対応させて分析する必要がございます。趣旨をご理解いただき、以下の下線部分に、貴校が主に学士課程の教育を担当している大学・学部・学群名をご記入いただければ幸いです。アンケート情報が漏れ出ることがないよう細心の注意を払いますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。

大学

学部・学群

最初に、～ までは、あなたご自身のことについてお伺いします。各問の各項目について、該当する番号を で囲んで下さい。また、() 内にご記入下さい。

- ・あなたの性 1. 男 2. 女
- ・あなたの年齢 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代
6. 70代 7. 80代以上
- ・所属大学の設置形態 1. 国立 2. 公立 3. 私立
- ・所属学部 of 専門分野 1. 人文科学系 2. 社会科学系 3. 理学系 4. 工学系
5. 農学系 6. 医歯薬学系 7. 家政系 8. 教員養成系
9. 総合科学系 10. 教養教育系 11. その他 ()
- ・あなたの専攻分野 1. 人文科学系 2. 社会科学系 3. 理学系 4. 工学系
5. 農学系 6. 医歯薬学系 7. 家政系 8. 教員養成系
9. 総合科学系 10. 教養教育系 11. その他 ()
- ・あなたの現職名 (当てはまるもの全て選択して下さい) 1. 理事長 2. 学長 3. 副学長 4. 研究科長 5. 学部長
6. 学科長 7. 教授 8. 助教授 9. 講師
10. その他 ()
- ・あなたがこれまで 1. 入試系委員 2. 教務系委員 3. 就職系委員
に所属大学で経験した 4. 教養教育系委員 5. 自己評価系委員 6. その他 ()
全学レベルの委員 (当てはまるもの全て選択して下さい)
- ・通算大学勤務年数 1. 5年以下 2. 6～10年 3. 11～20年 4. 21～30年 5. 31年以上
- ・現在所属している 1. 5年以下 2. 6～10年 3. 11～20年 4. 21～30年
大学での通算勤務年数 5. 31年以上
- ・あなたは外国で授業を受けた経験がありますか。もし「1. 有る」なら、どこの国ですか。
1. 有る どの国ですか。 1. 米国 2. 英国 3. ドイツ 4. フランス 5. 中国
2. 無い 6. その他 ()
- ・昨年度(平成14年度)、あなたは、次の教育段階の授業を担当されましたか。当てはまるものを全て選択して番号を で囲んで下さい。
1. 学士課程の共通・教養教育(専門基礎は除く) 2. 学士課程の専門教育(専門基礎を含む)
3. 大学院修士課程 4. 大学院博士課程 5. いずれの課程も担当していない
注)もし、「1」も「2」も選択されなかった場合は、【問30】からご回答下さい。

次の【問1】～【問14】は、あなたが昨年度、学士課程教育で担当した授業(以下では「担当授業」と呼ぶ)を想定してご回答下さい。

< 「担当授業」の目的・目標について >

【問1】あなたが、昨年度の「担当授業」を行った際の教育目的は、以下の～の各事項とどの程度関連していますか。次の各事項の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

| | 関連がある | ある程度 関連がある | どちらとも 言えない | あまり 関連がない | 関連がない |
|-------------------------------|-------|---------------|---------------|--------------|-------|
| 一般社会人として必要な知識・ 資質を身につけさせる | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 幅広い学問的興味・関心・知識 を身につけさせる | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 専門的職業人として必要な知識 ・資質を身につけさせる | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |

次頁に続く ==>

| | 関連がある | ある程度 関連がある | どちらとも 言えない | あまり 関連がない | 関連がない |
|----------------------------------|-------|---------------|---------------|--------------|-------|
| 学問の専門家(例:研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

<「担当授業科目」の内容・方法について>

【問2】あなたの「担当授業」の達成レベル(質)を高めるためには、以下の各事項はどの程度重要ですか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

| | 重要である | ある程度 重要である | どちらとも いえない | あまり 重要でない | 重要でない |
|--------------------------------------|-------|---------------|---------------|--------------|-------|
| 「学部・学科」の教育目的をふまえて授業を行う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 担当授業の目的・目標を踏まえた授業内容(カリキュラム)とする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 受講学生が豊富な知識を持っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 受講学生が熱心に学習する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教員が学生の成長発達に関心を持つ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教員が学生の質問や意見に関心を持つ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教員が学生をほめるよう努力する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教員が学生の授業参加を促す | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教員が優れた研究力を持っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教員が豊富な知識を持っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教員が授業の準備を周到に行う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教員が授業内容を工夫する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教員が効果的な講義方法を工夫する(例:ポートフォリオ等) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 英語を使って授業をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 国際的に標準とされるテキストを使って授業をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 視聴覚機器を有効に活用する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 授業のシラバスを学生に提示する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 少人数で教育を行う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 授業でオフィスアワーを設ける | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ティーチング・アシスタント(TA)を活用する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (21)教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (22)厳格な成績評価を行う(GPA制) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (23)受講学生の学習活動を組織的に支援させる(例:学習相談室の設置等) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (24)学生の学習施設・設備を充実させる(例:図書館やパソコンの整備等) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (25)教育施設・設備を充実させる(例:視聴覚機器の整備等) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

【問3】上の【問2】で示した事項以外に、あなたの「担当授業」の質を改善するための重要な事項があれば以下にご記入下さい。

()

< 授業改善の活動について >

【問4】あなたの「担当授業」の改善や活性化は必要であると思われませんか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 必要である
2. ある程度必要である
3. どちらとも言いえない
4. あまり必要でない
4. 必要でない

【問5】【問4】で「1. 必要である」や「2. ある程度必要である」を選択された方に質問します。授業の改善と活性化が必要であるとお考えになる理由は何でしょうか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

1. 学生に意欲を持って学習してもらうため
2. 学生に豊富な知識を習得してもらうため
3. 大学教育のグローバルスタンダード化への対応のため（JABEEなど）
4. 学生（18歳）人口の減少に伴う大学生生き残りのため
5. 外国人留学生に入学してもらうため
6. 生涯教育機関としての大学の役割が増大（社会人学生の増加等）しているため
7. 社会や国民からの大学教育批判に応えるため
8. 社会の情報化・国際化に対応したカリキュラム編成の必要性のため
9. 高校教育との接続の問題（学力の多様化など）に対応するため
10. 大学教員は大学教育の改善に努める責務があるため
11. 教育活動が大学評価の対象となっているため
12. その他（具体的にご記入下さい：)

【問6】あなたは、この5年の間に、講義の内容・方法や学生の指導法に関するセミナーや研修会（FD活動）に参加された経験がありますか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 全学レベルのセミナー・研修会に参加したことがある
2. 学部レベルのセミナー・研修会に参加したことがある
3. 学外のセミナー・研修会に参加したことがある
4. 学会等で討議したことがある
5. 研修ではないが上司から個人的に指導を受けたことがある
6. 同僚間で討議したことがある
7. その他 ()
8. まったくない

【問7】【問6】の各種のFD活動への参加によって、あなたの「担当授業」は改善されましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 改善された
2. ある程度改善された
3. どちらとも言いえない
4. あまり改善されなかった
5. 改善されなかった

【問8】【問7】で「1. 改善された」か「2. ある程度改善された」を選択された方に質問します。あなたの「担当授業」はどのように改善されましたか。以下にご記入下さい。

()

【問9】担当されている授業の改善を促すセミナーや研修会を、現在、あなたはどの程度必要だと思っておられますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 必要である
2. ある程度必要である
3. どちらとも言いえない
4. あまり必要ではない
5. 必要ではない

【問10】次の中から、現在、受けてみたいセミナーや研修会のテーマがありましたら当てはまるもの全てを選択して下さい。

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1. 講義方法 | 5. テスト問題の作成 | 9. 研究活動のあり方 |
| 2. 学生の評価の仕方 | 6. 討論の技法 | 10. 管理・運営のあり方 |
| 3. 学生の指導方法 | 7. 教員と学生との関係作り | 11. 社会サービスのあり方 |
| 4. カリキュラムの組み方 | 8. 卒業論文の指導方法 | 12. 大学論・高等教育論 |
13. その他 ()

【問11】あなたの大学・学部内には、講義法についての相談や、授業改善のための資料・情報の提供をおこなうサービス窓口がありますか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 既にある 2. 現在はない 3. わからない

【問12】あなたは、講義法についての相談や、授業改善のための資料・情報の提供をおこなうサービス窓口が大学・学部内にあったら良いと思われませんか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. あった方がよい 2. どちらかといえばあった方がよい 3. あまり必要ない 4. 必要ない

【問13】優れた授業や教育改善の試みに対して、何らかのかたちで報われるのがよい、という考えがありますが、あなたはどのようにお考えでしょうか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 報われるのがよい 2. ある程度報われるのがよい 3. どちらとも言えない
4. あまり報われなくてよい 5. 報われなくてよい

【問14】【問13】で「1. 報われるのがよい」か「2. ある程度報われるのがよい」を選択された方に質問します。どのような方法で報われるのがよいと思われませんか。次の選択肢の中から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 教育賞のような賞を与える 2. 昇進時に重視する 3. 給料やボーナスを上げる
4. 教育の準備や研究のための特別休暇を与える 5. 研究費や研究旅費を給付する
6. その他 ()

次の【問15】～【問27】は、昨年度、あなたが学士課程教育で担当した授業のうち、あなたの専門分野に近い講義形式のもの1つ(以下では、「担当授業科目」と言う)を想定してご回答下さい。

< 「担当授業科目」について >

【問15】あなたが想定した「担当授業科目」と同じの開講学期(セメスター)において、下に示した各教育段階の授業をそれぞれ何コマ担当されましたか。()内に数値でご記入下さい。(講義、実習、実験、演習等を含みます。1コマを90～100分としてお考え下さい。複数の教員で担当された場合も1コマと計算してください。)

1. 学士課程の共通・教養教育(専門基礎は除く) ()コマ
2. 学士課程の専門教育(専門基礎を含む) ()コマ
3. 大学院修士課程 ()コマ 4. 大学院博士課程 ()コマ

【問16】あなたの想定した「担当授業科目」の受講者数を()内に数値でご記入下さい。

受 講 者 数 () 人

【問17】その「担当授業科目」は、次のどの段階の授業ですか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 教養教育科目(専門基礎は除く) 2. 専門教育科目(専門基礎を含む)
3. その他 ()

【問18】その「担当授業科目」は、必修科目、選択科目のうちどちらでしょう。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 必修科目 2. 選択科目 3. その他 ()

【問19】あなたの「担当授業科目」は、うまくいったと思いますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. うまくいった 2. ある程度うまくいった 3. どちらともいえない
4. あまりうまくいかなかった 5. うまくいかなかった

【問20】以下には、あなたの「担当授業科目」の達成レベル(質)を向上させるための事項が示されています。以下の各事項は、昨年度の「担当授業科目」の状況に、それぞれの程度当てはまりますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

| | 当てはまる | ある程度 当てはまる | どちらとも いえない | あまり 当てはまらない | 当てはまらない |
|--------------------------------------|-------|---------------|---------------|----------------|---------|
| 「学部・学科」の教育目的を ふまえて授業を行う | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 担当授業の目的・目標を踏まえた 授業内容(カリラム)とする | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 受講学生が豊富な知識を持っている | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 受講学生が熱心に学習する | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 教員が学生の成長発達に関心を持つ | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 教員が学生の質問や意見に 関心を持つ | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 教員が学生をほめるよう努力する | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 教員が学生の授業参加を促す | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 教員が優れた研究力を持っている | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 教員が豊富な知識を持っている | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 教員が授業の準備を周到に行う | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 教員が授業内容を工夫する | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 教員が効果的な講義方法を工夫する (例：ポートフォリオ等) | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 英語を使って授業をする | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 国際的に標準とされるテキスト を使って授業をする | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 視聴覚機器を有効に活用する | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 授業のシラバスを学生に提示する | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 少人数で教育を行う | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| 授業でオフィスアワーを設ける | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| ティーチング・アシスタント (TA)を活用する | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| (21)教員が学生による授業評価結果を 参考にして授業改善に努める | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |
| (22)厳格な成績評価を行う (GPA制) | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— | 5 |

次頁に続く ==>

- | | 当てはまる | ある程度
当てはまる | どちらとも
いえない | あまり
当てはまらない | 当てはまらない |
|--|-------|---------------|---------------|----------------|---------|
| (23) 受講学生の学習活動が組織的に支援されている(例: 学習相談室の設置等) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (24) 学生の学習施設・設備が充実している(例: 図書館やパソコンの整備等) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (25) 教育施設・設備が充実している(例: 視聴覚機器の整備等) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

【問 2 1】あなたは、昨年度、「担当授業科目」を対象として学生による授業評価を実施されましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 実施した 2. 実施しなかった

【問 2 2】【問 2 1】で「1. 実施した」を選択された方に質問します。それは、どのような形態で行われましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 大学(学部・学科)で作成した講義評価表を配布して学生に記入させた。
 2. 自分独自に作成した講義評価表を配布して学生に記入させた。
 3. 学生に直接面接して意見を聞いた。
 4. 授業の中で、講義方法や内容について学生と話し合う時間を設けた。
 5. その他()

【問 2 3】【問 2 1】で「1. 実施した」を選択された方に質問します。それによって、あなたの「担当授業科目」の改善に役立ちましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 役立った 2. ある程度役立った 3. どちらともいえない
 4. あまり役立たなかった 5. 役立たなかった

【問 2 4】【問 2 1】で「1. 実施した」を選択された方に質問します。あなたの「担当授業科目」は、学生による授業評価の結果、どのような評価を得ましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 高い評価を得た 2. ある程度高い評価を得た 3. 普通であった
 4. 評価は少し低かった 5. 評価は低かった

【問 2 5】どのような点が【問 2 4】のような学生からの評価につながったと思われますか。

[]

【問 2 6】あなたは、授業参観の経験がありますか。当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 他の教員の授業を参観した 2. 自分の授業を他の教員が参観した
 3. 他の教員の授業を参観したし、自分の授業を他の教員が参観した 4. したことがない

【問 2 7】【問 2 6】で「1.」～「3.」を選択された方に質問します。それによって、あなたの「担当授業科目」の改善に役立ちましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 役立った 2. ある程度役立った 3. どちらともいえない
 4. あまり役立たなかった 5. 役立たなかった

最後に、【問28】～【問30】は、大学教員の諸活動に対するあなたのご意見をお聞きします。

【問28】あなたの所属学部では、教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、現実にとどの程度重視されていますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

| | ある程度重視されている | ある程度重視されている | どちらとも言えない | あまり重視されていない | あまり重視されていない |
|------------|-------------|-------------|-----------|-------------|-------------|
| 研究活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 教育活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 学内の管理・運営活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 社会サービス活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| その他() | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

【問29】現在、以下に示した各活動に対して、あなたは実際に各々どの程度の重きをおいて活動されていますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。さらに、各活動の右端の()内には、授業期間中の平均的な一週間(月曜日～金曜日)で、実際にどの程度の時間を各活動に使っておられますか、()内に時間数をご記入下さい。

| | 重視している | ある程度重視している | どちらとも言えない | あまり重視していない | あまり重視していない | |
|------------|--------|------------|-----------|------------|------------|-------|
| 研究活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ()時間 |
| 教育活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ()時間 |
| 学内の管理・運営活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ()時間 |
| 社会サービス活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ()時間 |
| その他() | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ()時間 |

【問30】あなた自身は教育の改善に対して熱心だと思われますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 熱心である 2. ある程度熱心である 3. どちらともいえない
 4. あまり熱心ではない 5. 熱心ではない

< 教育改善のための方策について >

【問31】大学教育を活性化するための課題や方策についてご提案がございましたらご記入下さい。

後日、数名の大学教員から、大学教育の改善や質の保証に関してインタビューを計画しております。インタビューを受けることが可能でしたら、電話連絡先等をお教えいただけませんか。

貴校名:() 記入者氏名:()
 電話連絡先:(- -)

アンケートにご協力いただきまして、誠に有り難うございました。厚く御礼申し上げます。

資料2 データ集計結果

- ・次頁から示す集計結果は、左頁と右頁とがペアとなっております。
- ・表中の *** は危険率0.1%において、** は危険率1%において、* は危険率5%においてそれぞれ有意な関連性のあることを示しています。

①一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(実) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 関連がある | 40.5% | 55.8% | 39.0% | 22.2% | 29.8% | 17.2% | 41.7% | 35.2% | 28.1% | 34.5% | 41.5% |
| ある程度関連がある | 41.9% | 35.7% | 27.2% | 38.5% | 46.8% | 26.3% | 33.3% | 37.3% | 35.0% | 36.0% | 37.8% |
| どちらとも言えない | 10.4% | 2.5% | 11.0% | 14.0% | 12.8% | 9.1% | 14.6% | 13.4% | 11.5% | 7.9% | 7.4% |
| あまり関係がない | 5.4% | 4.5% | 16.9% | 19.9% | 10.6% | 26.9% | 8.3% | 9.2% | 16.4% | 16.1% | 10.4% |
| 関連がない | 1.8% | 1.5% | 5.9% | 5.4% | 0.0% | 20.4% | 2.1% | 4.9% | 9.0% | 5.5% | 3.0% |
| 合計 | 222 | 199 | 136 | 221 | 47 | 186 | 48 | 142 | 366 | 417 | 299 |

②幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(実) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 関連がある | 63.1% | 56.7% | 51.1% | 38.8% | 48.9% | 33.5% | 50.0% | 51.0% | 43.3% | 50.2% | 50.3% |
| ある程度関連がある | 31.1% | 35.8% | 34.3% | 47.8% | 38.3% | 37.8% | 33.3% | 35.7% | 40.1% | 36.4% | 39.1% |
| どちらとも言えない | 4.5% | 5.0% | 9.5% | 5.8% | 8.5% | 10.6% | 8.3% | 6.3% | 8.2% | 6.9% | 5.6% |
| あまり関係がない | 1.4% | 2.5% | 3.6% | 5.4% | 4.3% | 8.5% | 8.3% | 3.5% | 4.9% | 5.0% | 3.6% |
| 関連がない | 0.0% | 0.0% | 1.5% | 2.2% | 0.0% | 9.6% | 0.0% | 3.5% | 3.5% | 1.4% | 1.3% |
| 合計 | 222 | 201 | 137 | 224 | 47 | 188 | 48 | 143 | 367 | 420 | 302 |

③専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(実) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 関連がある | 40.1% | 47.0% | 58.5% | 73.8% | 68.1% | 88.5% | 77.1% | 55.9% | 62.8% | 67.5% | 63.0% |
| ある程度関連がある | 31.1% | 36.6% | 31.9% | 21.3% | 21.3% | 8.4% | 18.8% | 28.7% | 23.5% | 24.0% | 23.3% |
| どちらとも言えない | 13.5% | 10.4% | 5.2% | 3.6% | 6.4% | 2.1% | 4.2% | 9.1% | 8.2% | 4.0% | 7.5% |
| あまり関係がない | 9.5% | 5.0% | 3.7% | 1.3% | 4.3% | 1.0% | 0.0% | 3.5% | 4.1% | 3.3% | 5.2% |
| 関連がない | 5.9% | 1.0% | 0.7% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.8% | 1.4% | 1.2% | 1.0% |
| 合計 | 222 | 202 | 135 | 225 | 47 | 191 | 48 | 143 | 366 | 425 | 305 |

④学問の専門家(例:研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(実) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 関連がある | 30.6% | 22.3% | 39.0% | 32.7% | 43.5% | 48.7% | 25.0% | 28.7% | 37.6% | 35.2% | 30.4% |
| ある程度関連がある | 34.7% | 28.7% | 30.9% | 38.6% | 43.5% | 34.6% | 31.3% | 32.9% | 35.1% | 36.4% | 34.0% |
| どちらとも言えない | 9.9% | 17.3% | 13.2% | 13.9% | 6.5% | 8.9% | 20.8% | 15.4% | 12.0% | 10.6% | 14.2% |
| あまり関係がない | 16.2% | 24.8% | 14.0% | 12.1% | 4.3% | 6.3% | 22.9% | 12.6% | 13.4% | 13.2% | 16.5% |
| 関連がない | 8.6% | 6.9% | 2.9% | 2.7% | 2.2% | 1.6% | 0.0% | 10.5% | 1.9% | 4.5% | 5.0% |
| 合計 | 222 | 202 | 136 | 223 | 46 | 191 | 48 | 143 | 367 | 423 | 303 |

①「学部・学科」の教育目的をふまえて授業を行う

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(実) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 51.6% | 45.3% | 43.1% | 50.7% | 53.2% | 64.9% | 58.3% | 47.6% | 49.9% | 52.8% | 58.3% |
| ある程度重要である | 37.7% | 43.3% | 45.3% | 37.8% | 44.7% | 29.3% | 39.6% | 41.3% | 40.1% | 35.4% | 35.5% |
| どちらとも言えない | 5.4% | 6.4% | 5.8% | 8.4% | 2.1% | 3.1% | 2.1% | 7.7% | 5.2% | 6.6% | 4.6% |
| あまり重要でない | 3.6% | 4.9% | 3.6% | 3.1% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 2.1% | 3.3% | 4.5% | 1.0% |
| 重要でない | 1.8% | 0.0% | 2.2% | 0.0% | 0.0% | 1.6% | 0.0% | 1.4% | 1.6% | 0.7% | 0.7% |
| 合計 | 223 | 203 | 137 | 225 | 47 | 191 | 48 | 143 | 367 | 424 | 307 |

②担当授業の目的・目標を踏まえた授業内容(カリキュラム)とする

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(実) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 77.1% | 70.0% | 69.3% | 75.6% | 84.8% | 81.1% | 81.3% | 72.0% | 73.6% | 76.5% | 80.5% |
| ある程度重要である | 21.1% | 27.6% | 29.2% | 22.2% | 13.0% | 17.9% | 18.8% | 24.5% | 24.2% | 22.1% | 18.6% |
| どちらとも言えない | 0.9% | 2.0% | 0.7% | 1.8% | 2.2% | 1.1% | 0.0% | 2.1% | 1.6% | 1.2% | 0.7% |
| あまり重要でない | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 0.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.3% | 0.2% | 0.3% |
| 重要でない | 0.9% | 0.0% | 0.7% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.4% | 0.3% | 0.0% | 0.0% |
| 合計 | 223 | 203 | 137 | 225 | 46 | 190 | 48 | 143 | 368 | 425 | 307 |

③受講学生が豊富な知識を持っている

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(実) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 6.7% | 13.8% | 3.6% | 2.2% | 10.6% | 9.5% | 6.4% | 9.1% | 5.7% | 7.8% | 7.2% |
| ある程度重要である | 35.4% | 34.0% | 26.3% | 31.3% | 34.0% | 42.3% | 31.9% | 26.6% | 38.0% | 32.9% | 35.2% |
| どちらとも言えない | 29.6% | 33.5% | 38.7% | 33.5% | 36.2% | 24.9% | 44.7% | 30.1% | 32.0% | 32.5% | 36.2% |
| あまり重要でない | 23.8% | 12.8% | 28.5% | 27.7% | 17.0% | 20.6% | 17.0% | 27.3% | 21.0% | 22.5% | 18.6% |
| 重要でない | 4.5% | 5.9% | 2.9% | 5.4% | 2.1% | 2.6% | 0.0% | 7.0% | 3.3% | 4.3% | 2.9% |
| 合計 | 223 | 203 | 137 | 224 | 47 | 189 | 47 | 143 | 366 | 422 | 307 |

④受講学生が熱心に学習する

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 56.3% | 50.2% | 59.9% | 56.4% | 51.1% | 50.5% | 54.2% | 56.6% | 50.1% | 55.8% | 55.8% |
| ある程度重要である | 36.0% | 39.9% | 32.8% | 36.9% | 40.4% | 42.1% | 39.6% | 37.8% | 43.1% | 36.4% | 34.7% |
| どちらとも言えない | 5.4% | 8.4% | 6.6% | 4.9% | 8.5% | 6.8% | 6.3% | 4.2% | 5.4% | 6.6% | 8.8% |
| あまり重要でない | 1.4% | 1.5% | 0.7% | 1.8% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 0.7% | 1.4% | 0.9% | 0.6% |
| 重要でない | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.7% | 0.0% | 0.2% | 0.0% |
| 合計 | 222 | 203 | 137 | 225 | 47 | 190 | 48 | 143 | 367 | 423 | 308 |

⑤教員が学生の成長発達に関心を持つ

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 43.9% | 41.4% | 42.3% | 42.3% | 34.0% | 41.4% | 47.9% | 48.3% | 37.3% | 43.1% | 50.3% |
| ある程度重要である | 41.3% | 49.8% | 38.7% | 44.6% | 51.1% | 40.8% | 39.6% | 42.0% | 42.5% | 45.5% | 40.2% |
| どちらとも言えない | 11.7% | 5.4% | 13.1% | 10.8% | 14.9% | 13.1% | 10.4% | 7.7% | 15.5% | 8.3% | 7.5% |
| あまり重要でない | 2.2% | 3.0% | 4.4% | 2.3% | 0.0% | 3.1% | 2.1% | 1.4% | 3.5% | 2.4% | 2.0% |
| 重要でない | 0.9% | 0.5% | 1.5% | 0.0% | 0.0% | 1.6% | 0.0% | 0.7% | 1.1% | 0.7% | 0.0% |
| 合計 | 223 | 203 | 137 | 222 | 47 | 191 | 48 | 143 | 367 | 422 | 306 |

⑥教員が学生の質問や意見に関心を持つ

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 67.3% | 61.2% | 66.4% | 60.4% | 66.0% | 64.2% | 59.6% | 62.9% | 59.4% | 65.4% | 65.2% |
| ある程度重要である | 28.3% | 34.3% | 31.4% | 35.6% | 31.9% | 34.7% | 36.2% | 32.2% | 37.1% | 31.3% | 31.1% |
| どちらとも言えない | 2.7% | 4.0% | 2.2% | 3.1% | 2.1% | 0.5% | 2.1% | 3.5% | 3.0% | 2.4% | 3.3% |
| あまり重要でない | 0.9% | 0.5% | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 2.1% | 0.7% | 0.5% | 0.5% | 0.3% |
| 重要でない | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 0.7% | 0.0% | 0.5% | 0.0% |
| 合計 | 223 | 201 | 137 | 225 | 47 | 190 | 47 | 143 | 367 | 425 | 305 |

⑦教員が学生をほめるよう努力する

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 28.8% | 23.2% | 19.7% | 15.7% | 10.6% | 24.6% | 26.1% | 21.7% | 22.0% | 22.4% | 23.6% |
| ある程度重要である | 41.9% | 46.3% | 53.3% | 51.6% | 42.6% | 38.2% | 45.7% | 44.1% | 38.0% | 48.8% | 51.8% |
| どちらとも言えない | 22.1% | 24.6% | 19.0% | 23.8% | 36.2% | 28.3% | 21.7% | 23.8% | 29.6% | 22.2% | 21.3% |
| あまり重要でない | 6.3% | 4.9% | 6.6% | 7.2% | 10.6% | 7.9% | 6.5% | 8.4% | 9.0% | 5.7% | 3.0% |
| 重要でない | 0.9% | 1.0% | 1.5% | 1.8% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 2.1% | 1.4% | 0.9% | 0.3% |
| 合計 | 222 | 203 | 137 | 223 | 47 | 191 | 46 | 143 | 368 | 424 | 305 |

⑧教員が学生の授業参加を促す

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 40.8% | 33.0% | 33.1% | 25.1% | 19.1% | 26.3% | 36.2% | 32.9% | 28.8% | 32.4% | 35.4% |
| ある程度重要である | 43.5% | 44.3% | 45.6% | 43.0% | 44.7% | 44.7% | 51.1% | 37.8% | 43.6% | 45.4% | 45.5% |
| どちらとも言えない | 10.3% | 15.8% | 15.4% | 22.0% | 29.8% | 20.5% | 8.5% | 18.9% | 17.8% | 16.8% | 14.0% |
| あまり重要でない | 4.5% | 5.4% | 5.1% | 8.5% | 6.4% | 5.3% | 2.1% | 7.0% | 7.7% | 4.7% | 4.5% |
| 重要でない | 0.9% | 1.5% | 0.7% | 1.3% | 0.0% | 3.2% | 2.1% | 3.5% | 2.2% | 0.7% | 0.6% |
| 合計 | 223 | 203 | 136 | 223 | 47 | 190 | 47 | 143 | 365 | 423 | 308 |

⑨教員が優れた研究力を持っている

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 55.2% | 41.9% | 39.4% | 21.9% | 31.9% | 30.0% | 43.8% | 29.4% | 37.1% | 41.3% | 42.9% |
| ある程度重要である | 33.6% | 40.4% | 38.7% | 44.2% | 42.6% | 44.7% | 29.2% | 42.7% | 38.1% | 41.0% | 40.9% |
| どちらとも言えない | 8.1% | 12.3% | 18.2% | 22.3% | 12.8% | 13.7% | 20.8% | 16.8% | 15.5% | 10.8% | 13.6% |
| あまり重要でない | 1.8% | 3.9% | 3.6% | 9.4% | 12.8% | 8.4% | 4.2% | 7.7% | 6.8% | 5.7% | 2.3% |
| 重要でない | 1.3% | 1.5% | 0.0% | 2.2% | 0.0% | 3.2% | 2.1% | 3.5% | 2.5% | 1.2% | 0.3% |
| 合計 | 223 | 203 | 137 | 224 | 47 | 190 | 48 | 143 | 367 | 424 | 308 |

⑩教員が豊富な知識を持っている

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 66.8% | 59.6% | 53.7% | 49.8% | 53.2% | 66.3% | 58.3% | 57.0% | 57.7% | 63.3% | 61.0% |
| ある程度重要である | 30.0% | 36.5% | 42.6% | 42.2% | 42.6% | 30.5% | 35.4% | 37.3% | 39.1% | 33.2% | 33.4% |
| どちらとも言えない | 2.2% | 3.4% | 2.9% | 7.6% | 4.3% | 3.2% | 6.3% | 5.6% | 3.0% | 2.8% | 4.9% |
| あまり重要でない | 0.4% | 0.5% | 0.7% | 0.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.3% | 0.5% | 0.6% |
| 重要でない | 0.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.2% | 0.0% |
| 合計 | 223 | 203 | 136 | 225 | 47 | 190 | 48 | 142 | 366 | 425 | 308 |

⑪教員が授業の準備を周到に行う

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 重要である | 70.0% | 71.8% | 71.3% | 68.9% | 72.3% | 68.1% | 68.8% | 69.9% | 67.3% | 71.6% | 73.3% |
| ある程度重要である | 27.4% | 24.8% | 27.2% | 28.9% | 23.4% | 31.4% | 25.0% | 28.0% | 30.2% | 26.5% | 23.5% |
| どちらとも言えない | 2.7% | 2.5% | 1.5% | 0.9% | 4.3% | 0.5% | 6.3% | 2.1% | 2.2% | 1.2% | 2.6% |
| あまり重要でない | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 1.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.5% | 0.7% |
| 重要でない | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.3% | 0.2% | 0.0% |
| 合計 | 223 | 202 | 136 | 225 | 47 | 191 | 48 | 143 | 367 | 426 | 307 |

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | * |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|---|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 重要である | 71.7% | 77.2% | 76.6% | 74.2% | 78.7% | 68.6% | 81.3% | 72.7% | 70.1% | 76.1% | 80.5% | | |
| ある程度重要である | 25.6% | 21.3% | 22.6% | 23.6% | 19.1% | 30.4% | 16.7% | 25.9% | 28.0% | 22.5% | 17.9% | | |
| どちらとも言えない | 2.2% | 1.5% | 0.7% | 1.3% | 2.1% | 1.0% | 2.1% | 0.7% | 1.9% | 1.4% | 1.0% | | |
| あまり重要でない | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.7% | | |
| 重要でない | 0.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.7% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | | |
| 合計 | 223 | 202 | 137 | 225 | 47 | 191 | 48 | 143 | 368 | 426 | 307 | | |

⑬教員が効果的な講義方法を工夫する(例、ポートフォリオ等)

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | *** |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|-----|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 重要である | 49.3% | 56.2% | 57.4% | 55.2% | 47.8% | 58.9% | 64.6% | 51.7% | 54.0% | 56.0% | 60.9% | | |
| ある程度重要である | 38.0% | 36.5% | 31.6% | 38.6% | 45.7% | 33.2% | 31.3% | 35.7% | 36.2% | 36.4% | 35.2% | | |
| どちらとも言えない | 10.9% | 5.9% | 8.1% | 4.9% | 6.5% | 7.4% | 2.1% | 9.8% | 9.5% | 5.7% | 2.9% | | |
| あまり重要でない | 0.5% | 1.5% | 1.5% | 0.9% | 0.0% | 0.5% | 2.1% | 0.7% | 0.3% | 1.7% | 0.3% | | |
| 重要でない | 1.4% | 0.0% | 1.5% | 0.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.1% | 0.0% | 0.2% | 0.7% | | |
| 合計 | 221 | 203 | 136 | 223 | 46 | 190 | 48 | 143 | 367 | 420 | 307 | | |

⑭英語を使って授業をする

| | 専門分野 | | | | | | | ** | 年代(歳) | | | | ** |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|----|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 重要である | 2.3% | 0.0% | 0.0% | 0.9% | 2.1% | 1.6% | 0.0% | 1.4% | 0.5% | 1.2% | 1.6% | | |
| ある程度重要である | 9.6% | 7.9% | 8.0% | 10.7% | 10.6% | 10.5% | 16.7% | 9.1% | 11.2% | 7.3% | 11.1% | | |
| どちらとも言えない | 26.5% | 33.2% | 38.0% | 31.6% | 51.1% | 40.8% | 31.3% | 25.9% | 31.9% | 33.6% | 41.0% | | |
| あまり重要でない | 21.9% | 26.7% | 27.0% | 30.7% | 14.9% | 26.7% | 29.2% | 33.6% | 25.3% | 26.2% | 26.4% | | |
| 重要でない | 39.7% | 32.2% | 27.0% | 26.2% | 21.3% | 20.4% | 22.9% | 30.1% | 31.1% | 31.7% | 19.9% | | |
| 合計 | 219 | 202 | 137 | 225 | 47 | 191 | 48 | 143 | 367 | 423 | 307 | | |

⑮国際的に標準とされるテキストを使って授業をする

| | 専門分野 | | | | | | | *** | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 重要である | 4.1% | 1.0% | 1.5% | 2.7% | 6.4% | 7.9% | 2.1% | 4.2% | 3.0% | 4.0% | 3.3% | | |
| ある程度重要である | 11.8% | 17.8% | 14.2% | 17.0% | 19.1% | 29.5% | 10.4% | 14.7% | 20.0% | 14.7% | 18.6% | | |
| どちらとも言えない | 29.0% | 28.7% | 44.8% | 40.6% | 48.9% | 36.8% | 35.4% | 33.6% | 35.6% | 36.3% | 39.2% | | |
| あまり重要でない | 25.8% | 26.2% | 23.9% | 22.8% | 17.0% | 15.8% | 29.2% | 28.0% | 19.7% | 23.5% | 22.9% | | |
| 重要でない | 29.4% | 26.2% | 15.7% | 17.0% | 8.5% | 10.0% | 22.9% | 19.6% | 21.6% | 21.4% | 16.0% | | |
| 合計 | 221 | 202 | 134 | 224 | 47 | 190 | 48 | 143 | 365 | 421 | 306 | | |

⑯視覚機器を有効に活用する

| | 専門分野 | | | | | | | *** | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 重要である | 24.3% | 14.9% | 15.6% | 17.8% | 23.4% | 35.6% | 22.9% | 24.5% | 26.9% | 21.7% | 20.1% | | |
| ある程度重要である | 40.5% | 42.1% | 38.5% | 49.8% | 51.1% | 47.1% | 60.4% | 43.4% | 46.5% | 46.2% | 45.1% | | |
| どちらとも言えない | 21.2% | 23.8% | 28.1% | 21.3% | 21.3% | 12.6% | 14.6% | 22.4% | 17.7% | 18.2% | 23.0% | | |
| あまり重要でない | 5.9% | 11.4% | 10.4% | 6.7% | 4.3% | 4.2% | 2.1% | 4.9% | 5.7% | 8.7% | 5.9% | | |
| 重要でない | 8.1% | 7.9% | 7.4% | 4.4% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 4.9% | 3.3% | 5.2% | 5.9% | | |
| 合計 | 222 | 202 | 135 | 225 | 47 | 191 | 48 | 143 | 368 | 424 | 304 | | |

⑰授業のシラバスを学生に提示する

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | ** |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|----|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 重要である | 32.9% | 36.8% | 24.8% | 33.3% | 38.3% | 37.6% | 25.0% | 35.7% | 29.7% | 32.8% | 38.4% | | |
| ある程度重要である | 46.4% | 45.3% | 48.2% | 49.3% | 38.3% | 44.4% | 60.4% | 41.3% | 45.5% | 49.4% | 47.2% | | |
| どちらとも言えない | 14.0% | 9.0% | 18.2% | 11.6% | 19.1% | 13.2% | 10.4% | 13.3% | 17.7% | 10.9% | 11.7% | | |
| あまり重要でない | 4.1% | 6.0% | 8.0% | 4.4% | 4.3% | 4.2% | 4.2% | 8.4% | 4.6% | 5.7% | 2.3% | | |
| 重要でない | 2.7% | 3.0% | 0.7% | 1.3% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 1.4% | 2.5% | 1.4% | 0.3% | | |
| 合計 | 222 | 201 | 137 | 225 | 47 | 189 | 48 | 143 | 367 | 423 | 307 | | |

⑱少人数で教育を行う

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 重要である | 40.4% | 25.1% | 28.7% | 32.1% | 27.7% | 22.3% | 31.3% | 32.9% | 30.1% | 27.7% | 32.1% | | |
| ある程度重要である | 40.4% | 44.3% | 46.3% | 47.8% | 44.7% | 47.3% | 37.5% | 40.6% | 41.9% | 45.4% | 51.6% | | |
| どちらとも言えない | 14.3% | 21.2% | 19.9% | 15.2% | 17.0% | 23.4% | 27.1% | 19.6% | 21.9% | 19.6% | 13.3% | | |
| あまり重要でない | 3.6% | 7.4% | 3.7% | 3.6% | 8.5% | 5.3% | 4.2% | 4.9% | 4.4% | 5.9% | 2.3% | | |
| 重要でない | 1.3% | 2.0% | 1.5% | 1.3% | 2.1% | 1.6% | 0.0% | 2.1% | 1.6% | 1.4% | 0.6% | | |
| 合計 | 223 | 203 | 136 | 224 | 47 | 188 | 48 | 143 | 365 | 423 | 308 | | |

⑲授業でオフィスアワーを設ける

| | 専門分野 | | | | | | | ** | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 重要である | 14.5% | 12.5% | 9.6% | 9.2% | 10.9% | 5.5% | 6.4% | 11.2% | 8.9% | 10.2% | 10.5% | | |
| ある程度重要である | 32.7% | 42.5% | 30.1% | 44.2% | 26.1% | 26.5% | 38.3% | 36.4% | 28.6% | 38.5% | 40.7% | | |
| どちらとも言えない | 35.0% | 29.0% | 42.6% | 31.8% | 41.3% | 49.7% | 42.6% | 32.9% | 42.2% | 38.0% | 35.6% | | |
| あまり重要でない | 11.8% | 10.5% | 11.0% | 9.2% | 19.6% | 13.3% | 8.5% | 13.3% | 13.6% | 9.2% | 9.2% | | |
| 重要でない | 5.9% | 5.5% | 6.6% | 5.5% | 2.2% | 5.0% | 4.3% | 6.3% | 6.7% | 4.1% | 4.1% | | |
| 合計 | 220 | 200 | 136 | 217 | 46 | 181 | 47 | 143 | 360 | 413 | 295 | | |

⑩ティーチング・アシスタント(TA)を活用する

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | *** | 留学経験 ** | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|---------|----|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る | 無い |
| 重要である | 8.7% | 9.9% | 8.0% | 8.2% | 9.1% | 9.8% | 3.7% | 2.7% | 4.8% | 12.4% | 10.9% | 11.9% | 7.3% | |
| ある程度重要である | 33.2% | 35.6% | 33.0% | 32.0% | 33.9% | 31.1% | 36.3% | 17.3% | 33.0% | 32.3% | 37.9% | 31.2% | 34.1% | |
| どちらとも言えない | 34.0% | 31.6% | 33.0% | 35.5% | 33.1% | 35.4% | 34.8% | 41.3% | 38.5% | 31.0% | 30.2% | 29.4% | 36.1% | |
| あまり重要でない | 14.8% | 16.0% | 17.0% | 13.9% | 15.7% | 13.0% | 14.8% | 21.3% | 13.7% | 16.4% | 13.2% | 15.6% | 14.4% | |
| 重要でない | 9.2% | 6.9% | 9.1% | 10.3% | 8.3% | 10.6% | 10.4% | 17.3% | 10.0% | 7.9% | 7.8% | 11.9% | 8.1% | |
| 合計 | 1240 | 405 | 88 | 746 | 726 | 376 | 135 | 75 | 439 | 378 | 348 | 378 | 848 | |

(21)教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | ** | 留学経験 * | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|--------|----|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る | 無い |
| 重要である | 26.7% | 24.8% | 38.6% | 26.3% | 28.7% | 22.5% | 27.9% | 34.7% | 22.7% | 25.9% | 30.9% | 28.2% | 26.1% | |
| ある程度重要である | 51.8% | 54.3% | 47.7% | 51.0% | 49.6% | 56.6% | 50.0% | 40.0% | 53.5% | 53.3% | 50.6% | 46.2% | 54.5% | |
| どちらとも言えない | 16.1% | 15.0% | 9.1% | 17.5% | 15.4% | 16.7% | 18.4% | 16.0% | 18.8% | 15.8% | 13.1% | 20.3% | 14.2% | |
| あまり重要でない | 3.1% | 3.2% | 3.4% | 3.1% | 4.3% | 1.6% | 1.5% | 9.3% | 2.9% | 3.2% | 2.0% | 2.9% | 3.1% | |
| 重要でない | 2.2% | 2.7% | 1.1% | 2.1% | 2.1% | 2.6% | 2.2% | 0.0% | 2.0% | 1.8% | 3.4% | 2.4% | 2.2% | |
| 合計 | 1245 | 407 | 88 | 749 | 728 | 378 | 136 | 75 | 441 | 379 | 350 | 379 | 852 | |

(22)厳格な成績評価を行う(GPA制)

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | ** | 留学経験 * | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|--------|----|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る | 無い |
| 重要である | 18.5% | 18.7% | 15.9% | 18.7% | 20.9% | 16.4% | 11.8% | 17.1% | 15.5% | 18.3% | 22.9% | 22.2% | 16.8% | |
| ある程度重要である | 46.7% | 45.9% | 50.0% | 46.9% | 48.4% | 45.4% | 41.9% | 44.7% | 46.7% | 49.5% | 44.3% | 44.1% | 48.0% | |
| どちらとも言えない | 25.3% | 25.3% | 21.6% | 25.7% | 22.7% | 26.0% | 36.8% | 30.3% | 27.1% | 24.9% | 22.6% | 22.7% | 26.5% | |
| あまり重要でない | 6.4% | 7.4% | 5.7% | 6.0% | 5.8% | 8.0% | 5.9% | 6.6% | 8.0% | 5.6% | 5.4% | 6.3% | 6.5% | |
| 重要でない | 3.0% | 2.7% | 6.8% | 2.7% | 2.2% | 4.2% | 3.7% | 1.3% | 2.7% | 1.9% | 4.9% | 4.7% | 2.2% | |
| 合計 | 1243 | 407 | 88 | 747 | 727 | 377 | 136 | 76 | 439 | 378 | 350 | 379 | 850 | |

(23)受講学生の学習活動を組織的に支援させる(例、学習相談士の設置等)

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | ** | 留学経験 * | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|--------|----|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る | 無い |
| 重要である | 10.9% | 8.1% | 11.4% | 12.3% | 10.4% | 10.1% | 15.6% | 10.5% | 11.8% | 10.8% | 9.7% | 13.7% | 9.5% | |
| ある程度重要である | 42.7% | 36.4% | 38.6% | 46.7% | 46.0% | 38.5% | 35.6% | 35.5% | 48.0% | 41.0% | 39.4% | 37.2% | 44.9% | |
| どちらとも言えない | 33.8% | 41.0% | 38.6% | 29.1% | 32.5% | 36.1% | 34.8% | 30.3% | 28.6% | 37.6% | 36.9% | 33.8% | 34.1% | |
| あまり重要でない | 9.0% | 10.1% | 4.5% | 9.0% | 8.0% | 10.6% | 10.4% | 19.7% | 9.1% | 7.1% | 8.6% | 10.8% | 8.1% | |
| 重要でない | 3.7% | 4.4% | 6.8% | 2.9% | 3.2% | 4.8% | 3.7% | 3.9% | 2.5% | 3.4% | 5.4% | 4.5% | 3.4% | |
| 合計 | 1244 | 407 | 88 | 748 | 729 | 377 | 135 | 76 | 440 | 378 | 350 | 379 | 851 | |

(24)学生の学習施設・設備を充実させる(例、図書館やパソコンの整備等)

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | n.s. | 留学経験 n.s. | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-----------|----|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る | 無い |
| 重要である | 38.1% | 32.8% | 42.0% | 40.4% | 38.1% | 37.3% | 40.4% | 39.5% | 38.7% | 37.4% | 37.8% | 43.7% | 35.9% | |
| ある程度重要である | 46.0% | 46.3% | 43.2% | 46.1% | 47.7% | 44.7% | 40.4% | 43.4% | 48.6% | 43.4% | 45.8% | 40.0% | 48.2% | |
| どちらとも言えない | 12.2% | 16.3% | 10.2% | 10.2% | 10.7% | 14.3% | 14.0% | 11.8% | 9.5% | 15.8% | 11.7% | 13.2% | 11.8% | |
| あまり重要でない | 2.6% | 3.2% | 3.4% | 2.3% | 2.6% | 2.4% | 3.7% | 5.3% | 2.3% | 1.6% | 3.7% | 2.4% | 2.8% | |
| 重要でない | 1.1% | 1.5% | 1.1% | 0.9% | 1.0% | 1.3% | 1.5% | 0.0% | 0.9% | 1.8% | 0.9% | 0.8% | 1.3% | |
| 合計 | 1247 | 406 | 88 | 752 | 730 | 378 | 136 | 76 | 442 | 380 | 349 | 380 | 853 | |

(25)教育施設・設備を充実させる(例、視聴覚機器の整備等)

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | * | 留学経験 n.s. | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-----------|----|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る | 無い |
| 重要である | 35.1% | 29.5% | 36.4% | 38.0% | 33.4% | 38.3% | 35.3% | 42.7% | 37.9% | 33.2% | 32.0% | 38.4% | 33.9% | |
| ある程度重要である | 47.4% | 45.9% | 38.6% | 49.2% | 50.1% | 42.6% | 46.3% | 45.3% | 49.7% | 47.1% | 45.4% | 43.7% | 48.6% | |
| どちらとも言えない | 12.4% | 17.2% | 15.9% | 9.3% | 11.8% | 13.6% | 12.5% | 8.0% | 9.1% | 14.2% | 15.4% | 11.8% | 12.7% | |
| あまり重要でない | 3.6% | 5.9% | 5.7% | 2.1% | 3.6% | 3.5% | 4.4% | 2.7% | 1.8% | 4.2% | 5.4% | 4.7% | 3.2% | |
| 重要でない | 1.5% | 1.5% | 3.4% | 1.3% | 1.2% | 2.1% | 1.5% | 1.3% | 1.6% | 1.3% | 1.7% | 1.3% | 1.6% | |
| 合計 | 1246 | 407 | 88 | 750 | 731 | 376 | 136 | 75 | 441 | 380 | 350 | 380 | 852 | |

【問4】あなたの「担当授業」の改善や活性化は必要であると思われるか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | n.s. | 留学経験 n.s. | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-----------|----|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る | 無い |
| 必要である | 41.9% | 38.5% | 33.7% | 44.7% | 44.9% | 37.2% | 39.3% | 39.5% | 40.7% | 46.8% | 38.7% | 44.5% | 41.0% | |
| ある程度必要である | 50.3% | 53.1% | 61.6% | 47.4% | 47.7% | 53.7% | 54.8% | 53.9% | 50.9% | 46.6% | 52.7% | 47.4% | 51.4% | |
| どちらとも言えない | 5.1% | 6.2% | 3.5% | 4.8% | 4.9% | 5.3% | 5.2% | 1.3% | 5.7% | 4.5% | 6.0% | 4.7% | 5.4% | |
| あまり必要でない | 2.7% | 2.2% | 1.2% | 3.1% | 2.5% | 3.7% | 0.7% | 5.3% | 2.7% | 2.1% | 2.6% | 3.4% | 2.2% | |
| 合計 | 1243 | 405 | 86 | 751 | 729 | 376 | 135 | 76 | 440 | 378 | 349 | 380 | 849 | |

ゼミティーチング・アシスタント(TA)を活用する

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 重要である | 3.6% | 7.4% | 10.3% | 16.1% | 6.4% | 4.8% | 6.3% | 8.4% | 8.7% | 8.3% | 9.2% | |
| ある程度重要である | 18.2% | 32.2% | 33.1% | 43.8% | 38.3% | 35.4% | 31.3% | 30.8% | 31.9% | 33.6% | 35.7% | |
| どちらとも言えない | 40.5% | 30.7% | 31.6% | 25.4% | 34.0% | 39.2% | 33.3% | 31.5% | 33.5% | 35.3% | 34.1% | |
| あまり重要でない | 18.6% | 20.8% | 16.9% | 11.2% | 8.5% | 10.6% | 25.0% | 17.5% | 13.4% | 14.7% | 15.7% | |
| 重要でない | 19.1% | 8.9% | 8.1% | 3.6% | 12.8% | 10.1% | 4.2% | 11.9% | 12.5% | 8.1% | 5.2% | |
| 合計 | 220 | 202 | 136 | 224 | 47 | 189 | 48 | 143 | 367 | 422 | 305 | |

(21)教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | * |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|---|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 重要である | 23.4% | 24.9% | 27.0% | 32.0% | 31.8% | 26.2% | 20.8% | 30.8% | 25.9% | 26.6% | 26.1% | |
| ある程度重要である | 47.7% | 52.2% | 51.1% | 53.8% | 51.1% | 56.0% | 54.2% | 49.7% | 53.7% | 53.2% | 48.2% | |
| どちらとも言えない | 20.3% | 16.9% | 11.7% | 10.2% | 12.8% | 15.7% | 25.0% | 13.3% | 17.4% | 13.9% | 19.2% | |
| あまり重要でない | 3.2% | 3.0% | 7.3% | 2.7% | 4.3% | 1.6% | 0.0% | 1.4% | 1.9% | 3.3% | 5.2% | |
| 重要でない | 5.4% | 3.0% | 2.9% | 1.3% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 4.9% | 1.1% | 3.1% | 1.3% | |
| 合計 | 222 | 201 | 137 | 225 | 47 | 191 | 48 | 143 | 367 | 425 | 307 | |

(22)厳格な成績評価を行う(GPA制)

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | *** |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-----|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 重要である | 19.7% | 19.0% | 18.2% | 20.0% | 25.5% | 18.9% | 8.3% | 13.3% | 19.3% | 18.7% | 19.9% | |
| ある程度重要である | 43.5% | 46.0% | 51.8% | 45.8% | 36.2% | 48.9% | 54.2% | 41.3% | 41.3% | 48.9% | 52.9% | |
| どちらとも言えない | 24.2% | 24.0% | 18.2% | 26.2% | 38.3% | 25.3% | 33.3% | 35.0% | 27.7% | 22.9% | 21.2% | |
| あまり重要でない | 7.2% | 7.0% | 8.0% | 6.2% | 0.0% | 5.8% | 2.1% | 4.9% | 8.7% | 5.7% | 5.2% | |
| 重要でない | 5.4% | 4.0% | 3.6% | 1.8% | 0.0% | 1.1% | 2.1% | 5.6% | 3.0% | 3.8% | 0.7% | |
| 合計 | 223 | 200 | 137 | 225 | 47 | 190 | 48 | 143 | 368 | 423 | 306 | |

(23)受講学生の学習活動を組織的に支援させる(例、学習相談室の設置等)

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 重要である | 8.6% | 10.9% | 3.6% | 10.3% | 10.6% | 17.3% | 10.4% | 11.3% | 11.7% | 10.8% | 9.8% | |
| ある程度重要である | 36.9% | 45.8% | 43.1% | 43.8% | 42.6% | 42.4% | 52.1% | 37.3% | 37.5% | 43.9% | 49.5% | |
| どちらとも言えない | 32.9% | 32.3% | 38.0% | 35.7% | 36.2% | 30.9% | 29.2% | 37.3% | 36.4% | 33.6% | 29.5% | |
| あまり重要でない | 16.2% | 7.0% | 11.7% | 5.4% | 10.6% | 6.8% | 4.2% | 9.9% | 10.6% | 6.8% | 9.5% | |
| 重要でない | 5.4% | 4.0% | 3.6% | 4.9% | 0.0% | 2.6% | 4.2% | 4.2% | 3.8% | 4.9% | 1.6% | |
| 合計 | 222 | 201 | 137 | 224 | 47 | 191 | 48 | 142 | 368 | 426 | 305 | |

(24)学生の学習施設・設備を充実させる(例、図書館やe-リソースの整備等)

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | * |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|---|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 重要である | 47.7% | 40.4% | 28.5% | 28.4% | 36.2% | 35.6% | 37.5% | 41.3% | 35.9% | 37.4% | 40.6% | |
| ある程度重要である | 39.2% | 43.8% | 57.7% | 48.4% | 46.8% | 45.5% | 52.1% | 39.2% | 44.0% | 47.1% | 49.4% | |
| どちらとも言えない | 7.2% | 13.3% | 8.8% | 17.8% | 12.8% | 16.8% | 10.4% | 14.0% | 16.6% | 11.1% | 7.8% | |
| あまり重要でない | 4.1% | 2.0% | 3.6% | 3.1% | 4.3% | 1.6% | 0.0% | 2.8% | 2.7% | 3.3% | 1.6% | |
| 重要でない | 1.8% | 0.5% | 1.5% | 2.2% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 2.8% | 0.8% | 1.2% | 0.6% | |
| 合計 | 222 | 203 | 137 | 225 | 47 | 191 | 48 | 143 | 368 | 425 | 308 | |

(25)教育施設・設備を充実させる(例、視聴覚機器の整備等)

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 重要である | 44.8% | 26.6% | 25.0% | 26.8% | 38.3% | 36.6% | 35.4% | 34.3% | 35.1% | 36.0% | 34.5% | |
| ある程度重要である | 42.2% | 52.7% | 48.5% | 50.4% | 44.7% | 48.7% | 52.1% | 44.8% | 45.1% | 46.8% | 51.8% | |
| どちらとも言えない | 7.6% | 13.8% | 16.9% | 18.3% | 10.6% | 11.0% | 10.4% | 14.0% | 14.4% | 11.8% | 10.1% | |
| あまり重要でない | 2.7% | 4.9% | 8.1% | 2.7% | 4.3% | 3.1% | 2.1% | 3.5% | 3.8% | 4.0% | 2.9% | |
| 重要でない | 2.7% | 2.0% | 1.5% | 1.8% | 2.1% | 0.5% | 0.0% | 3.5% | 1.6% | 1.4% | 0.7% | |
| 合計 | 223 | 203 | 136 | 224 | 47 | 191 | 48 | 143 | 368 | 425 | 307 | |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 必要である | 42.8% | 44.3% | 42.3% | 43.8% | 34.0% | 40.3% | 48.9% | 38.7% | 36.6% | 42.2% | 49.0% | |
| ある程度必要である | 50.5% | 47.3% | 50.4% | 51.8% | 53.2% | 51.8% | 40.4% | 54.2% | 53.8% | 49.8% | 45.1% | |
| どちらとも言えない | 4.1% | 4.4% | 5.8% | 3.1% | 8.5% | 5.8% | 6.4% | 4.2% | 6.0% | 5.2% | 4.5% | |
| あまり必要でない | 2.7% | 3.8% | 1.5% | 1.3% | 4.3% | 2.1% | 4.3% | 2.8% | 3.6% | 2.8% | 1.3% | |
| 合計 | 222 | 203 | 137 | 224 | 47 | 191 | 47 | 142 | 366 | 424 | 308 | |

【問5】【問4】で「1. 必要である」や「2. ある程度必要である」を選択された方に質問します。授業の改善と活性化が必要であるとお考えになる理由は何でしょうか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

| 1. 学生に意欲を持って学習してもらうため | | | | | | | | | | | | | |
|--|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|----------|-------|
| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまる | 92.7% | 91.9% | 89.0% | 93.5% | 93.8% | 90.1% | 93.7% | 90.1% | 93.8% | 93.5% | 90.9% | 91.1% | 93.5% |
| 当てはまらない | 7.3% | 8.1% | 11.0% | 6.5% | 6.2% | 9.9% | 6.3% | 9.9% | 6.2% | 6.5% | 9.1% | 8.9% | 6.5% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |
| 2. 学生に豊富な知識を習得してもらうため | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまる | 54.7% | 52.4% | 51.2% | 56.3% | 54.5% | 55.6% | 54.3% | 42.3% | 55.7% | 55.5% | 55.3% | 57.6% | 53.6% |
| 当てはまらない | 45.3% | 47.6% | 48.8% | 43.7% | 45.5% | 44.4% | 45.7% | 57.7% | 44.3% | 44.5% | 44.7% | 42.4% | 46.4% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |
| 3. 大学教育のグローバルスタンダード化への対応のため(JABEEなど) | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまらない | 81.8% | 81.9% | 81.7% | 81.7% | 81.2% | 82.7% | 82.7% | 83.1% | 84.7% | 80.5% | 79.2% | 79.4% | 82.7% |
| 当てはまる | 18.2% | 18.1% | 18.3% | 18.3% | 18.8% | 17.3% | 17.3% | 16.9% | 15.3% | 19.5% | 20.8% | 20.6% | 17.3% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |
| 4. 学生(18歳)人口の減少に伴う大学生残りのため | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | ***設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 *** | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまらない | 83.1% | 90.8% | 89.0% | 78.2% | 82.7% | 83.9% | 83.5% | 81.7% | 80.9% | 83.0% | 86.2% | 82.2% | 83.3% |
| 当てはまる | 16.9% | 9.2% | 11.0% | 21.8% | 17.3% | 16.1% | 16.5% | 18.3% | 19.1% | 17.0% | 13.8% | 17.8% | 16.7% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |
| 5. 外国人留学生に入学してもらうため | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまらない | 98.6% | 98.4% | 100.0% | 98.6% | 98.8% | 98.0% | 99.2% | 95.8% | 98.8% | 98.9% | 98.7% | 97.7% | 99.0% |
| 当てはまる | 1.4% | 1.6% | 0.0% | 1.4% | 1.2% | 2.0% | 0.8% | 4.2% | 1.2% | 1.1% | 1.3% | 2.3% | 1.0% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |
| 6. 生涯教育機関としての大学の役割が増大(社会人学生の増加等)しているため | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 *** | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまらない | 84.3% | 85.7% | 91.4% | 82.7% | 82.5% | 86.3% | 88.2% | 71.8% | 84.9% | 85.6% | 84.9% | 78.2% | 87.1% |
| 当てはまる | 15.7% | 14.3% | 8.6% | 17.3% | 17.5% | 13.7% | 11.8% | 28.2% | 15.1% | 14.4% | 15.1% | 21.8% | 12.9% |
| 合計 | 1145 | 370 | 81 | 693 | 674 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 317 | 349 | 783 |
| 7. 社会や国民からの大学教育批判に応えるため | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまらない | 87.6% | 88.9% | 89.0% | 86.7% | 88.0% | 87.4% | 86.6% | 84.5% | 86.9% | 90.7% | 85.8% | 86.5% | 88.3% |
| 当てはまる | 12.4% | 11.1% | 11.0% | 13.3% | 12.0% | 12.6% | 13.4% | 15.5% | 13.1% | 9.3% | 14.2% | 13.5% | 11.7% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |
| 8. 社会の情報化・国際化に対応したカリキュラム編成の必要性のため | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | ***設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 *** | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまらない | 81.4% | 85.9% | 84.1% | 78.6% | 80.4% | 82.2% | 85.0% | 71.8% | 79.7% | 83.6% | 83.3% | 74.2% | 84.6% |
| 当てはまる | 18.6% | 14.1% | 15.9% | 21.4% | 19.6% | 17.8% | 15.0% | 28.2% | 20.3% | 16.4% | 16.7% | 25.8% | 15.4% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |
| 9. 高校教育との接続の問題(学力の多様化など)に対応するため | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | ***設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまらない | 77.1% | 82.7% | 82.9% | 73.4% | 75.6% | 78.9% | 81.9% | 62.0% | 78.2% | 75.1% | 81.4% | 80.2% | 75.8% |
| 当てはまる | 22.9% | 17.3% | 17.1% | 26.6% | 24.4% | 21.1% | 18.1% | 38.0% | 21.8% | 24.9% | 18.6% | 19.8% | 24.2% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |
| 10. 大学教員は大学教育の改善に努める責務があるため | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 ** | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまらない | 42.4% | 40.3% | 41.5% | 43.7% | 39.6% | 47.4% | 44.1% | 47.9% | 43.3% | 42.5% | 39.9% | 47.6% | 39.7% |
| 当てはまる | 57.6% | 59.7% | 58.5% | 56.3% | 60.4% | 52.6% | 55.9% | 52.1% | 56.7% | 57.5% | 60.1% | 52.4% | 60.3% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |
| 11. 教育活動が大学評価の対象となっているため | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまらない | 86.0% | 87.0% | 87.8% | 85.3% | 85.0% | 88.0% | 86.6% | 93.0% | 84.9% | 86.4% | 85.5% | 86.2% | 85.8% |
| 当てはまる | 14.0% | 13.0% | 12.2% | 14.7% | 15.0% | 12.0% | 13.4% | 7.0% | 15.1% | 13.6% | 14.5% | 13.8% | 14.2% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |
| 12. その他(具体的にご記入下さい。) | | | | | | | | | | | | | |
| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 学位経験 | |
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | | 有る |
| 当てはまらない | 95.0% | 96.2% | 92.7% | 94.7% | 95.3% | 95.3% | 92.9% | 94.4% | 94.1% | 95.8% | 95.6% | 94.0% | 95.4% |
| 当てはまる | 5.0% | 3.8% | 7.3% | 5.3% | 4.7% | 4.7% | 7.1% | 5.6% | 5.9% | 4.2% | 4.4% | 6.0% | 4.6% |
| 合計 | 1146 | 370 | 82 | 693 | 675 | 342 | 127 | 71 | 404 | 353 | 318 | 349 | 784 |

1. 全学レベルのセミナー・研修会に参加したことがある

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 27.5% | 27.6% | 26.5% | 26.2% | 23.9% | 34.6% | 29.8% | 35.7% | 28.3% | 26.8% | 25.8% | |
| 当てはまらない | 72.5% | 72.4% | 73.5% | 73.8% | 76.1% | 65.4% | 70.2% | 64.3% | 71.7% | 73.2% | 74.2% | |
| 合計 | 222 | 203 | 136 | 225 | 46 | 191 | 47 | 143 | 367 | 425 | 306 | |

2. 学部レベルのセミナー・研修会に参加したことがある

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 18.0% | 24.1% | 16.9% | 19.1% | 15.2% | 46.1% | 23.4% | 28.0% | 22.3% | 24.9% | 21.6% | |
| 当てはまらない | 82.0% | 75.9% | 83.1% | 80.9% | 84.8% | 53.9% | 76.6% | 72.0% | 77.7% | 75.1% | 78.4% | |
| 合計 | 222 | 203 | 136 | 225 | 46 | 191 | 47 | 143 | 367 | 425 | 306 | |

3. 学外のセミナー・研修会に参加したことがある

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 21.6% | 20.2% | 8.8% | 17.8% | 6.5% | 29.3% | 31.9% | 17.5% | 22.1% | 23.3% | 19.3% | |
| 当てはまらない | 78.4% | 79.8% | 91.2% | 82.2% | 93.5% | 70.7% | 68.1% | 82.5% | 77.9% | 76.7% | 80.7% | |
| 合計 | 222 | 203 | 136 | 225 | 46 | 191 | 47 | 143 | 367 | 425 | 306 | |

4. 学会等で討論したことがある

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 16.7% | 13.3% | 14.0% | 18.2% | 23.9% | 21.5% | 29.8% | 13.3% | 17.2% | 19.1% | 23.2% | |
| 当てはまらない | 83.3% | 86.7% | 86.0% | 81.8% | 76.1% | 78.5% | 70.2% | 86.7% | 82.8% | 80.9% | 76.9% | |
| 合計 | 222 | 203 | 136 | 225 | 46 | 191 | 47 | 143 | 367 | 425 | 306 | |

5. 研修ではないが上司から個人的に指導を受けたことがある

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | *** |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-----|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 1.4% | 3.0% | 5.1% | 3.1% | 2.2% | 5.8% | 4.3% | 11.9% | 4.6% | 1.4% | 1.6% | |
| 当てはまらない | 98.6% | 97.0% | 94.9% | 96.9% | 97.8% | 94.2% | 95.7% | 88.1% | 95.4% | 98.6% | 98.4% | |
| 合計 | 222 | 203 | 136 | 225 | 46 | 191 | 47 | 143 | 367 | 425 | 306 | |

6. 同僚間で討論したことがある

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 52.7% | 54.7% | 52.9% | 55.1% | 45.7% | 38.2% | 38.3% | 53.8% | 49.6% | 50.6% | 55.2% | |
| 当てはまらない | 47.3% | 45.3% | 47.1% | 44.9% | 54.3% | 61.8% | 61.7% | 46.2% | 50.4% | 49.4% | 44.8% | |
| 合計 | 222 | 203 | 136 | 225 | 46 | 191 | 47 | 143 | 367 | 425 | 306 | |

7. その他()

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 4.5% | 4.9% | 2.9% | 8.0% | 2.2% | 1.0% | 0.0% | 2.1% | 4.9% | 3.5% | 6.9% | |
| 当てはまらない | 95.5% | 95.1% | 97.1% | 92.0% | 97.8% | 99.0% | 100.0% | 97.9% | 95.1% | 96.5% | 93.1% | |
| 合計 | 222 | 203 | 136 | 225 | 46 | 191 | 47 | 143 | 367 | 425 | 306 | |

8. まったくない

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 16.2% | 17.2% | 23.5% | 17.8% | 23.9% | 11.5% | 14.9% | 16.8% | 16.1% | 18.4% | 14.7% | |
| 当てはまらない | 83.8% | 82.8% | 76.5% | 82.2% | 76.1% | 88.5% | 85.1% | 83.2% | 83.9% | 81.6% | 85.3% | |
| 合計 | 222 | 203 | 136 | 225 | 46 | 191 | 47 | 143 | 367 | 425 | 306 | |

【問7】【問6】の各種のFD活動への参加によって、あなたの「担当授業」は改善されましたか。次の選択肢から最も当てはまるものをお選び下さい。

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 改善された | 4.0% | 9.1% | 7.4% | 8.3% | 0.0% | 5.6% | 10.3% | 6.0% | 6.4% | 7.2% | 6.2% | |
| ある程度改善された | 37.3% | 44.5% | 46.8% | 38.7% | 33.3% | 40.7% | 41.0% | 40.5% | 37.8% | 42.0% | 44.4% | |
| どちらともいえない | 52.0% | 40.2% | 40.4% | 45.9% | 57.6% | 49.4% | 35.9% | 43.1% | 50.2% | 45.3% | 44.0% | |
| あまり改善されなかった | 5.1% | 3.7% | 2.1% | 6.6% | 6.1% | 4.3% | 7.7% | 8.6% | 4.3% | 3.6% | 4.1% | |
| 改善されなかった | 1.7% | 2.4% | 3.2% | 0.6% | 3.0% | 0.0% | 5.1% | 1.7% | 1.3% | 1.8% | 1.2% | |
| 合計 | 177 | 164 | 94 | 181 | 33 | 162 | 39 | 116 | 299 | 333 | 243 | |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 必要である | 13.6% | 15.9% | 9.0% | 14.8% | 8.7% | 22.9% | 14.6% | 14.2% | 12.7% | 15.3% | 17.8% | |
| ある程度必要である | 43.2% | 51.7% | 41.4% | 49.8% | 47.8% | 56.9% | 60.4% | 50.4% | 48.8% | 51.6% | 49.0% | |
| どちらとも書えない | 24.5% | 20.9% | 27.8% | 21.1% | 21.7% | 11.2% | 10.4% | 20.6% | 22.0% | 19.1% | 19.4% | |
| あまり必要でない | 11.8% | 7.0% | 15.8% | 11.7% | 15.2% | 6.8% | 12.5% | 9.2% | 11.6% | 10.7% | 9.5% | |
| 必要でない | 6.8% | 4.5% | 6.0% | 2.7% | 6.5% | 2.1% | 2.1% | 5.7% | 5.0% | 3.3% | 4.3% | |
| 合計 | 220 | 201 | 133 | 223 | 46 | 188 | 48 | 141 | 363 | 419 | 304 | |

1. 講義方法

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 54.6% | 48.3% | 49.0% | 46.3% | 50.0% | 43.3% | 55.8% | 43.2% | 46.6% | 52.0% | 53.0% | | |
| 当てはまる | 45.4% | 51.7% | 51.0% | 53.7% | 50.0% | 56.7% | 44.2% | 56.8% | 53.4% | 48.0% | 47.0% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

2. 学生の評価の仕方

| | 専門分野 | | | | | | | * | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 75.7% | 77.3% | 68.6% | 68.9% | 76.3% | 65.5% | 86.0% | 71.2% | 68.9% | 74.4% | 71.9% | | |
| 当てはまる | 24.3% | 22.7% | 31.4% | 31.1% | 23.7% | 34.5% | 14.0% | 28.8% | 31.1% | 25.6% | 28.1% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

3. 学生の指導方法

| | 専門分野 | | | | | | | ** | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 75.7% | 64.0% | 64.7% | 60.0% | 65.8% | 57.3% | 76.7% | 59.2% | 65.2% | 66.2% | 66.7% | | |
| 当てはまる | 24.3% | 36.0% | 35.3% | 40.0% | 34.2% | 42.7% | 23.3% | 40.8% | 34.8% | 33.8% | 33.3% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

4. カリキュラムの組み方

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 83.8% | 83.7% | 79.4% | 81.1% | 94.7% | 76.6% | 83.7% | 78.4% | 80.3% | 82.0% | 85.1% | | |
| 当てはまる | 16.2% | 16.3% | 20.6% | 18.9% | 5.3% | 23.4% | 16.3% | 21.6% | 19.7% | 18.0% | 14.9% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

5. テスト問題の作成

| | 専門分野 | | | | | | | *** | 年代(歳) | | | | ** |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|----|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 88.6% | 85.5% | 85.3% | 81.6% | 86.8% | 71.3% | 83.7% | 79.2% | 81.6% | 83.1% | 90.8% | | |
| 当てはまる | 11.4% | 14.5% | 14.7% | 18.4% | 13.2% | 28.7% | 7.0% | 20.8% | 18.4% | 16.9% | 9.2% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

6. 討論の技法

| | 専門分野 | | | | | | | * | 年代(歳) | | | | * |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|---|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 74.1% | 65.7% | 79.4% | 78.9% | 73.7% | 76.6% | 83.7% | 70.4% | 71.1% | 71.4% | 81.5% | | |
| 当てはまる | 25.9% | 34.3% | 20.6% | 21.1% | 26.3% | 23.4% | 16.3% | 29.6% | 28.9% | 28.6% | 18.5% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

7. 教員と学生との関係作り

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | * |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|---|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 81.1% | 82.6% | 73.5% | 72.1% | 76.3% | 73.1% | 83.3% | 78.4% | 77.7% | 81.5% | 71.9% | | |
| 当てはまる | 18.9% | 17.4% | 26.5% | 27.9% | 23.7% | 26.9% | 16.3% | 21.6% | 22.3% | 18.5% | 28.1% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

8. 卒業論文の指導方法

| | 専門分野 | | | | | | | *** | 年代(歳) | | | | * |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|---|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 83.2% | 79.1% | 93.1% | 85.8% | 92.1% | 94.2% | 67.4% | 77.6% | 84.3% | 87.7% | 87.6% | | |
| 当てはまる | 16.8% | 20.9% | 6.9% | 14.2% | 7.9% | 5.8% | 32.6% | 22.4% | 15.7% | 12.3% | 12.4% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

9. 研究活動のあり方

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 82.2% | 84.3% | 89.2% | 88.9% | 84.2% | 87.1% | 74.4% | 76.0% | 84.5% | 85.3% | 85.1% | | |
| 当てはまる | 17.8% | 15.7% | 10.8% | 11.1% | 15.8% | 12.9% | 25.6% | 24.0% | 15.5% | 14.7% | 14.9% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

10. 管理・運営のあり方

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 92.4% | 95.9% | 99.0% | 95.8% | 97.4% | 92.4% | 97.7% | 92.0% | 93.8% | 93.5% | 96.8% | | |
| 当てはまる | 7.6% | 4.1% | 1.0% | 4.2% | 2.6% | 7.6% | 2.3% | 8.0% | 6.2% | 6.5% | 3.2% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

11. 社会サービスのあり方

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 89.7% | 92.4% | 96.1% | 95.8% | 86.8% | 93.6% | 88.4% | 91.2% | 92.1% | 90.7% | 92.8% | | |
| 当てはまる | 10.3% | 7.6% | 3.9% | 4.2% | 13.2% | 6.4% | 11.6% | 8.8% | 7.9% | 9.3% | 7.2% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

12. 大学・高等教育論

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--|------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | |
| 当てはまらない | 82.7% | 83.7% | 83.3% | 84.7% | 94.7% | 85.4% | 88.4% | 83.2% | 83.9% | 83.9% | 83.5% | | |
| 当てはまる | 17.3% | 16.3% | 16.7% | 15.3% | 5.3% | 14.6% | 11.6% | 16.8% | 16.1% | 16.1% | 16.5% | | |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 | | |

13. その他()

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 * | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|--------|-------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | 有る | 無い |
| 当てはまらない | 93.9% | 93.8% | 92.9% | 94.1% | 93.1% | 95.6% | 93.3% | 96.7% | 94.8% | 93.9% | 92.1% | 91.5% | 95.0% |
| 当てはまる | 6.1% | 6.2% | 7.1% | 5.9% | 6.9% | 4.4% | 6.7% | 3.3% | 5.2% | 6.1% | 7.9% | 8.5% | 5.0% |
| 合計 | 1049 | 337 | 70 | 641 | 610 | 318 | 119 | 61 | 386 | 310 | 292 | 316 | 720 |

【問11】あなたの大学・学部内には、講義法についての相談や、授業改善のための資料・情報の提供をおこなうサービス窓口がありますか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | 有る | n.s. |
| 既にある | 12.0% | 16.3% | 1.1% | 11.0% | 12.0% | 11.7% | 13.3% | 5.3% | 13.4% | 11.9% | 11.7% | 12.4% | 12.0% |
| 現在はない | 63.4% | 41.6% | 84.1% | 72.7% | 68.3% | 58.1% | 51.1% | 73.7% | 67.3% | 63.5% | 56.2% | 59.6% | 65.2% |
| わからない | 24.6% | 42.1% | 14.8% | 16.3% | 19.8% | 30.2% | 35.6% | 21.1% | 19.3% | 24.6% | 32.1% | 28.0% | 22.8% |
| 合計 | 1243 | 406 | 88 | 748 | 728 | 377 | 135 | 76 | 440 | 378 | 349 | 379 | 850 |

【問12】あなたは、講義法についての相談や、授業改善のための資料・情報の提供をおこなうサービス窓口が大学・学部内にあつたら良いと思われませんか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | 有る | n.s. |
| あつた方がよい | 29.7% | 26.6% | 23.9% | 32.0% | 32.3% | 23.5% | 32.6% | 33.3% | 31.7% | 28.0% | 28.0% | 31.3% | 29.1% |
| どちらかといえばあつた方がよい | 42.4% | 41.9% | 48.9% | 42.1% | 39.1% | 47.4% | 46.7% | 37.3% | 42.4% | 41.0% | 45.1% | 39.0% | 44.0% |
| あまり必要ない | 21.8% | 26.6% | 19.3% | 19.5% | 22.4% | 23.0% | 14.8% | 24.0% | 18.6% | 25.9% | 20.9% | 22.8% | 21.2% |
| 必要ない | 6.1% | 4.9% | 8.0% | 6.4% | 6.2% | 6.1% | 5.9% | 5.3% | 7.3% | 5.0% | 6.0% | 6.9% | 5.7% |
| 合計 | 1244 | 406 | 88 | 749 | 728 | 378 | 135 | 75 | 441 | 378 | 350 | 377 | 853 |

【問13】優れた授業や教育改善の試みに対して、何らかのかたちで報われるのがよい、という考えがありますが、あなたはどのようにお考えでしょうか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | 有る | n.s. |
| 報われるのがよい | 34.1% | 34.4% | 36.8% | 33.6% | 30.7% | 35.6% | 48.1% | 28.9% | 36.2% | 32.9% | 33.8% | 34.3% | 34.1% |
| ある程度報われるのがよい | 31.1% | 32.4% | 23.0% | 31.4% | 31.5% | 31.0% | 28.9% | 27.6% | 31.0% | 27.5% | 35.8% | 30.8% | 31.4% |
| どちらとも言えない | 23.9% | 24.3% | 29.9% | 22.9% | 25.5% | 23.3% | 17.0% | 28.9% | 23.7% | 25.4% | 21.5% | 22.8% | 24.2% |
| あまり報われていない | 3.3% | 2.2% | 3.4% | 3.9% | 3.3% | 3.2% | 3.7% | 7.9% | 2.1% | 4.5% | 2.6% | 2.4% | 3.8% |
| 報われなくてよい | 7.6% | 6.7% | 6.9% | 8.2% | 9.0% | 7.0% | 2.2% | 6.6% | 7.1% | 9.6% | 6.3% | 9.7% | 6.6% |
| 合計 | 1238 | 404 | 87 | 746 | 726 | 374 | 135 | 76 | 439 | 374 | 349 | 373 | 851 |

【問14】【問13】で「1. 報われるのがよい」か「2. ある程度報われるのがよい」を選択された方に質問します。どのような方法で報われるのがよいと思われませんか。次の選択肢の中から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 教育費のような賞を与える

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | 有る | n.s. |
| 当てはまらない | 74.9% | 75.4% | 68.6% | 75.4% | 73.5% | 78.2% | 73.8% | 72.1% | 76.1% | 73.6% | 75.3% | 71.7% | 76.2% |
| 当てはまる | 25.1% | 24.6% | 31.4% | 24.6% | 26.5% | 21.8% | 26.2% | 27.9% | 23.9% | 26.4% | 24.7% | 28.3% | 23.8% |
| 合計 | 802 | 268 | 51 | 483 | 449 | 248 | 103 | 43 | 289 | 227 | 243 | 244 | 551 |

2. 昇進時に重視する

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | 有る | n.s. |
| 当てはまらない | 61.0% | 56.0% | 64.7% | 63.4% | 67.5% | 54.4% | 47.6% | 72.1% | 57.1% | 65.6% | 59.3% | 64.3% | 59.2% |
| 当てはまる | 39.0% | 44.0% | 35.3% | 36.6% | 32.5% | 45.6% | 52.4% | 27.9% | 42.9% | 34.4% | 40.7% | 35.7% | 40.8% |
| 合計 | 802 | 268 | 51 | 483 | 449 | 248 | 103 | 43 | 289 | 227 | 243 | 244 | 551 |

3. 給料やボーナスを上げる

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | 有る | n.s. |
| 当てはまらない | 66.7% | 64.6% | 54.9% | 69.2% | 70.8% | 64.9% | 52.4% | 76.7% | 65.1% | 67.4% | 66.3% | 64.8% | 67.3% |
| 当てはまる | 33.3% | 35.4% | 45.1% | 30.8% | 29.2% | 35.1% | 47.6% | 23.3% | 34.9% | 32.6% | 33.7% | 35.2% | 32.7% |
| 合計 | 802 | 268 | 51 | 483 | 449 | 248 | 103 | 43 | 289 | 227 | 243 | 244 | 551 |

4. 教育の準備や研究のための特別休暇を与える

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | 有る | ** |
| 当てはまらない | 59.6% | 60.4% | 52.9% | 59.8% | 59.9% | 56.9% | 65.0% | 48.8% | 61.6% | 56.8% | 61.7% | 52.5% | 63.0% |
| 当てはまる | 40.4% | 39.6% | 47.1% | 40.2% | 40.1% | 43.1% | 35.0% | 51.2% | 38.4% | 43.2% | 38.3% | 47.5% | 37.0% |
| 合計 | 802 | 268 | 51 | 483 | 449 | 248 | 103 | 43 | 289 | 227 | 243 | 244 | 551 |

5. 研究費や研究旅費を給付する

| | 単純集計 | 設置者 | | | 職階 | | | 授業担当 | | | | 留学経験 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|--------|--------|-------|-------|
| | | 国立 | 公立 | 私立 | 教授 | 助教授 | 講師 | 授業教育のみ | 専門教育を含む | 修士課程まで | 博士課程まで | 有る | n.s. |
| 当てはまらない | 58.2% | 57.5% | 56.9% | 58.8% | 57.5% | 59.7% | 57.3% | 72.1% | 54.0% | 58.6% | 60.5% | 57.0% | 59.0% |
| 当てはまる | 41.8% | 42.5% | 43.1% | 41.2% | 42.5% | 40.3% | 42.7% | 27.9% | 46.0% | 41.4% | 39.5% | 43.0% | 41.0% |
| 合計 | 802 | 268 | 51 | 483 | 449 | 248 | 103 | 43 | 289 | 227 | 243 | 244 | 551 |

13. その他()

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまらない | 93.0% | 93.0% | 97.1% | 91.1% | 100.0% | 98.2% | 100.0% | 88.8% | 96.4% | 94.6% | 92.4% |
| 当てはまる | 7.0% | 7.0% | 2.9% | 8.9% | 0.0% | 1.8% | 0.0% | 11.2% | 3.6% | 5.4% | 7.6% |
| 合計 | 185 | 172 | 102 | 190 | 38 | 171 | 43 | 125 | 305 | 367 | 249 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 既にある | 7.6% | 15.3% | 7.4% | 13.9% | 6.4% | 15.2% | 16.7% | 16.8% | 10.1% | 11.1% | 13.4% |
| 現在はない | 68.2% | 65.3% | 68.4% | 61.9% | 70.2% | 53.4% | 52.1% | 53.1% | 59.9% | 64.2% | 71.6% |
| わからない | 24.2% | 19.3% | 24.3% | 24.2% | 23.4% | 31.4% | 31.3% | 30.1% | 30.0% | 24.8% | 15.0% |
| 合計 | 223 | 202 | 136 | 223 | 47 | 191 | 48 | 143 | 367 | 424 | 306 |

【同12】あなたは、講義法についての相談や、授業改善のための資料・情報の提供をおこなうサービス窓口が大学・学部内にあつたら良いと思われませんか。最も当

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| あつた方がよい | 21.6% | 36.8% | 18.2% | 29.8% | 29.8% | 37.8% | 27.1% | 29.4% | 24.0% | 28.8% | 37.8% |
| どちらかといえばあつた方がよい | 45.0% | 35.8% | 51.1% | 43.6% | 38.3% | 45.3% | 37.5% | 45.5% | 48.5% | 41.0% | 35.5% |
| あまり必要ない | 26.6% | 19.9% | 20.4% | 22.2% | 27.7% | 13.7% | 33.3% | 16.1% | 21.3% | 25.2% | 20.5% |
| 必要ない | 6.8% | 7.5% | 10.2% | 4.4% | 4.3% | 3.2% | 2.1% | 9.1% | 6.3% | 5.0% | 6.2% |
| 合計 | 222 | 201 | 137 | 225 | 47 | 190 | 48 | 143 | 367 | 424 | 307 |

【同13】優れた授業や教育改善の試みに対して、何らかのかたちで報われるのがよい、という考えがありますが、あなたはどうにお考えでしょうか。最も当

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 報われるのがよい | 23.5% | 37.3% | 41.5% | 35.9% | 34.0% | 41.1% | 27.1% | 44.7% | 36.3% | 33.7% | 27.0% |
| ある程度報われるのがよい | 31.7% | 33.8% | 25.9% | 34.1% | 17.0% | 35.8% | 18.8% | 27.0% | 35.8% | 30.2% | 28.6% |
| どちらとも言えない | 29.4% | 17.9% | 20.0% | 18.8% | 40.4% | 19.5% | 35.4% | 19.1% | 19.7% | 25.9% | 28.6% |
| あまり報われない | 4.5% | 3.0% | 4.4% | 4.9% | 0.0% | 1.1% | 6.3% | 3.5% | 2.6% | 2.6% | 5.3% |
| 報われない | 10.9% | 8.0% | 8.1% | 6.3% | 8.5% | 2.6% | 12.5% | 5.7% | 5.7% | 7.5% | 10.5% |
| 合計 | 221 | 201 | 135 | 223 | 47 | 190 | 48 | 141 | 366 | 424 | 304 |

1. 教育費のような費を与える

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまらない | 82.4% | 73.4% | 69.2% | 71.6% | 87.0% | 74.8% | 81.8% | 72.7% | 74.7% | 74.5% | 76.9% |
| 当てはまる | 17.6% | 26.6% | 30.8% | 28.4% | 13.0% | 25.2% | 18.2% | 27.3% | 25.3% | 25.5% | 23.1% |
| 合計 | 119 | 143 | 91 | 155 | 23 | 147 | 22 | 99 | 265 | 267 | 169 |

2. 昇進時に重視する

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまらない | 66.4% | 64.3% | 52.7% | 58.1% | 60.9% | 55.8% | 77.3% | 46.5% | 57.0% | 66.7% | 66.3% |
| 当てはまる | 33.6% | 35.7% | 47.3% | 41.9% | 39.1% | 44.2% | 22.7% | 53.5% | 43.0% | 33.3% | 33.7% |
| 合計 | 119 | 143 | 91 | 155 | 23 | 147 | 22 | 99 | 265 | 267 | 169 |

3. 給料やボーナスを上げる

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまらない | 74.8% | 65.7% | 64.8% | 62.6% | 73.9% | 61.2% | 81.8% | 49.5% | 63.0% | 69.7% | 78.1% |
| 当てはまる | 25.2% | 34.3% | 35.2% | 37.4% | 26.1% | 38.8% | 18.2% | 50.5% | 37.0% | 30.3% | 21.9% |
| 合計 | 119 | 143 | 91 | 155 | 23 | 147 | 22 | 99 | 265 | 267 | 169 |

4. 教育の準備や研究のための特別休暇を与える

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまらない | 46.2% | 46.2% | 73.6% | 69.7% | 43.5% | 68.0% | 63.6% | 55.6% | 60.0% | 55.4% | 68.6% |
| 当てはまる | 53.8% | 53.8% | 26.4% | 30.3% | 56.5% | 32.0% | 36.4% | 44.4% | 40.0% | 44.6% | 31.4% |
| 合計 | 119 | 143 | 91 | 155 | 23 | 147 | 22 | 99 | 265 | 267 | 169 |

5. 研究費や研究旅費を給付する

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまらない | 58.0% | 55.2% | 74.7% | 65.2% | 52.2% | 53.1% | 45.5% | 52.5% | 57.0% | 61.8% | 58.0% |
| 当てはまる | 42.0% | 44.8% | 25.3% | 34.8% | 47.8% | 46.9% | 54.5% | 47.5% | 43.0% | 38.2% | 42.0% |
| 合計 | 119 | 143 | 91 | 155 | 23 | 147 | 22 | 99 | 265 | 267 | 169 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|----------------------------------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|--------|-----|-----|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 1. 学士課程の共通・ 教養教育(専門基礎は 除く) | 2.1 | 0.9 | 1.4 | 0.7 | 0.9 | 0.9 | 1.7 | 1.2 | 1.4 | 1.2 | 1.1 |
| 2. 学士課程の専門教 育(専門基礎を含む) | 2.7 | 3.3 | 2.3 | 3.3 | 2.9 | 3.2 | 3.2 | 3.3 | 3.1 | 2.9 | 2.9 |
| 3. 大学院修士課程 | 0.6 | 0.8 | 0.8 | 0.9 | 0.8 | 0.4 | 1.4 | 0.5 | 0.8 | 0.9 | 0.8 |
| 4. 大学院博士課程 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.4 | 0.4 | 0.1 | 0.1 | 0.3 | 0.4 | 0.3 |
| 計 | 5.8 | 5.3 | 4.8 | 5.1 | 5.1 | 4.9 | 6.4 | 5.1 | 5.6 | 5.4 | 5.2 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|---|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|--------|------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 計 | 73.9 | 170.5 | 79.0 | 92.3 | 120.2 | 115.5 | 138.5 | 91.5 | 98.1 | 114.9 | 121.4 | |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 教養教育科目 | 30.2% | 7.7% | 27.4% | 2.3% | 15.9% | 2.2% | 10.9% | 10.1% | 12.5% | 13.2% | 16.1% | |
| 専門教育科目 | 68.8% | 92.3% | 72.6% | 95.8% | 84.1% | 97.3% | 82.6% | 88.4% | 86.7% | 85.3% | 83.6% | |
| その他 | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 1.8% | 0.0% | 0.5% | 6.5% | 1.4% | 0.8% | 1.5% | 0.3% | |
| 合計 | 215 | 195 | 135 | 218 | 44 | 186 | 46 | 138 | 360 | 408 | 298 | |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 必修科目 | 33.0% | 18.2% | 40.7% | 43.3% | 40.9% | 93.1% | 34.1% | 42.8% | 43.0% | 45.6% | 46.7% | |
| 選択科目 | 61.3% | 78.3% | 53.3% | 53.0% | 56.8% | 6.3% | 58.5% | 52.9% | 51.1% | 50.7% | 49.8% | |
| その他 | 5.7% | 3.5% | 5.9% | 3.7% | 2.3% | 0.5% | 7.3% | 4.3% | 5.9% | 3.7% | 3.4% | |
| 合計 | 212 | 198 | 135 | 217 | 44 | 189 | 41 | 138 | 356 | 410 | 291 | |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| うまくいった | 14.8% | 9.3% | 9.6% | 7.8% | 8.5% | 11.8% | 11.1% | 10.2% | 11.8% | 10.9% | 12.8% | |
| ある程度うまくいった | 68.1% | 70.6% | 71.3% | 63.9% | 74.5% | 70.6% | 73.3% | 67.2% | 72.2% | 71.4% | 64.6% | |
| どちらともいえない | 13.9% | 18.6% | 14.7% | 23.7% | 14.9% | 16.6% | 13.3% | 18.2% | 14.0% | 15.0% | 19.5% | |
| あまりうまくいかなかった | 2.8% | 1.0% | 4.4% | 3.7% | 2.1% | 1.1% | 2.2% | 4.4% | 1.7% | 2.2% | 2.7% | |
| うまくいかなかった | 0.5% | 0.5% | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.3% | 0.5% | 0.3% | |
| 合計 | 216 | 194 | 136 | 219 | 47 | 187 | 45 | 137 | 363 | 412 | 297 | |

①「学部・学科」の教育目的をふまえて授業を行う

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 38.1% | 30.3% | 31.6% | 39.9% | 42.6% | 53.2% | 45.7% | 38.0% | 39.1% | 42.5% | 41.7% | |
| ある程度当てはまる | 47.0% | 51.5% | 52.9% | 45.4% | 44.7% | 36.6% | 47.8% | 48.2% | 47.1% | 41.5% | 46.7% | |
| どちらともいえない | 9.3% | 12.6% | 8.8% | 11.8% | 10.6% | 8.1% | 6.5% | 8.8% | 10.2% | 10.6% | 9.3% | |
| あまり当てはまらない | 3.7% | 4.5% | 2.9% | 2.3% | 2.1% | 0.5% | 0.0% | 2.2% | 2.2% | 3.6% | 1.3% | |
| 当てはまらない | 1.9% | 1.0% | 3.7% | 0.5% | 0.0% | 1.6% | 0.0% | 1.5% | 1.4% | 1.7% | 1.0% | |
| 合計 | 215 | 198 | 136 | 218 | 47 | 186 | 46 | 137 | 361 | 414 | 300 | |

②担当授業の目的・目標を踏まえた授業内容(カリキュラム)とする

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 55.3% | 48.2% | 51.5% | 56.0% | 57.4% | 61.1% | 64.4% | 56.1% | 54.6% | 55.0% | 59.6% | |
| ある程度当てはまる | 39.1% | 48.2% | 45.6% | 39.9% | 40.4% | 35.7% | 35.6% | 39.6% | 40.4% | 40.9% | 38.4% | |
| どちらともいえない | 2.8% | 3.0% | 2.9% | 3.2% | 2.1% | 2.7% | 0.0% | 2.2% | 3.9% | 2.7% | 2.0% | |
| あまり当てはまらない | 1.4% | 0.5% | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.7% | 0.8% | 1.0% | 0.0% | |
| 当てはまらない | 1.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 1.4% | 0.3% | 0.5% | 0.0% | |
| 合計 | 215 | 197 | 136 | 218 | 47 | 185 | 45 | 139 | 361 | 413 | 297 | |

③受講生が豊富な知識を持っている

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | | n.s. |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師系学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 7.4% | 4.1% | 2.2% | 1.9% | 2.1% | 4.9% | 2.2% | 5.8% | 5.3% | 3.9% | 3.0% | |
| ある程度当てはまる | 19.0% | 23.4% | 16.3% | 16.2% | 25.5% | 26.6% | 34.8% | 22.5% | 24.4% | 20.6% | 16.2% | |
| どちらともいえない | 36.6% | 40.6% | 34.1% | 39.8% | 44.7% | 39.7% | 34.8% | 34.1% | 39.4% | 40.5% | 43.6% | |
| あまり当てはまらない | 24.5% | 20.8% | 34.8% | 32.9% | 14.9% | 23.4% | 26.1% | 28.3% | 21.7% | 25.5% | 28.7% | |
| 当てはまらない | 12.5% | 11.2% | 12.6% | 9.3% | 12.8% | 5.4% | 2.2% | 9.4% | 9.2% | 9.5% | 8.4% | |
| 合計 | 216 | 197 | 135 | 216 | 47 | 184 | 46 | 138 | 360 | 412 | 296 | |

④受講学生が熱心に学習する

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 29.5% | 20.4% | 29.4% | 24.3% | 17.0% | 26.5% | 39.1% | 26.5% | 24.9% | 28.3% | 23.5% | | |
| ある程度当てはまる | 42.9% | 40.8% | 44.1% | 39.9% | 42.6% | 47.0% | 47.8% | 37.4% | 46.3% | 46.1% | 43.6% | | |
| どちらともいえない | 20.3% | 24.5% | 17.6% | 26.1% | 34.0% | 18.9% | 10.9% | 27.3% | 20.8% | 16.2% | 24.8% | | |
| あまり当てはまらない | 5.1% | 11.2% | 8.1% | 7.3% | 4.3% | 5.4% | 2.2% | 7.9% | 5.3% | 7.7% | 6.0% | | |
| 当てはまらない | 2.3% | 3.1% | 0.7% | 2.3% | 2.1% | 2.2% | 0.0% | 0.7% | 2.8% | 1.7% | 2.0% | | |
| 合計 | 217 | 196 | 136 | 218 | 47 | 185 | 46 | 139 | 361 | 414 | 298 | | |

⑤教員が学生の成長発達に関心を持つ

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | ** |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|----|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 26.9% | 27.8% | 26.5% | 23.3% | 8.5% | 26.8% | 39.1% | 32.4% | 23.9% | 24.4% | 31.0% | | |
| ある程度当てはまる | 47.2% | 48.0% | 46.3% | 53.0% | 63.8% | 43.2% | 45.7% | 42.4% | 45.6% | 51.0% | 52.2% | | |
| どちらともいえない | 16.7% | 15.7% | 17.6% | 18.7% | 25.5% | 22.4% | 15.2% | 18.0% | 21.7% | 16.7% | 13.8% | | |
| あまり当てはまらない | 6.5% | 6.6% | 7.4% | 4.6% | 2.1% | 5.5% | 0.0% | 5.0% | 6.4% | 6.5% | 3.0% | | |
| 当てはまらない | 2.8% | 2.0% | 2.2% | 0.5% | 0.0% | 2.2% | 0.0% | 2.2% | 2.5% | 1.4% | 0.0% | | |
| 合計 | 216 | 198 | 136 | 219 | 47 | 183 | 46 | 139 | 360 | 414 | 297 | | |

⑥教員が学生の質問や意見に関心を持つ

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 47.9% | 46.2% | 52.2% | 37.7% | 38.3% | 42.2% | 41.3% | 50.4% | 45.0% | 44.9% | 41.3% | | |
| ある程度当てはまる | 41.5% | 45.2% | 44.1% | 53.6% | 48.9% | 50.3% | 52.2% | 41.7% | 45.0% | 47.3% | 50.7% | | |
| どちらともいえない | 6.9% | 5.8% | 3.7% | 6.8% | 10.6% | 6.5% | 4.3% | 5.0% | 7.7% | 5.8% | 7.0% | | |
| あまり当てはまらない | 1.8% | 2.0% | 0.0% | 1.4% | 2.1% | 0.5% | 2.2% | 1.4% | 1.4% | 1.0% | 1.0% | | |
| 当てはまらない | 1.8% | 1.0% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 1.4% | 0.8% | 1.0% | 0.0% | | |
| 合計 | 217 | 197 | 136 | 220 | 47 | 185 | 46 | 139 | 362 | 414 | 300 | | |

⑦教員が学生をほめるよう努力する

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | ** |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|----|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 22.7% | 17.8% | 16.9% | 10.5% | 6.4% | 15.1% | 32.6% | 23.0% | 15.2% | 16.2% | 17.1% | | |
| ある程度当てはまる | 41.7% | 35.0% | 43.4% | 36.8% | 38.3% | 37.3% | 39.1% | 33.8% | 35.6% | 42.6% | 42.5% | | |
| どちらともいえない | 25.0% | 29.9% | 27.9% | 35.5% | 38.3% | 34.6% | 26.1% | 26.6% | 32.9% | 29.3% | 32.1% | | |
| あまり当てはまらない | 8.8% | 12.7% | 8.8% | 13.6% | 10.6% | 9.7% | 0.0% | 10.1% | 11.0% | 9.8% | 7.4% | | |
| 当てはまらない | 1.9% | 4.6% | 2.9% | 3.6% | 6.4% | 3.2% | 2.2% | 6.5% | 5.2% | 1.9% | 1.0% | | |
| 合計 | 216 | 197 | 136 | 220 | 47 | 185 | 46 | 139 | 362 | 413 | 299 | | |

⑧教員が学生の授業参加を促す

| | 専門分野 | | | | | | | ** | 年代(歳) | | | | * |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|---|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 31.6% | 26.3% | 23.7% | 18.3% | 10.6% | 21.7% | 40.9% | 31.7% | 23.7% | 24.0% | 24.0% | | |
| ある程度当てはまる | 45.1% | 40.4% | 45.9% | 43.1% | 44.7% | 37.0% | 45.5% | 31.7% | 40.9% | 42.7% | 48.3% | | |
| どちらともいえない | 14.0% | 25.3% | 23.7% | 26.6% | 31.9% | 25.5% | 13.6% | 25.2% | 22.0% | 22.3% | 23.0% | | |
| あまり当てはまらない | 6.5% | 5.6% | 4.4% | 9.2% | 10.6% | 12.5% | 0.0% | 7.2% | 10.0% | 8.7% | 3.7% | | |
| 当てはまらない | 2.8% | 2.5% | 2.2% | 2.8% | 2.1% | 3.3% | 0.0% | 4.3% | 3.3% | 2.2% | 1.0% | | |
| 合計 | 215 | 198 | 135 | 218 | 47 | 184 | 44 | 139 | 359 | 412 | 296 | | |

⑨教員が優れた研究力を持っている

| | 専門分野 | | | | | | | ** | 年代(歳) | | | | n.s. |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 40.7% | 27.7% | 30.9% | 22.0% | 15.6% | 20.5% | 23.9% | 25.2% | 25.9% | 30.4% | 31.1% | | |
| ある程度当てはまる | 36.0% | 43.1% | 42.6% | 41.3% | 62.2% | 45.9% | 37.0% | 36.0% | 42.9% | 45.5% | 41.9% | | |
| どちらともいえない | 19.2% | 22.6% | 21.3% | 24.3% | 17.8% | 23.8% | 28.3% | 27.3% | 22.3% | 17.5% | 21.6% | | |
| あまり当てはまらない | 3.3% | 3.6% | 4.4% | 9.2% | 4.4% | 6.5% | 6.5% | 8.6% | 6.1% | 4.4% | 4.4% | | |
| 当てはまらない | 0.9% | 3.1% | 0.7% | 3.2% | 0.0% | 3.2% | 4.3% | 2.9% | 2.8% | 2.2% | 1.0% | | |
| 合計 | 214 | 195 | 136 | 218 | 45 | 185 | 46 | 139 | 359 | 411 | 296 | | |

⑩教員が豊富な知識を持っている

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 49.8% | 36.1% | 41.9% | 35.6% | 31.9% | 43.2% | 43.5% | 39.6% | 40.3% | 43.9% | 41.8% | | |
| ある程度当てはまる | 39.1% | 52.6% | 44.9% | 46.6% | 53.2% | 43.8% | 43.5% | 40.3% | 46.1% | 43.7% | 48.5% | | |
| どちらともいえない | 9.3% | 8.8% | 10.3% | 15.5% | 14.9% | 11.4% | 8.7% | 16.5% | 12.5% | 9.7% | 8.1% | | |
| あまり当てはまらない | 0.5% | 2.1% | 2.9% | 2.3% | 0.0% | 1.1% | 2.2% | 2.9% | 0.8% | 1.9% | 1.3% | | |
| 当てはまらない | 1.4% | 0.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.5% | 2.2% | 0.7% | 0.3% | 0.7% | 0.3% | | |
| 合計 | 215 | 194 | 136 | 219 | 47 | 185 | 46 | 139 | 360 | 412 | 297 | | |

⑪教員が授業の準備を周到に行う

| | 専門分野 | | | | | | | n.s. | 年代(歳) | | | | n.s. |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医師薬学系 | 教員養成系 | | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | |
| 当てはまる | 53.5% | 46.0% | 56.0% | 48.2% | 46.8% | 51.9% | 54.3% | 51.1% | 46.7% | 53.0% | 50.7% | | |
| ある程度当てはまる | 37.8% | 46.0% | 35.8% | 46.8% | 42.6% | 41.1% | 32.6% | 41.7% | 44.8% | 38.5% | 44.6% | | |
| どちらともいえない | 7.4% | 6.6% | 7.5% | 4.1% | 10.6% | 5.4% | 10.9% | 6.5% | 7.5% | 6.3% | 4.4% | | |
| あまり当てはまらない | 0.5% | 0.5% | 0.7% | 0.9% | 0.0% | 1.1% | 2.2% | 0.7% | 0.6% | 1.5% | 0.3% | | |
| 当てはまらない | 0.9% | 1.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 0.0% | 0.6% | 0.7% | 0.0% | | |
| 合計 | 217 | 198 | 134 | 220 | 47 | 185 | 46 | 139 | 362 | 413 | 298 | | |

⑫教員が授業内容を工夫する

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 47.9% | 49.0% | 51.1% | 50.5% | 46.8% | 52.2% | 56.5% | 51.1% | 47.5% | 53.0% | 51.8% |
| ある程度当てはまる | 42.8% | 42.4% | 43.7% | 43.6% | 44.7% | 40.8% | 41.3% | 40.3% | 44.7% | 40.4% | 43.6% |
| どちらともいえない | 7.4% | 7.1% | 4.4% | 5.0% | 8.5% | 6.0% | 2.2% | 7.2% | 6.9% | 5.1% | 4.0% |
| あまり当てはまらない | 0.5% | 0.5% | 0.7% | 0.9% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 0.7% | 0.3% | 0.7% | 0.3% |
| 当てはまらない | 1.4% | 1.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 0.7% | 0.6% | 0.7% | 0.0% |
| 合計 | 215 | 198 | 135 | 218 | 47 | 184 | 46 | 139 | 360 | 411 | 299 |

⑬教員が効果的な講義方法を工夫する(例.ポータル等)

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 32.7% | 32.5% | 34.8% | 36.6% | 25.5% | 38.9% | 34.8% | 30.2% | 34.1% | 37.3% | 34.7% |
| ある程度当てはまる | 42.9% | 39.6% | 35.6% | 41.7% | 40.4% | 36.7% | 43.5% | 38.8% | 38.5% | 40.3% | 44.9% |
| どちらともいえない | 18.0% | 20.8% | 22.7% | 17.1% | 27.7% | 20.6% | 17.4% | 24.5% | 21.5% | 16.7% | 17.7% |
| あまり当てはまらない | 4.1% | 4.1% | 4.5% | 3.7% | 4.3% | 2.8% | 4.3% | 5.0% | 4.5% | 3.9% | 1.0% |
| 当てはまらない | 2.3% | 3.0% | 2.3% | 0.9% | 2.1% | 1.1% | 0.0% | 1.4% | 1.4% | 1.7% | 1.7% |
| 合計 | 217 | 197 | 132 | 216 | 47 | 180 | 46 | 139 | 358 | 407 | 294 |

⑭英語を使って授業をする

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 2.3% | 0.5% | 0.0% | 1.4% | 0.0% | 2.2% | 0.0% | 2.9% | 0.8% | 1.2% | 1.3% |
| ある程度当てはまる | 8.3% | 3.6% | 5.2% | 5.5% | 8.5% | 9.2% | 8.7% | 5.0% | 6.9% | 5.3% | 7.1% |
| どちらともいえない | 16.7% | 20.9% | 22.2% | 24.7% | 38.3% | 34.6% | 30.4% | 20.9% | 25.7% | 22.3% | 26.3% |
| あまり当てはまらない | 12.5% | 20.4% | 21.5% | 19.6% | 14.9% | 23.8% | 21.7% | 20.1% | 19.3% | 20.6% | 21.2% |
| 当てはまらない | 60.2% | 54.6% | 51.1% | 48.9% | 38.3% | 30.3% | 39.1% | 51.1% | 47.2% | 50.5% | 44.1% |
| 合計 | 216 | 196 | 135 | 219 | 47 | 185 | 46 | 139 | 362 | 412 | 297 |

⑮国際的に標準とされるテキストを使って授業をする

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 5.1% | 1.0% | 4.5% | 2.3% | 2.1% | 8.2% | 0.0% | 2.2% | 4.2% | 3.7% | 3.7% |
| ある程度当てはまる | 9.3% | 9.6% | 14.2% | 11.9% | 14.9% | 18.5% | 10.9% | 11.5% | 11.2% | 11.2% | 12.9% |
| どちらともいえない | 14.4% | 19.8% | 29.1% | 28.0% | 34.0% | 29.9% | 28.3% | 24.5% | 26.0% | 22.2% | 26.1% |
| あまり当てはまらない | 20.0% | 24.4% | 18.7% | 16.5% | 21.3% | 27.2% | 21.7% | 22.3% | 19.4% | 22.0% | 20.7% |
| 当てはまらない | 51.2% | 45.2% | 33.6% | 41.3% | 27.7% | 16.3% | 39.1% | 39.6% | 36.8% | 41.0% | 36.6% |
| 合計 | 215 | 197 | 134 | 218 | 47 | 184 | 46 | 139 | 361 | 410 | 295 |

⑯視覚機器を有効に活用する

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 25.5% | 11.3% | 12.8% | 20.9% | 17.0% | 26.1% | 26.1% | 23.0% | 25.5% | 20.4% | 18.3% |
| ある程度当てはまる | 33.8% | 34.4% | 34.6% | 39.5% | 53.2% | 47.3% | 45.7% | 38.1% | 40.2% | 40.1% | 38.0% |
| どちらともいえない | 12.0% | 24.1% | 20.3% | 19.5% | 12.8% | 17.4% | 19.6% | 18.0% | 16.9% | 17.5% | 18.3% |
| あまり当てはまらない | 9.3% | 12.8% | 15.0% | 9.5% | 12.8% | 4.3% | 4.3% | 5.0% | 7.8% | 10.2% | 11.9% |
| 当てはまらない | 19.4% | 17.4% | 17.3% | 10.5% | 4.3% | 4.9% | 4.3% | 15.8% | 9.7% | 11.7% | 13.6% |
| 合計 | 216 | 195 | 133 | 220 | 47 | 184 | 46 | 139 | 361 | 411 | 295 |

⑰授業のシラバスを学生に提示する

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 39.8% | 40.1% | 34.8% | 45.5% | 34.8% | 35.2% | 32.6% | 47.5% | 35.7% | 40.4% | 40.4% |
| ある程度当てはまる | 39.4% | 40.1% | 44.4% | 36.4% | 34.8% | 45.1% | 50.0% | 32.4% | 39.3% | 41.4% | 43.4% |
| どちらともいえない | 10.6% | 11.2% | 13.3% | 12.3% | 21.7% | 12.6% | 10.9% | 11.5% | 15.0% | 10.9% | 12.5% |
| あまり当てはまらない | 3.7% | 5.1% | 5.9% | 3.6% | 6.5% | 5.5% | 6.5% | 4.3% | 6.1% | 4.1% | 3.0% |
| 当てはまらない | 6.5% | 3.6% | 1.5% | 2.3% | 2.2% | 1.6% | 0.0% | 4.3% | 3.9% | 3.2% | 0.7% |
| 合計 | 216 | 197 | 135 | 220 | 46 | 182 | 46 | 139 | 361 | 411 | 297 |

⑱少人数で教育を行う

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 26.3% | 12.7% | 14.9% | 20.1% | 4.3% | 13.6% | 19.6% | 12.9% | 16.9% | 20.2% | 19.9% |
| ある程度当てはまる | 28.1% | 26.9% | 32.1% | 30.1% | 31.9% | 34.2% | 32.6% | 27.3% | 26.5% | 33.2% | 33.7% |
| どちらともいえない | 22.1% | 21.3% | 24.6% | 15.1% | 25.5% | 23.9% | 32.6% | 20.9% | 21.8% | 20.5% | 20.9% |
| あまり当てはまらない | 7.8% | 14.2% | 11.9% | 15.1% | 12.8% | 12.5% | 13.0% | 18.0% | 13.0% | 11.0% | 10.8% |
| 当てはまらない | 15.7% | 24.9% | 16.4% | 19.6% | 25.5% | 15.8% | 2.2% | 20.9% | 21.8% | 15.1% | 14.8% |
| 合計 | 217 | 197 | 134 | 219 | 47 | 184 | 46 | 139 | 362 | 410 | 297 |

⑲授業でオフィスアワーを設ける

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20・30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 15.0% | 13.7% | 11.3% | 10.4% | 8.9% | 5.6% | 4.4% | 18.8% | 8.8% | 11.0% | 10.7% |
| ある程度当てはまる | 21.5% | 29.9% | 24.1% | 28.8% | 15.6% | 18.1% | 35.6% | 24.6% | 21.2% | 27.8% | 26.1% |
| どちらともいえない | 27.1% | 27.9% | 25.6% | 34.0% | 48.9% | 37.9% | 37.8% | 27.5% | 35.1% | 29.8% | 35.4% |
| あまり当てはまらない | 14.5% | 11.7% | 16.5% | 13.7% | 6.7% | 18.6% | 13.3% | 10.9% | 13.3% | 13.5% | 14.4% |
| 当てはまらない | 22.0% | 16.8% | 22.6% | 13.2% | 20.0% | 19.8% | 8.9% | 18.1% | 21.5% | 17.8% | 13.4% |
| 合計 | 214 | 197 | 133 | 212 | 45 | 177 | 45 | 138 | 353 | 399 | 291 |

⑩ティーチング・アシスタント(TA)を活用する

Table showing TA utilization data across various categories like '当てはまる' and 'あてはまらない'.

(21)教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める

Table showing teacher efforts to improve classes based on student evaluations.

(22)厳格な成績評価を行う(GPA制)

Table showing strict grading practices using GPA systems.

(23)受講学生の学習活動が組織的に支援されている(例、学習相談室の設置等)

Table showing organized support for student learning activities.

(24)学生の学習施設・設備が充実している(例、図書館やパソコンの整備等)

Table showing well-equipped learning facilities like libraries and computers.

(25)教育施設・設備が充実している(例、視覚覚醒器の整備等)

Table showing well-equipped educational facilities like visual stimuli.

【問21】あなたは、昨年度、「担当授業科目」を対象として学生による授業評価を実施されましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを選び下さい。

Table for Q21: Conducted student evaluations for your classes last year?

【問22】【問21】で「1. 実施した」を選択された方に質問します。それは、どのような影響で行われましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

Table for Q22: What impact did the implementation have?

④ティーチング・アシスタント(TA)を活用する

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 5.1% | 2.5% | 9.7% | 14.7% | 4.3% | 2.7% | 2.2% | 10.1% | 6.7% | 6.3% | 8.4% |
| ある程度当てはまる | 12.4% | 14.6% | 18.7% | 22.5% | 19.1% | 23.1% | 23.9% | 14.4% | 18.6% | 19.8% | 20.2% |
| どちらともいえない | 13.8% | 20.7% | 17.2% | 21.1% | 31.9% | 37.9% | 37.0% | 19.4% | 21.9% | 23.9% | 25.3% |
| あまり当てはまらない | 18.4% | 15.7% | 17.2% | 9.6% | 12.8% | 15.9% | 8.7% | 13.7% | 15.8% | 14.9% | 11.4% |
| 当てはまらない | 50.2% | 46.5% | 37.3% | 32.1% | 31.9% | 20.3% | 28.3% | 42.4% | 36.9% | 35.1% | 34.7% |
| 合計 | 217 | 198 | 134 | 218 | 47 | 182 | 46 | 139 | 360 | 410 | 297 |

(21)教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 19.1% | 17.2% | 24.4% | 23.6% | 17.0% | 19.5% | 15.2% | 22.3% | 20.0% | 19.9% | 20.7% |
| ある程度当てはまる | 41.4% | 47.5% | 50.4% | 56.4% | 40.4% | 45.9% | 50.0% | 51.1% | 47.8% | 48.2% | 43.8% |
| どちらともいえない | 18.1% | 19.2% | 11.1% | 12.7% | 29.8% | 17.3% | 28.3% | 14.4% | 16.9% | 16.5% | 20.4% |
| あまり当てはまらない | 6.5% | 5.1% | 5.9% | 5.5% | 8.5% | 8.1% | 4.3% | 4.3% | 6.4% | 6.8% | 8.0% |
| 当てはまらない | 14.9% | 11.1% | 8.1% | 1.8% | 4.3% | 9.2% | 2.2% | 7.9% | 8.9% | 8.7% | 7.0% |
| 合計 | 215 | 198 | 135 | 220 | 47 | 185 | 46 | 139 | 360 | 413 | 299 |

(22)厳格な成績評価を行う(GPA制)

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 12.4% | 9.6% | 14.8% | 10.0% | 12.8% | 17.5% | 10.9% | 9.4% | 12.2% | 13.3% | 12.4% |
| ある程度当てはまる | 34.1% | 34.3% | 37.8% | 41.1% | 21.3% | 37.7% | 30.4% | 32.6% | 32.1% | 38.0% | 39.9% |
| どちらともいえない | 29.5% | 33.8% | 27.4% | 30.6% | 44.7% | 29.5% | 43.5% | 34.8% | 31.6% | 27.4% | 35.2% |
| あまり当てはまらない | 9.2% | 10.1% | 10.4% | 8.2% | 10.6% | 8.2% | 10.9% | 8.0% | 11.1% | 10.4% | 7.7% |
| 当てはまらない | 14.7% | 12.1% | 9.6% | 10.0% | 10.6% | 7.1% | 4.3% | 15.2% | 13.0% | 10.9% | 4.7% |
| 合計 | 217 | 198 | 135 | 219 | 47 | 183 | 46 | 138 | 361 | 413 | 298 |

(23)受講学生の学習活動が組織的に支援されている(例、学習相談室の設置等)

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 4.6% | 5.6% | 4.4% | 3.2% | 4.3% | 4.3% | 8.7% | 7.2% | 3.0% | 4.6% | 5.7% |
| ある程度当てはまる | 19.0% | 20.7% | 25.2% | 23.7% | 19.1% | 35.1% | 21.7% | 21.6% | 22.7% | 24.9% | 23.2% |
| どちらともいえない | 31.5% | 30.3% | 27.4% | 28.3% | 31.9% | 34.6% | 39.1% | 32.4% | 30.7% | 32.7% | 31.9% |
| あまり当てはまらない | 19.9% | 20.2% | 20.7% | 20.5% | 21.3% | 16.8% | 15.2% | 15.1% | 20.4% | 18.2% | 20.5% |
| 当てはまらない | 25.0% | 23.2% | 22.2% | 24.2% | 23.4% | 9.2% | 15.2% | 23.7% | 23.2% | 19.6% | 18.8% |
| 合計 | 216 | 198 | 135 | 219 | 47 | 185 | 46 | 139 | 362 | 413 | 298 |

(24)学生の学習施設・設備が充実している(例、図書館やパソコンの整備等)

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 26.5% | 20.7% | 18.5% | 17.7% | 12.8% | 16.8% | 17.4% | 22.3% | 19.6% | 20.9% | 20.4% |
| ある程度当てはまる | 41.9% | 44.4% | 41.5% | 46.4% | 57.4% | 49.7% | 56.5% | 41.7% | 45.6% | 47.3% | 44.8% |
| どちらともいえない | 16.7% | 22.7% | 25.9% | 23.6% | 19.1% | 23.2% | 19.6% | 19.4% | 22.4% | 19.9% | 24.1% |
| あまり当てはまらない | 9.8% | 8.1% | 7.4% | 8.6% | 10.6% | 8.6% | 6.5% | 10.8% | 8.8% | 8.0% | 7.7% |
| 当てはまらない | 5.1% | 4.0% | 6.7% | 3.6% | 0.0% | 1.6% | 0.0% | 5.8% | 3.6% | 3.9% | 3.0% |
| 合計 | 215 | 198 | 135 | 220 | 47 | 185 | 46 | 139 | 362 | 412 | 299 |

(25)教育施設・設備が充実している(例、視覚覚悟書の整備等)

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 当てはまる | 21.3% | 16.2% | 12.7% | 16.9% | 14.9% | 16.8% | 15.2% | 18.0% | 18.5% | 18.5% | 15.8% |
| ある程度当てはまる | 40.3% | 40.6% | 39.6% | 43.4% | 46.8% | 50.3% | 50.0% | 38.8% | 41.4% | 46.5% | 45.0% |
| どちらともいえない | 20.8% | 28.9% | 29.1% | 27.4% | 29.8% | 21.1% | 26.1% | 23.0% | 23.5% | 22.9% | 28.5% |
| あまり当てはまらない | 9.7% | 9.6% | 12.7% | 7.8% | 8.5% | 10.3% | 8.7% | 12.9% | 12.2% | 7.5% | 7.7% |
| 当てはまらない | 7.9% | 4.6% | 6.0% | 4.6% | 0.0% | 1.6% | 0.0% | 7.2% | 4.4% | 4.6% | 3.0% |
| 合計 | 216 | 197 | 134 | 219 | 47 | 185 | 46 | 139 | 362 | 411 | 298 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 実施した | 63.1% | 69.2% | 66.7% | 87.3% | 74.5% | 61.9% | 56.5% | 69.8% | 65.9% | 67.4% | 74.8% |
| 実施しなかった | 36.9% | 30.8% | 33.3% | 12.7% | 25.5% | 38.1% | 43.5% | 30.2% | 34.1% | 32.6% | 25.2% |
| 合計 | 217 | 198 | 135 | 221 | 47 | 189 | 46 | 139 | 364 | 417 | 298 |

| | 専門分野 | | | | | | | 年代(歳) | | | |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 人文科学系 | 社会科学系 | 理学系 | 工学系 | 農学系 | 医歯薬学系 | 教員養成系 | 20-30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| 大学で作成した講義評価表 | 76.7% | 74.0% | 76.5% | 91.4% | 77.1% | 78.1% | 73.1% | 74.7% | 68.5% | 81.9% | 84.2% |
| 自分独自に作成した講義評価表 | 12.8% | 17.6% | 15.3% | 4.9% | 20.0% | 14.0% | 7.7% | 18.7% | 18.5% | 10.3% | 8.8% |
| 学生に直接面接して意見を聞いた | 1.5% | 0.8% | 2.4% | 0.0% | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 1.1% | 0.9% | 0.4% | 1.4% |
| 授業の中で時間を設けた | 3.8% | 3.1% | 1.2% | 0.5% | 0.0% | 0.0% | 15.4% | 1.1% | 3.0% | 1.5% | 2.8% |
| その他 | 5.3% | 4.6% | 4.7% | 3.2% | 2.9% | 7.0% | 3.8% | 4.4% | 9.1% | 5.9% | 2.8% |
| 合計 | 133 | 131 | 85 | 185 | 35 | 114 | 26 | 91 | 232 | 271 | 215 |

資料3 自由記述【問3】

【問3】上の【問2】で示した事項以外に、あなたの「担当授業」の質を改善するための重要な事項があれば以下にご記入下さい。

<教師論>

【教師が豊富な知識を持つ】

- ・教師が科目周辺の豊富な知識を持つことが肝要。(私立・50代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教師自身が今日の社会や人生に展望と自信を持つこと】

- ・教師自身が今日の社会や人生に展望と自信を持つこと。(国立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教師の情熱】

- ・教師の情熱以外に何も無い。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・楽しそうに情熱を込めて授業を展開する。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生に対する情熱(私立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・教員が学生に熱意を示す。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【他専門分野との関連づけを行うこと】

- ・他専門分野との関連づけを行うこと！(国立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)

<教育・学習環境>

【受講者数を減らす】

- ・現在数学教育を担当しているが、1コマあたり履修者200人、3コマで計約500人ほどおしえていいる。数学講義担当者をふやして、1コマあたりの履修者をせいぜい50～60にへらすことが必要だと感じている。(国立・30代・助教授・理学系・修士課程まで・不明)
- ・受講人数を制限する。(私立・40代・教授・総合科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・編入学定員を抑え、できる学生のみ相手に小人数教育。(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【視聴覚施設】

- ・視聴覚施設が不十分で効果が上がらないのが現状。ティーチングアシスタントが欲しいが配属

なし。(私立・60代・助教授・工学系・学士課程専門教育・不明)

- ・16に掲載されている事項を今、何よりも渴望しています。比較経済システム論という現代の実体経済を扱う授業ではTV放映分より活用できるのですが、西洋経済史では、それがなかなかできない。視覚は現代の学生にとって効果が大きいので、今後は是非活用したい。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【成果を焦らない、求めない】

- ・気長に育つのを待つ。支援して見守る。育つ場合もあれば、育たぬ場合もある。現実をあるがままに受け止める。成果を焦らない、求めない。(国立・30代・助教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)

<教育方法の工夫>

【Power Pointを用いた授業】

- ・ある授業にPower Pointを用いたところ非常に効果的で、学生の評価も高かった。チョークによる板書の代替という意味ではなく、イラストの写真を多用したことによると考える。(国立・50代・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【毎時間に「質問書」を提出させている】

- ・毎時間に「質問書」(B5 1枚)を提出させている。(国立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・毎回アンケートをとり、内容、手法を改善していく。アンケートは講義中に行わせる。(国立・30代・講師・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・毎回講義時に、リアクションペーパーを全員に記入させている。同時に、質問・意見に全て応答している。その他参考文献を挙げる。(公立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・レポート提出を度々させることで、授業の内容を理解させ、関心をもたせている。(私立・70代・教授・工学系・修士課程まで・高い評価)

【学生の反応、理解度に気をつける】

- ・学生の反応、理解度を毎回の講義中に気をつけることが大切。(国立・60代・教授・理学系・学

士課程専門教育・ある程度高い評価)

- ・学生の学習理解度を評価しながら授業を進める。(私立・60代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生の理解度の確認、教師が考えるほどには学生は理解していない。授業中にしばしば判っているかを確かめる、また、20分ほどのテストを行う。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・理解度をその場その場で判断し説明を試みる。(私立・40代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の理解度のモニタリング ミニアンケートなどー授業へのフィードバック。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の学習意欲を引き出すための工夫・労力が重要】

- ・学生の学習意欲を引き出すための工夫・労力が重要と考える。(国立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・不明)
- ・環境ばかり整えても、学生自身が勉強したいと思ってくれないと、あまり効果がない。学生個々人の意欲を高める工夫が必要と思われるが、模索中。(私立・40代・講師・工学系・修士課程まで・少し低かった)
- ・学生にやる気を出させること、目的意識を植え付けること。(私立・70代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生のモチベーションを高める工夫をすること。(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・高い評価)

【双方向を目指す】

- ・一方通行の指導でなく、双方向を目指す(たとえ多人数授業であっても)。(国立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・高い評価)
- ・一方向的にならないように「やりとり」を設ける(ですね)。標準ではなく、「以上」を目指す、そのためにはオリジナルな考え、試案等を含める。(公立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【webの活用】

- ・教材をweb上に全て準備した。(国立・40代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・webを活用した教育プログラム(私立・50代・教授・その他・修士課程まで・不明)
- ・クラスwebを利用するディスカッション(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・明治大学にはOh!Meijiシステムがあり、そこに授業内容等を入力でき、授業を欠席した学生が授業内容を後日確認できようになっている。(私立・50代・助教授・社会科学系・学士課程

専門教育・不明)

【グループ学習の導入】

- ・グループ学習の導入(自主性、協調性の向上)(国立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生との対話】

- ・学生との対話を大切にする。専門家(将来)としての資質との関係性について講述する。(私立・60代・教授・不明・学士課程専門教育・不明)

【授業技術】

- ・授業技術(声の大きさ、発言の明瞭性、論理的な論の展開、話術、板書など)(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・教員が授業デザインのスキル、知識をもつ。(私立・40代・教授・総合科学系・修士課程まで・高い評価)

【豊富な社会教材の蓄積】

- ・例を示す場合に、学生に身近なものを使用するために、豊富な社会教材を蓄積している。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・教材(ソフトなど)の充実...なるべく小人数で...学生の学習意欲向上...態度など含む。(私立・60代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【練習問題を使用する】

- ・例と例題を使用する。練習問題を用意する。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)

【体験から考えるように教育する】

- ・学生の実際の体験より考えるように教育する。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)

【板書の工夫】

- ・板書事項を工夫する。例えば抽象的「哲学」の場合も図解や箇条書き等。具体的な例として、例えば、テレビ報道番組等を利用し、部分的、短時間にまとめて(10分~20分)見せて考えさせる。(私立・不明・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【習熟度に応じた講義】

- ・いわゆる多人数のクラスの講義で十把ひとからげの講義をしても教育効果が十分上らない。とりわけ、私の場合、高校で選択科目となっている科目を担当。10-20%位しか高校で履修していず、教育効果を上げようとしたら、クラスを3分割位に分け、習熟度に応じた講義がもて

れば理想的である。しかし、人件費削減の折、持ちコマ、非常勤補助削減のあおりを受け実現不可能。(私立・60代・助教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

- ・学生の能力にあった授業(私立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【具体的な事例教材】

- ・社会での応用、適用を念頭に具体的な事例教材。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)

【eラーニングを使用した事前学習の実施】

- ・eラーニングを使用した事前学習の実施。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【必修科目であること】

- ・にも関係しますが、当然のこととはいえ、担当科目が、個々の学生にとって必須の科目であるかどうか、非常に大きなfactorだと思います。(国立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【新しい情報を選んでおく】

- ・新しい情報を選んでおく。(国立・60代・教授・不明・教養教育のみ・不明)

【国内外の作例の資料の充実を図る】

- ・国内外の作例の資料の充実を図る。(国立・50代・助教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【国際的な交流を計る】

- ・国際的な交流を計る。(国立・50代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明)

<学生関係要因>

【学生の知識、関心レベルの把握】

- ・学生の知識、関心レベルの把握。(国立・40代・助教授・人文科学系・教養教育のみ・不明)
- ・担当授業を受講している学生、全員ひとりひとりの思考や日常を把握すること。美術の分野では統一的な指導はあまり意味を持たず、個人レベルでの技術や表現力の向上が必要なため、1対1でなければならない。(私立・40代・助教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生が現在もっている「学力」を知ることが重要である。それをもとにして講義をすすめる必要あり。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・高い評価)
- ・学生の素質を知る。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・少し低かった)
- ・学生のレベルを正確につかむこと。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・不明)

- ・教え込むという態度で学生に対するのではなく、常に学生の理解度を良く判断した上で授業をすること。(私立・50代・教授・不明・修士課程まで・高い評価)

【学生の授業評価の観点を小分けにする】

- ・学生の授業評価の観点を小分けにしてはどうか。授業は楽しいか。内容はためになるか。先生はやさしいか。これらを一括では扱えない。(国立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)

【学生の授業評価を行う】

- ・学生の授業評価を行い、それを講義に反映させる。(国立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・独自に学期ごとに授業に対する評価を学生に行ってもらい常に参考にして次回から改善に努めている。(私立・不明・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・歯学部四年生を担当していますが、学生による講義の評価を実施いたしております。また五年生にたいして適時実施いたしております。(私立・40代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【教育現場の実態と課題を知る】

- ・教育現場(実践現場)の実態と課題を知る。(国立・60代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【対象に即した授業】

- ・画一的でなく、対象に即した授業。(国立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・高い評価)

【教育研究に専念できるような環境を整える】

- ・教員が教育研究に専念できるような環境を整える。(国立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明)

【目的また問題意識を持たせ、それに沿うように授業を行う】

- ・受講生に対して、ひとりひとり目的また問題意識を持たせ、それに沿うように。(国立・60代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【客観的な評価システム】

- ・教員間の負担の平等化、もしくは客観的な評価と教育面について、給与格差をつけるなど。(国立・30代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・質を改善した結果が評価されるシステム。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【専門か教養かにより指導のやり方が大きく異なる】

- ・専門か教養かにより指導のやり方が大きく異なっている。専門は押し上げる感じ、教養は引き上げる感じでやっている。(国立・60代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【独りがりにならない】

- ・独りがりにならない。・ごく基本的なことに絞った内容にする。・英語による授業は必要とは思いますが、自分も含めて現状では実施することは無理である。(国立・60代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【教官同士の授業参観による相互チェック】

- ・教官同士の授業参観による相互チェック。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・教員相互の授業参観。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)

【鳥瞰の視点を各回の講義で示す】

- ・細分化された各知識を統合してとらえるように鳥瞰の視点を各回の講義で示す。(国立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・普通であった)

【教室と研究室が近接している】

- ・教室と研究室が近接している。(国立・40代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【現在の研究分野に卓越し、幅広い研究分野にも目を向けて研究すべき】

- ・指導者は常に現在の研究分野に卓越し、幅広い研究分野にも目を向けて研究すべきである。(国立・60代・教授・不明・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・現実味のある導入を行い興味を喚起し、自分の意見を持ち、他の意見とつき合わせる工夫が必要だと考え実施している。(国立・40代・助教授・教員養成系・教養教育のみ・高い評価)
- ・普段、その分野の最先端の研究活動に参加していること。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・不明)
- ・教員は常に国際的、学際的な最新研究・教育情報と接する機会が必要。(公立・40代・助教授・不明・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【教員間の意見交換】

- ・教員どうしの議論(国立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・不明)
- ・とくに学科内での授業に関する担当者間の意見・情報交換。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・教員間での情報交換(学生の習熟度、テクニック等について)。(私立・30代・講師・総合科学

系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【カリキュラム体系が明確である】

- ・カリキュラム体系が明確で、その中での位置づけがしっかりしていること。(国立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・不明)

【十分な回数の確保】

- ・全カリキュラム上の問題一講義内容量に対して回数が不足(通常2科目分を1科目につめこまざるを得ない。) - 十分な回数の確保。(国立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生のレベルに合った講義】

- ・自分に対しては、さらに工夫する必要あり、進度を遅らせても、レベルを下げて良いと考えべき。学生に対しては、あまりに学習意欲が低い者は受講拒否をしたい。(国立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・不明)
- ・クラス毎に受講者のレベルに合わせた柔軟な授業。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【授業に興味を持たせる】

- ・授業に興味を持たせる。聞きたくない学生にはネムッテもらう。(国立・60代・教授・理学系・教養教育のみ・不明)
- ・学生が担当科目に関心を持つ工夫をすること。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・講義方法に関して学生の興味・関心を促す。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・学生が関心をもつ実例を使う。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・普通であった)
- ・まず興味を持たせること 文科系ゆえ。(私立・60代・教授・農学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生に興味を持たせる工夫。(公立・50代・教授・工学系・修士課程まで・不明)
- ・(公立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学生に参加させる】

- ・学生に参加させる(例、ロールプレイング、パネルディスカッション)。(国立・50代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・教科書に習った内容でなく、学生の参加、あるいは学生による授業が重要と考えます。例えば、ある問題点を学生に投げかけ学生のグループで授業までにその解決策を検討してくるような事。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【学生が基礎を理解しておく】

- ・教養教育で行われる基礎については学生も理解しておいてもらいたい。演習で授業の中で行わせる必要を感じる。(国立・50代・教授・農学系・学士課程専門教育・不明)

【学生の講義と、その評価に対する学生自身あるいは社会的な考え方の改善が必要】

- ・学生の講義と、その評価に対する学生自身あるいは社会的な考え方の改善が必要。(国立・40代・助教授・農学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【出席カードへの意見、質問記入、小テストの添削返却等による(個別的)意思疎通】

- ・出席カードへの意見、質問記入、小テストの添削返却等による(個別的)意思疎通。(国立・40代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教官が学生の教育に関心を持つこと】

- ・教官が学生の教育に関心を持つこと。(国立・50代・教授・不明・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学外講師を招く】

- ・学外講師を招く。(国立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)
- ・関連科目との講義内容の整理・調整により、不要な重複や欠落をなくすこと、また段階を追って学習内容を広げ決められるよう構成を改善した。(公立・40代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・関連分野のゲストを招く。(私立・50代・教授・その他・修士課程まで・不明)
- ・年に1, 2回程度外部より外部講師を招いて、Hotな授業を行う。これを予算化する。(私立・50代・教授・不明・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生には現外部講師を2 - 3人常時招致する(そのための予算化が必要)実感かわく。(私立・60代・教授・教員養成系・修士課程まで・普通であった)

【使用教室の準備、授業後の処理等が出来るよう、休み時間の長さを十分に確保する】

- ・授業時間の前後に、使用教室の準備、授業後の処理等が出来るよう、休み時間の長さを十分に確保する。連続して2コマ担当することのないよう時間割を工夫する。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・不明)

【時間】

- ・時間(公立・20代・助教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・授業について使える十分な時間の確保(研究、その他のために時間を取られ、授業に当てられる時間は講義時間のみとなりがちである)。(公

立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・不明)

- ・教員の時間的ゆとり(担当コマ数、教材準備のサポート、学部雑務の軽減)。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・授業以外で調査などの十分な時間を取ることが必要。(私立・40代・講師・理学系・修士課程まで・不明)
- ・1日が30時間あれば、より準備に時間が割けるであろうが、限度もある。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生に課題をだす】

- ・学生に課題をだす(宿題または考査のためのレポート)。自学自習を奨励する。(公立・40代・助教授・人文科学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・できるだけ課題を出して、レポートとして報告させる。(公立・50代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・レポート提出を度々させることで、授業の内容を理解させ、関心をもたせている。(私立・70代・教授・工学系・修士課程まで・高い評価)
- ・宿題を頻繁に課すが、必ず添削して返却している。又、他人の解答を丸写ししたものは、一切評価しないことを告げるとともにそのような行為を戒め、必ず自分で考えた結果を解答させるように促している。(私立・30代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・二酸化窒素の簡易測定を宿題に出し、自宅の玄関などで測定させると大気汚染を身近に感じさせ、その後の授業がうまく行く。(私立・60代・助教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・予習を促すために講義していない部分を宿題に出す。(私立・60代・助教授・工学系・修士課程まで・普通であった)

【学生による授業評価の結果を学生の責任で公表する】

- ・学生による授業評価の結果を学生の責任で公表する。(公立・40代・助教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学部に合わせてテキストを選ぶ】

- ・外国語科目英語(いわゆる一般英語)では担当する学部に合わせてテキストを選ぶようにしている。たとえば経済学部では『エコノミスト』のアンソロジーを読んだ。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・不明)

【合宿】

- ・昨年と今年合宿を行い、成果があった。(公立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)

- ・野外実習や室内作業と組み合わせた授業(講義)が必要。(公立・50代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【資料作成】

- ・資料作成。(公立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・高い評価)
- ・シラバスの説明、最新の社会・技術などの動向を記した教材の作成と配布、授業開始時に必ず前回の復習を短時間実施、映像教材の活用。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・講義内容を要約したプリントを毎回配布する。焦点をしばり、連想で横道にそれない。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・資料を作り配布する。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学術研究の成果を学生に紹介する】

- ・最新の学術研究の成果を学生に紹介するように努力している。(公立・40代・助教授・理学系・教養教育のみ・高い評価)

【TA, RA】

- ・TA, RAに授業に参加してもらい、ディスカッションに加わってもらおうと同時に授業の進め方についての意見を聴く。(公立・50代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・ティーチングアシスタントを付けることは重要であると思う。(私立・30代・助教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・ティーチングアシスタントがいることが求められている。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程専門教育・不明)

【他の科目等との関連を明確に伝える】

- ・他の科目等との関連(位置付け)を折々に明確に伝える。(公立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学生の学習への主体的な取り組みを促す】

- ・学生の学習への主体的な取り組みを促す。(公立・40代・教授・医歯薬学系・修士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生が自ら気づくように待つこと】

- ・学生が自ら"気づく"ように待つこと。気づけるようにヒントを与えること。(公立・30代・講師・その他・修士課程まで・高い評価)

【雑務の削減】

- ・授業以外の雑務の削減(事務処理・会議の効率化)(公立・40代・助教授・その他・修士課程専門教育・高い評価)
- ・教員の日常的業務(いわゆる学務にかかわる

雑務")を軽くすること。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評価)

【厳しく授業態度を指導すべきである】

- ・必要な場合には厳しく授業態度(受講)を指導すべきである(口頭での注意レベル)(公立・40代・助教授・人文科学系・修士課程専門教育・普通であった)
- ・学生をしかること(指導すること)(私立・30代・講師・教養教育系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【参考図書・文献の豊かな常備】

- ・参考図書・文献の豊かな常備(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・図鑑を回覧させている。(公立・50代・助教授・家政学系・修士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・テキスト以外の参考書、問題集の活用を進める。(私立・60代・教授・工学系・修士課程専門教育・普通であった)

【始、終業時の挨拶】

- ・始、終業時の挨拶。テキストの部分的音読(指名読み)。小テストの実施。(私立・60代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【モチベーションを高める】

- ・モチベーションを高める。(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・不明)

【受講生の氏名を覚える】

- ・受講生の氏名を覚える事。毎1回、ノートを提出させ評価を行う事。(私立・50代・教授・その他・修士課程まで・不明)

【講義終了後に質問時間をもうける】

- ・講義終了後に質問時間をもうけること。(私立・70代・不明・社会科学系・修士課程まで・不明)

【小テスト等で、学生自身が達成度を確認できるようにする】

- ・授業の終わり頃に、小テスト、ショートレポートをやり、できるだけ返却し、自分の達成度が確認できるようにしている。(私立・40代・教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・達成度をこまめにチェック添削して早く返却すること。若い学生にとって自分が見てもらっているという安心感も得られるようです。(私立・40代・助教授・理学系・修士課程専門教育・高い評価)
- ・学生一人ひとりから演習問題の解答を回収し、添削して翌週学生に返却するようしております。(私立・60代・助教授・工学系・修士課程まで・不明)
- ・少テストをおこなう。(私立・60代・助教授・

社会科学系・修士課程まで・不明)
・学生の理解度をチェックするために、時々小テストを行うこと。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)
・学生の理解度をチェックすること(小テストでもレポートでも可)を併用しながら、授業を進めることが重要と思われる。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【学生が先輩と密なコミュニケーションを持つ】

・受講学生が先輩と密なコミュニケーションを持つこと。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・低かった)

【客観的な(学生の)達成度評価】

・客観的な(学生の)達成度評価(私立・40代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生の感想に耳を傾ける】

・学生の感想に耳を傾ける。(私立・30代・助教授・工学系・学士課程専門教育・不明)
・直接学生に授業の判り易さの程度を聞くこと。(私立・30代・講師・理学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【リアルタイム授業評価】

・リアルタイム授業評価(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【授業対象となるもの(材料・成型品)を見せさせてもらう】

・とにかく授業対象となるもの(材料・成型品)を見せさせてもらう。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
・授業に出てくる装置や回路などを実際に見せたい。(私立・50代・講師・工学系・修士課程まで・少し低かった)
・獣医学のキーワードは「疾病」、病体の早くから触れさせること。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)

【平易に説明する】

・平易に説明するように努めている。(私立・50代・講師・社会科学系・修士課程まで・不明)

【演習・実習を取り入れる】

・講義科目の中でも随時演習、実習を取り入れる。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)
・演習を活かして、参加型の授業時間を効果的なものとする。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
・実習内容を充実させる。(私立・60代・教授・医歯薬学系・博士課程まで・高い評価)

・簡単な演習を毎時間やる。(私立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)
・演習の時間を増やす。(私立・50代・教授・理学系・修士課程まで・少し低かった)
・特別演習として、学生達がフリーの時間帯の1-2コマを活用して、各学年(1-3年生)とも10名単位くらいで合計30名程度、毎年相手している。彼等の中から卒業研究へ入ってくる例がある。(私立・60代・助教授・その他・修士課程まで・普通であった)
・実習(体験)を中心とした授業にすると効果が上がると思われる。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)
・講義に関する演習の時間が必要。(私立・50代・教授・理学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【多くを教えない】

・多くを教えない。面白くする。(私立・60代・助教授・工学系・修士課程まで・不明)

【資格試験の実態を学生に説明し、学習意欲を高める】

・資格試験の実態を調べ学生に説明し、学習意欲を高める。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
・試験(定期、国試等)に対応出来る様内容を考慮。(私立・50代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【厳格な出欠管理】

・厳格な出欠管理。時間内の理解度を高める工夫。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・不明)
・出欠のチェック厳しく評価する。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【化学反応、物質、変化などを示すことにより学生の注意力や興味を持たせる】

・化学反応、物質、変化などを示すことにより学生の注意力や興味を持たせることができる。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・不明)

【資料を配布する】

・毎時、学生のために作成したプリントを資料として配布している。(私立・70代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)
・資料の配布(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
・学生に問題発見を促すための資料を提示する。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【サブ教科書を使用している】

・座学と学生学習の項目が平行に実施出来たら学

習効果はもっと上るでしょうね。自分が編著となって数大学の教授と共にサブ教科書を出版使用して教育効果を上げている現在6年目です。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【エアコンの設置】

・教室にエアコン(クーラー)は必要である。(私立・40代・教授・不明・博士課程まで・高い評価)

【授業内容と目的を説明する】

・学生が授業内容、目的の位置づけ(全体の課程の中の)について意識化できるよう、常に今回のテーマと全体とのかわりについて説明する。(私立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・不明)

【学生の質】

・学生の質(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
・受講学生の質がそろうとよい。(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・高い評価)

【マンガを板書きして「イメージ」として理解させる】

・重要なポイント...マンガを板書きして「イメージ」として理解させる。(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【受講生が多いこと】

・受講生が多いこと。(私立・不明・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【専門家の経験を話させる】

・一学期一回は、専門家の経験を話させる。(私立・70代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【教員の体験を授業内容に取り入れる】

・教員自身の人生体験と人生観を授業内容にミックスして面白く語ること。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【関連する科目との内容調整】

・関連する教科目との内容調整。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

【学生のやる気】

・学生にやる気が必要である。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・不明)
・学生にやる気を起させることが最も重要である。学習の目的を明確にできれば最も良いと思われる。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生の考える習慣と読書】

・受講学生が自分で考える習慣をつちかっていること。また、教員がそのように指導すること。受講学生が読書の習慣をつちかうこと。少なくとも読書に苦痛を感じないこと。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)

【信頼関係】

・具体的な方法論が前に教える者(教師)と学ぶ者(学生)との信頼関係を等くこと、学生の学ぶ姿勢、習う姿勢を教えることから始める。これが基盤となる回答者の信念です。(私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【体験活動】

・体験活動、ワークショップを学習プロセスに組み込む。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

【時事的トピックスを扱う】

・授業内容に則した「時事的トピックス」をとりあげ、現実的感覚を養う。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
・バイオテクノロジー関係の講義は、日々進展するので、教科だけではタイムリーな内容をカバーできないので、新聞を利用したNIEを実践している。学生に関連記事を提出させてその解説をすることになっている。(私立・60代・教授・その他・修士課程専門教育・ある程度高い評価)

【講義以外の学習】

・講義以外の学習方法(チュートリアルなど)を模索中です。(私立・40代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)
・学生が予習や復習をするようにしむける。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
・授業時間外における学生の学習時間を増す。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・高い評価)

【教員の増加】

・教員の増加(私立・50代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【やる気のない学生の排除】

・やる気のない学生の排除。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【バーチャルリアリティの活用】

・バーチャルリアリティを活用して、立体的に局所解剖を理解させる。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【他の教育の指導、教育方法を聞き、参考にする】

- ・他の教育の指導、教育方法を聞き、参考にする。(私立・40代・講師・不明・修士課程まで・普通であった)

【研究を充実させる】

- ・研究を充実させること。毎回の授業後に学生の質問を書かせる。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・高い評価)
- ・より研究に専念できる時間の確保。自分で考えるヒマがなければ面白い授業はできない。(私立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・不明)
- ・授業を支えるべき研究に力を入れる。(私立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・不明)

【授業内容に関連する職業分野との効果的な連携を図る】

- ・授業内容に関連する職業分野との効果的な連携を図ることを視野に入れてもよいと思います。(私立・30代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

【学生との連絡を緊密にする】

- ・授業を受けている学生達との間の連絡を緊密にさせ学習効果をあげる。例、メールなどの活用、資料の交換。(私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生がやらざるを得ない状況を作る】

- ・学生がやらざるを得ない状況を作る。考えるよう促す。(私立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・低かった)

【学生の思い込みに気づかせる】

- ・学生の思い込みに気づかせる。(私立・50代・教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【当然と思われる定理や知識を解説する】

- ・当然と思われる定理や知識を4～5分の時間で確認的に解説する。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【小・中学校の段階からしっかりと教えてもらいたい】

- ・学生のしつけを含め、小・中学校の段階からしっかりと教えてもらいたい。(私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・高い評価)

【学生の意見の反映】

- ・メール等を利用した学生の意見の反映。(私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【質問の回答を示す】

- ・質問を受け、これの回答を示す。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【理解と修練に十分な時間数の確保】

- ・理解と修練に十分な時間数の確保(私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・普通であった)

【学生がノートできる程度の速度で講義をすすめる】

- ・授業に際して学生がキーワードをノートできる程度の速度で講義をすすめることが大切であると考えます。(パワーポイントで授業するのは学習にならないということ)(私立・60代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学外での実践体験が必要】

- ・学外での実践体験が必要。(私立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【到達目標に近づける】

- ・到達目標に近づける。自ら考えさせるため発表する。(私立・60代・教授・その他・修士課程まで・不明)

【中・高との関連の重視】

- ・1.中・高との関連の重視。2.トレーニング(演習)の多用。3.学生の発表、表現の機会の設定。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

【インパクトを与える】

- ・インパクトを与える。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

【私語を必ず中止させる】

- ・私語を必ず中止させる。環境に留意する。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【1コマの時間を短くし、回数を増やす】

- ・1コマの時間を短くし、回数を増やす。(私立・40代・助教授・工学系・修士課程まで・不明)

【教育と研究を常に考えていくこと】

- ・教育と研究を常に考えていくこと。最先端の研究について、講義に展開できるように努力していくこと。(私立・50代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・不明)

【学生の人格尊重】

- ・学生の人格尊重。(私立・40代・講師・総合科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の自己開示】

- ・学生の自己開示（私立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・普通であった）

【毎月後に自己の授業内容を反省し改善する】

- ・毎月後に自己の授業内容を反省し改善する。（私立・40代・教授・不明・教養教育のみ・高い評価）

【メールで質問を受け付ける】

- ・メールを使った質問受付。テストをひんぱんに行うことによって、知識の確認を促す。（私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・不明）

【学生同士が意見交換のできる環境】

- ・先生が分からないときに、質問ができるシステムが必要である。先生の部屋に聞きに来るのではなく、学生同志、先輩などがいるラウンジのようなもの。（私立・50代・教授・不明・教養教育のみ・高い評価）

【社会での仕事との関連性、成功・失敗の具体例】

- ・実際の社会での仕事との関連性、成功・失敗の具体例など。（私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価）

【視聴覚機器の活用の仕方について注意している】

- ・視聴覚機器については、年度により受講生の希望が異なるため、この対応に注意している。（私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【机の配置を変える】

- ・教室内の机の配置を変える。（私立・40代・助教授・人文科学系・教養教育のみ・高い評価）

【実験を見せる】

- ・小実験を見せる。（私立・50代・教授・農学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）
- ・理科系の場合は、演示実験、学外実習、演習、実験などを併用することが重要であると思う。（私立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・高い評価）

【「最低」学部教育目的をふまえて授業すべき】

- ・個々の教員が「最低」学部教育目的をふまえて授業すべきである。（本学だけでなく、日本の大学教員の問題点である。）（私立・50代・教授・農学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【分かり易い講義】

- ・どうすれば分かり易い講義ができるか。（私立・30代・講師・農学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【新しい知見を授業で講す】

- ・新しい知見も授業で講すことが大切と考える。（私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・不明）

【キャチボール（意見交換）のできる時間と内容】

- ・キャチボール（意見交換）のできる時間と内容。（私立・60代・教授・その他・教養教育のみ・不明）

【担当コマ数の制限】

- ・担当コマ数が多くなると授業準備が困難になる。1コマに1コマの準備時間として7-8コマが限度。（私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・少し低かった）
- ・持ちゴマ数を減らしてもらい、非常勤での出講をやめる、会議の数と時間を減らす、健康と体力の増進にこころかける。できれば通勤時間が短くなる方策をとる。（私立・40代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明）

【到達目標（SB0）を配布する】

- ・到達目標（SB0）を配布する。（私立・60代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【専門科目でどのように展開・発展させるかを把握する】

- ・専門科目でどのように展開・発展させるかを把握する。（私立・50代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【学生にも話す機会を与える】

- ・学生にも話す機会を与える。（私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・不明）

【マイクを座席に設置する】

- ・大講義室においても各学生との意見交換ができるようにマイクを座席に設置する。（私立・40代・講師・医歯薬学系・教養教育のみ・不明）

【全国で使用可能な教育素材コンテンツの構築】

- ・全国で使用可能な教育素材コンテンツの構築。（私立・50代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【国試の基準、レベルなどを分析する】

- ・国試の基準、レベルなどを分析する。（私立・50代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明）

【目的達成のための必要性から動機づける】

- ・学生が興味をもつ内容にすることも大切であるが、学生が自身のキャリアデザインを行い、その目的達成のための必要性から動機づけることも重要。（私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・普通であった）

【日常の言語による表現活動に関心を持つこと】

- ・受講学生に、日常の言語による表現活動（友人との会話、メールのやりとり、あるいは、メディアで流通する言葉等）に強い関心を持たせること。（私立・40代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明）

【他授業の担当者間で連絡を図る】

- ・学科の他授業の担当者間で連絡を図る。学生の達成度を詳しく調べながら進む。（私立・50代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価）

【教材作成の支援】

- ・教材作成の支援が必要。（私立・60代・教授・その他・教養教育のみ・不明）

【教室のサイズの適応化】

- ・少人数教育を有効なものにするための教室のサイズの適応化。（私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【受講者の意識の変化】

- ・協調学習等の必要性や方法に関する受講者の意識の変化。（私立・60代・教授・不明・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【カレントなトピックを教材に用いる】

- ・カレントなトピックを教材に用いる。（私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【議論させ、その後解説する】

- ・設問し、考えさせ、議論させ、書かせ、その後で解説する。（私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【基礎知識の充実を図る】

- ・基礎知識の充実を図る。歴史、英語、地理など。（私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）
- ・受講学生がある程度の基礎知識を持つこと。大学入試でフルイが機能しない現在では学生に危機感を持たせないと講義が成立しない。（私立・30代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）
- ・学生に授業内容に関連した基礎知識を植えつける。（私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価）

【フィールドワーク、レポートの重視】

- ・フィールドワーク、レポートの重視（私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった）
- ・学外でのフィールドワークをできるだけ取り入れる。（私立・50代・教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【コミュニケーションペーパーの導入】

- ・毎回理解度を把握し、質問や意見があればそれも記入させ、次回、担当者の意見、質問への回答をプリントに配布するやり方の一種のコミュニケーションペーパーの導入。（私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明）

【全学の共通認識】

- ・全学的に共通した指導方針を持ち、全学生が認識すること。（私立・30代・講師・工学系・修士課程まで・不明）

【学生が積極的に学園生活を送れるようになって欲しい】

- ・4に関わるが、とにかく学生が積極的に学園生活を送れるようになって欲しい。これは1科目の努力だけでは無理だが、（私立・70代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった）

【アップトゥデートした講義内容に変更する】

- ・新しい論文や発表を参考に、毎年アップトゥデートした講義内容に変更する。（私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【あきさせない工夫】

- ・時間配分など、あきさせない工夫。学生とのアイコンタクト、臨機応変な授業内容の変更。（私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・不明）

【目的をもたせる】

- ・学生に目的をもたせる。（私立・40代・助教・教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価）

【幅広い年齢層を対象とする】

- ・社会人を学生に含む幅広い年齢層を対象とする。（私立・40代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明）

【学外専門家との意見交換】

- ・学外の専門家、研究者との意見交換。（私立・40代・教授・教員養成系・修士課程まで・不明）

【職場体験】

- ・（放送メディア全般を担当している）。放送現場の最新情報に触れさせるため、放送企業とのインターンシップが大事だが、現場が多忙で実りある職場体験をさせることが難しい。（私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明）

【礼儀を教える】

- ・礼儀を教える。（私立・70代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【情報メディアの研究会】

- ・情報メディアの研究会をして、検討しています。(私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の理解し、実践できる態度の育成】

- ・まず、理解し、実践できる態度の育成。(私立・60代・教授・教員養成系・博士課程まで・不明)

【実権を行う】

- ・模型実験をときどき行う。(私立・70代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【他の教員の授業を参考にする】

- ・他の教員の授業を参考にする。(私立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・少し低かった)
- ・議論の中で他の教員の工夫が参考になったので自己の授業に反映されたと思う。講義に変化をつけるため、パワーポイントを活用してみた。(私立・50代・助教授・総合科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教員自身の魅力】

- ・教員自身が(人生・人生観)が魅力的であること(退屈でないこと)。(私立・50代・助教授・総合科学系・博士課程まで・高い評価)

【考えさせる工夫】

- ・教えるのではなく、考えさせる教育の工夫。(私立・60代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【企業等の見学】

- ・企業、研究所、役所等の見学など。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学外での見学等の実施。(私立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【目標提示と達成感を持たせる】

- ・一歩先の目標の提示と達成感を持たせる工夫。(私立・40代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【演習の結果によって出欠判定を行う】

- ・物理的な出席ではなく、毎回その日の授業内容にそった演習を実施し、その結果によって出欠判定している。(私立・40代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生による発表】

- ・配布プリントの準備、学生によるレポートの発表。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評価)

- ・去年の試みでは、レポート作成(2回/半期)とそのプレゼンテーションが、学生の意欲を授業の活性化に貢献した。(私立・40代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【担当授業の制限】

- ・担当授業数の制限(私立・40代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明)

【課外授業】

- ・生活・生産体験を豊かにするための課外授業の充実。(私立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【その場で理解できる授業】

- ・いくら多人数教室で、双方向授業、考えさせる授業、why?を問う授業、キーポイントはその場で頭にインプットさせる授業を心かけている。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・問2の が望ましいが(私立・60代・教授・歯歯薬学系・学士課程専門教育・不明)

資料4 自由記述（【問8】）

【問8】【問7】で「1.改善された」が「2.ある程度改善された」を選択された方に質問します。あなたの「担当授業」はどのように改善されましたか。以下にご記入下さい。

<教育目標に関する事項>

【学部の教育目的をふまえた内容に改善】

- ・学部の教育目的をふまえた内容に改善した。（私立・40代・教授・その他・博士課程まで・ある程度高い評価）

【授業の意義を明示する】

- ・当該授業の意義を反復して明示する必要性を自覚し、実行している。（改善に該当するかは未確認）（国立・40代・助教授・教員養成系・学士課程専門教育・不明）
- ・授業開始時に毎回今日の授業目的を話す。・授業に対する学生の関心を集めるような努力。（公立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価）

【教育の目標、目的が明確になった】

- ・教育の目標、目的が明確になった。（私立・40代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明）
- ・会計学関連科目間で使用する教材を共用化した上で、講義内容や範囲を明確にしたことで、基礎理論部分の知識習得に目的を集約化させることができたと思う。（私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・不明）
- ・学生にその授業で何を伝えたいか等具体的目標を設定できた。（私立・50代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【目標を立て、方略を決めて授業を進める】

- ・目標を立て、方略を決めて授業を進めること。（私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価）
- ・目標、方略、評価を見直した。（私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・高い評価）

【目標到達に必要なレベルにまで教える】

- ・学生の必要とされている知識を目標到達に必要なレベルにまで、教える様にした。（私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・不明）

【各回の講義の目標を明確にする】

- ・授業1回1回の目標をはっきりさす。（国立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった）

【授業の重要性を自覚した】

- ・授業の重要性を自覚した。（国立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【独善的態度があらたまった】

- ・独善的態度があらたまった。（国立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・少し低かった）

【授業を相対化して見ることができる】

- ・自分の授業を相対化して見ることができる。（国立・50代・教授・不明・教養教育のみ・ある程度高い評価）

<学生に関する事項>

【学生のニーズの把握】

- ・学生のニーズがわかるようになった。（私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【学生に関する情報の共有】

- ・学生に関する情報を共有することができ、学生個別に配慮することができた。（私立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・不明）

【教員と学生の距離が縮まった】

- ・教員教える立場（と学生学ぶ立場）間の授業時における距離（教え方）が縮まった。（私立・50代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【学生の出席率の増加】

- ・「改善」の中身を証拠だてることは難しいと思いますが、分かりやすい示標として、例えば、学生の欠席率は減少したように思います。（国立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価）
- ・履修学生の出席率の増大（私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明）
 - ・第1時限（8：50より）の出席率が良くなった。（私立・70代・教授・工学系・教養教育のみ・少し低かった）

【学生の学習・理解度に応じた進行を心がけるようになった】

- ・学生の学習・理解度に応じた進行を心がけるようになった。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)
- ・学生に合った進度、程度を見きわめる事ができた。(国立・40代・助教授・その他・修士課程まで・不明)
- ・学生に分かり易く、且つ到達度を見ながら、授業を進めるよう心がけるようになった。(国立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・講義の進度が学生と合っていたこと。実物を見せるようにしたこと。(私立・30代・講師・農学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・講義の進み方を工夫するようにした。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)
- ・学生の講義への参加(態度)に注意しながら、講義を進行する。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の理解能力の低下に合わせた授業を、よりできるようになった。(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・不明)
- ・学生のレベルに合わせた授業となった。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・適切な授業レベル； ・現在学習していることが将来どのような技術と結びつくのかをできるだけ述べたこと。(私立・30代・助教授・工学系・学士課程専門教育・高い評価)
- ・導入で学生レベルで興味深い話題(当該授業に関連する)を提供することで、学生の事をこちらに傾注されることに成功している。(私立・50代・助教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・小人数のため、個々の学生のレベルに合わせてコメントしたこと。学生が今まで全く気づかなかったこと、考えなかったことに目を向けさせたこと。(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生の学力調査にもとづく講義内容のレベルマッチング(私立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生の入学前の学力の差により、指導方法などが多用化し、学生のレベルに合わせていること。(私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・高い評価)
- ・学生の学力レベルに配慮した工夫をすること。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・学生の基礎学力の格差が非常に大きいことを再認識し、解りやすく話すことにした。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・学生の脳力を考慮に行う。質疑応答を盛んにする。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門

教育・ある程度高い評価)

- ・学生の能力にあう授業を展開するようになった。(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・個別指導・小人数教育・講義中のミニ演習導入により個々の学生の能力に応じた対応ができ、学生の参加性が高まった。(私立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【学生との意見交換】

- ・学生との意見交換が以前より容易になった。(私立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・不明)

【学生気質の変化に応じた授業】

- ・学生気質の変化に応じた授業。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・学生の質に合わせた授業を行うようになっていく。(私立・60代・教授・理学系・学士課程専門教育・高い評価)

【学生の授業態度】

- ・学生の受講態度や環境を改善できた。(私立・30代・講師・工学系・修士課程まで・不明)

【学生の自主性が養われた】

- ・学生の自主性がやしなわれた。(公立・30代・講師・教員養成系・学士課程専門教育・高い評価)

【学生のレジュメの質の向上】【相談対応の向上】

- ・学生の作成するプリント(発表レジュメ)の質の向上、授業時間外での学生の相談対応の向上。(公立・40代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【学生の興味のある内容、最新のデータ等を追加した】

- ・学生の興味ある点、最新のデータを追加し、従来からの内容を充実させた。(国立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・学生の関心興味に対し、いくつか準備できたと学生側から反応があった。(私立・30代・助教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・先端技術の情報を得ることができ、次回の授業に反映した。内容を一新することもある。(私立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・不明)
- ・学生の興味の変化に対応している。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・専門領域のワケルとらわれずに、あると思われる内容をとり入れ、学生の学習意欲が増した。(私立・60代・教授・医歯薬学系・修士課程ま

で・ある程度高い評価)

- ・教科書的な内容にととまらず、最近のジャーナルや自分達の研究データも使い、学生の興味を引き出す事ができた(私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【学生との相互作用】

- ・学生との相互作用が増えた。(私立・40代・助教・人文科学系・教養教育のみ・高い評価)

【学生が興味を示してきた】

- ・学生が担当科目に興味を示してきた。(私立・50代・助教・医歯薬学系・修士課程まで・不明)
- ・学生の授業に対する興味が増した。(私立・30代・講師・その他・修士課程まで・不明)
- ・学生の興味を引き出した。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・授業でCPを多用し、例を多く示す事により、学生の興味を高める事ができた。また、小テストを行うことで、理解度をチャックしながら、授業を進める事ができた。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・英語に興味を示さなかった学生が積極的になった。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)

【学生の興味の把握】

- ・学生の興味がある方向がよりよく理解できだし、彼らの学習の動機づけを十分にできるようになった。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)
- ・学生の好奇心を向上させるように工夫した。(私立・40代・助教・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【学生の意欲が向上した】

- ・学生の授業(実習)に対する意欲がやや向上した。真剣さが増した。(私立・40代・講師・理学系・修士課程まで・不明)
- ・学生の授業を受ける態度や意欲が増。(私立・50代・教授・その他・修士課程まで・普通であった)
- ・勉学に対する学生の意欲向上。(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学習動機づけ】

- ・学習の動機づけ(公立・40代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・少し低かった)

【学生との対話を重視する】

- ・まず、授業方法に改善が加えられる必要があるという意識が自分の中に芽生えた。その後、大教室における受講生との対話の模索と個人的に位置づけ、出席票の裏に毎回質問、感想を書か

せるなど、「対話」の実現に努力し、今の学生の感性に対する認知度を高めた。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

- ・対話形式の授業を一部導入。実習にチュートリアル方式を導入しようとしている。(私立・50代・助教・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・講義にも対話形式を取り入れるようにした。(私立・60代・教授・その他・教養教育のみ・不明)
- ・一方的な授業から、学生との対話を入れた授業。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)

【学生の参加の促し方】

- ・学生の授業参加の促し方につき、知見を得て実行した。(公立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・学生の授業参加(出席という意味ではない)をより強く促すようになった。(公立・40代・助教・理学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・学生の参加、自発的参加への動機づけを主に教育方法の面からさらに検討して強化した(と考えている)。(公立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の参加を重視するようになった。学生からの質問の時間や、コメントの時間をとり、理解不足の点について復習を重視するようになった。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の授業への参加のさせ方。(私立・30代・助教・理学系・修士課程まで・普通であった)
- ・教育活動に学生を積極的に参加させることができるようになったと思います。(私立・40代・教授・教員養成系・修士課程まで・不明)
- ・学生の参加型の「授業」になるように改善された。「授業」の導入の工夫がなされた(学生が興味をもてるように)。(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・より学生が授業に参加できる雰囲気を増した。(私立・40代・助教・人文科学系・博士課程まで・不明)

【学生の授業評価を授業改善のために検討した】

- ・学生の授業評価を授業改善のために前向きに検討した。(国立・30代・講師・教員養成系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生に興味を持つようになった】

- ・学生により興味を持って授業に臨むようにした。(国立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生との信頼関係が向上した】

- ・学生との信頼関係が向上した。また、私語がな

くなり、講義が円滑に実施でき、質問が増加した。(私立・40代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学生の参加意欲が高まった】

- ・学生の参加意欲が高まった。(国立・40代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生に意欲を持たせるための方策について学んだ。(私立・60代・教授・教養教育系・博士課程まで・不明)
- ・徐々にではあるが、学生の学習に対する意欲が向上しつつある。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・学生の授業意欲の向上が見られたと思う。(私立・60代・教授・教員養成系・修士課程まで・不明)
- ・学生の参加意欲の向上。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・授業の構成、学生の参加意欲を高めるのに役立った。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・ある程度、学生のやる気を引き出すことができた。(私立・40代・助教授・農学系・修士課程まで・不明)
- ・学生の授業参加度が大きく向上した。(私立・40代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・学生の授業への参加のさせ方。(私立・30代・助教授・理学系・修士課程まで・普通であった)

【学生が実力を身につけること】

- ・学生が実力を身につけること。(国立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・高い評価)

【学生の視点に立って評価する】

- ・学生の視点に立って客観的に評価できるようになった。(公立・40代・助教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

<シラバス>

【シラバスの見直し】

- ・シラバスの見直し(国立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【シラバスの活用】

- ・シラバス等で学生に詳しく情報を提供した。(私立・50代・教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・シラバスに達成目標を明示し、学生へ手掛りを与える。(私立・40代・助教授・その他・教養教育のみ・不明)

【シラバスに忠実に授業する】

- ・シラバスに忠実に授業する。(国立・40代・助教授・教員養成系・学士課程専門教育・高い評

価)

- ・他の教官と進度を確認しながら進めることで、より効果的に授業時間を活用できた。(国立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・進行状況に敏感になり、シラバスを大いに意識するようになった。(私立・40代・助教授・教員養成系・修士課程まで・普通であった)
- ・シラバスの尊重、毎回の講義の目的、方法をはっきりさせる。学生の声をできるだけ聞くように努めている。板書をていねいにしている。(私立・60代・助教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・それまでよりもシラバスに充実になった。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

<声>

【声を明瞭に聞き取れるようにした】

- ・声を明瞭に聞き取れるようにした。教科書などに縛られず自由に話しようにした。(国立・30代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・講義中の発声に注意するようになった。学生の注意をそらさない工夫をするようになった。(私立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【話し方のスピード、板書の仕方等について、改善するよう努力している】

- ・話し方のスピード、板書の仕方等について、改善するよう努力している。(国立・60代・教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・整理された板書、声を大きくする、授業の進め方をゆるめる(国立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・進度の調整、板書量の工夫。(公立・30代・助教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・話し方、板書方法に気をつけるようになった。(私立・30代・助教授・工学系・学士課程専門教育・少し低かった)
- ・板書の文字、マイクの音量といった小さなことにも、毎時間気を配るようになった。学生の反応を見ながら授業を進めるようになった。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)
- ・学生にゆっくりと話すように改善した。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・高い評価)

【分かりやすい授業になるように工夫する】

- ・分かりやすい授業になるように工夫する習慣ができた。(国立・50代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・学生に分かり易くなった。(国立・40代・教

- 授・農学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・質・量の精選、レベルを下げずにわかりやすさを向上させようと常に努力する態度が身に付いた。(私立・40代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・分かり易い授業を心がけた。授業の内容を増やした。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・不明)
- ・よりわかりやすい講義へと変わった。(私立・40代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・「わかりやすさ」を重視－視覚的にアピールするようにした。「理解度」に応じた進捗とその確認作業を行うようにした。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・不明)
- ・授業進行レベル ゆっくり、プリント ・ビデオで判り易くした。(私立・40代・助教授・農学系・学士課程専門教育・普通であった)

【演習を取り入れる】

- ・演習を講義の中に組み込み、参加意識を持たせる。また学生の理解度が把握できるようになる。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生を演習的に授業に参加させることによって、学生の意欲が改善されたように思う。(国立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・不明)
- ・毎回の授業の終わりに20～30分の時間をとって、その日の授業内容を反映した問題を出して解かせること。(私立・60代・教授・理学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・授業の内容に合わせた演習課題の作成。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・多様な演習を行うことができるようになった。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・演習方式の出欠方式に変更してから、学生の意欲が増した上、小テスト等からも学習内容の理解が向上したように思われる。(私立・40代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の要望を聞く】

- ・学生の要望を聞くことができた。(国立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の意見を考慮するようになった。(国立・40代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生の評価に対して、ある程度要望を受け入れている。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・学生の意向や希望をとり入れて授業するよう心がけるようになった。(私立・60代・助教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生の意見、質問を聞くシステムを取り入れた。

- (私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生の要望によって自分の授業方法、教授法を反省するようになった。(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・普通であった)

【学生のレベルの把握】

- ・学生のレベル(他の関連教科より)の確認、弱点などの確認－対応策を考慮。(国立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の知的レベルの把握、また学生の要求の把握によって講義内容を決定し、その講義の評価を受けることにより、改善する努力をするようになった。(私立・50代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生に刺激を与える授業】

- ・学生に刺激を与え続ける授業(視覚聴覚等の5感を使うなど)。(国立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・高い評価)

【学生の立場を考える】

- ・学生の立場から授業を考えるようになったこと。(国立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・授業を受ける側の立場をより意識したやり方をとるようになった。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・不明)
- ・学生をあきさせない講義方法の採用、学生の平均的レベルにあったテキストの作成。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の理解度のチェック】

- ・学生の理解度をチェックしながら講義の進度を決める。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・学生の理解度をチェックするようになった。(公立・50代・助教授・家政学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生の理解度を毎回チェックする。(私立・60代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生の理解度を調べ、それに対応しつつ授業をすすめる。自分の専門のすそ野を広げる努力をし、面白く組立てられた授業ができた。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生の理解度の向上】

- ・学生の理解度が増した。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・不明)
- ・学生の授業内容の理解度が多少向上した。(私立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・不明)
- ・理解力のアップと実習内容の充実。(私立・60

代・教授・医歯薬学系・博士課程まで・高い評価)

- ・学生の理解の向上。学習のモチベーションの向上。(私立・50代・不明・その他・修士課程まで・不明)
- ・理解の向上(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)

【学生の理解度を意識した授業】

- ・常に学生の理解を計りながら、授業を進めるようになった。(私立・不明・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・理解度に相当ひらきのある受講生を対象に全体を引き付けて授業を展開しやすくなった。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生の理解を中心に授業を組み立てる必要があることがよくわかった。(私立・40代・教授・人文科学系・修士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・理解させること、厳格な評価。(私立・60代・教授・教員養成系・博士課程まで・不明)
- ・学生の理解度に合わせて、講義することができるようになった。(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・普通であった)
- ・学生の行動の観察；学生への対応 学生を理解しようとする；授業案 学生に探求・思考する時間を多くとる、討論する時間をとる。(私立・60代・教授・その他・修士課程専門教育・高い評価)
- ・学生の理解促進のためのさまざまな改善—たとえば、テキストのつくり方、話し方、レポートやテストの出題の仕方など。(私立・60代・教授・不明・修士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・ともかくも学生の反応を意識しながら授業を進めるようになった。(私立・50代・教授・工学系・修士課程専門教育・ある程度高い評価)

【質問票の活用】

- ・毎回の「質問票」を利用して、学生の予習 授業 復習などの自発的学習を支援できるようになった。多様な学力、学び方の学生に、余裕をもって接することができるようになった。(私立・30代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生からの質問を出席カードの裏に書いてもらい、次回の授業の最初に解答するようにした。また、学生との授業中の対話を増やして参加を促した。(私立・60代・教授・その他・修士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生の反応を確かめる】

- ・学生の反応を確かめる。(国立・50代・教授・社会科学系・修士課程専門教育・普通であった)

【授業内容の学生への提示の仕方を工夫する】

- ・授業内容の学生への提示の仕方を工夫するようになった。学生側が主体的に働きかけざるをえないような仕組みを採り入れる事で、双方向性を高めた。(国立・60代・教授・工学系・修士課程専門教育・普通であった)
- ・教材作成や提示の方法が多様化した。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生とのディベート】

- ・学生とディベートする機会が増えた。(国立・40代・教授・その他・修士課程専門教育・不明)
- ・学生と討論しながら進める機会が増えた。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【双方向授業とする】

- ・双方向的授業とする。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・学生との双方向をある程度取り入れた。(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・不明)
- ・学生との双方向の授業により、復習態度に緊張感が高まった。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明)
- ・双方向対話型、visual thinking型、暗記主義からwhy主義 etc...への転換。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学生に主体を置くようになっている】

- ・学生に主体を置くようになってきている。ミニッツペーパーで前回の授業の質問に答えることで復習した後に、この日の授業に入るように心かけている。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・少し低かった)

<カリキュラム・教育内容>

【体験学習的内容の増加】

- ・体験学習的内容の増加。(国立・60代・教授・教員養成系・修士課程専門教育・ある程度高い評価)

【資料を精選する】

- ・資料を精選するようになった。授業内にグループ討論時間を設けるようになった。(国立・50代・教授・社会科学系・修士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の興味を引く講義資料を提供する。学生との対話を重視する。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教材開発】

- ・教材開発の参考(私立・60代・教授・教員養成

系・博士課程まで・不明)

【教材の工夫】

- ・配布教材の編集に新たな工夫をこらすよう務めた。(国立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・不明)
- ・補助教材の作り方。(私立・50代・教授・不明・修士課程まで・高い評価)

【内容の改善】

- ・ストーリーの修正、新しい演習課題の設定。(国立・30代・講師・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・授業内容の変更、割り当て時間の変更。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【プリントの配布】

- ・プリントの配布、OHPを見やすくする。マイクを使う。問題を多く行う。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【カリキュラム・授業テーマの明確化】

- ・カリキュラム、授業テーマの明確化。(私立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【枝葉末節にこだわらない】

- ・未来ある学生の立場を考えることにより、枝葉末節にこだわらない。(国立・60代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【ビデオや教材を用いるタイミング】

- ・ビデオや教材を用いるタイミングを修得した。(国立・60代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【資料の工夫】

- ・資料の作成方法、話し方の工夫(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学外の研修会・パソコン、情報技術がプレゼンテーションや配布物の作成等に生かした。学内の討論・学生の参加の促し方など、ヒントが得られた。(私立・30代・助教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・配布レジュメの工夫。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明)
- ・配布資料の充実。ホームページを用いた関連事項の細やかな通達。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生への提供教材の種類増加。教材提供のあり方。(方法)(私立・40代・助教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・記入式のプリントを多用する形に変化した。(私立・50代・教授・家政学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

<教育方法>

【小テストの実施】

- ・理解度を把握するため小テストを実施した。(国立・50代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・小テストなどの回数を多くした。(私立・60代・助教授・社会科学系・修士課程まで・不明)

【ポイントをしぼる】

- ・1コマの講義の中でのポイントを2 - 3点にしぼり込むようにした。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・重要項目について強調(私立・30代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【授業方法の工夫】

- ・授業方法の工夫。小テストのやり方。1コマでカバーする範囲の扱い方。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【活動を内省する方法を工夫する】

- ・体験的活動を何らかの形で取り入れた場合、その活動を内省する方法を工夫する。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【知識の確認】

- ・各回の知識の確認、授業方法(発音、板書等)の確認、講義全体での各回の位置づけ、全体の流れの確認。(国立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・普通であった)

【板書、話す内容を改善】

- ・板書、話す内容等わかりやすく改善。(国立・30代・助教授・農学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・講義内容の見直し、情報機器の積極的活用。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)

【板書の仕方】

- ・黒板への板書の仕方と文字の大きさ。宿題の出し方への工夫。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・版書を多くした。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・板書の書き方や私語についての検討の過程で、意識的計画的に自身の教授法の改善点を発見した。(私立・60代・教授・教員養成系・修士課程まで・普通であった)
- ・板書の使用方法(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・普通であった)
- ・) ノートをとりにやすいよう板書する。) 終

了時間を過ぎないように授業は配分。()若者が乗りやすいスピード感。()明確な発音。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

<視聴覚機器>

【視聴覚機器をさらに増加した】

- ・視聴覚機器をさらに増加した。(公立・60代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・視聴覚機器や実機、実物を用いることが学生の理解を助けることから、できるだけ実践している。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・視聴覚機器を使い判りやすく説明した。(私立・50代・講師・工学系・修士課程まで・普通であった)
- ・授業中、写真(静止画)だけでなく動画や実物ができるだけ見せようとした。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)
- ・視聴覚機器を取り入れた。現場を見せる。(国立・50代・教授・農学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・スライドを示すこと+スライドの書き込み、ビデオ教材が効果的。(国立・30代・講師・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・視聴覚機器を有効に活用することにより、学生の理解が増した。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)
- ・視聴覚教材の有効な利用。(私立・40代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・視聴覚機器の利用・活用。(私立・40代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・視聴覚教材を効果的に使うことに関心が高まった。ある授業では共同で統一教材を作っているため、授業前の準備に始まり授業期間中も連絡を毎週とりながら改善した。教材の提示方法、タスクの与え方、feedbackの方法など。(私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・視聴覚機器の使用が多くなった。プリント類を配ることが多くなった。(私立・40代・講師・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)
- ・視聴覚機器を適当に用いるようになった。(私立・50代・教授・総合科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・視聴覚教材の多用;ミニ・ペーパーによる相互対話。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生の要望に沿った視聴覚教育をある程度行うことができた。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)
- ・他の教員も改善と工夫のために日々努力している実情を知り、勇気づけられ、私なりのような工夫と改善(たとえば、目の視聴覚教材づく

りなど)をすすめることができました。(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

- ・以前より、視聴覚教材を多用するようになりました。(私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・パワーポイント、ビデオを多用し、自己満足(学生はついて来ない)している悪教員を他山の石とすることができた。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・視聴覚教材の利用。(私立・50代・助教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・視聴覚機器、パソコンの活用(私立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・情報機器の使用。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・情報機器が整備され、コンテンツも充実してきた。(私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・機械の使用をとり入れた。学生の授業評価、要望をある程度とり入れた。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・プレゼンテーション設備の活用。(私立・40代・教授・総合科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【パソコンの活用】

- ・パソコンの利用、写真、図の利用で学生の理解が増した。(私立・50代・教授・農学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・コンピュータ利用や授業設計など。(私立・60代・教授・不明・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【webの活用】

- ・ホームページの活用を積極的に取り入れること。(私立・50代・助教授・工学系・修士課程まで・不明)
- ・webを活用した授業方法を採用し、学生の予習・復習等の自学自習効果を高め、大きく改善された。(私立・40代・助教授・工学系・修士課程まで・不明)
- ・コンピュータシステム(学内ネットワーク)についての研修会で具体的なシラバス公開、ネット上の学生連絡の方法を提案していただいた。(私立・30代・助教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・教材の一部Web化など。(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・不明)
- ・授業内容の電子化(ファイル)して、復習を可能にした。(私立・60代・教授・理学系・修士課程まで・普通であった)
- ・インターネット、HPの活用を進めていたが、他大学の活動、状況を見て、さらに推進できた。

(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【OHP ・パソコンの活用】

- ・OHPを用いて、学生のノート作成と同じスピードで講義を進める；PCを用いて、画像処理実験を呈示しながら、授業を進める。そのためのテキストも作成（出版）した。(私立・50代・教授・その他・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・OHPを使う授業に、参考資料やプリントを配布するようにした。(私立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・少し低かった)

【ハードウェア・ネットワーク環境の整備】

- ・ハードウェア（端末室）の整備、ネットワーク環境の整備。(私立・40代・講師・総合科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【パソコンによる実習指導】

- ・パソコンによる実習指導を行えるようになった。(私立・40代・助教授・社会科学系・修士課程まで・不明)

【パワーポイントの活用】

- ・パワーポイントなどによるプレゼンテーションを導入した。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・PowerPointなど授業の電子化に積極的になった。(私立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・パワーポイントによる授業の導入(私立・40代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【出席のとり方】

- ・出席のとり方、小テスト等の実施形態、成績評価方法等に関する改善を図った。(国立・40代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【他の授業との関連】

- ・他の授業との関連、学部内での位置付けが明確になった。(国立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・不明)
- ・総じて、学生の負担、不満が少し軽くなり、同僚がしている授業とのつながりが多少ははっきりしてきたと思う。(私立・40代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明)
- ・関連する他教員の内容とリンク付けすることができた。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・他授業との関連性で学生への授業レベルを工夫できた。(私立・60代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【他の教員を参考にする】

- ・教育技法等の工夫の可能性、多様な学部の先生方からその領域における方法を聞き、取り入れられるものは取り入れた。(国立・20代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・同種授業担当の同僚教師の具体的な工夫のうち、取り入れられる部分を取り入れた。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・他の教員の意見を取り入れたり、他の教員の授業を聴講して、学生の様子を把握して参加型授業の工夫をした。(公立・40代・教授・その他・学士課程専門教育・普通であった)
- ・プリントの作り方や学生に対する話題の提供の仕方について、他者の授業方法が参考になった。(私立・40代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・他教員の教育方法を視野に入れることで、自分の授業方法を相対的に見る事ができました。(私立・30代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)
- ・他の教員の工夫を聞いて自分の授業その他に取り入れることができた。(私立・30代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・自分の授業では行った事のない他人の授業方法を知って参考になった。(私立・60代・教授・教養教育系・修士課程まで・普通であった)
- ・同僚などから学んだ方法を授業で活用してみる。(私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・参考となる講義方法を取り入れ、また、講義内容を取り入れ、分かりやすい講義へと改善。(私立・50代・助教授・工学系・修士課程まで・普通であった)
- ・他の教官の授業のやり方を聞いて、参考になった点があった。例えば、コピーをひんばんに配布する。板書で略字を使わないことにする、など。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・他の先生方の実践を知ること、自分の授業を改善するためのヒントを手に入れることができた。(私立・30代・講師・社会科学系・博士課程まで・不明)
- ・他の教員の授業方法を知ることができ参考になった。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・他の教員の講義方法（指導方法）を取り入れた。パソコンを利用したプレゼンテーションの効果を高めることができた。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)

【授業のスピード】

- ・授業のスピード、教材の選択。(国立・40代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【グループ学習を取り入れる】

- ・教育方法：グループ学習を取り入れて参加意欲を高めることができた。学生の感性を出発点として動機付けを重視して展開している。(国立・60代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教育手法について学んだ】

- ・教育手法について、はじめて学習した。(国立・40代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)

【自信が持てた】

- ・自信が持てた。(国立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【授業準備】【授業方法】

- ・授業準備、授業方法、授業評価(公立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生のやる気を引き出すよう準備に時間をかけるようになり学生からの質問が増えた。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【落ち着いて授業を行う】

- ・英国の最も優秀と言われている人たちの講義も常に素晴らしいわけではなく、また本人たちが非常に苦労してやっているという事を聞き、それまでのあせりのようなものが消え、落ち着いてやれるようになった。(公立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

【内容を減らす】

- ・取り扱う内容の量を減らし、未消化を防ぐ。(公立・50代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【T Aの活用】

- ・T Aを活用、授業の内容の平易化、演習の充実。(公立・60代・教授・理学系・教養教育のみ・不明)

【内容に幅が出た】

- ・様々なup dateの知識を入手できた為、学生への内容に幅が出たと考える。(公立・40代・教授・その他・修士課程まで・高い評価)
- ・授業(講義)に幅を持たせた。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)

【教員間の授業交換】

- ・年々授業を重ねるたびに、minimum essentialを考えながら、他授業科目との関連や、他教員と授業交換をしながら授業構成を考えている。(公立・30代・講師・その他・修士課程まで・

高い評価)

- ・同僚間の情報のやりとりで、学生の理解度がある程度分かっていると学生の反応を見ながら講義ができる。(私立・50代・講師・理学系・博士課程まで・不明)
- ・他教授との意見交換により、重複箇所、欠落箇所の改善がなされた。(私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・関連する授業科目担当教員との協議を行ったことによる重複を減らす。(私立・60代・教授・農学系・学士課程専門教育・不明)
- ・同僚との情報交換により、効果的な方法をさせてきた。(私立・40代・教授・人文科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【後続授業への準備】

- ・後に続く専門科目に不可欠の教育内容を確認することで、自分の担当分ではなく後続の授業への準備が効果的にできたと考えます。(私立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・高い評価)

【授業の工夫】

- ・前より授業を工夫するようになった。(公立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学習環境の維持】【マナーの奨励】【座席指定方式】

- ・講義中の学習環境の維持、望ましいマナーの奨励、座席指定方式等。(私立・60代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【専門分野の現状と展望の理解】【進展している知識や技術の理解】

- ・1.科学の現状と展望の理解；2.進展している知識や技術の理解(私立・60代・教授・理学系・博士課程まで・高い評価)

【例題の改善】【現場や実験を見せる】

- ・例題を改善する。現場や実験を見せる。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・低かった)

【討論を取り入れる】

- ・討論させる(学生間で)ことによって表現力を養う。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の意見をとり上げディベートを実施、学生とともに授業を展開できるよう努力、実践につとめた。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・普通であった)

【授業への集中度】

- ・授業への集中度が多少向上。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・普通であった)

【資料の提示の仕方】

- ・学生への資料の提示の仕方。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学生の理解力を重視】

- ・学生の理解力を重視、対話方式の授業。(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【e-learningの導入】

- ・講義の中にe-learningを導入して、学生間、学生教員間のコミュニケーションをはかっている。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明)
- ・1.学内LAN、Eメール等でレポートの提出を付けている。2.画像ファイリングシステム(顕微鏡CCD一画像への各自コメント入力システム)の構築により、学生が自分の意志でからの事を自学、自習できるようにした。(私立・60代・助教授・その他・修士課程まで・普通であった)
- ・eラーニングの利用手法等。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の授業評価点数が上昇した。(毎年最終授業で、アンケートを実施)現在、欠席者用のeラーニングを実施している。(私立・40代・教授・総合科学系・修士課程まで・高い評価)

【めりはりをつける】

- ・毎回の講義に"めりはり"をつけられた。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・不明)

【問題解決型の授業】

- ・問題解決型思考を促すよう、授業を改善した。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)

【感想を書かせる】

- ・独自の工夫で、毎年改善している。改善の参考に供するために、毎時間カードを渡して希望感想を書かせている。(私立・70代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【質問しやすい雰囲気づくり】

- ・学生が質問しやすい雰囲気づくり。(私立・50代・助教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生が研究室に質問に来るようになった。(私立・70代・教授・工学系・修士課程まで・高い評価)

【感覚的に教授させる必要性を感じた】

- ・論理的に理解させることも重要であるが、更に感覚的に教授させる必要性を感じた。(平均点が

約7点~10点改善した)(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【改善されている】

- ・個人的には改善されていると考えている。(私立・30代・助教授・その他・修士課程まで・不明)
- ・工夫改善が見られた。(私立・50代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【大教室授業のティーチングノウハウ】

- ・大教室授業でのティーチングノウハウなど。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【話し方の改善】

- ・しゃべり方の改善(「えー」「あー」を出来るだけいわない)具体例を適切、豊かに提示する、授業をパフォーマンスとして捉えること。(私立・50代・教授・その他・修士課程まで・不明)

【ビデオやレジュメを配る】

- ・理系の教員が文系の学生に講義内容をいかに分かりやすく、ある程度質を保って伝えるか、しかしいまだ不十分ではあるが、ビデオやレジュメを配る。(私立・60代・教授・理学系・博士課程まで・普通であった)

【工夫の幅が広がった】

- ・いろいろな試みを見出し、工夫の幅が広がった。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

【カリキュラムの中で担当講義の位置付けを意識する】

- ・全体のカリキュラムの中での、自分の担当講義の位置付けを意識するようになった。(私立・40代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)
- ・大学全体の授業の客観的把握の上に自分の担当授業に対する問題点への自覚を高めて対処できるようになった。(私立・50代・講師・社会科学系・修士課程まで・高い評価)

【実験の導入】

- ・デモ実験のテクニック、新デモ実験の導入。(私立・50代・講師・理学系・教養教育のみ・不明)
- ・模型実験を始めた。(私立・70代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【重視していなかった事項を重視するようになった】

- ・重視していなかった事項を重視するようになった。自分の授業の長所をさらに生かすようにし

た。(私立・50代・教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【身近な話題に置き換えて説明する】

・いかにすれば、受講生の理解や関心が深まるかを常に念頭におきながら、身近な話題に置き換えて説明したり、より多くの資料を使って講義した事で、授業評価アンケートに改善の結果があらわれた。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【本質が打ち出されるようになった】

・不必要に複雑、厳密な講義はさげ、本質が打ち出されるような講義になった。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【フィードバックの実施】

・前に実施した授業のフィードバック(アンケートの実施、復習の繰り返し)。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【新しい情報を取り入れる】

・絶えず新しい情報を組み合わせて授業するより努めている。(私の担当は基礎科学が中心であるが...)(私立・60代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
・できるだけ新しい資料の提供をしていく。現場(社会)での実践例を具体的に示すようになった。(私立・50代・教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【資料の配付】

・テキストに補足の意味で資料を多く配布していることは、「理解を深めた」ことになり、極力、最新の話題、トピックスを提供することは、興味、好奇心につながり、学生自身「調べをみたいと積極的になった」ことにつながったと思えた。(私立・50代・助教授・総合科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【若者への対応】

・現代の若者への対応について、例えば、よりビジュアルに...笑いも交えて...など(私立・60代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【基礎知識を取り入れる】

・従来よりも基礎知識を講ずるようになった。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【他大学の工夫を取り入れる】

・他大学の工夫を取り入れた。具体的には、演習でのレポート、討論のテーマ、方法。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評

価)

【授業の進め方などを実際にとりいれてやってみた】

・その場で得た授業の進め方などを実際にとりいれてやってみた。結果良かった。(私立・30代・講師・教養教育系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【外国の大学の例を取り入れる】

・特に、外国の大学における授業の例を聞いて、講義の進め方、板書など細心、丁寧にしている。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【小レポート】

・学生に対して小レポート、プレゼンテーションを求めるようになった。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)
・アンケート、小レポート等、フィードバック機会を増やした。(私立・40代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)

【私語が少なくなった】

・学生の私語が少なくなり、授業に集中するようになった。授業もパフォーマンスの一種。ヤマ場、見せ場、メリハリを工夫することでずい分ちがう。(私立・50代・教授・理学系・修士課程まで・不明)
・私語が少なくなった。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)
・200人規模のクラスを100人規模に分割することによる私語の減少。授業時間単位の目的をはじめに明確にすることによる学生の理解度の向上。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・普通であった)

【習熟度別クラス】

・習熟度別クラス編成等の大学改革を実行できた。(私立・50代・助教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【SBOを明示する】

・従来の方法に問題点あることが判明した。SBOを明示することが重要であることと認識した。(私立・60代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【高校科目の習得・未習得の害を無くす】

・高校科目の習得・未習得の害を無くする努力をする。(私立・60代・助教授・理学系・博士課程まで・不明)

【あらゆる面で改善された】

・授業の組立て方、教材、ペース配分等あらゆる面で改善されたと思う。(私立・30代・講師・総合科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【内容の方向性、充実が図られた】

- ・内容の方向性、充実が図られた。(私立・50代・助教授・工学系・修士課程まで・不明)

【授業の進め方が効率的になった】

- ・授業の進め方が効率的になった。(私立・20代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【意識をもって授業をする】

- ・強い意識をもって授業をする。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【ケーススタディ】

- ・ケーススタディ的授業を行うようにしている。(私立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【環境の整備】

- ・より良い環境(教室や設備)の提供を受け、ゆったりとした講義ができるようになった。(私立・30代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【実技科目の工夫】

- ・実技科目の指導法を工夫した。(私立・40代・助教授・その他・修士課程まで・不明)

【レポートを課す】

- ・レポート作成を課する等。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【小規模大学での改善方法を認識】

- ・小規模な大学には、それなりのやり方があることを認識。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)

【アドバイザーを設ける】

- ・学生の中でアドバイザーを設け、お互いに教える態勢を作った。(私立・40代・講師・理学系・修士課程まで・不明)

【集団の活用】

- ・集団の活用。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)

【ミニッツペーパーの導入】

- ・ミニッツペーパーの導入(私立・30代・助教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

【コメントカードの活用】

- ・毎回コメントカードを配布回収し学生の理解のできていないところについての再度の説明や次回講義内容について、学生がどの程度知識を持っているか確認した上で講義内容を設定している

る。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【遅刻や私語への対応】

- ・学生の遅刻や私語に厳格に対応するようになった。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【前回の授業の復習】

- ・前回の授業の復習を必ず行った上で次に進むことにより、記憶を呼び覚ました上で効率的な講義を行う。(私立・40代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【海外の研究を参考にする】

- ・最近の海外の研究によって、学問の流れがどう動いているかを学生に伝えることができる。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)

【1つ良くなると別のところが悪くなる】

- ・1つ良くなると別のところが悪くなり難しい。例えば、少し上位者を中心に引っ張ると、落ちこぼれ増大。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・普通であった)

【授業内容の整理】

- ・授業内容の整理。(私立・60代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【実習指導の充実】

- ・実習指導における指導内容の充実が図れた。(私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【実際の応用に結びつく授業】

- ・より専門課程の授業を助ける方向に向った。より実際の応用に結び付く方向に向った。(私立・50代・教授・理学系・博士課程まで・不明)

【チュートリアル制度の導入】

- ・チュートリアル教育を一部取り入れるようになった。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)
- ・チュートリアルにおける学生への対応がスムーズとなった。(私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【深層心理に影響を受けた】

- ・深層心理に影響を受けた。(私立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教育の重要性を意識する】

- ・教育の重要性を意識して授業を行うようになった。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ)

み・ある程度高い評価)

【今後も改善の検討を続ける】

・現段階では改善の過程であり、今後も改善の検討を続けなければならないと思います。現代の美術、日本画の課題や未来への展開、又は時代と地域性とも密接な関係にある分野ですから、その事の変化への対応や、不変的な精神理念とのかねあいの中で、常に芸術系大学での授業内容(私立・40代・助教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【知識の向上】

・自分自身の知識等の向上(私立・50代・教授・社会科学系・博士課程まで・普通であった)

【学習支援強化】

・学習支援強化(私立・40代・助教授・教員養成系・修士課程まで・不明)

<評価>

【相互評価を行う】

・相互評価を行い、次の授業の改善に役立てる。(国立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【評価がきめ細かくなった】

・評価がきめ細かくなった。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・少し低かった)

【成績評価(GPA)】

・成績評価(GPA)(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・不明)

【試験を複数回実施する】

・試験を複数回やるようになった。(私立・50代・教授・理学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【授業評価が上がった】

・授業評価が上がった。(国立・40代・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
・評価点が上り、学生の素点もあがった。(私立・70代・教授・医歯薬学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
・学生による授業評価に少しずつ向上が見られる。定期試験の結果(成績)に少しずつ向上が見られる。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【授業評価をとり入れた】

・授業評価をとり入れた。(私立・50代・教授・その他・博士課程まで・普通であった)

【学生の授業成果の評価法の改善】

・インパクトの強い授業が出来るようになり、学

生の授業成果の評価法が改善された。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【評価方法や到達点を設定してから授業の進行や内容を決定する】

・評価方法や到達点をまず設定してから授業の進行や内容を決定するようになりました。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【学生による授業評価、学習評価の多様化】

・学生による授業評価、また、学生の学習効果の評価を多様化することができた。(私立・60代・教授・教員養成系・修士課程まで・普通であった)

【自己点検】

・自己点検が可能となった。(私立・40代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

資料5 自由記述（【問25】）

【問25】どのような点が【問24】のような学生からの評価につながったと思われますか。

A. ある程度高い評価を得た教員の理由説明

【明確な目的の提示】

- ・明確な目的の提示と授業形態 ・内容との一致。
(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【演習・実習を取り入れた】

- ・理解を深めるために演習に重点を置いた。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・シンプルな講義と演習の組み合わせによって、その場での理解が得られるようにした。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・1. 練習問題を与え、巡回して個人別に指導
2. 銀行勤務30年の体験談。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・演習を多数回行い、正解を得るまで考えさせた。また必要に応じて、個別に指導を行った。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・時間をかけて授業内容をやさしく教え、かつ十分に理解してもらう様に繰り返し繰り返し練習問題を行った。(私立・50代・助教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・授業の中で、授業の理解を助けるためのプリントを使用し、演習問題に取り組みさせた。考える時間を取り、正解だけでなく、どこが間違っているかを解説した。(私立・30代・講師・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・講義にも実習を含める。(国立・50代・教授・農学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【熱意】

- ・熱意(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・熱意、専門性、進め方、まとめ方。(国立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・高い評価)
- ・教師の意欲と学生に対する思いやり、自信を持って大きい声ではっきり話す。(国立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・自分の熱心さ。(国立・30代・助教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

- ・熱心さ(国立・40代・助教授・教員養成系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱心さ; realtimeの国際的情報を教授。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱心さ、興味ある内容。(私立・50代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・熱心さ(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱心さ、講義ノートを用意して講義をしたこと。声が大きかったこと。(私立・30代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・授業に対する熱心さ。(私立・60代・教授・不明・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・教員の熱意(国立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱意(公立・40代・助教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・熱意、わかりやすさ、明快な説明、立場。(公立・40代・助教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・教員の授業への熱意、周到な授業準備、常に最新情報や研究成果を学生に伝える。海外研修などで撰った最新映像などをすぐに授業に取り入れること。(公立・40代・助教授・不明・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・熱意、研究の業績。(公立・20代・助教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・熱意、講義法の工夫(資料、サンプルの持込み)(公立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱意をこめて話した点。(公立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱意のようなものは多分伝わっているように思う。(公立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱意。学生に興味深いテーマへ選択。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・熱意と授業の内容(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・高い評価)
- ・熱意度(私立・60代・教授・人文科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・熱意(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・熱意を持っている。(学問体系と授業態度)(私

- 立・50代・教授・農学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱意(私立・40代・助教授・農学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱意と内容の興味深さわかりやすさ。(私立・30代・助教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・熱意と感じた。私の講義なぜ重要かが分かった。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱意が伝わった。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱意。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・授業に対する熱意。細かい指導。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・先生の熱意(私立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・教師の熱意、授業の工夫、レベルの高さ(講義内容の)アンケートの結果より上位3つ。(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・熱心に授業を行っていることが評価された。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・熱意と専門性。(私立・40代・助教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・授業への熱意と視聴覚教材の使用についての工夫。(私立・70代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・授業への熱意。(私立・50代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・教員の熱意に基づく、理解度を高めるための創意工夫、つまり講義と学生に対する情熱。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・熱意をもって授業に当たったこと。(私立・50代・助教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・熱意をもって授業に当たったこと。(私立・70代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・熱意と学生に対する公平さおよび誠実さ。成績評価は厳しく行ったが、筋の通った態度は理解してくれたかと思っている。(私立・30代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・一生懸命さ(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・熱意をもって楽しい授業になるように心がけたことが高く評価されたが、反面、それが学生の高い理解度につながらなかつたために、学生自身の自己評価は低い傾向にあった。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・熱心な指導、教育；学生からの質問に答えられ

- る知識と経験。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・授業に熱心であるという点。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・教員が熱心に取り組んだ点+テーマの面白さ。(私立・40代・講師・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・熱心に授業を行ったこと(「情熱」(?))が評価された) 学問の広さ。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・熱心であったこと。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・情熱を持って授業を行ったため。(私立・40代・教授・工学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・熱意がみられる、教室が静か、ユニーク(板書はすべて英文)ゼミの共通言語は英語、文字奇麗。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・講義態度と内容。教授法。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【評価に対する改善】

- ・前年度の評価に対する改善(国立・40代・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生による授業評価の結果が以後の講義にすぐ反映されたから。(国立・60代・教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・前年度の同科目の授業評価(学部で実施のもの)に基づき(対象学生は1学年下にはなっているが)配布資料に工夫を加えたり、スケジュールを改善した点。(公立・40代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・前回の授業評価の結果や学生からの意見を取り入れたから。(公立・40代・助教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【パワーポイントの活用】

- ・前に述べたが、Power Pointを用い、イラストの工夫、写真、図表等板書では困難な資料が多用できたこと。Power Pointによると毎年最新のトピックスを新聞・学会誌等から容易に引用でき、新しいバージョンが作れること。希望者にはPower PointそのものをCDなどで配布したこと。(国立・50代・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・パワーポイントの使用(国立・30代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・power pointとwebを使った点。(国立・40代・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【授業の進め方の工夫】

- ・授業の進め方、理解度の向上に関する工夫(国

立・40代・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【講義の周到な準備】

- ・事前準備(国立・40代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・講義準備にかなりの時間を要した。(国立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・周到な講義準備 熱心さ 幅広い知識(公立・40代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・事前の準備をしっかりとした。講義の導入部を工夫し、学生が自然な流れの中で放しに耳を傾けられるようにした。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・講義内容がよく練られた内容であり、前準備が十分に行われた点(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・準備、熱意(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)
- ・授業に対し、準備を含め努力していることが理解されたようである。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・授業の準備と毎回の小テスト(添削・返却)などこまかい指導と、毎回小さい小さい話(日本文化にもとづく)を行ったこと。(私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・周到な準備、わかりやすい説明。(公立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・高い評価)
- ・授業準備を周到に行った。授業概要プリントを必ず予習できるよう事前に配布した。休講、遅刻をしなかった。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・高い評価)
- ・授業内容への周到な準備と、機器の有効利用による。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・準備、学生の感想を毎週フィードバックするなどかなりの時間を課外に必要なとしている。(私立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・高い評価)
- ・授業の準備、方法に工夫を払った点。(私立・70代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・準備、使用テキスト、板書、口述発声、講義システム(進め方)すべてにゆたって、学生の視線、耳が傾注されるよう努力した点。(私立・50代・助教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・授業準備(教材、計画等);熱意;学生のモチベーションアップ;熱意の空回り;学生のレベルとの乖離。(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・授業の準備・計画性の良さ。熱心さ。

・余談を入れ、メリハリをつけたこと。(私立・40代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

- ・準備に時間をかけた。学生の関心をひくよう。毎回の内容に変化をつけることに努めた。(私立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・普通であった)
- ・周到な準備、プリントのは配布、Q&Aや学生のレポート発表など参画型授業。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評価)

【考え方の習得を重視した講義】

・考え方の習得を重視した講義内容(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【分らない】

- ・よく分かりません。当該年度の講義内容、テキスト、学生こちらの状況、多くのfactorが影響していると思いますので... (国立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【事例に基づいた教育】

- ・多様な事例、視覚的資料による授業。(国立・60代・教授・不明・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・具体的な事例の紹介を増やした。(国立・30代・講師・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・事例に基づいた教育を行ったこと。講義中に、質問カードを配布し、それに答える機会を講義中にもうけた点(フィードバック)(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・必修科目を事例解決に即して説明した点は、比較的高い評価を得た、質問票を整理して、次回に解答したり、定期試験の講評を行うなどの努力を評価した者もある。但し、必修、多人数授業を嫌ったり、意欲を失ったりする学生には、効果が上がらなかった。(私立・30代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・実際の症例、ビデオ等を使用し、分かりやすく講義した。(私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・ペーパーの上での授業だけではなく、現実の事案をふまえて行ってきたこと。(国立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生の質問・意見への対応】

- ・毎時間学生からの質問を受け、次回にその内容の開示と解答を行うフィードバック性。(国立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・授業内容に関する評価を授業でフィードバックしたこと。(国立・40代・助教授・教員養成系・

- 学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の質問・意見を授業に取り入れた点。視聴覚機器を活用した点。(国立・40代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
 - ・学生の意見に従って努力したこと。(公立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
 - ・学生の意見を取り入れることにより、一方通行にならないようにした点。(私立・40代・助教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)
 - ・学生の質問・意見を毎回の授業に反映させる努力。内容に関する教員の独自のアプローチ。(公立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
 - ・学生のニーズに対応する。熱心さで共感を得る。学生に様々なDecision makingの機会を与える。(国立・40代・助教授・教員養成系・学士課程専門教育・高い評価)
 - ・質問カードでのQ and Aのやり取り。(国立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生の理解を意識した講義】

- ・学生の理解度に合わせて講義を行ったこと。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・授業内容の理解。学生の動機付け、学生の質問・意見に対する応答。(公立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・理解しやすい。準備が良い。(私立・60代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・理解しやすい。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・高い評価)
- ・学生の理解度を考えた授業の進め方をした；PCなどを使って、実際に画像(処理)に触れた生きた授業であった。(私立・50代・教授・その他・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生の理解度に応じた講義の実施。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の理解度、学習意欲を常に評価し、授業への参加を促した。(私立・60代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・出席表を用いて各学生の理解度や質問を把握し、次の授業で回答していった。(私立・50代・助教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【分かりやすい授業】

- ・わかる授業への改善、努力。(国立・60代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・高度な内容をできるだけわかりやすく講述するように心がけている点。(国立・30代・助教授・

- 工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・基礎をよく理解するように、わかりやすく丁寧に授業を行った。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
 - ・分かり易い。(国立・40代・教授・農学系・教養教育のみ・高い評価)
 - ・分かりやすい授業、身近かなものを例にして。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
 - ・分かりやすい講義。(私立・60代・教授・理学系・学士課程専門教育・高い評価)
 - ・分かりやすい説明を心がけたこと。(私立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・高い評価)
 - ・分かりやすい講義を心がけた。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
 - ・解りやすく、知識が増えたとのこと。(国立・50代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・高い評価)
 - ・分かり易い授業。例題を多く用いて行った。宿題(レポート)を多く出した。期末テストの代わりにヘビーなレポートを提出させた。(公立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
 - ・平易でわかりやすい説明の工夫。配布プリントの工夫。(公立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
 - ・分かりやすい、授業を心がけた。また、毎回ミニテストを実施したが、意外にもこれが好評であった。(私立・30代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
 - ・講義が分かりやすい；実験は野外実習が好評。(私立・60代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
 - ・熱意の工夫、講義上手さ、レベルが高いのに分かりやすい。(私立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評価)
 - ・わかりやすい授業。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
 - ・分かり易い内容；声がわかりやすい；スピードが調度良い。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
 - ・わかりやすい講義と具体的な例解。プレゼンテーションの高度技能etc。(私立・40代・講師・人文科学系・修士課程まで・高い評価)
 - ・わかりやすい。(私立・70代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
 - ・明瞭な声での講義、講義内容がわかりやすい、おもしろい。(私立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
 - ・学生が興味・関心を持っている内容にし、わかりやすい「授業」になるよう心がけたこと。毎回の講義で学生にコメントを書いてもらい、教員もコメントを返したこと。(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・ある程

度高い評価)

- ・わかりやすい授業。(私立・40代・助教授・教員養成系・修士課程まで・普通であった)
- ・わかりやすい授業を志したこと;学生の質問に対して細かく対応したこと。(国立・30代・講師・教員養成系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・1.分かりやすかった。2.座学形式の授業であるが中で演習形式の課題があった一理解を深められた。3.試験だけでなく、いくつかのポイントで評価している。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・私の授業はわかりやすかったらしい。(私立・30代・助教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・講義内容のわかり易さ。教室内を静粛に保っていること。(私立・40代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生本位に分かりやすく親切丁寧に接して、師弟一体となつての連帯感のもとに授業を展開できたこと。(私立・50代・講師・社会科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・講義の分かりやすさ。(内容、黒板、声の大きさ);パワーポイントを効果的に使った;熱意を感じた。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・講義内容のわかりやすさ。(私立・40代・教授・総合科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・わかりやすさ(私立・50代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・比較的解り易く説明している点と、テキスト以外の資料配布により授業を進めた点、と思う。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・高い評価)

【理論と実践】

- ・理論と実践、理解しやすい話術、視覚教材の活用等、豊富な知識。(国立・60代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【他の授業の質が低い】

- ・自分では特別なことをしていると思わないが、相対的に他の授業の質が低いらしい...(国立・30代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【コミュニケーションを重視】

- ・コミュニケーションを重視し、教材の選択等も工夫した。(国立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・高い評価)
- ・演習科目であるから当然かもしれないが、学生との研究にかかわるコミュニケーションが密であったこと。学生のやる気が十分にあったこと。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評価)

【グループ討論】

- ・授業中に頻繁にグループ討論の時間を設け、各グループ代表者に報告させた。(国立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生自身が討論することによる深い理解と考察をする機会を彼ら自身得ることができた点。(公立・30代・講師・教員養成系・学士課程専門教育・高い評価)

【パソコンを用いた授業】

- ・パソコンを用いた講義が評価された。事例中心の講義が評価された。(国立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・文系の学生に、グローバルスタンダードな立場から情報処理関係の授業を担当した。(国立・60代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【小レポートを課す】

- ・学生の理解度を見るために、毎回15分のレポートを書かせた。授業の内容についての設問を行い、解答ができない学生は面接を行った。(国立・60代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生が参加する授業】

- ・時には学生も参画する授業を行った。適切なビデオ教材を使用した。(国立・50代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【メリハリのある授業】

- ・飽きさせない授業、メリハリのある授業など。(国立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生の関心を引く】

- ・内容が学生の関心を引く。(国立・50代・教授・不明・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【授業内容の工夫】

- ・授業内容の工夫、授業方法の工夫を行った点(まだ不十分だが)。(国立・40代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・授業内容、方法を工夫しつつ授業を行ったことが、学生にも伝わった点、高い評価を得た、ただし意欲のない一部学生からは評価されなかったため、全体として「2」だろうと考えている。(国立・50代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・内容、教え方、熱意、人生論など。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【豊富な知識】

- ・授業内容に関する知識が豊富であり、意欲的な

授業を行ったこと、および、授業の準備が周到であったこと。また、学生の理解度を良く見て授業内容を工夫したこと。(国立・40代・教授・理学系・学士課程専門教育・高い評価)

- ・指導者が豊富な知識をもっていることが指導の自信につながっている。声・説明が明朗であること、英語で指導した事。(国立・60代・教授・不明・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生の到達度の把握】

- ・つねに学生の到達度を把握しながら(毎回テストを行う)授業をすすめる。(国立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【講義レベルの維持】

- ・講義レベルの維持と素材(事例等)の具体的な提示。(国立・20代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【幅広い内容をカバーする】

- ・水準としては基礎から発展、実用までカバーしたため、よかったのではないが、しかし、分量に比し回数が少なく、つめ込み感はあったようである。(国立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・豊富な内容の授業。(公立・50代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【目標の明確化】

- ・授業の目標、採点基準をクリアにしたから。(国立・30代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・講義の目標の明確化、授業におけるメリハリ。(国立・30代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・講義の内容を重要なものだけに絞り、課題に時間を多く使った点。(国立・30代・講師・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学習の行動目標を提示し、その達成度を形成的に評価したことで、学生の学習に対する意欲が向上し、その結果理解度が深まった。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・目標、目的の提示によって学生が自ら動く授業になった。(私立・30代・助教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学習目標が明確であった点、きめこまかい板書と説明(私立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・毎回講義目標(テーマ)を明示し、その日の講義内容にそくした演習を実施し、その結果によって出欠を判定しているため、真面目な学生には好感を持ってもらった。また、熱心な学生が増えた。(私立・40代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の要望を反映させる】

- ・学生の希望(ビジュアルな講義、私語をやめさせる、配布資料の適正さ等々)やコメントを授業(翌週)に反映させた。(国立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・高い評価)

【動機付けを行う】

- ・授業をはじめににあたって動機付けを行ったこと。グループ学習により学生の参加(発言の場)を設けたこと。学生の人権を配慮したこと(高圧的にならず、学ぶものとして敬意を払った)。(国立・60代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【視覚に訴える授業】

- ・映像を利用して視覚に訴える授業が。(国立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【視聴覚機器の活用】

- ・ビデオ、スライドの工夫など、又学生にあらかじめテーマを出して勉強させ、発表させた後、それを補いながら視聴者に仕立て授業を行った。(国立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・視聴覚教材(映画、ビデオ)を使っの教材開発。テーマにそったグループワークの導入。シラバス以外の資料作成の努力。講義内容に臨床経験の具体例を多く取り入れる。(公立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・可能な限り物理的現象を動画として表示する工夫(パワーポイント等の利用)。サブノートの作成と配布。オンラインで講義資料をいつでも閲覧可能とした。(私立・40代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・視聴覚機器を活用し、わかりやすく説明した。形成的評価を取り入れた。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・高い評価)
- ・視聴覚機器の利用。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・視聴覚教材を適切に利用したこと。簡単な実験を取り入れたこと。(私立・60代・助教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・視聴覚ききの活用、他の授業との関連性、熱意(私立・30代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・視聴覚機器の活用とプリント配布しての授業、授業中学生への問題提示とそのやりとり。(私立・50代・教授・農学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・内容の選択、視聴覚機器の使用(デモンストレーション、簡易実験の実施)、プリントの配布。学生の学習速度に合わせたこと。(私立・30代・講師・総合科学系・学士課程専門教育・ある程

度高い評価)

- ・視聴覚教材の導入。時事的な話題の盛り込み。グループ演習。(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・「哲学」の授業であるけれども、視聴覚資料(短時間のビデオ)を使った。小さい白紙に感想や考えを毎時間かかせた。翌週、よくできたものや、おもしろいものを発表した(数人分)授業の準備をよくした。(私立・不明・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・講義にVTRを組み合わせたこと。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・VTR、IT等で、現代の学生に合わせて行ったこと。(私立・60代・教授・農学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・書画システム、パワーポイントを使って、図表を基に重要なポイントをまとめた形で説明した。(私立・40代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・映像を多くとり入れる授業が評価を受けた。(私立・70代・教授・医歯薬学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・視覚的な資料の準備(私立・40代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・スライドやOHPを使った視覚に訴える授業をしたので。(私立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【ハンズアウトの作成】

- ・講義内容に沿ったハンズアウトを作成し、学生に配布した。毎回授業終了時に小テストを実施し、理解の程度を確認した。(公立・50代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の興味を取り入れる】

- ・常に学生の興味ある活動と専門科目の内容をリンクさせるように努力したから。(公立・40代・助教授・人文科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・毎回、学生の興味をもちそうなテーマから講義を始め。できるだけ分かりやすく話す。社会に出たときの仕事との関連を話す。(私立・70代・教授・工学系・修士課程まで・高い評価)
- ・授業内容の工夫で、特に文系学生が身体の働き・構造に興味を持ち、身体から人間を知る方法を明確に示すことができた。そのための視聴覚機器の有効利用・準備に時間をかけた結果であると思う。(私立・50代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・活字教材と視聴覚教材の使い分け。学生の関心に訴え、興味を喚起する教材研究。学生の質問、感想を学生自身にフィードバック。(私立・40代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

- ・興味ある講義をしてくれた。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生の興味深い点を重要視したところ。(私立・40代・助教授・家政学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生の興味を引き出すことができた。聞いてわかる授業を心がけた。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・1回の講義にかけている時間のとり方が他の教員とは違う。学生の興味がありそうなものを日常的にチェックして、それを例として、導入なり説明なりに活かしている。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)

【少人数】

- ・少人数、様々な角度からの問題へのアプローチのやり方を示したこと。エピソードも入れ、これまで考えていなかったような発想のものをいくつも示したこと。普段のコミュニケーション。(公立・40代・助教授・人文科学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・少人数グループ授業。(私立・60代・教授・医歯薬学系・博士課程まで・高い評価)

【前回の講義内容を復習する】

- ・1. 毎回の講義の冒頭で前回の講義内容を復習すること。2. 学生を指名して質問する等の双方向的な講義を行ったこと。(公立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評価)

【授業内容の改善】

- ・授業内容、講義技術、学生参加(公立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評価)

【板書】

- ・板書が適当。解説が判りやすい。(公立・60代・教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・板書がきれいで、わかりやすかった。ノートを見た時に、一人で理解できるように構成されている。(私立・40代・教授・理学系・学士課程専門教育・高い評価)
- ・丁寧な板書、と講話。ビデオ等の利用。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・板書のきれいさ、プリントの配布(私立・50代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・ていねいな(体系だった)板書。講義のポイントを明確にしたこと。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【総合的な効果】

- ・総合的な効果(公立・50代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【生活していくうえで重要な内容であった】

- ・生活していくうえで重要な内容の講義だった点。健康に関するテーマだった点。(公立・50代・助教授・教養教育系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学生の授業参加を促したこと】

- ・学生の授業参加を促したこと。質問に丁寧に答えたこと。(公立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・1. 学生の授業への参加を促した。2. 自ら考えることに重点をおいた。(私立・60代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【最新の成果を紹介した】

- ・該当分野の最新の成果を、その背景にある考え方を強調しながら紹介したため。(公立・40代・助教授・理学系・教養教育のみ・高い評価)

【学生と対話をする】

- ・できるだけ対話をするように心がけたこと。興味をもつ内容に添って講義を行ったこと。(公立・50代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・判り易い、インパクトの強い授業で終るまであきない。学生と対話(時々質問する)方式がよい。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【「毎回の授業でわくわくした」という感想を多数の学生から得た】

- ・「毎回の授業でわくわくした」という感想を多数の学生から得た。(公立・50代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学生が達成感を持てた】

- ・学生が自ら学んだという達成感を持てたこと。(公立・30代・講師・その他・修士課程まで・高い評価)

【専門教育との関連性を持たせる】

- ・授業内容(テーマ) 資料、教材、機器の活用と工夫。教養教育でありながら専門教育との関連性を持たせる内容を行っているため。(公立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・高い評価)

【評価表を参考にした】

- ・個別に作成した評価表で改善できる所は改善に努めた。(公立・50代・講師・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【実践にむすびつける】

- ・実践にむすびつけて、できるだけ平易に視聴覚教材を駆使する。授業時間内に終了するようにする。(グループワークについては、学生の自主性にまかせる。サポートを求める場合は最優先

で対応する。(公立・30代・講師・その他・修士課程まで・高い評価)

【授業構成】【テーマ設定】【講義方法】【視聴覚機器】

- ・授業構成、テーマ設定、講義方法、視聴覚機器。(公立・40代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【筋道だった授業内容】

- ・筋道だった授業内容の構成とステップバイステップでいねいに説明を行ない、学生に対して意図的に計画された発問を挿入したこと。(公立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・高い評価)

【授業の進め方】【分かり易い説明】

- ・授業の進め方と、授業内容の分かり易い説明。(公立・50代・助教授・家政学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【小テストの実施】

- ・試験(小テスト)をこまめに行い、質問にいていねいに答えた。答案を返却して、自分の解答を確認できるようにした。ある意味、高校でのやり方に近いところが学生に安心感を与えたのだろう。(TAがいないので、このやり方は、労力がかかり、今後も続けられる自信はない。また、(公立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・毎回の小テスト、添削、レポートのコンペティションによる相互評価など。(私立・60代・教授・不明・教養教育のみ・高い評価)

【資料の配布】

- ・講義の要点や関連資料の配布、板書の工夫、オフィスアワーの個別指導等。(私立・60代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・プリントなど資料を充実させるよう努めた点。できるだけ平易に話すよう心がけた点。(私立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・講義の資料を毎回配布して、理解の助けとしたこと。(私立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- 資料を豊富に(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・テキスト以外に必要な資料を準備したこと。毎回演習問題を提出して復習に役立てるようにしたこと。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・資料のわかりやすさ。自身の研究に基づくデータの提示。(私立・50代・教授・農学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・資料を豊富に配布し、資料提示装置などを用いて視覚に訴えるよう努めたために、学生には取

つつきやすかったようだ。今の学生は図像などの視覚に訴えた方がわかりやすいようだ。単なる知識の押しつけでなく、問題意識をもたせるようにしたこと。そしてとにかく準備を周到にし（私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

- ・資料の配布（毎時限）（私立・60代・教授・教養教育系・修士課程まで・ある程度高い評価）
- ・1. 毎回充実した教材を配布した点が学生に好評。2. 熱心な授業であるとの評価を得ている。また私語などを許さない厳しい態度が望まれている。（私立・60代・教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価）
- ・使用テキストのレベルは、やや高いのだが、補足としてオリジナルのハンドアウトを配布し、
- ・声の大きさと明瞭度。学生の質問に対する対応。豊富な知識（私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価）
- ・毎回プリントを配布した。分かり易いよう心がけた。（私立・60代・教授・農学系・教養教育のみ・ある程度高い評価）
- ・プリントの配布、声、黒板の字が大きい。熱意、試験問題が対話発展形式。（私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）
- ・講義毎にプリントを作製し、講義実施の前週までにそれらを配布した。重要な部分の強調を繰り返りからと行い、十分理解させようとした。まとめにスライド等の視覚教材を多用したことなどが評価されたと思われる。（私立・40代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価）
- ・講義の補講的なプリントを用意したこと。
- ・個人指導をしたこと（遅進学生に対して）。（私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【授業展開】【板書】【声の大きさ】【出席重視】【科学、人間、生命、健康の理解】

- ・1. 授業展開*2. 板書（1）大きい字（2）ノート記入「ゆっくり」3. 声の大きい4. 出席重視5. 科学、人間、生命、健康の理解。*（1）本時の内容項目提示（2）本時のまとめ<板書利用>（私立・60代・教授・理学系・博士課程まで・高い評価）

【内容、重要な箇所を示す】

- ・毎週の講義に際し、講義内容、重要な箇所を示し、終了時、再チェックしている点。（私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【作業させる】

- ・できるだけ作業をさせる工夫をした。（私立・60代・教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価）

【日常例を挙げて説明】

- ・例えば、化学結合を教えるとき、素粒子の一般的話から解き起こして、原子、周期律など、物性の原子的レベルからの話を、ていねいに、日常例を挙げつつ説明した。（私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【社会問題に関連して講義した】

- ・一般社会問題に関連して講義した点。（私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）
- ・具体的な社会の問題や課題と学問的、理念的な問題をできるだけ具体例を引きながら説明し、理解の助けになったためと思われる。（私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【1人1人の結果を時間ごとに評価したため】

- ・1人1人の結果を時間ごとに評価したため。（私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【学生の人格を尊重する】

- ・学生の人格を尊重すること。間違いは謝る、学生が何かしてくれたらありがとうを言う等、あたりまえの人間関係で信頼を築けたこと。
- ・毎回豆テストを添削して返却、理解度をチェックしたため、理解の不十分な場合にすぐ改善できたこと。（私立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・高い評価）
- ・学生の人格を尊重するとともに、誠実に対応したこと。（私立・40代・講師・総合科学系・博士課程まで・ある程度高い評価）
- ・学生を馬鹿にせず、寛容であること。（私立・50代・助教授・総合科学系・博士課程まで・高い評価）

【補助プリント】

- ・補助プリント（私立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価）

【学生に公平に接する】【準備を良く行う】【板書】【補助教材の工夫】

- ・学生に公平に接し、授業の準備を良く行い、板書に気を配り、発生に気をつけ、ことに自分なりの補助教材を工夫したため。（私立・50代・教授・不明・修士課程まで・高い評価）

【質問しやすい雰囲気】

- ・質問しやすい雰囲気を創出することに気が付いたことが役立ったと思われる。（私立・30代・講師・理学系・博士課程まで・ある程度高い評価）

【質問して学生に答えさせる】

- ・質問して学生に答えさせる方法； 注意の仕

方； 視聴覚機器の使用。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【豊富な知識】

- ・豊富な知識と新しいデータを利用して、実際の生活場面に近い内容が学生に指示されたと思われる。理解しやすい話し方も必要不可欠である。(私立・40代・教授・不明・博士課程まで・高い評価)

【幅広い内容】

- ・基礎的なことから、社会における応用技術まで幅広い内容を授業の中でとり入れたこと。ステップに応じて視聴覚教材、パワーポイント、自分で作製した実験モラルビデオなどを活用し理解しやすい内容としたところ。(私立・30代・助教授・総合科学系・教養教育のみ・高い評価)

【学生の学習意欲】

- ・学習意欲の高い学生(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学習意欲の向上。(私立・60代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【ポイントをイメージとして理解させた】

- ・講義のキポイントをマンガを書いて「イメージ」として理解させた。思ったより好評で「オモシロイ」「ワカリヤスイ」という学生からの声が多く寄せられた。(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【目的をふまえた授業】

- ・担当授業の目的・目標をふまえた授業内容を行ったこと、「一年生」ということを考えた授業を行ったこと。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・教職志望の学生を対象とするため、その目的に合うような内容をわかりやすく話す努力をした。(私立・60代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・2～3回ごと授業の終わりに質問を書いてもらい、全ての質問に対し次の授業時に応答。リスponsすることにより受講生は疑問を解消し、かつ、自分の書いた内容全てに毎回教員が目を通していることがわかり(=書きっぱなしではない)うれしく思う。(これは、受講生、聴講(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価))

【知識の付与】

- ・知識の付与；指導過程の工夫；活気があった(教師と学生ともに)(私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【関心領域の高い分野】

- ・関心領域の高い分野・授業のバラエティ

(ゲストスピーカー、ビデオ教材など時々)・配布

- ・授業の工夫(私立・40代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【時事問題】

- ・1.時事問題への関心(新聞マーケット欄などの教材利用)2.社会人に必要な基礎的常識、マナー、仕事スタイル。3.身近かな問題から国際的関連への展開。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・時事的問題をとりあげ、応用力理解力を深めた点、映像メディアの活用など。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生からの質問に答える】

- ・学問的な質問については次回の講義で解説するとともに、その後の講義内容に必要があれば変化を加えた。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・高い評価)
- ・質問にきっちり答えてくれる。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・質問などに丁寧に答えることにより、理解力のアップと授業参加への意欲がみられた。(私立・40代・教授・家政学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・質問などに丁寧に答えることにより、理解力のアップと授業参加への意欲がみられた。(私立・40代・教授・家政学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【バランスの工夫】

- ・講義と視覚(スライド)と実習とのバランスを工夫した。(私立・60代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【専門性】

- ・教員のもつ高い専門性と教育にかける熱意。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・専門知識、熱意。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【授業の明快さ】

- ・授業の明快さ、十分な準備、補助資料配布など。(私立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学生の達成度を考える】

- ・少しは学生の達成度を考えて、講義内容を工夫しているからではないか。(私立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【内容への関心・発見】

・内容への関心 ・発見。考え方の整理。(私立・50代・教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【日本社会の問題と授業の問題意識を関連させる】

・授業のテーマを明確に問題意識として打ち出し、それに沿った内容、構成で講義を行うよう心がけたこと。学生の身の周り(日本社会)の問題と、授業の問題意識を関連させるよう心がけたこと。リアクションペーパーを毎回実施し、学生のコメントや質問にこたえる形で講義を行った(私立・30代・助教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)

【シラバスに沿った授業】

・シラバスに沿って密度の高い授業を行った点。(私立・30代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【受講生に適した教室】【丁寧な板書】

・問8の回答を参照してください。さらに付け加えれば、受講生の人数に適した教室を選んだこと。板書を丁寧にすることを心がけたこと。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【教室内を静粛に保つ】

・教室内を静粛に保つ。学生に教員の熱意が伝わった。講義資料の配付。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学力をもっている】

・1. 学力をもっている。2. 熱心であり、親切である。3. 教授法が優れている。(私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・高い評価)

【年齢が若い】

・他の先生に比べて年齢が低かったから。(私立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・高い評価)

【全力であたる】

・授業に全力であたる。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)

【課題の相談を丁寧にに行った】

・課題の相談をなるべくいいに行行った。(私立・60代・教授・その他・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【質問表の配布とその回答】

・質問表の配布とその回答を行う。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【情報提供】

・情報提供、指導方法の改善など。(私立・50代・教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【個別に対応】

・時間内、外を問わずできるだけ個別に対応したこと。授業の内容を工夫したこと。(私立・60代・教授・工学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【詳しい解説やエピソード】

・教材(テキスト)の選択に対して、豊富な知識につながった... ・くわしい解説やエピソードで、学生の間違っていた理解を改めることができた... ・高校までの表通りだけの知識に、裏や内部の知識で、より理解を深めた... など ・悪い方には、授業中の早口や、声の大きさなどの注意(私立・60代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【テストを行い、理解度を確認した】

・毎回テストを行い、理解度を確認した。(私立・60代・教授・理学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【講義の計画性】

・講義の計画性、内容の斬新さ。(私立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・高い評価)

【授業の工夫】

・授業の工夫と学生への対応(私立・60代・教授・理学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
・授業の工夫、社会(実務)との関係性。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
・学生にのみ努力を求めるのではなく、それ以上の努力をした点(毎回の授業の工夫)。(私立・40代・教授・その他・博士課程まで・ある程度高い評価)
・授業の工夫をして学生の学習活動が変化に富み、参加型の授業設計をしたこと。(私立・60代・教授・不明・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【複数回の試験】【質問の受け付け】【再講義】

・ていねいで、ゆっつきり。複数回の試験。研究室での質問の受け付け、再講義。(私立・50代・教授・理学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【誠実に学生対応ができた】

・誠実に学生対応ができたこと。(私立・50代・教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【出席率】【携帯電話 ・おしゃべりの禁止】【授業

参加】

- ・出席率が最高点。携帯電話を授業中にいっさい使用しない ・おしゃべりをしないが最高点。授業参加が最高点。(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・高い評価)

【宿題を課す】

- ・毎回の宿題を課して、採点返却をくり返した。評価は最終時間を実施したが、終わってみれば、よい経験と受け止めたようである。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【板書の時間を取る】

- ・板書の時間を取る事。一方的に話をせず、学生に問いかけること。実例を示すこと。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【考え方を詳細に説明した】

- ・原理や考え方を詳細に説明したため。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【重複的に復習を行った】

- ・前回講義での理解不十分点をモニターし、次回講義にて重点的復習を行ったこと、等。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【Webでの資料公開】

- ・Webでの資料公開、質問への対応(少々進むが遅れても)一人一人ていねいに対応。(私立・30代・助教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【評価を明確にした】

- ・評価を明確にした点。授業の雰囲気。教材の提示方法。(私立・30代・講師・教養教育系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教員の熱意 ・学生の関心を引き出す努力】【テーマ ・教材の選択】

- ・教員として当然のこと「熱意、学生の関心を引き出す努力、基本的な学習支持」と、学生の興味を引くような今日的なテーマ、教材の選択。(私立・30代・助教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)

【まじめに授業に取り組む】

- ・まじめに授業に取り組んでいること(私立・40代・教授・不明・教養教育のみ・高い評価)

【良い学生を少数取る】

- ・良い学生を少数取ることに尽きる、たとえ給与が下がろうとも。(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【学生に対するサービス精神】

- ・学生に対するサービス精神(?) (私立・40代・講師・社会科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の想像を超えた内容を加える】

- ・講義内容に学生達の想像を超えた内容を加えるよう努力した点。(私立・40代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教師の無遅刻 ・無休講】

- ・教師の無遅刻、無休講。(私立・50代・教授・不明・博士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の理解度を促す】

- ・適宜小説とを行ない学生の授業理解をうながした点。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【選択必修科目であること】【やる気のない学生が減った】

- ・選択必修科目のため、アンケート集計時にやる気のない学生が減ったため。どのような授業をやっても、「簡単に単位が取れる科目」以外は賛否両論となるのでは...(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【実務経験の利用】

- ・自分の実務経験(過去の研究開発、設計実務)を利用して、講義内容を豊かにした点、特に教科書を補足している点が好評であった。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【講義の重要性を理解してもらえた】

- ・講義の重要性が理解してもらえたこと。講義内容が意欲的な学生には理解してもらえたこと。配布資料が効果的であったこと。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【本のみからは得られない知識の提供】

- ・本のみから得られない知識を提供し、解析力を要求した。(この点をきらう学生も多数いました。)(私立・50代・教授・農学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【課題を明確にしたこと】

- ・課題を明確にしたこと； レポート(2回)の作成とそのプレゼンテーションを実施したこと； 「担当科目」のポイントをくり返し強調したこと。(私立・40代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【言葉を平易にした】

- ・言葉をできる限り平易にし、親しいやすい説明

を取り入れた。自分が学生であった頃の理解度を思い出し、学生の身になって講義内容を工夫した。(私立・50代・助教授・農学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

・理解できるよう用語を努めて使うように心がけたこと。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生のレベルに合わせた授業】

・学生個々の学力レベルにあわせた授業内容であったため。(私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・高い評価)

・設定した目標に、学生の能力も考慮に入れて、常に授業方法を工夫していること。日常的に学生とのコミュニケーションを大切にしていること。(私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

・学生の能力にあった授業を展開したこと。(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

・学生の知識程度と相談しながら進行。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生から指摘のあった事項の改善】

・SB0を示したこと、学生から指摘のあった事項の改善。(私立・60代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【理解できるところから順序立てて話した】

・学生が理解できるところから順序立てて話を進めた。・ニュース報道など、身近な話題を授業科目の観点から解説するように努めた。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【各講義に目的を設けた】

・各講義に目的を設けたため。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学生の知りたい内容を取り入れた】

・学生が知りたいことを(内容)を授業に取り入れた。・講義方法を変更した(板書・プリント配布・マルチメディア等をすべて取り入れた)・試験方法を変更した(覚えさせる問題から考えさせる問題へと変更した)。(私立・50代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

・学生に興味関心をひくテーマを取り入れたこと。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【毎回、学生の意見を記入するレポートを提出させた】

・授業の都度、次の項目を記入するレポートを出させた。本日の授業は何に役立つと思います

か? 本日の授業の内容をあなたは何に使ってみようと思いますか? その他、授業について何をどうすれば改善できると思うかの提案。(私立・70代・教授・工学系・教養教育のみ・高い評価)

・毎回のミニ・ペーパーによって、学生の疑問点や関心事を知り、それに応える努力をしたこと。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【豊富な事例】

・実例が豊富であったこと。(私立・40代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

・豊富な例。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【よく理解できる】

・よく理解できる。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)

【声大きい】

・声大きいこと。急がずゆっくりと講義を進めたこと(内容を少なくしても)(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

・声が大きく、よく聞きとれる。ゆっくりしゃべる。質問には徹底的に付き合う。(私立・50代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【じっくりゆっくり説明した】

・授業の進度をある程度犠牲にしても、ある内容についてじっくり、ゆっくり説明する(した)。(私立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【個人指導】

・できるかぎりワンツーワン指導をするよう心がけたから。(私立・20代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【真面目に勉強する学生の期待に答えられなかった】

・真面目に勉強する学生にとって、期待に答えられなかったからではないかと思う。(私立・不明・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【協調型学習】【ソフトウェアの整備】【TAの支援】【教材の選定】

・学習形態(協調型学習)、ソフトウェアの整備、TAの支援、教材の選定。(私立・50代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【丁寧な説明】

・懇切丁寧な説明。できるだけ活発に、板書は整理して。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【誰にでも解りやすい表現】

・学生のレベルを問わず、誰にでも解りやすい表現とできるだけ専門用語を避けるように講義の展開を心掛けた点にあると思われます。また、教室を回りながら、対話形式の授業を取り入れたことも要因であるかもしれません。(私立・40代・教授・理学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【題材の精選】

・講義題材の精選、語りかけ口調による講義、VTRプロジェクターなどの利用。(私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)

【事前学習】

・事前学習(予習)の効果が出ている。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【意欲的であること】

・意欲的であること。授業に工夫があること、関心をもち易いように楽しく展開すること、学生の成長や充実に貢献する内容を提供できたこと。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【教材の工夫】【ゲスト講師の活用】

・教材の工夫、ゲスト講師の活用、視聴覚教材の活用、試験問題の1ヶ月前公表、etc(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【考えさせる】

・一方的な知識の伝達でなく、解説-設問-考えさせる-討論を認める-解答執筆-解説のプロセスをできるだけ経験させる(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【授業評価が画一的で、参考にならない】

・授業評価が画一的で、出された結果はほとんど授業改善の参考にならない。何回会議で多くの人から改善するように意見が出されても変更されず、そのままの形で授業評価されている。結果については、教員の努力とは関係なく出てきている紋切り型のものと思う。(私立・50代・教授・家政学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【休講がない】

・休講がない、シラバスに沿った授業、成績のチェックを厳しくする。時間通りの授業を行う。私語を注意する。(私立・60代・助教授・不明・

修士課程まで・高い評価)

【レジュメを毎回配布】

・講義レジュメを毎回配付。AV機器使用。体験談を交える。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

・毎時限に授業レジュメを配布した。現在、社会に生起している事件や事象を、新聞記事をOHPを利用して紹介した。予習レポートの提出を義務づけたところ提出日の授業は理解しやすいとの評価を得た。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【授業評価項目によって】

・規定の評価項目では、中間的评价に偏る傾向がある。ネガティブな要素が少ないだけだったのかもしれない。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【欠席者に対するeラーニング型補習】

・欠席者に対するeラーニング型補習を開始したこと。プレゼンテーションとビデオの組み合わせ(授業形式)毎週のレポートに全てコメントを入れて、翌週に返却する早いレスポンス・サービス。(私立・40代・教授・総合科学系・修士課程まで・高い評価)

【学生の話合いによって感触を得た】

・学生の話合いによって感触を得た。卒論の内容が予想以上によかった。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)

【真剣に学生と向きあう】

・真剣に学生と向きあう。(私立・70代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【高校教員としての経験が役立った】

・高校教員として長年勤務した経験が役立ったように思う。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・高い評価)

【具体的におもしろくした】

・講義を具体的におもしろくした。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【テキストの選択】

・テキストの選択、ビデオ使用の妥当性、講義の仕方。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【出席率の重視】

・よく出席する学生に高い評価を得ている。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【興味深い ・理解しやすい内容】

- ・内容が興味深い、理解しやすい。(私立・60代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【厳選された内容】

- ・厳選された内容とメッセージの簡略化(スローが・化)と熱心さ。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生が厳密に評価したとは思えない】

- ・学生が厳密に評価したとは思えない。(私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【はっきりしゃべる】【問題意識をもたせる】

- ・はっきりしゃべる点。問題意識をもたせた点。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学習意欲の向上】

- ・「さらに勉強したいという意欲につけがった」と学生達は評している。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【わかりません】

- ・授業評価アンケートの結果を受けて、学生ひとりひとりに「何故か?」という質問をしていませんのでわかりません。(私立・40代・助教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生一人一人への目配り】

- ・学生一人一人への目配り。(私立・40代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生が熱心であった】

- ・学生が熱心であったため、お互い、いい関係で講義が進められたからだと思う。(私立・30代・講師・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【グループ活動】【模擬授業】

- ・グループ活動や模擬授業の場を設定し、学生が主体的に学ぶ事が出来るように配慮した点が、高い評価へつなげたと思う。しかし、約70人のクラスだったため、グループごとの指導が行き届かなかつたり、深まった議論ができなかった点に物足りなさを感じる学生もいた。(私立・30代・講師・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【具体的な話】【考えるクセがつく】

- ・世の中の現実の動きが理解できた。話が具体的でももしろかった。「なぜか」と考えるクセがついた。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

育のみ・ある程度高い評価)

【情報の重層的な提供】

- ・情報の重層的な提供(アナログ的思考を強調)。(私立・50代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【実践的な内容】

- ・実践的な内容を組み込んだ点(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・問20の1, 2の選択をした項目かと思う。(国立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・問20参照(公立・60代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・問20の事項の特に(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・問2の1~15の項目を自立的に充たした結果と思われる。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・問20の解答の ~ までの各事項に相当する。(私立・60代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・問20で当てはまるとマークした箇所で力を入れたのではないかと思う(18, 24, 25を除く)。(私立・40代・教授・人文科学系・博士課程まで・高い評価)
- ・問20の2, 5, 9, 10, 11, 12。(私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

B. 評価が低かった教員の理由説明

【授業内容】

- ・授業内容、技術的な面etc。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・授業内容、スタイルの工夫。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・授業内容の工夫と熱意(私立・30代・助教授・その他・修士課程まで・高い評価)
- ・授業内容の工夫私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・授業内容及び方法の工夫改善。(私立・60代・助教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・内容、題材; 説明のしかたのわかりやすさ(私立・40代・教授・人文科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・講義内容とプレゼンテーション技法。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【理解不十分な学生がいた】

- ・高い評価をした学生もいたが、理解不十分という学生からの低い評価もあったため、平均的となった。(私立・50代・助教授・理学系・博士課程まで・普通であった)
- ・理解できない学生が多いことが分かった。(私立・70代・教授【専門分

【英語表記】

- ・術語を英語で表記した資料を多用したところ、英語の授業ではないからという理由で、評判が悪かった。本学の学生の英語の知識は中学生程度であった。(国立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・少し低かった)

【難しい】

- ・むずかしいとの評価であった。(国立・60代・助教授・工
- ・講義内容の専門性と学生の持つバックグラウンドの間に大きな差があり、決して高度の内容ではないのに学生からは難しすぎるとの意見があった。(公立・60代・教授・家政学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・電気回路の基礎を1年後期に担当したが、入学生の多様化で理数系の苦手な学生の割合が増加しており、とにかく数学を少し使うだけでも"難しい"と思う傾向が強く、電磁気、電子回路と並んで高い評価を得るという結果には至らない。(私立・40代・教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・話の内容が難しい、板書をきれいに書いて欲しい。(私立・60代・教授・理学系・博士課程まで・普通であった)
- ・最も基礎的な微分方程式を現象から導かせる。困難さ。しかし、わずかな学生には理解してもらった。(私立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・低かった)
- ・内容がむずかしい。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・低かった)
- ・授業内容が高度すぎた？上位の学生の評価は良かったが...、中位以下には難しかった。(私立・40代・助教授・農学系・学士課程専門教育・普通であった)

【苦勞の多い勉強をさせる】

- ・苦勞の多い勉強をさせれば人気は落ちる。刺激に満ちた見世物をすれば人気は上がる。(国立・30代・助教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)
- 学系・学士課程専門教育・普通であった)

【詳細になり過ぎた】

- ・自分の専門分野に近いところの講義では詳細になり過ぎ、理解できなかったのかもしれない。(国立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・少し低かった)

【専門分野に対する関心がばらばらである】

- ・大学に入る時点でモチベーションや適正によって学生が進路を選んでいないことが多いため、専門分野に対する関心・適正にばらつきがありすぎる。そのために、科目にそれぞれ関心のある学生とない学生の間で、評価も評価基準もばらばらになり、結局平均的な評価におさまって(国立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【教材選択】

- ・教材選択に配慮する必要がある。(国立・50代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・講義で取り上げる教材がある程度学生の要求にあったものだったと考えています。半期でプリント80枚ほどでしたが、教材の選定には十分時間をかけました。(国立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【課題が多い】

- ・学生が得たものについては高い評価を得たが、クラス外を含めた必要な勉強時間、課題が質量ともに過大であるとの不満が多かった。私の予想以上に他の科目の先生も努力されているので、平均的な評価しか得られなかった。(国立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【板書】【話し方】

- ・板書、話し方(国立・60代・教授・理学系・修士課程まで・少し低かった)
- ・声が大きいく。黒板の字がきれい。(国立・40代・助教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)

【厳格な成績評価】

- ・成績評価が厳格なので、評判があまり良くないとの事。(国立・50代・助教授・工学系・修士課程まで・普通であった)

【学生の理解度を意識した講義】

- ・進め方を遅くし、学生の理解度をみながら講義を進めたこと。(国立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)
- ている学生が多い。(国立・60代・教授・理学系・

【学生の興味の対象とならない】

- ・学問的内容が学生にとって興味の対象とならない、与えられた問題を解くことが学問と考え
- 学士課程専門教育・低かった)
- ・興味を持つ学生とそうでない学生とで評価の内容が全く異なる。(国立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・不明)
- 野】医歯薬学系・教養教育のみ・不明)
- ・大学全体で実施しているので、他科目の評価と

比較できるので、毎年明白になっている大きな結果は、「科目への関心の高まりが低い」ことである。本学は5学部あるが、そのなかでも関心の高まりが最も低くなっている。私の担当している科目もそのような結果がでている。これだ
(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【板書】【スピード】

・板書、文字サイズ、スピードに対するコメントが大半。(国立・40代・助教授・農学系・学士課程専門教育・普通であった)

【受講者数】

・1クラスが小人数の場合(10名程度)評価は高いが、150名以上の場合、評価の高低のバラツキ度が広い。(国立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・普通であった)
・受講学生数が多すぎて学生の学習態度、授講態度、評価姿勢などがばらばらであり、一つの程度を示すには至らなかった。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・普通であった)

【試験直前であったため、出席率が多かった】

・期末試験直前の実施であったため、通常よりも多い出席があり、評価のノイズとなった。
(国立・30代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【進度が速かった】

・やや自分のペースでやり過ぎた(進度が速かったか)。(国立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【講義ノートを配布している】

・毎回講義ノートを配布している点。(国立・40代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【フィードバックされなかった】

・評価はフィードバックされなかった。(国立・40代・助教授【専門分

【解らない】

・よく解らない。(国立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)
・よくわからない。(私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・普通であった)
・不明(私立・30代・助教授・理学系・修士課程まで・普通であった)

【説明不足】

・授業の内容については、説明の不足を指摘され、改善点を意識することができた。授業のスタイルについては概ね高評価。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・普通であった)

【学生自信の学習態度の反省】

・学生は「まじめに授業に出席したが質問や発信はあまり積極的に行わなかった」と、自己の学習態度を反省して、総合評価に影響を及ぼしたようだ。(公立・40代・教授・その他・学士課程専門教育・普通であった)

【学生と教員の目的のズレ】

・学生の受講目的と教員の開講目的のズレ(公立・40代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・少し低かった)
・授業の目的を受講生が理解せずに(目的意識なく)受講したから求めている事が違ったため。
(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・少し低かった)

【討議が盛り上がらなかった】

・学生と教員の討議が有効に盛り上がらなかった為、一部の学生からは、その分を講義に回して欲しい等の意見が出された。(公立・40代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【知的好奇心を前提とした講義を行った】

・学生が「作業」を希望しているのに、こちらが知的好奇心を前提とした講義を行ってしまった。
(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・少し低かった)

【アンケートに真剣に答えられない学生がいる】

・アンケートに真剣に答えられない学生がいる。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)
・学生は「適当」に回答しているように思えた。たとえば休講は1回もしていないのに休講があったような回答がみられるなど。(私立・70代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【ノートの取り方】

・多数の学生は積極的に授業に参加していた。少数の学生はノートの取り方に迷っていた(ノートはとらなくても良いといっているのだが、彼らは不安らしい)。(私立・70代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通で

【学生に媚びを売る授業が増えている】

・明日からの授業に生かせる意見があり、参考になった。しかし、評価を気にする余り、学生に媚びを売るような授業を行う教員が多くなったことは嘆かわしい。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)

【学生の意欲が低い】

・学生の意欲が低い。意欲のある学生からはある程度の評価を得た。(私立・50代・教授・人文科

学系・博士課程まで・普通であった)
明・修士課程まで・普通であった)
・学生の意欲の欠如。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・低かった)
・学生の学習意欲・学生の学力(私立・50代・教授・理学系・修士課程まで・少し低かった)

【学生の理解力に差がある】

・学生の理解力に大きな差がある。(私立・50代・教授・不
・学生の評価は例外もありますが、学生の理解度に比例していると思います。理解できた学生からは高い評価が得られていると思われま。マイクの使用、板書はゆっくりを心かけています。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【学生をひきつける努力が必要】

・学生をひきつける魅力によりに努力必要。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【これ以上レベルダウンできない】

・できる学生や知識の豊かな学生が少なく、予習・復習も余りやらないために、内容の理解度が浅いために、もっと評価すべき講義内容についていけない学生が多い(欠席も50%)ためであり、これ以上授業はレベルダウンできないため。(私立・70代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【高い評価と低い評価があった】

・高い評価と低い評価が混在していた。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)

【講義スケジュールが過密】

・講義スケジュールが過密で学生が講義に対する興味を持続できない。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)

【学生がついて来れない】

・教科書を購入していない学生はついて来ることができない。また、自学、自習しない学生もついて来れない。自分が当該科目をなぜ学ぶ意義があるのか(専門科目の意味)を理解できていないと、これもついて来れない、等。(私立・60代・助教授・その他・修士課程まで・普通であった)
・講師・不明・修士課程まで・普通であった)

【内容が盛りだくさん】

・やる内容が盛りだくさんで、ついてこない人にとっては苦痛。(私立・40代)

【今後検討】

・今後検討(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【授業内容を学生に分かって貰うことが大変】

・授業内容を学生に分って貰うことが大変だったと思う。(私立・60代・教授・理学系・学士課程専門教育・普通であった)

【わかりやすい授業への努力】

・わかり易い授業への努力。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【ていねいすぎる板書やプリントにしない】

・ていねいすぎる板書やプリントなど、安易に書き写すだけで「勉強した気にさせる」のは、教育上の配慮から、やめにして。その点の学生からの評判はよくない。しかし、学んだ学生からは、学ぶことの興いさを伝えられたようで、評価は得ている。(私立・30代・助教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【板書】【テキスト】

・熱意や声の大きさは評価が高かったが、板書やテキストについては評価が低かった。そうした学生の評価は当たっていると思う。(私立・60代・教授・教養教育系・修士課程まで・普通であった)

【熱意】【教材】

・熱意、プリント教材など。(私立・60代・教授・教員養成系・修士課程まで・普通であった)

【内容が高度】【教科書ができていない】

・内容がやや高度で、簡単化をあまりしないで講義をした。また、教科書ができていなかった。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【受講生が多い】

・人数が多すぎる。勉強好きでないのに、資格取得のために受講している。1/3の学生には難しい内容だったらしい。(私立・40代・教授・その他・修士課程まで・少し低かった)

【学生の主体的関与がされなかった】

・講義形式のために学生の主体的関与が十分なされなかったから。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【資料が多すぎる】【進度が速い】【TAがない】

【内容が多い】【視聴覚機器の過信】【説明が下手】
・資料が多すぎる。進度が速すぎる。TAがないので綿密な指導不可。内容が多すぎる。視聴覚機器と情報機器の過信。説明が下手。(私立・40

代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・低かった)

【質問時間を取る】

・休憩と質問時間を取る。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【学生の資質】

・学生の資質、好き嫌い等により様な答えは出るはずがない。(私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・普通であった)

【講義内容】【進め方】

・講義内容や進め方に対する評価から(私立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・普通であった)

【科目の設置意義を理解していない】

・科目の設置意義を理解していない。専門以外に数学、物理の知識を多く必要とするため苦手

【必修である点】

・必修である点。内容が学生にとって多少難しかった点。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・少し低かった)

【講義の進度】

・授業のやり方が速いと言われているが、学生のレベル向上のため、とりあえずは、ポイントを絞って説明し、質問等には丁寧に対応し、スピード自体は変えない方針である。質問の対応については学生の評価が割りと高い。(私立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・少し低かった)
・講義の進度。視聴覚機器の使用。(私立・60代・教授・工
・講義のスピード。板書の正確さ。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・普通であった)

【授業時間】【授業への興味】【学生数が多い】

・学生が消化しあなければならぬ科目が多すぎるため、授業時間、学生授業への興味、学生数の多いことなどで限界があるから。(私立・50代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・普通であった)

【アンケートの設問形式】

・アンケートの設問形式。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)
・講義評価表の設問が授業内容とマッチしていないため、参考になる評価結果が出なかった。(私立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・普通であった)

【資料提示の方法】【話し方が明瞭】

・資料提示の方法と話し方を明瞭にという点で。

(私立・60代・教授・教員養成系・修士課程まで・普通であった)

【板書の字】【学生の名前を覚えていない】

・板書の字がまずい。学生の名前を覚えていない。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)

【良くも悪くもない】

・特に良くもなく悪くもなかった。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)

【内容が多い】

・視聴覚機器を使い、ビジュアルな講義を意識したが、逆に内容が盛り沢山になって、受講側から見ると消化不良になったかもしれない。内容の厳選、教材の改良が次に課題と考えている。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・普通であった)

【学生の学力の差が大きい】

・学生間の学力差が大きい、入試制度の多様化で、学力あたり学生が入学してくる。(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・普通であった)
・学生の基礎知識に大きなばらつきがありますので、常に、「よく理解できる 全く理解できない」の間が大きいことがひとつの問題点であると思っています。どこに中心をおいて授業をするかが解決しない問題です。(私立・60代・教授・理学系・修士課程まで・普通であった)

【学生は正当な意見を述べている】

・学生は統計的には正当な意見を述べている。(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・普通であった)

【練習問題を多く行う】

・練習問題を多く行う。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)
夫、社会の動向と講義の関連性をできるだけつけるように工夫した。(私立・60

【シラバスの尊重】【学生の意見を取り入れる】

・シラバスの尊重。学生の声をできるだけ取り入れる工夫をした。AO機器の利用、板書の工
代・助教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【中程度の学生レベルに合わせた講義内容】

・講義内容を中程度の学生レベルに合わせて、発展的トピックは少なめにした。(私立・40代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【ポイントを絞りきれなかった】

・講義でのポイントを絞り切れなかったこと。

(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【レジュメ】【資料の配布】【話し方】

・レジュメ、補充資料の配布、話し方(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【豊富な知識】【授業の構造的組立て】

・豊富を知識、授業の構造的組立て。(私立・60代・教授・総合科学系・修士課程まで・普通であった)

【プレゼンテーションの仕方】

・プレゼンテーションの仕方。(私立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・普通であった)

【熱意】【パーソナリティ】【知識】【準備】

・熱意、パーソナリティ、知識、準備。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【プリントの使用】【視聴覚機器】

・プリントや視聴覚機器を使うことから。(私立・50代・教授・総合科学系・修士課程まで・普通であった)

【講義内容の価値が学生に伝わらない】

・講義内容の価値が学生に伝わっていないことが原因と思われる。学生が要求しているものとは、すぐ役に立つもので、当方はその基礎を伝えたいと目的がずれていることに原因。(私立・60代・教授・理学系・修士課程まで・普通であった)

【授業改善と学生の勉強不足】

・授業の改善の余地があるという教員側の問題と受講者の不勉強という双方のかかえるマイナス要因があるため。(私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【授業時間が長い】【内容が難しい】【話がへた】

・授業時間が長い、内容が難しい、話し方がへた。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・少し低かった)
・話しが長くてくどい。そのためにこの時間に何を学ばよいか学生の頭に、焦点化されなかった。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)
・学生の興味を持続させるのがむずかしい。90分授業だが長すぎると思う。(私立評価)普通であった)

【声の大きさ】【黒板の使い方】【英語の使用】

・声の大きさ、黒板の使い方、英語の使いすぎ、漢字またはひらがなの明確さ(きれいに書くよ

うに)。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)

【学生の意識が身近に感じるようになった】

・学生の意識が身近に感じるようになった。(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・普通であった)

【情熱】【黒板の字が読みにくい】【授業内容が難解】

・情熱は評価された。黒板の字が読みにくいという意見があった。授業内容が学生に難解だった。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)
・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ【担当授業の授業

【熱心で意欲的である】

・教育指導が熱心で、意欲的であったと思われる。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)

【フィードバックしきれなかった】

・フィードバックしきれなかった。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【休講があった】

・病気による休講のためであろうか。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【学生に不向きである】

・担当科目が学生に少々不向きである；担当授業数が多い。(私立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・少し低かった)

【第三者による授業成果の評価がない】

・第三者による授業の成果の評価がなされないため。現在の評価システムでは、教育レベルを下げて、楽に合格単位を出す教員の授業が高く評価されるように思われる。(私立・70代・教授・工学系・教養教育のみ・少し低かった)

【質問がなかった】

・授業に活発さが無いとの評価、質問を出さなかったなどが言われた。(私立・50代・講師・工学系・修士課程まで・少し低かった)

【学生の理解度を確認しながら授業を進めた】

・学生の理解度を確認しながら、授業を進めるようにしたこと。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【準備不足】

・初めて開講した科目であり、学生(受講生)の様子が把握しきれず、準備不足であった。(私立・30代・助教授・工学系・学士課程専門教

育・少し低かった)

【板書が整理されていなかった】

- ・テキストの内容に関連して、此の方の独自の考え方を展開していくことが授業からの脱線と思われたようである。また板書が整理されていなかった。(私立・60代・助教授・工学系・修士課程まで・普通であった)

【教員全体の共通理解】【雑務の軽減】

- ・教員全体の共通理解。雑務の軽減。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【平均的な授業をした】

- ・多人数教育のため教育レベルに幅があり、平均的な授業をした。(私立・50代・助教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【あまり重要視していない】

- ・総合教育(一般教育)に対してあまり重要視していない。(私立・50代)

【講義内容を丁寧に行う】【熱心に行う】

- ・講義内容を丁寧に行う。講義を熱心に行う。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明)

【学生個人への対応】

- ・実習形式の授業で、学生個人への対応の濃淡。(国立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・問20にみられるような点だと思う。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・授業の理解度を重視し、少し時間をかけて説明した。確認テストを行い、その結果を次の授業にフィードバックした。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・不明)
- ・どの程度分かり易かったか、どの程度充実していたか。(国立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・熱意、授業時間内の教室の雰囲気、資料の提示など。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)
- ・問24、25は結果わからないので答えられません。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)
- ・興味をもったとする学生と、そうでないとする学生があ半々であり、3と判定した。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)

資料6 自由記述(【問31】)

【問31】大学教育を活性化するための課題や方策についてご提案がございましたらご記入下さい。

【役に立つ授業】

- ・特別なことは思いつきませんが、やはり、少なくとも低学年のうち、学生から見て「役に立ちそう」、「興味がもてそう」、「必要そう」などなど、教員が「教えたいこと」「わかってほしいこと」と「教えてほしいようなこと」とのinterfaceを工夫することが、第一歩なのではない(国立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【高校教育制度】

- ・私は東欧の大学で教えたことがある。大学生のレベルは高校教育で決まるように思われる。日本の旧制高校のシステムに近く、留年も普通の現象である。大学はその前提で教育・研究を行うのであるから、大学全体が質は高いものとなる。又、学位を取得して卒業する方法と、無学位で卒業することが可能であり、日本もこの制度をとるとよい。それによってきびしく成績を評価することが可能となる。(国立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・少し低かった)
- ・大学が大学本来の教育をするために、高校までの教育をもっと充実させる。(私立・40代・講師・理学系・修士課程まで・不明)

【入学時の学生の学力】

- ・根本的な問題は、入学時の学生の学力、勉学意欲、目的意識の低下にあり、大学だけに責任の鋒先を向けるのは誤りで、出来ないこと、辛いこと、嫌なことはしなくてよいという甘えを許す社会や家庭にこそ重大な責任があることを認識すべきである。子供達が何故勉強するのか、何故努力が必要なのかを小・中・高の段階でしっかりと教え、競争していることを理解させることこそが先決である。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・大学教育以前に、高等学校での理数系科目をもっと重要視すべき、大学に入るべきでない資質の学生が大半である。存在価値のない大学が多すぎる。大学の縮小・再編時に三流私大をしてもらいたい。三流私大には、 $2/3+4/5=6/8$ と解答する学生がいると聞く。(国立・40代・助教授・工学系・修士課程まで・普通であった)

- ・与えられることを望み、積極的に発言しない"受け身学生"が半数以上をしめている印象がある。まず入試でモチベーションの低い学生が(いくらpaper testが優秀であっても)ふるい落とされるような工夫が必要である。また、そのような学生が他国に比して圧倒的に日本で多いのは、社会や親の世代の価値感に大きく影響をうけている(悪い方に)要素が強い。大学教育の活性化の背景には社会の成熟が欠かせない。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【基礎学力】

- ・現在数学教育を担当しているが、これに限っていくつか気のついたことを列挙する。大学の機関の性格上、教員は研究を行っていることが大前提であろう。研究の前提のない教育は大学教育とはいえぬ。工学に高度な数学が用いられていることは今も昔もかわらない。私はそのような数学の教育を担当している。ところが最近の「ゆとり教育」で十分基礎の身につけていない者が、大学に来ており、教育量の負担、しわ寄せがすべて数学教育最終段階にある私のところに来ていいる。大学に来てから補習をすればいいという意見があるが、数学の学問の性質上、中学・高校の若いときに基礎をたたきこむべきである。算数・数学に限っていえば、中・高ではかつての画一的な詰め込み教育を復活させるべきであろう(このおかげで70年代日本の技術力・工学力により驚異的な経済発展をとげた)。工学部学生に要求される高等数学の水準は今もむかしもかわらないのであるが、中・高でのんきに過ごした結果、大学に来て逆につめ込み教育がおこなわれているという皮肉な結果となっており、大学生としてもっとも大事な考える行為にかかる時間が十分ではない。その結果、講義でも本来やりたような内容が、時間不足、学生の力不足によって十分できず、これが最近の大学教育(とくに数学教育)のつまづきの一要因と考える。(国立・30代・助教授・理学系・修士課程まで・不明)
- ・私の勤めるようないわゆる「底辺校」では、絶対的な学力が不足している学生がほとんどである。そこで、何とか学力を向上させてあげたいということ、様々な方策が本学でもとられてい

る。そのような取り組みを見たり、自分でも実践してみると、「基礎学力」に相当することばかりやってみても、学生には面白くないのだと分かった。他方、多少なりとも専門性を上げると、そんなものは世の中で役に立たないとい学生からの批判が出てくる。大学での学問とは何かということさえも分からない学生をどうするかは大きな問題だ。(私立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・少し低かった)

【教育活動の評価】

- ・教育活動に対する教員の評価、手法を確立していく。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・結局の所、良い教育をしている先生・学科・学部・大学を評価し、何らかのインセンティブを与えていく事に尽きると思う。ただし、「良い」教育の物差しは単一のものではなく、多様な物差しがあることに注意すべきである。(国立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・教育活動に対して合理的な評価を入れる。(国立・50代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・教育はあまり重視されていません。教育活動に対する具体的な評価方法がないためと思います。これが重要と思います。(国立・40代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)
- ・教員の昇進審査に論文数だけでなく、教育活動も取り入れる。各教員に少なくとも1名のTAをつける。(公立・50代・助教授・教養教育系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・教育活動を正當に評価することにつぎるのはないでしょうか。(公立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・不明)
- ・教員の評価(採用、昇格)にあたって教育活動能力を重視する。それには教育能力の評価方法の確立が必要であるが…。研究業績の数に偏った審査や学閥による人事が多すぎる。研究者としての能力が重要であることは確かであるが、同時に教育者としての資質も併せて求めるような体制づくりが必要。(公立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・高い評価)
- ・教員の教育活動を評価すること。そのための良い評価方法を作ること。(私立・60代・助教授・工学系・修士課程まで・不明)
- ・大学や学部、学科毎に問題点が異なるため一般論が難しいと思います。個々の教員の研究活動は評価の場がありますので(学会など)教育活動は客観的な評価方法を確立することが課題だと思います。欧米式に学長や学部長の権限と責任を強化・明確化し結果を重視すべきだと思います。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・不明)
- ・教育活動は研究活動と違って業績という形にあらわれないことがないので、大学は評価しない

(しにくい)為に、研究活動に専念(昇進のため)する教員が多い。学生にとっては教員の研究活動など何の関心もない。又、彼らの学力向上にもつながらない。学生評価を重視するという大学もあるが、学内だけで実施するので公開されないからインセンティブ(教育活性化)につなげるはずがない!(私立・40代・講師・人文科学系・修士課程まで・高い評価)

- ・教育活動の外部評価。コメント:国立と違い私学では担当する授業が多様であるので、学士の教養と専門だけでは不十分。どのクラスを念頭においたらよいかかわからないので、答えにくいアンケートだった(特に、問7~8を含む前半Q1-14)。語学・ゼミ・大講義・情報処理と多岐にわたっている。(私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・これからの学部の使命は研究よりも教育にあるのだということを経験者に自覚させることが先決。そのためには昇進その他において教育活動における貢献をより反映し、重視するシステムを構築する必要がある。こうした現実面での了解がまずないとFDなどの教育研修にも積極的自発的参加は望めない。理念だけでは人は動かない。(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・不明)
- ・研究業績偏重の評価から教育活動を評価する方法を確立すること。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)
- ・教育活動を昇進や給与に反映することが重要。教育準備のための「研究」時間の確保が重要。これが個人の専門研究ののに振り向けられている。現状をと思われる。(私立・60代・教授・総合科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・学部の特殊性から、日常の診療、研究活動と教育活動を同等に評価する素地、環境がない。よって、教育に費す労力はボランティア活動に近いものがある。正當に評価される環境が構築されないと状況は変化しない。(私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・不明)
- ・大学教育の活性化は大切ですが、現状は研究のみ評価されます。教育を重視しても、見返りはありません。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生のニーズに合致した教育方法】

- ・我国に数ある大学に、入学目的が全く異なるレベルがあることを重視し、それぞれ学生の期待・質に合致した教育方法を選択することが肝要。新しい時代(21世紀)の価値観、ありうべき姿を前世紀の遺物たるわれわれが、早く認識すること、そのことを議論する場、雰囲気は大学にあること、大学の教授会で入試制度改革、規定改正、研究・教育評価等などの議論にかつてはあった『大学とは何か、学問とは何か、教育とは何か』の議論が失われて久しい。(国立・50代・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程

度高い評価)

- ・受講学生の意見を聞く、他校の資料を参考にする。(私立・50代・教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生の思考形態、行動形態の変化に合わせて、教員側も教育法を考え直す必要がある。(私立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・不明)
- ・学生のニーズを知ること、きめ細やかな対応ができることだと思います。学生に好きな科目、苦手な科目をきいてみたところ、好きな科目の特徴は、教員自身に魅力がある、教え方がうまい、話題が豊富などで、苦手な科目は、わかりづらい科目、板書が極端(少なすぎ、多すぎ、字の大きさが小さい)、教科自体が苦手などでした。特にゼミなどは少人数で、一人一人に目が届くこと。(本校は15 - 20人程度です) 困った時に手を差し伸べられる存在であることが必要だと思います。ただ、学生に接している時間が多いことは、反面、研究時間が削られ、よりよい教育を与えられないことにもつながります。バランスがとれるよう各教員の努力、もしくはコマ数の減少が必要かもしれません。(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・不明)

【高校との連携】

- ・JABEEの教育プログラムの検討が各大学で行われているが、高校との連携がない。高校で何をどのように教えているのか、大学だけの問題では何も解決しない。再教育システム(落ちこぼし対策)も必要と思う。(国立・60代・助教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【教育評価の高得点のために努力する施策はさける】【個性的教育の育成を行う】【教官の人生観が伝わる教育法】【学生に迎合しない】【ティーチングアシスタント】

- ・(1)大学教育は教育評価の高得点のために努力する施策はさけるべき。(2)教官独自の個性的教育の育成を行うべきである。(3)教官の人生観が伝わる教育法を育成するべきである。(4)学生に迎合した教育法が正当化されるべきではない。(5)アメリカのように、大学院生のteaching assistant制を考えるべき。(国立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)

【国際的な連携】

- ・国際的な連携を計る。漆芸の教育は、日本の東京芸術大学が世界の中心であり、各国からの共同研究の依頼が多い。学生間の交流を促すために確実な情報を提供し、国際的視野を持つ学生を育てる。(国立・50代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明)

【研究、教育に専念できる環境の確保】

- ・研究、教育に専念できる時間、環境の確保。

(国立・60代・教授・不明・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【社会のニーズに対応】

- ・社会と大学の接点を深め、社会のニーズに対して大学側も鋭敏に反応していく姿勢が求められる。社会人、生涯教育にも受け入れる皿を拡大していく。(国立・30代・助教授・その他・教養教育のみ・不明)
- ・社会的ニーズとの整合性に配慮する。(私立・50代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【評価システムの精緻化】

- ・評価システムを精緻化すべきと思います。理系と人文系と社会科学系と、少なくとも3つに最低分ける。あと、学会ベースとそれ以外(マスコミ・ベース等)に分ける。これで、3×2の評価システムを確立する。この妥当性を確保する、それなりのワーキング・コミュニティを創設することになりますが、この人選を年寄りにかかるとサイテーになる。一本釣り、評価システム構築機構をヘッドハンティングすべき。わかりますか？(国立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)

【評価システムの改善】

1. 教育の個人的努力を奨励し、サポートするモラルとシステムを各大学なりの条件に応じてつくるのが現在の課題2. 私学の場合、非常勤講師の協力なしに教育は遂行できない。教育の改善のためには非常勤講師(特に本務校をもたない人)の待遇改善と協体制の構築をまじめに考える必要がある。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)
- ・良い研究、教育が評価され、怠惰な教員が排除されるような規律付けのメカニズムが必要である。また社会、企業が学問や高等教育の重要性を今以上に評価する必要がある。(私立・40代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
 - ・褒賞必罰の正当評価が必要。先生の熱意を学生はクールに見ている。やる気のない先生には学生もついてこない。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
 - ・研究、教育、学内活動、社会活動の評価方法の確立とその指導体制。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
 - ・授業評価・FD活動、教員の業績・社会活動・学内の委員会活動の公表は、形式上行われているが、「研究 教育 学内の委員会活動、社会活動の観点から教員をどのように評価するか」の部分がまだまだ遅れていると考えています。昨年度27項目で評価を試みましたが、まだ制度化までには至っていません。このあたりの体系的な評価システムを構築することが必要だと考えています。(私立・50代・教授・社会

科学系・教養教育のみ・高い評価)

- ・問14にあるような評価システムを導入できれば、一気に状況は変わると思います。大きな抵抗がありますが。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・少し低かった)
- ・大学活性化や、教員の諸活動に対して、目に見える方法(給料・ボーナス上げるとか、研究費・研究旅費併用出張などの協力)を強化すべき。やる気、頑張る人を大切に、評価してあげる。そんな制度をつくり上げるべき。(私立・不明・助教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・適正な評価(しかし、これが困難)(私立・40代・助教授・総合科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・教育業務と研究業務を明確化して、それぞれの評価を実施する。教員の適性を業務別に評価し、適正な配置を行う。(私立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【教員評価】

- ・教官の評価を改善する。研究活動にともなう論文数だけを評価の対象とする方法は、「教育」をだめにする。研究・教育・社会的貢献の三つを同等くらいにして評価しないと教育の活性化は無理。(国立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・教官評価の実施、任期制の導入等により、学内に緊張感を持たせる。(国立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・教員の評価と教育改善の関係を日本中で認識する必要がある。(国立・40代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・教育改善には多く、問題が有る。一番は教員の評価システムが教育に重点を置いていないところである。優秀な研究者は必ずしも優秀な教育者ではない。アンケートにも有るように、教員の評価制度、報酬制度、FD(強制的に参画させる) 教員相互による授業参加などを仕組みとして組み込み、教員全員が改善する努力を行うよう同じベクトルに向けていくことが必須である。(公立・50代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生による授業内容のフィードバック】

- ・学生による授業の内容についてのフィードバック。授業内容と方法の情報交換(学内だけではなく、大学間で同じような授業を担当している人たちで)。(国立・50代・助教授・教員養成系・学士課程専門教育・不明)
- ・出席学生に、講義概要メモの提出を義務づけて、その文末に講義への要望・感想を自由回答で記す枠を作っていた。必ずしも体系だった質問記入方法でもなく、任意の回答であったため、参考にとどまるものと考えている。(私立・40代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【学生の質を測定できるシステム】

- ・学生による教員評価システムの導入だけでなく、学生の質の変化を客観的に測定できるシステムを導入する必要がある。学生による教員評価だけでは、安易に学生に迎合する教員が出てくる可能性がある。(国立・30代・講師・人文科学系・学士課程専門教育・不明)

【成績評価を厳格にする】

- ・成績評価を厳格化する。・芸術科目(音楽棟を重視したカリキュラムを作る。・学生自身に自尊心(プライド)を与える。・教員=学生とのcommunicationをより密にする。(国立・40代・助教授・教員養成系・学士課程専門教育・高い評価)
- ・成績評価の厳格化に尽きると思う。現在の日本の大学は、教員・学生の相互に甘えがある。もっと緊張感があるべき。(国立・30代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・成績評価の厳格化と一定の成績に達していない学生に対する退学制度の導入。および大学間の移動を促進する為、入学金の廃止ないしは共通化、教育に対する評価を給与に反映させる。(私立・40代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・評価の分布の開示(A、B、...不可の割合);安易に「A」「優」を出す授業の開示(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教育・研究以外の業務が多い】

- ・現在は、学内の教育・研究以外の諸業務があまりにも多すぎる。サバティカル等の制度をきちんと整備すべきである。図書や教育機器等、教育の条件整備がまだまだ不足。(国立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・特に提案というわけではありませんが、個人的事情としては通勤時間が3時間以上で、また公務・会議が多く、落ち着いた教育研究に従事できない状態が続いています。これは大学全体の問題で、管理・運営活動を効率化して、その節約分を教育研究にあてるようにしなければならぬと考えます。(国立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・1.学内の管理・運営のための様々雑用が多すぎる。2.授業のコマ数が多すぎる。3.ゆっくり研究の時間がとれず、夏休やすみなど休日が研究中心の時間になる。4.大学教育のレベルが低下してきている。本当に学問をしたい人が進学してくるのでなく、なんとなく大学教育を受けにくる意欲のない学生が多く、手間や時間がとられる、真に学びたい人を入学させることが活性化になる。(国立・60代・教授・家政学系・学士課程専門教育・不明)

- ・学内の管理 ・運営に関する活動の負担が大き
く、研究 ・教育に費やす時間がとれない。特
に実習時期は、これが優先し、教育準備のため
の時間が無い。(公立・40代・教授・その他・
学士課程専門教育・普通であった)
- ・私立大学のためか、教育にかかる時間が少ない
のが問題である。若手が雑用を行い、教授は隠
居状態の人もいる。いくら努力してもその効果
が他のことで打ち消されるのは良いことではな
い。本当は自浄作用に任せたいところであるが、
FD等のような活動を行わなければそのことに気
付いてもらえない現状が非常に情けない、とい
うより学生に申し訳ない。(私立・30代・助教
授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い
評価)

【大学改革による多忙化】

- ・定額など人的資源の減少に対して、大学改革な
どの多忙化。時間と人的資源が限られる中、何
が大事なのかを考えるべき。FD活動も無駄なセ
ミナーや活動が多い。まずは一部の学生から極
めて悪評の高い教官の講義を改善すること。そ
の方策を考えることが重要だと思われる。(国
立・40代・教授・教員養成系・学士課程専門教
育・不明)
- ・大学の再編問題で時間が取られ過ぎて、本来の
研究 ・教育活動の時間が不足している。一刻
も早く教育システムの安定を望みます。(公
立・60代・教授・総合科学系・学士課程専門教
育・不明)

【学生の確保】

- ・定員割れの瀬戸際にある学科で学生の確保策
、学生の資質に下限なし、「活性化」に本音でや
るのかタテマエ(学生が勉強しにくいと言う)
であるか。(国立・50代・教授・農学系・学士
課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生指導】

- ・大学教員の評価は、現状では研究論文第一であ
るため、教員は論文を書くために優秀な学生を
選別している。また、報酬のために非常勤とし
て学外へ出る時間が多い。その上、マスコミ等
学外への露出度を評価したのでは、ますます学
生指導がおろそかになる。課外活動に対する指
導は、非難される上に、交通費・宿泊費も自腹
では若い人はとてもできない。学生が最も熱心
な部分が空洞化している。(国立・60代・教
授・その他・学士課程専門教育・不明)

【学生による授業評価】

- ・大学の講義の学生による評価をもっと組織的に
行うべきです。我々のような地方大学には大学
教育の活性化が大学の存在に大きく依存してい
る。もっと大学教育の改善に向けての活動を重
視すべきである。それこそが大学の生き残り策
のポイントだと思います。(国立・50代・教

授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い
評価)

- ・学生による授業評価、シラバスの義務化、休講
大学の教育改革は進んできたが各教員の教育に
欠可する意識の高まりが、更に必要と見る。1
5年度の本学は他の教員に参考になるような教
育奨励賞を設けた。それが教員の刺激になれば
と期待したい。(私立・60代・教授・理学系・
博士課程まで・普通であった)
- ・特になし ・ ・ ・。とはいえ、あえて言及
すると ・ ・ ・大学教員たる者、研究活動
は最も重視されるべき仕事であることは無論で
あるが、教育活動にあまり熱心でない教員が多
いことは悲しむべき事態である。学生による授
業評価を含め、教育活動自体がより重視される
ようになれば、日本の若者達の知識+情操面の
向上にも少なからず寄与できると思われる。
(私立・50代・助教授・不明・修士課程まで・
ある程度高い評価)
- ・学生による授業評価を元にした授業改善は大切
だと考えます。それと同時に進級試験や退学や
勧告など、学生の学習意欲に緊張感を与える方
策も合わせて重要であると思います。「合格通
知=卒業証書」では大学の存在価値はないこと
と等しい入学者を全員同じようにお育て申し上げ
る時代は終わりつつあるように思います。
(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門
教育・ある程度高い評価)
- ・ ・学生による授業評価の取り入れ。 ・授業
手法の研修。(私立・50代・教授・社会科学
系・修士課程まで・普通であった)

【研究時間の確保】

- ・ ・研究の時間を十分確保すること。 ・全学
や学部の教育目標や方針にただ従うだけでなく、
自ら考え判断すること。 ・優れた教授法とさ
れるものを良く知った上で、自分なりの教授法
を確立すること(画一化は極力避ける)。これ
らが重要であると考えます。(国立・30代・助
教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・当大学のような専門職教育を中心にした大学で
は、専門教育担当の教員の、授業、大学管理運
営のための所要時間(特に実習教育があるため
)が多く、一般教育担当教員との差が大きい。
研究活動のための時間確保、予算の柔軟な運用
などが今後必要な改善となる。専門教育教員は、
過度な教育活動の上に、研究推進の責務も大き
く、疲弊してしまい、学生に対するサービスの
質、ひいては意欲に影響が出かねない。一般、
専門の教員数のバランスの是正が必要です。
(公立・50代・教授・その他・学士課程専門教
育・ある程度高い評価)

【担当科目数を減らす】

- ・1. 担当科目数を減らし、担当科目の密度(レ
ポートに赤を入れて直す、課題を与え個別指導
するなど双方向性向上)を向上する(2単位90時

間を実質的に行う)。2.経営情報学会誌Vol.12, No.1(2003年6月号)の私の論文を参照願います。(国立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【基礎が身に付く教育】

- ・最近の学生の学力低下に伴い(？)授業の質を下げる傾向があるように思う。現にしっかりした教科書(いわゆるグローバルスタンダードに合わせた日本語の本)がすたれ、薄っぺらな内容の専門書が目につく。だからこそ、物事の基礎がしっかり身につくような教育が必要である。安易にレベルを下げたり必要な教科まで選択科目にすることは反対である。(国立・60代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・学生の質、興味関心が激変している。特に、教養教育では、大学生としての基礎的教養は徹底して学習させねばと思う。一方、この基礎的教養の内容について検討を要す。(国立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・普通であった)

【補習授業】

- ・高校で物理を習っていない学生の補習授業をやっているが、物理的思考、興味を持たせるようにしている。高校と大学との関連から、今後このような授業の必要性も増すと思われる。パワーポイントなどの最新機器を活用することも、時によって必要だが、従来どおりの黒板にきめ細かく書くことも教官には重要である。(国立・60代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の基礎能力に合わせた教育】

- ・入学して来る学生の基礎能力に合わせた教育、及び塾育ちの現代の若者へ接し方並びに指導法の検討。(国立・60代・教授・理学系・学士課程専門教育・低かった)

【FD活動がFDを妨げている】

- ・この方向に進みすぎると時間がいくらあっても足りない。授業アンケートの集計...等々々々仕事が増えている。それが講義を充実させる時間を圧迫している。FD活動がFDを妨げていると思う。それがさらに助長されるようであれば、大学レベル、学部レベルのFD活動に消極的にならざるを得ない。(国立・40代・助教・工学系・教養教育のみ・普通であった)

【少人数教育】

- ・少人数教育(現在の3/1程度)として回数を増やす。通年で実施し、演習を入れる(現在は、半期のみなので、時間が不足して充分できない)。学生の受講カリキュラムが過密すぎて消化不良なのでこれを解消すべき。(国立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・

普通であった)

- ・小人数教育(30人程度まで)が必須。教員が最新の研究(技術)に参加(企業に派遣)することが必要。少なくとも3~5年に1~2ヶ月。国際会議に参加すると共に、外人教員を短期招聘し、学生に刺激を与える環境を多くする。(国立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・不明)
- ・自分から課題、問題点を見つけ出し、少人数のセミナー形式で発表、評価する。実際にそくした実習を責任をもって達成させるカリキュラムを採用する。(私立・60代・教授・医歯薬学系・博士課程まで・高い評価)
- ・卒業研究やゼミナール等の少人数教育と力学や初等数学の大規模(全国的なテレビ放送など)教育とにアクセントをつけて実施する。代数や微積分を全国レベルで試験し、10級程度に分けた級を授与して向上意欲を刺激する。補習をITやPCによって細かなフォローを図る。向上の程度を評価するシステムを作る(絶対評価でないものにする)。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・低かった)
- ・私大の場合、どうしても対学生数がネックとなっている。教育の単位を少人数にすることが先ず重要だと思う。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・小生が所属する大学に限ってのことだと思いますが、授業改善の試みの効果があまり上がりません。学生に十分理解させながら講義や演習を進めるには、小人数教育が必要ではないかと考えております。現在、担当授業科目でない科目で50人編成クラスで授業を行っていますが、50人でも多いと感じています。(私立・60代・助教・工学系・修士課程まで・不明)
- ・小人数教育。ディスカッションや自分で探求する時間の充実。質の低い教員の正しい評価。情報の公開。教員がもっと自由に交流し、特定の大学に長期に留まらない方がよいのではないかと考えます。(私立・40代・教授・その他・修士課程まで・少し低かった)
- ・人口減少による入学者数の減少は避けられない。よって、大人数大講義方式はやめ、小人数に分割、余剰教員を動員して、きめ細やかな、ゼミ方式の講義、授業を今後ふやしていくべきではないか?それと、机上の学問ではなく、実地で体験的教育を重視。(私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【全国の大学で授業評価を行い、一定のレベル以下の教官は授業方法を改善する】

- ・日本のすべての大学で講義の評価を行って、一定のレベル以下の教官は講義方法に改善を促すようにした方がよい。大学教官のつけた成績に対する学生や社会の意識が、アメリカなどに比べて低い。成績をつける時にもう少し厳格にし

た方が良し、それを学生や社会がしっかり受け止められるように改善が必要があると思う。(国立・40代・助教授・農学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【演習を取り入れる】

- ・講義にも時間中に演習を含ませ、ペンを持って手を動かし考えさせる要素が必要と考える。宿題を出したあとの点検がたいへん。TAが有効に使えればよいが、帯に短し。勉強は基礎から積み上げてだんだん理解が進むことを学生に伝えたい。授業に10分遅刻したらその日の授業についていけなくなることをなかなか理解してもらえない。選択の授業だから無理に引きとめはしないが、これでよいか?とも考える。提案でなくて申し訳ありません。(国立・50代・教授・農学系・学士課程専門教育・不明)
- ・実験・実習・演習を重視すること、教える量を少なくすること。(私立・70代・教授・工学系・教養教育のみ・少し低かった)

【研究担当と教育担当に役割を分担する】

- ・研究担当と教育担当に役割分担を明確にすべきだと思います。例えば、A氏は、研究/教育=8/2、B氏は1/9など適材適所に。(国立・40代・教授・農学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・教員が研究する意欲と時間がなければ、大学教育は充実し得ないと思う。そのためには教育専門の教員(TAを含む)がもっといてもいいはずだ。大学レベルで真に内容のある授業をしようと思ったら、週2コマ以上は本当に無理なはずだ。現実には、6コマ担当しなくてはならないから結果的に研究に専念する時間がない。またもっとまとまった時間がなければ、内容の濃い研究はできず、大学の教育環境も活性化されない。(私立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・不明)

【授業評価に名前を記入させる】

- ・指定した本を読まない、出席をとった後でココソとぬけ出す・・・が、無記名で行う私の授業に対する授業評価など無意味である。評価を行う資格がある学生かを、まず教師が評価すべきだ。アンケートは、記名にして自分の意見に責任を持たせる必要を感じている。(国立・40代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・普通であった)

【幅広い視野を持つ学生を教育する】

- ・教育、教養系の学部のため、幅広い視野を持つ学生を教育することも重要だ(特に、自然科学系の近年の各分野の細分化、各知見の増加、深化に対して)。このために高校までの教育と大学の教育の相互補足がより重要だと考える。(国立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・普通であった)

【研究活動】

- ・豊かな研究からしか活路はひらけないと思う。(国立・40代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明)
- ・教育の質を上げるために、常に研究の心が要る。そのような教育の活動を、もっと正当に評価し、研究費、昇進に反映させるべきである。(国立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・不明)
- ・1. 指導者は常に幅広い研究分野と豊富な知識をもつこと。2. 学生の能力向上のための努力をすること。3. どんな学生に対しても目を向けられるよう(個人重視)な教育をする為の少人数クラス編成が必要。4. 指導者の年齢を差別しない。(国立・60代・教授・不明・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・研究水準の向上が教育内容の改善につながるといのが大学教育の本領なので、教員の時間と予算を確保して欲しい。(公立・20代・助教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・とあるセミナーで小規模で受験者の少ない大学は教育に専念すべきであって、研究は「趣味」でしろと言われたが、これでは逆に教育活性化を鈍化させると思う。研究活動の保証があつてこそ教育にも熱意を持つようになるのではないか。教育内容の向上の基本に研究があることを忘れてはいけない。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【評価体制の充実】

- ・評価体制の充実が必要でしょう(カリキュラムの検討と学生指導の目標の明確化も)。(国立・40代・助教授・教員養成系・教養教育のみ・高い評価)

【社会全体の中の教育の位置づけ】

- ・大学内の教官等とばかりディスカッションするのではなく、社会に出て異業種の方達と話し合い、討論会をする事で、社会全体の中の教育という位置付けで大学教育もとらえる様努力する。(国立・40代・教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【教員相互に助言と批判が行えるシステム】

- ・組織的なカリキュラムの実施体制-授業は教官に属するのではなく組織的な教育課程に属するのだから、教員相互に助言と批判が行えるシステムが必要。成績評価も上と同様、何をどのように評価するかは、組織的基準があつてしるべきだ。たとえば、Aはおおむね10%とするとか、達成度をこの程度と考えて評価するのだというように、個人的な趣味や主義でなく評価方法を持つべき。GPA, CAP, 1単位の勉強量の確保というような目標の設定、明確化を行うこと。これは、提供している教育サービスのアカウタビリティである。(国立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・不明)

【「ゆとり」と「充足社会」の弊害】

- ・所謂「ゆとり」の弊害と「充足社会」の弊害を何とかすることが最も問題である。(国立・30代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【基礎専門科目の標準化】

- ・基礎専門は、内容の標準化(できれば日本全大学で)をはかり、共通教材の開発を行うべき。各教員はそれに+ することで、時間の効率化をはかることができる。これは、シラバスで完成された内容の質の保障、社会からの要請の反映、授業内容のレベルづけ、単位互換などに重要である。(国立・30代・講師・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教育と研究をリンクさせることが困難】

- ・(課題)実践的教育が期待されている(学生を望んでいる)状況で、教育と研究を直接リンクさせることが難しい。両立に要する時間が増加している。(方策)授業担当をチーム制にする。チームで授業内容を検討、共有し、年毎の持ちまわりにすることで、質の改善、負担の軽減、人事によらない継続性が可能になる。(国立・30代・講師・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教育の自由と管理組織の主体性】

- ・文科省の通達を受けて動くという教育の自由及び事務や管理組織の主体性の欠如を改善しないことには、真の意味の活性化は起こりえないと考えます。教員自身も自由闊達さに欠けていると思います。自分の研究には打ち込むが教育には関心のうすい教官が多いのではないのでしょうか?教員の評価の在り方etc.教育制度や評価組織の在り方etc.、問題は山積みしていると思います。これをどうするか、具体的・建設的なアイデアは浮かびません。(国立・50代・教授・不明・学士課程専門教育・不明)

【閉鎖的な組織風土を一掃】

- ・担当領域に関して閉鎖的な(囲い込み)組織風土を一掃するともっと発展すると思います。教授がプライバシーにまで口をはさんだり、教員の研究に対して求めないにもかかわらず口を出すのは困ります(アカハラ)教授になるものに対して管理的な要素/権限を与えるのであれば、その資質を保証する方法を構築する必要があると考えます。(国立・60代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生の主体性を重視】

- ・学生の主体性をなくすほど手を差し出す親切なカリキュラム等の教育方針を行う必要はない。教育の活性化を逆に低下せしめる。(国立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)

【自分で幅広く学問する姿勢を身につけさせる】

- ・学生にテーマを与え、テュートリアルの時に、自分で幅広く学問する姿勢を身につけさせる。臨床科なので、積極的にベッドサイドへ導き、実際の患者さんの中において討論、考えさせる。従来のスライド、プリントの講義ではダメである。(国立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【全大学の努力】

- ・大学教育の重要性を行政や一般のレベルで認識させるための一大学をこえた全大学による努力。学部、講座レベルでの教育に対する責任の明確化。各教官の教育者としての自覚。なにより大学教官の身分保障。(国立・40代・助教授・教員養成系・学士課程専門教育・不明)

【思考指向、実験、模索の機会を提供する】

- ・社会における大学の要請は、専門知識習得(研究者の成果に基づく)というより、キャリアの一部を形成することにあるように思えます。いたしますと、教育の活性化とは、まず知識の供与ではなく、思考指向、実験、模索の機会を提供することであるように思います。そのためには、カリキュラムでどんな知識が必要であるかをわくにはめるのではなく、「何故なのか」を探る形式で講義と新たなカリキュラム作りが必要かと思います。(国立・30代・助教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【教育・研究の評価】

- ・実践的知識教育(技術を含む)ばかりが重視される現代の文部行政では、人文科学の基礎教育は成り立たない。教育・研究の両面において長期的視野に立ち、教育・研究を評価する仕組みが必要である。(公立・40代・助教授・人文科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【アンケートが多い】

- ・最近の大学改革の中でこのようなアンケートが大量に行われています。そのために教育・研究の時間が取られている現状をもっと認識していただきたいと思います。(公立・不明・不明・不明・不明・不明)

【研究活動の最先端に参加する】

- ・研究活動の最先端に参加していない教員が、どのように方法をいじくろうと、たとえば共通基礎科目であっても、魅力のあるものにはならないと思う。そういう意味ではまことに失礼ながら、教育学者が云々して改善され向上するものではない。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・不明)

【総ての大学を対象に教員の流動性を取り入れる】

- ・教員の流動性を高めるためには、総ての大学が

対象とならなければならないこと。業績評価は、効率性から数値化され易いが、そうならない分野については、配慮・工夫されること。また、教育に熱心なことも評価されるべきこと。大学こそ画一化を避ける必要があることを大学人が認識すべきこと。予算が厳しい現状では科研費への依存度も高まる訳だが、総額また申請方法、認定ともに問題が多いように思われる。この点だけはイギリスを見習ってほしい。(公立・40代・助教授・人文科学系・教養教育のみ・高い評価)

- ・教員・職員とも、任期制、契約制の大胆な導入しかないと思います。かなり特殊な分野ですので、専門性と引き換えに一種の契約によって職種の保証がなされるべきだと思います。能力なきものは去れという意味では全くありません。熱意さえあれば活性化は可能だと思います。(公立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
 - ・大学教員の流動性(人事交流)を高める;高い評価の授業を公開する(TV etc.);研究偏重主義を改める。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)
 - ・講座制をやめる。教授は任期制にする。
 - ・外部評価の導入。教育にもっとお金をかける。(私立・40代・助教授・歯医学系・修士課程まで・不明)
 - ・教員の任期制の導入。大学間の教員の互換。高校で行われ始めた教員の資質調査による減俸、免職等の権限を学長に与える。純粋生え抜き教員の%を決める。(私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・普通であった)
- 教員雇用任期制; 学生による授業評価; の教員処遇との連動制; 優秀な教員に対する表彰制度等のシステムをつくるのが重要。しかし、総論賛成、各論反対が、日本の現実、また、現場に待っているのは、進まない。必要なのは、強力なトップダウン。私学においては、経営者トップの決断次第(学長に影響大なり)(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【何が必要であるかを教員と学生で討議する】

- ・学生の現状と将来をふまえて、何が学生にとって必要であるかを、教員と学生が討議して確認し、取り組みの結果を学生の責任で評価して公表する。(公立・40代・助教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学科・専攻のチームワーク】

- ・学科・専攻のチームワークが大事。卒論・修論提出後その指導のあり方を中心に当年度の反省会をひらくことが必要だと思う。また、学生についての情報交換を密にしないと適切な指導が行えない。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・普通であった)

【同僚との話し合い】

- ・カリキュラムの充実のための同僚との話し合いが不十分であると反省しています。もともと「体系化」とはなじみにくい学問ですが、学部4年間の教育で、いかにも専攻の出身者であると学外者にも認識されるような幅広い教養を学生につけさせる必要を感じています。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・不明)

【大学教員同士の意見交流】

- ・国際的教育に関する情報を一般教員は調べられること(インターネットや定期・不定期出版物など)。教員の声を届ける機関・機構を設けること。大学教員同志は、相互の意見交流できる場を設ける(ホームページなど)。教育用、研究用ソフトの更新を学校側の経費予算に入れること。(公立・40代・助教授・不明・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・大学の中で、教員担当の授業をめぐる意見の交流を推進する必要がある。大学教員の研究活動は当然のこと、これは主として個人の努力に負うべきだろう。但し教育活動は違う。これは相互の交流の中で活路を見つけていくべきだ。その中で最も大切なことは学生の実態をよく見ること。(私立・70代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【データや研究を参考にした教育改善】

- ・教育改善が、個人的な体験に基づく思いつき等でなされることが多いのではないかと感じている。教育(心理)学で集積したデータや、それを研究している方々の意見があれば、そしてそれが利用できれば、より地についた効果のある教育改善策が考えられるように思う。研究・授業以外の仕事が多すぎる。研究をする時間を生み出すのが難しいし、授業も、改善の試みをする以前の毎日の授業の準備で手一杯という状態である。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・不明)

【教育・研究休暇制度の導入】

- ・教育・研究費の充実。教育・研究休暇制度の導入。(公立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【担当したがない講義を引き受ける教員が評価されるべき】

- ・質問が余りに型にはまっていて答えに窮した。問13、問14については、大学全体として教育方針からやらざるを得ない講義がある。しかし、誰もやりたがらない。そのような講義でも引き受けていただける人をほめるべきで、自分のやりたい講義を改善するのはあたりまえです。問1(公立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)

【実験器具が安く手に入ると良い】

- ・物理教育に必要な、学生が興味を持つようなオモチャ(実験器具)が安価に手に入るとうれしい。(公立・50代・教授・理学系・学士課程専門教育・不明)

【長期的な成果】

- ・短期的な成果や経済的な成果、あるいは効率のみを追求することなく、ある程度以上の余裕をもって、教学にあたる体制を整備することが大切だと考える。その意味で、国公立大学の法人化や、中、短期目標の導入は、非常に有害である。ただし、教員が、相互に授業参観を行ない、批判をしあうなどのFDの積極的な導入は、必須である。(公立・40代・助教授・理学系・教養教育のみ・高い評価)
- ・私の専門が人文系ですので特にそう感じるのかも知れませんが、本当に質の高い研究や教育とは、本来短期的なスパンではなかなか生み出されないものだと思います。そのことを念頭に活きた上で、しかし、研究・教育を組織的に活性化させていく必要は確かにあります。私は、そのための方策の一つとして、職業人を加えた講義形態、学生に表現させる発信型の講義などを考えています。(私立・30代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

【大学院は少数精鋭であるべき】

- ・大学院重点化で多くの学生を入学させてしまったことは、質を低下させた。大学院は少数精鋭であるべきだ。(公立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・高い評価)

【教えたい内容を持つ】

- ・小手先の授業改善でなく、教えたい内容を持つ。学生を育てたい。A)社会人としての自覚・知識を備えさせる。B)専門にあった自分で立案・解決の方向をとりうるようとの意欲が大切で、近年言われる学生からの評価などはあまり気にしない方がよい。学生がそんなことに関心をもつよりは”内容””気迫”に圧倒されるような講義が活性化につながると思います。(公立・50代・教授・理学系・修士課程まで・不明)

【人間性の問題】

- ・いろいろ策を弄するよりも、要は人間性の問題につきると思います。いかにそのような人間性をもつ人を教職者として採用するかであると思います。人間性には能力も含まれますが、それ以外のfactorが大きいと痛感します。(公立・50代・教授・理学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【大学全体の改善】

- ・1つの授業、1つの学科だけの努力では難しく、大学全体の改善が必要。TAを講義には使えないし、TAの使える授業が少ない。金と時間が

つぎ込める構造にしないと良い教育はできない。(公立・50代・教授・総合科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【入試選抜方法の抜本的改革】

- ・入試選抜方法の抜本的改革。・少人数教育の実施。・50～60分授業の導入。・「雑務」の軽減。・「評価」の厳密化。(公立・60代・教授・理学系・教養教育のみ・不明)

【良い方法を行っている教員にとっては、まだ改善しろと言われると承服できない】

- ・私は個人的には学生教育に人一倍勤めてきたつもりです。大学での教育は教室でのやり方もさることながら、むしろ研究室での研究方針や実験方法について指導するときの学生との接触の方が重要であると考えています。卒業研究では1年間、修士や博士課程ではさらに2年と3年、長い期間付き合うことになるが、それぞれの論文が出来上がり、卒業していくときに、目に見えてたくましくなっていることにこの上ないうれしさを感じるものです。学生には一人一人個性があり、その個性に合わせて研究テーマの難易度を変え、やり方を変えるなどして、彼らの弱点を充足し、又個性を伸ばすように工夫しています。研究では結果よりも、自然現象の変化に興味を持たせるよう工夫をしています。研究の結果は、我々の期待している成果は二の次で、学生に科学や工業に興味を持たせ、社会的責任感を持たせ、社会貢献できる人材にすることが第一であると考えています。現在大学は、先端先端と、企業で出すべき成果が大学に求められているが、これは本来大学に課すべき仕事ではないと考える。この不景気を乗り切るための短絡的対症療法であると、私は考えています。確かに、これまでの大学には外からの刺激が少なく、研究においても教育においても、我々先生方のモチベーションが低いものであったことは反省すべきです。しかし、前述した企業で求められている成果を大学に求める大学教育は、個性を尊重し、独創性を発揮させる教育とは相反するのではないのでしょうか。このアンケートに回答するに当たって、戸惑いを覚えました。例えば、問1や問2などは4、5に回答する方はいるのでしょうか。私はこのアンケートに回答しながら、むしろ「わたしの講義方法は良くないので、もっともっと修正しろ」と喚起させるためのアンケートに見えましたが(問7、8、20、26など)。これまで最も良い方法をとってきたつもりの先生は、まだ改善しろと言われると、承服できない気持ちになるのではないのでしょうか。また、問29は時間で回答させるより、比で回答させる方が良かったのではないのでしょうか。従って、この私のアンケートは無理やり回答した結果になっています。そのため、私の回答は統計からははずすべきかも知れません。(公立・60代・助教授・工学系・教養

教育のみ・ある程度高い評価)

【教員相互の授業参加】

- ・教員相互に授業参加し、方法の改善を行う事をどんどん取り入れていく。・科目間で出席の取り方(重点の置き方)に差があったり、成績(中間試験の有無)評価の基準にあまり違いのないようにする。(公立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)
- ・教員相互の受講ギムやネットによる授業公開という外圧が改善に必要でしょう。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・いろいろな大学でやっているFD委員会は意味がないと思う。それよりは、他の教員が他の教員の授業を自由に見学できるとすれば、それで十分だと思う。目に工夫する意志、意欲のない者に、組織的に押し付けをしても、アリバイ作りになるだけだ。(私立・40代・教授・社会科学系・教養教育のみ・高い評価)

【FDを通じて授業改善】【演習を取り入れる】

- ・(1)FDなどを通じて授業の進め方について改めて学習する必要がある。(2)演習や宿題を多く取り入れ、学生とのコミュニケーションの増進に役立てる(ていねいな採点などによって)。(3)学部(学士)教育では、全員が担当しなくてもよく、ある人は研究分野を主担当しある人は教育を主担当とするなどの分担があってもよい。(公立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【専門知識を教授する】

- ・専門知識を教授することと、学年進行に従って、学生が自ら学ぶ力を付けられるように、学年に応じた授業形態のあり方を学部全体で討論すること。(公立・30代・講師・その他・修士課程まで・高い評価)

【研究基盤をしっかりとさせた教育者の養成】

- ・研究基盤をしっかりとさせた教育者の養成をはかる。・教育のみならず、研究、学内運営、社会活動などに積極的に取り組み、意欲のある人材の確保。・教員の若返り。(公立・40代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教員個々人の理解と反省】

- ・教員の独善やパターンナリズム、守旧的態度、秘密主義の姿勢に個々人が理解と反省がなければなかなか難しいのでは？(公立・50代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・高い評価)

【研究しない教員の排除】

- ・?論文を書いたこともないような教員の排除。自己満足的な業績しかあげていない教員は、教

育においても自己満足し、常に更新しようとする姿勢はみられないと思う。(公立・30代・講師・教員養成系・学士課程専門教育・高い評価)

【伝統文化を理解し、その研究を継承していく】

- ・他ならぬわが国の伝統文化を理解し、かつその研究を継承して行く機関として大学教育における日本文学・日本語学系学科も他の研究領域との接点を有効に探り、より開かれた幅のある教育を目指すべきだ。(公立・40代・助教授・人文科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【外国語担当教員をセンターに移し、担当コマを増やす】

- ・外国語担当教員は全てセンターに移す、そして担当コマを増す。あるいは特任講師制度(仮称)を導入して契約し、比較的若い元気のある熱心な人を採用する。もちろん、専門科目の担当者は今のままでよい。(公立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・高い評価)

【事務局の協力を得る】

- ・教員だけではなく、事務局の協力を如何に得るか(しかし、難しい)。(公立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【担当コマ数により報酬を加算する】

- ・本学の場合は、通年で週13コマ担当する教員も、4コマ担当する教員も待遇に違いはない。したがって標準コマ数を設定し、多く余分に持つ教員は手当てがつかなど、実際の報酬を加算することで、教員の努力と成果に報いることが不可欠と考えられる。(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・不明)

【大学教育活性化のための議論】

- ・大学教育活性化のための論議には、欠いてはいけない観点が3つある。教育に関わる者自身の内面的、主体的な論議。大学教育以外のより幅広い視座からの論議。大学の伝統を積極的に継承する立場での論議。(私立・60代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生へのサポート】

- ・基礎学力、意欲のない学生へのサポート(課題); オフィスアワーにおいて個別指導を実施。(私立・50代・助教授・工学系・修士課程まで・不明)
- ・目的意識の欠如した学生に自己再評価をうながす。目的意識はあるが達成率の低い者を積極的に援助する。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)

【大学相互間の交流】

- ・大学相互間の交流、学生間の交流が多くなれば、プラスに働くと思われます。(私立・70代・不明・社会科学系・修士課程まで・不明)

【学生の名前を覚える】

- ・学生一人一人の名を覚えるという単純な行為をまず重視し、講義科目においても、双方向のコミュニケーション豊かな授業を実践できたと考えております。(私立・50代・教授・その他・修士課程まで・不明)

【学生や第三者の評価システムの確立】

- ・学生による授業評価や第三者の評価システムの確立が重要と思う。(私立・40代・助教授・工学系・修士課程まで・不明)

【教員が「プロ」になることが必要】

- ・全国に400校程度あるいわゆる有名高校を卒業した(これ以外の高校でも良いが)本来の高卒の学力のある学生がいる大学は医学等の特殊分野を除き、4年間の全てをいわゆる卒論のみに費やせばよい。現在のやり方は才能有るものを使いもにならなくして卒業させている。すなわち研究に重点をおく。これ以外の学力の学生がいる大学は、在学4年で最低高卒の学力、更にもう2年で最低短大卒の実力をつけるように、教育に重点をおく。教員はどちらかの意味で"プロ"になることが必要。今のままでは、学生も教員も行政もつじつま合わせて何れにも不満感のみのこる。この大原則だけ国民的合意=文部科学省としたら、すべては各大学に任せ行政でコントロールしたり、制度をこころ変えない。間接的に関係するが小学校、と中学校の教育に国=文部科学省は全力をあげる。ここがうまくいけば、大学の教育に関する問題の殆どは解決する。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・不明)

【学生の達成度を評価するシステム】

- ・現在授業改善は学生の授業評価をほとんど唯一の拠りどころとしている。特に、学生の満足度を重視する傾向には、モラトリアムを助長するような危惧を感じる。より客観的に学生の達成度評価をする方策について模索している。蛇足ながら、本学のようなほぼ全入状態の学校と学生を選択できる大学を同じ大学として捕らえるのは無意味ではないか。設問中にある英語での授業など夢のまた夢を通り越している。(私立・40代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【専門科目を教えるのが困難】

- ・経営上の問題から、入るべきでない学生多数が入学している。これらの学生に対し、専門科目の講義を行うのは大変困難が伴う。自分の担当科目はほとんど数学系をベースにしているが、教える時には、厳密さとか、理論的側面をでき

るだけ避けて講義している。そうすることによって、少しでも興味を抱く学生が増えることを願っているが、現実はいままくない。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・少し低かった)

【教員が学科の目的を理解し、情熱を持って教育する】

- ・教員のFD(各教員が学科の目的を十分に理解し、情熱をもって教育にあたること)(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【学生の意欲】

- ・意欲の問題、入学時の数、理、英の学力格差の問題、教授方法の問題、JABEEを想定した教育目標の問題が複雑に絡んでおり、当大学でも検討課題と考えています。(私立・40代・教授・工学系・教養教育のみ・普通であった)
- ・1.学生の"やる気"(つまり、勉学意欲)を高め、目的意識を(自覚して)持たせること。2.そのためのスキルを教員がもつこと(研鑽)(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・現在の教育問題は大学側より学生側とあると思う。学ぶ意欲のない者に教育を施すことの無意味さを実感する。休講があると喜ぶとか、さぼるとかというのは、授業料を自分が出していないことからくる。学ばなくても良い生活ができる者に教育をするという人は、ある意味でナレセンスである。(私立・50代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・学生に学習意欲をもたせることが大事だと思います。(私立・70代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・要はいかにして学生のやる気を引き出すか。初等教育では、ほめることが重要とされるが大学では学生をほめる機会さえなく、やる気のある学生にしか接する機会が少ない、学習意欲の少ない学生への対応が難しい。(私立・30代・講師・工学系・修士課程まで・不明)
- ・学生にいかにもやるきを起こさせるか(最も難しい)(私立・60代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・不明)

【アンケートを社会性をもって評価して欲しい】

- ・このアンケート結果も学内として(大学の先生がおちいり易い)評価するのではなく、より社会性もたせて、現実的に評価してほしい。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【クラブ活動の重視】

- ・クラブ活動をやっている学生の方が時間の使い方が上手で集中力が高いように思われます。学生トップにいる学生が多い、従って、大いに参

加させたいが。(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【授業評価の高い授業の参観】

- ・1. 授業評価の高い授業の参観。2. 教員と学生との関係作り。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【高校の延長のような授業をせざるを得ない】

- ・本来の大学は自ら学ぶ場であるが、我が大学は名ばかりの大学で高校の延長のような授業をせざるを得ない。しかし、一方的な授業や試験による強制は学習意欲をそく。私は学生に『勉強』は強いて勉めるから嫌い。『教育』は上から教えてあげて育ててあげるから嫌だ。私は『学習援助者』になりたい。」と云っている。いつもその気持ちで工夫している積りである。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)

【e-learningの導入】

- ・現在伝統的な大学の講義形式の中にe-learningを導入することによって、協調学習を実践している。ねらいは、大学教育の活性化である。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明)

【画一的なまたは、理想的な授業を一律に定めることが出来ない】

- ・各大学毎に、学生の能力、意欲が異なっていること。また、分野、授業科目によって、講義の達成目標が違つたため、画一的なまたは、理想的な授業というのは、一律に定めることが出来ないと思います。私としては、わかりやすい授業を考えるまえに、学生に対し、いかに勉強してもらうかにかに授業に出席してもらうかに最も関心があり、単に「興味を持って授業を展開するか」という問題ではありません。(私立・40代・助教授・社会科学系・修士課程まで・不明)
- ・一応回答しましたが、大学教育は様々ですので、この程の画一的な調査がどのような役に立つのかと疑問です。様々な調査が来ますが、このような安易な調査で貴重な時間をむだにしないことも教育を充実させるためには大切だと思います。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)

【入学する学生のレベルを向上】

- ・入学にくる学生のレベルを向上させる；奨学金制度の充実；大学院の充実。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・不明)

【マークシート方式入試の弊害】

- ・数学においても、文章表現においても、論理的に説明する事の不得意な学生が非常に多く、マークシート方式の入試の弊害を強く感じています。

す。論理を立てて論述してゆくことのできない、選択肢から選ぶだけの問題解決法を青少年期に重視してしまうことは問題が多く、大学人は入試の果す影響力について責任を持つべきと感じます。少人数教育と手のかかる指導を避けるべきではないと思います。(私立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・高い評価)

【特色ある教育に補助金を与えることに疑問がある】

- ・最近文科省は、教育を重視している証として、特色ある教育に報奨金を与えるように補助金を出し、わが大学もそれに添って色々応募をしている。しかし、その方向性は正しいとは言えないと考えている。学力、意欲、適正能力の意識などの多様化した大多数の学生諸君の能力を伸ばすためには、彼らが親と1：1に近い環境で過ごしてきたと類似の教育が必要である。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・不明)

【学生の目線に立った教育】

- ・学生の目線に立った教育が必要であり、学生との関係は個々によって異なるので、それぞれの関わりの中で、工夫していく独自性が必要と思われる。だれかの方法をどのような応用という手法は意味が無いのではと思っている。学力の低下は進んでおり、よりさえ細かな教育が求められている。高校までの教育の「ゆがみ」をダイレクトに受けている。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・学生の立場にたった講義(教員、内容等)に対する評価のスタンダードが作成されるべきと考える。教員同士では、仲々、対応しにくいし、一大学が行ったとしても、公平性に問題があると思われる。私の大学でも外部機関によって、学生による講義および教員の評価を考えているようだが、その結果をいかに反映させるかが、一番の難題だと思われる。(私立・50代・助教授・農学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【各大学に研究所を作る】

- ・各大学に研究所をかならず作り、研究熱心な方は研究所で活動してもらいたい。学問的基礎を分り易く教えるには、教員の専門分野のすそ野を広げることが絶対であるが、誰でも24時間/日なので、研究熱心になると、教育(特に教える工夫、知識取得)の方がおろそかになる。おろそかになると、狭い自分の分野しか教えられず、話も巾がなく面白味が薄い。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【研究業績が評価されない教員は教育に集中させる】

- ・(1) 研究業績が評価されない教員には、研究費の支出を止め、教育にのみ集中させること。

(2) 社会サービス活動は停止し、教育のみに専念させる。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・高い評価)

【教員各自の意識のあり方】

- ・最終的には、すべて大学教員各自の意識のあり方にかかっていると思う。大学教員をひとつの単なる職業としてとらえるのではなく、やはり高等教育機関一聖職とまでは言わずともとしての誇りや理想が必要であると考えて。(私立・50代・教授・不明・修士課程まで・高い評価)
- ・教員の意識改革が最重要と考える。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・高い評価)
- ・長い間言われ続けているが、教員の意識改革がまだ不十分であると思う。入学から就職まで教員のこれらに割く時間が多くなるなか、個々の教員の工夫がより重要となる。社会が、一層複雑、多様化するなか、全人教育の大切さを再認識する必要があると思う。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)
- ・教員の意識改革を推進する。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・外から促されてするのではなく、自分から進めていくのが大切だと思う。(私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・最も重要なのは個々の教員の自覚であると考えて。まずは面子、ないしは恥の意識で動くが、設問にもあった報いが運動している方が勿論良い。自己ないしは他者点検のためにも、良い事例が容易に見られる機会や、研修の機会を設けることも有効であると考えて。各学問分野で、良い事例集ができると良いですね。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・厳格な研究教育業績評価の徹底に基づく教員の意識改革。(私立・30代・助教授・人文科学系・修士課程まで・不明)
- ・教員の自覚を高める。学長のリーダーシップと組織的な支援体制。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教養、基礎、臨床がリングした教育】

- ・教養、基礎、臨床がリングした教育；入学した学生が早期に学内に興味を持ち、勉強する意欲を接続できるように体験学習等を導入する。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【英語プログラムを改善】

- ・英語プログラム等を学科全体で立案し改善すること(個人レベルの効果的指導法を越えてデザインされるべき)(私立・40代・助教授・人文

科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【安心して教育・研究活動ができる環境】

- ・安心して教育活動、研究活動ができるようでありたい。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【進級判定の厳格化】

- ・進級判定の厳格化！！学生に目的意識を持たせる。怠惰な教員及び職員(幹部も含む)の追放。(私立・30代・講師・理学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・進級判定、卒業判定の厳格化により学生の勉学に対する緊張感を高める。(教員の)教育活動へのインセンティブを考慮する。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・普通であった)

【有能な若手、中堅教員を登用すべき】

- ・国立大学教授を定年退官した後私立大学教授に就任した超高齢教員の中には、もはや教育・研究での意欲、アイデアを喪失している人が全国的にみて相当数いる。そのような人は退任させ、有能な若手、中堅教員を登用すべきである。<本アンケートについての意見>大学教員にとって教育・研究は一体不可分の職務であり、その時間配布は重視尺度にはならない。問28で時間配布を答えさせているのは、ナンセンスである。問28、29の、は具体的にどのような活動を指すのか分からない。(私立・30代・講師・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)

【知的な活動の場、人間的成長を遂げる場との社会的なコンセンサスが必要】

- ・世界でも最低のレベルに近いと酷評される日本の大学教育を改善するためには、大学はレジャーランドではなく、知的な活動の場、人間的成長を遂げる場との社会的なコンセンサスが必要になっていると思います。特にマンモス私大は、大量に入学させ、授業への出席も強制せず、安易に卒業させ、ひいては大学教育の質を低下させた責任は重い。つまり日本社会全体が大学の在り方や方向性を打ち出していくべき時期に来ていると思います。(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・不明)

【新しい知識やデータの入手】

- ・常に新しい知識やデータを入手して、授業に生かすことが必要である。学生の立場に立って考えながら、授業や話しをすることが大切である。ささいな学生からの相談にも真剣に対応することも大切である。(私立・40代・教授・不明・博士課程まで・高い評価)

【学生との共同作業】

- ・授業は学生との協同作業。教員の努力だけでは

活性化しない。(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・普通であった)

(私立・70代・教授・工学系・修士課程まで・高い評価)

【FD参加を義務づけていく】

- ・大学教員の諸活動の中で、教育活動が最も重要な責務であるという合意を全国レベルで作っていくこと。そして、FD参加を義務づけていくこと(小、中、高の教員は研修が義務づけられている)今の状況では、授業期間中、研究活動は殆どできないことも問題であり、教育と研究を両立させていけるような方策はないものかと思う。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【専門学校化する】

- ・資格取得あるのは公務員試験対策など専門学校化すること。(私立・40代・助教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【「地域に開かれた」を意識しすぎる】

- ・「地域に開かれた」を意識しすぎることによって研究者としての顔が平板になることはさげたい。特に人文系であると産学協同は成立しにくいと思う。それゆえ、新聞などの記事(大学と産業、地域)を熱心に読むことができない。といっても地域の様々な人たちの問題提起は非常に生々しく、かつ研究テーマとして興味深いことも確かである。(私立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・不明)

【学会レベルでの検討】

- ・専門教育科目の中でも、多くの学生が興味もてる科目と、そうでない科目がどうしても存在するのが現状であると思います。従って、学会レベルなどのもう少し大きい視野で大学教育(専門科目)を活性化(教育方法や指導方法など)する方策を考えていくのが重要であると思います。(私立・30代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教員に全てを期待するのは無理がある】

- ・教員に研究、教育、社会活動、経営マネジメント等々を全て期待するのは無理ではないか?(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【分野によって評価が難しい】【任期制の採用】

- ・教育活動の改善に熱心な教員は、理工系、医学系、家政系に多く、不熱心な教員は福祉系、社会科学、人文科学系に多い。これは前任校でも同じ。教育活動の評価が後者の場合、難しい面があるとされる事が理由? 教授も含め、全教員の任期制採用が望ましい。4~5年毎の評価が望ましい。私立大学では教員が担当する教科(講義・実験・実習)の数が多すぎ、又、管理運営のための会合が多い、これを適当な線に低減する事が教育活性化の最善の方法である。

【社会の変化に対応できるような内容とシステムの組立て】

- ・社会の変化に対応できるような内容とシステムの組立て。(私立・60代・教授・その他・博士課程まで・不明)

【学生の意識変化を把握し、改革を行う】

- ・学生の意識変化を適切に把握し、教員自身それに(学生の変化)にあわせて自己改革を行わなければ教育はダメと思う(多くの学生がダメ、理解しないと学生を非難する教員が目につく。)(私立・60代・教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【インプリーディングの問題】【理事会の権限が強すぎる】

- ・1.各大学で後任人事が屢、当人の出身校の後輩に限定されること、及び、客観的、実質的に教育と研究業績を評価するシステムが機能していると言えない弊害を改める必要がある。後者については、ポイント点数制を全国的にモラル化することができないか検討すべき。2.私学であるから、理事会の権限が強すぎて、理事の教育・研究についての理解不足が大きすぎる弊を除去すべき。(私立・70代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)

【教育の改善に給料を反映させる】

- ・教育の改善に対するインセンティブ。改善の見られた教員の給料に(ある程度)反映させる仕組み。単なる努力の呼びかけでは実効性がない。各教員の改善努力に対する学部レベル・大学レベルでのサポート。単に努力せよと命令するだけでは実効性がない。(私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教育に対する理解と設備などへの投資】

- ・大学の教育に対する理解と設備などへの投資。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)

【教育の目的を明確にする】

- ・何のために学ぶかを明確にすれば、活性化は必然的におこる現象であると思う、つまり教育(何を伝達するか)が明確であることが大切である。(私立・30代・助教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・大学で「何を教育するのか?」という基本的な理念を大学スタッフが明確に持つことから考え直さなければならないと思います。大学・学部・専攻によって具体的な目標はさまざまですが、大学の間人間形成における役割の位置付けが希薄のように思われます。又、充実した大学

教育と大学経営はある意味反比例してしまうという問題。社会の中で大学という教育課程が必要であるとして認識されるためには、どうすれば良いのかということとを専門分野毎に再検討する必要があります。課題は多くあると思いますが、理想論ばかりですみません。(私立・40代・助教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の意識の確立】

- ・主体に取り組む学生の意識を確立するための諸方策が第一であると思う。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【大衆化を考慮した大学教育の在り方を検討する】

- ・大衆化されか、大学教育のあり方を認識する必要があります。高卒の半数が大学に入ってくる時代では従来の高等教育のあり方を問い直す必要があるように思います。エリートのための高等教育を別して論じるべきだと思います。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生のニーズを把握した教育改善】

- ・教育を主軸にして大学の活性化をすすめるのであれば、大学にとって顧客である受験生や学生のニーズを把握した上で、教育内容、教授法に反映させる姿勢が必要であろう。一般に自分の専門知識を与えるのが大学の教育という考え方が強い。カリキュラムにしても、ニーズよりもシーズを中心に編成する傾向がある。現在の大学の教育についての認識と社会や学生(親も含め)のニーズとの差異がひろがりはないかと懸念される。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)

【国内大学間での講義受講のオープン化】

- ・国内大学間での講義受講のオープン化、特に医学教育では、このオープン化により、各大学で弱い部分が補える。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・高い評価)

【大学の分化】

- ・研究を専門とする大学、職業教育の基礎を主とする大学、一般教養を身につかせる大学など大学の分化が必要ではないか。建前では大学は研究専門とするはずであるが、多くの大学は学生の単なる遊园地と化しているのが現状、教育活動についても上記が混在しているので、混乱している、混乱しているように思っている。(私立・50代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【講義時間の最低年間コマ数を決めて、全ての講義科目は選択とする】

- ・教師の担当する講義時間の最低年間コマ数を決めて、全ての講義科目は選択とする。学生に明

示するシラバスが丁寧に書かれる様になり、学生が選択することで講義内容が評価される様になる。漠然とした講義が少なくなるのではないだろうか？(私立・50代・講師・理学系・博士課程まで・不明)

【教員相互の平等な討論】

- ・大切なのは教員相互間の平等な討論と支え合いの関係を確立することである。学問を基本にして、それから社会との関係を考える教員グループの形成を基本にする。このアンケートのように文部省の組織した上からの、あるいはボス教授グループによる上からの、各大学教員をバラバラにしたままを直接かもうとするのは好ましくない。現に医学部教育改組はボスの思いつきでやっているため、成功していない。(私立・50代・講師・理学系・教養教育のみ・不明)

【小一中一高からの流れをみなおす】

- ・小一中一高からの流れをみなおす。(私立・40代・講師・不明・修士課程まで・普通であった)
- ・1.大学教育を活性化させるためには、それ以前の小中高教育を再考すべきだと思う。"ゆとりの教育"と低学年層では言われているが、大学に入学する世代になった低学年に本当に研究、教育を授けることが可能かどうか疑問である。現状では、研究成果を授ける前に、大学教育では、人間教育を先ず行わなければならない状況のようである。寧ろ、教育(研究ではない)を重視すべき。2. 貧しいがゆえに十分に教育を受けられなかった学生、あるいは勤労学生は、"ゆとりの教育"を推進している(特定集団の子供とばかりにかけると可愛想である、文部省の改変が必要ではないか。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)
- ・大学入学までの12年間の教育を"yes or no"で答える二者択一型から答えは必ずしも1つでもない、自分の意見を述べる型に変える。
 - ・授業改善のためのサバティカルが欲しい。あったら良い。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【事務系の充実】【必要経費の控除を認める】【給与の大学内格差をなくす】

- ・1.教員が研究・教育に専念できるよう事務系の充実。2.教員が研究・教育に専念できるよう、必要経費の控除を認める。3.教員が研究・教育に専念できるよう、給与の大学内格差をなくす。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・高い評価)

【大学や学部をこえた協同】

- ・学部にもよるが、学際的な性格を有する学部では、ともすれば各教員が、自分の専門性を追求するあまり極めてバラバラで、体系性を欠くカリキュラムになる傾向がある。学界レベルで、

また、大学や学部をこえた協同によって、例えば「社会科学」教育や「総合政策学」教育に必要なものが何かについて、情報を共有しそれを探り入れるべきである。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・不明)

【学生調査】

- ・今の学生には何が足りないかを調査し、それを補ってやるのが大切だろう。また、成績不振者に対してはその原因をつきとめて教員がその学生に働きかける姿勢が必要だと思う。(私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学問に専念】

- ・自分の学問に専念し、大学はそれを可能にする試みが重要。現在の商業主義的傾向は大学の質の低下に連がる。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)

【若い教員に任せたい】

- ・引退を目前にした老教員ですので、改革、改善の具体策は若い教員諸氏に任せたいと思います。多少のアドバイスくらいはできますが・・・
(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教員の採用方法を見直す】

- ・教員の採用方法を根本的に見直す。(私立・50代・教授・人文科学系・博士課程まで・高い評価)
- ・学校組織や学校教育の方式に自分が学生だった時に十分適応できた人材を教員として採用する。授業における学生の反応に関心のある教員を採用する。カリキュラムや講義科目デザインに興味の高い教員を採用する。以上、専門知識と研究能力の高い人材であることは前提。(私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・有能な教員を採用し、無能な教員を退職させる。(私立・40代・教授・不明・教養教育のみ・高い評価)
- ・1.過去の博士号や学歴(出身校)にとらわれ過ぎず、その道に精通している人物を教育者に選択することが大切と考える。2.65歳を享年にしてはどうか(活性化には刺激となる)。(私立・60代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【優秀な外国人の採用】

- ・外国人の優秀な教員を多く採用すること；なるべく早い機会にインターシップを経験させること。(私立・60代・教授・その他・教養教育のみ・不明)

【同一教員同一科目を固定しない】

- ・(1)大学教育の活性化のためには、教員が活性化する必要がある。そのためには、同一教員同一科目を固定してはならない。これは学生にとっても教員にとっても、教育上良くない。本学部では3年前後で教員の担当科目が変わる(もとより短所もある)。(2)大学教育の活性化には基本視点が重要であるが、それが全くない。少なくとも、供給(教員)主導か需要(学生)重視かの基本的質問が全くない。(3)問11～問14のように、結論誘導型の質問はダメな気がするが？(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【授業参観】

- ・学生の評価の高い教員の授業を参観すること；授業中の課題とその解答などはインターネット内ホームページに載せて、学生の利便をはかること。(私立・60代・教授・理学系・学士課程専門教育・普通であった)
- ・1.授業参観、学生による評価の実施とそれを用いた学科レベルにおける討論(FD)；2.学生の達成度の評価の厳格化；3.研究の維持；4.RA、TAの増員。(私立・50代・教授・農学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学生との接触時間を増やす】

- ・学生との接触時間を増やし、教員の生きざまを学生に直接みせる。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・大人数での講義をなるべく減らし、学生を個人的に話す機会を増やすよう努力すべきだと考えております。(私立・40代・助教授・人文科学系・博士課程まで・不明)

【意識の低い教員の改善】

- ・意識のある先生方は、学生の授業評価に耳を傾け、改善を行っている。問題は旧態依然でせっかくの授業評価にも耳を傾けない教員が依然として多いことである。これらの教員をどうするかが、結果として大学教員の活性化につながると思います。(私立・40代・教授・理学系・学士課程専門教育・高い評価)

【大学教員の「ゆとり」を作る】

- ・大学教員の「ゆとり」を作ること。管理、運営にかかわる時間、エネルギー(ストレス)が多すぎる。一番のシワ寄せは研究活動にくるが、研究ができないと結局教員がやや細ってしまう。いったん制度(カリキュラム、評価制度など)を作ったら、ある程度の期間それを実施し、コロコロ変えないこと。カリキュラムの改変、新しい制度の導入には多くの時間とエネルギーが必要となり、日々の研究教育活動に支障が来られる。大学入学までの教育において、学生の基礎学力をある程度の水準(正しい日本語のよみかき、読書習慣、知識など)保障する。(私

立・30代・助教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)

- ・管理とは人間が人間をとりしめることではなく、教員や学生がゆとりを持って安全に自由に学習を継続できるように、設備や組織を改良、保存することであるという認識を確立すること。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・教員がゆとりを持って授業に当たることが大切であると考えています。アメリカの教育制度を導入するならば、教育の担当授業数についても基準を設けるべきだと思う。(私立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・少し低かった)
- ・教員にゆとりの時間を与えるべきである。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)
- ・もっと時間を！(私立・50代・教授・人文科学系・教養教育のみ・不明)
- ・FDと共に教師が授業の準備が十分にできるだけの時間の確保。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・不明)
- ・現在医学部の教育を担当しているが、診療及び卒業後教育で忙しく、学生教育の準備の時間が足りない、又、研究、学会活動などに追われ、ゆとり学生と、向き合う時間がない。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)

【教員の目的を明確にする】

- ・大学教員の目的を明確にする。すなわち、現在の大学は専門家養成のための制度ではなく、社会人として独立した人間となりうること(能力、責任意識)にあると思われるが。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【教育制度 ・ 社会全体の仕組みの変革】

- ・大学教育の活性化のためには、各大学や教員個人のFDに関する努力と同時に、教育制度や社会全体の仕組みを変革しなければならないと思います。誰しもが、個性と能力に応じた教育が受けられる制度にする事、効率だけを優先する社会の仕組みを変えることが必要だと思います。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【教職員が学生を育てる】

- ・大学は教育機関であることの意義は今日の少子化やゆとり教育の中で切実さを増している。更には国際社会での積極的な貢献をしていける人材養成のためにも、長期的な大学の発展のためには教職員が学生を温かく育てる必要があり、彼らがそれをやるか否かは、教職員と大学 ・ 学生の間に安定した切実な利害関係が制度的に確立できるか否かにかかっている。(私立・50代・講師・社会科学系・修士課程まで・高い評価)

【論理的基礎を理解させる】

- ・いろいろな学問の基礎となる必要条件、十分条件という論理的基礎をさまざまな知識をつめ込む前に、学生に理解させたいと最近思っています。専門でも知識の丸暗記は駄目で、その論理構造の理解が、知識の応用にも、知識の創造にも必要だと思っています。(私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・普通であった)

【初年次教育の充実】

- ・1. 初年度教育の充実。従来は、入学直後に「大学の自由度」を新入生に強調していたが、現在の学生には不向きとなった。クラス編成による「指導」が必要と思われる。2. 少人数教育機会の増加：すべての授業を少人数にすることはできないが、できるだけ在学中に個別識別される回数を増やすことが、学生の意識を高める効果がある。3. 職業形成援助活動：バブル崩壊によって、従来企業側が「分担」していた社会人基礎教育は、大学側に「丸投げ」された。この丸投げ部分を大学教育にどのようにとりこんでいくかが課題である。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった)
- ・高校時点での初期教育が大切。大学入学後には、学力の偏差が拡大しているの、それに対応した教育をせざるを得ない。偏差が課題で、これを解決するためには、習熟度別クラス編成が一つの方策である。(私立・50代・助教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【特になし】

- ・特になし。(私立・60代・教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教育用予算を十分つける】

- ・教育用予算を十分つける；助手やTAを十分雇傭する；教授 ・ 助教授を増やして非常勤講師を減らす；各学会な教育分科を活性化する；大学及び学会と高校教員との意識の疎通をはかる。(私立・40代・助教授・理学系・修士課程まで・高い評価)
- ・年度にまたがる予算の使用、期末(2, 3月)における予算の執行を認める。研究、教育図書の実、および図書館の整備、入試科目を増やす。事務職員を他大学で長期研修させる。(私立・50代・教授・理学系・博士課程まで・ある程度高い評価)

【地域社会との交流】

- ・地域社会と交流を深める。(私立・60代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教員の質の向上】

- ・改善する課題はたくさんあって、何ともいえませんが、教員の質（人間性、専門等）が高いと自然に活性化はするもので、その質が低い教員が教員の中でひとりでもいると全員の足を引張るものです。はっきり言えば、ダメの先生はすぐにやめてもらい、質の高い先生に替わってもらう、というのが望みですが、本学ではそれが一番難題だと思っています。（私立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・不明）
- ・大学教員の質の向上。大学教員の評価の標準化。教育型教員と研究型教員の分離。（私立・60代・助教授・理学系・博士課程まで・不明）

【FD ・SD活動】

- ・FD、SD活動は、日本においてかなり遅れている。京都大学の教員どうして授業参観、高知工業大学での教員の授業の点数化、急速に情報開示と、緊張感なる風が吹いてきているとは思えるか、まだまだ大学は、教員の意識を変えろ心がまえ、意欲がみられないのが現状である。授業評価する真摯に直視しないように感じている。（私立・50代・助教授・総合科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【教員を増やす】

- ・教員、助手の増員。学生の顔が見える授業人数。研究活動がじゅう分できるフリータイムが必要（教員が忙しすぎる）施設、設備の拡充。（私立・60代・教授・不明・修士課程まで・普通であった）

【教員の横のつながり】

- ・各教員の横のつながりが大切になってくるのではないか。上からの又はタテの関係からは、独自性が削かれ活性化という名の均一化につながる恐れがあると思う。（私立・40代・助教授・教員養成系・修士課程まで・普通であった）

【学生の意欲を出させる】

- ・無気力、無目的な学生に、未来を見つめる目を培ってあげること（学習意欲が乏胃）；
- ・教育環境をできるだけよくしたい。（最終的には費用、経費にいきつく）；
- ・教員の「あきらめムード」（学習意欲のない学生に対する）を捨てて、話し合う等により（意見交換）指導力を高める；
- ・少子代に対し、特に我々私学に入試、出口、授業評価などの問題をよく検討して、質の向上を考えなければならぬ。（私立・60代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価）

【学生が自分で考えることができるようにする】

- ・問20の内容が理解しづらい。哲学科という特殊性だけではないと思うが、英語力を身につけ国際社会に活躍できる人間を育てる以前に、人間としての「まとも」な思考力を育てる必要があると考える。活性化の主人公は学生であって、

彼ら一人一人が自分の頭でモノを考えるようになるため、細かくフォローすることが最も重要だと思う。（私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった）

【自己点検活動のための時間、費用、労力を授業改善に投入すべき】

- ・自己点検活動のためのエネルギー、時間、費用、人的資源（労力）をこそ授業改善に投入すべき。現状は多い有るムダ！（私立・40代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・低かった）

【学生の大学間移籍の自由化】【外国との学生交換】【海外研修 ・留学】

- ・（ ）学生の大学間移籍を自由化。（ ）外国大学との学生交換を拡大充実。（ ）卒業条件の中に海外研修 ・留学を含める。（ ）英語による講義を増やす。（ ）外国人教育 ・研究担当者の採用枠拡大。（私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【必修科目を減らす】【語学教育の拡充】【教員のレベルアップ】

- 1.必修科目を減らし、選択科目の種類を多くする。
- 2.語学教育を拡充する。
- 3.教員のレベルアップ。（私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価）

【大学を社会に開く】

- ・大学がもっと社会に開かれた大学になっていくべきである。（私立・50代・教授・教員養成系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【英語教育の改善】

- ・私は社会学部社会福祉学科に属している英語担当教員ですが、短大よりの再編成を含め3 4年間英語のみで授業をしています。なぜ日本の大学の英文科等が日本語のみで、いわゆる訳ばかりを学生にさせ、実際は日本語の授業になっているのが不思議でなりません。（私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・高い評価）

【教員の自由の確保】

- ・教員の良心を信じて、規制をなるべくしないようにするべきだと思う。自由度を重んじる運営が大切ではないかと思っている。（私立・50代・教授・その他・修士課程まで・ある程度高い評価）

【一つ一つ着実に実施】

- ・難しく苦労しています。特効薬はなく、一つ一つ着実に誠実に実施していくしか方法がないような気がします。（私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【教員の重みの少ない学校運営の改善】

- ・特に私大の場合、「教員」の重みが少ない、学

校運営がなされていると思われるケースが少なくない。これを改善すること。流動的な人材交流が不可欠。(固定したものは良くない) 年長教授による古い体質の昇進審査方法を改善すること。(人格無視—良い評価をしない。)(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【組織的な教科書作り】

- ・大学の教科書は一般に貧弱で、外国の本を多く使用している。もっと組織的な教科書づくりが必要である。成績評価も甘すぎる。世の中の評価が厳しくしないと個々の先生の努力ではなおらないと思う。(私立・50代・講師・理学系・博士課程まで・普通であった)

【社会人学生の授業参加】

- ・社会人の学生の授業参加をはかる。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【マスプロ教育を解消する】

1. 私大の経常費補助を1/2にすることによりマスプロ教育を解消することが先決である。
2. 教員の評価を研究論文数のみで行うのではなく教育活動の面も評価に入れるようにする。
3. 受講生との話し合いによる授業改革に取り組むようにする。
4. 社会契約により就職活動は10月以後とするように社会も協力するようにする。(私立・60代・助教授・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【国家試験を導入する】

- ・「何々科修得証明書」を発行するような国家試験を導入する、希望者は受験し、その証明書によって自分を表す方法にした方がよいと考えます。(私立・60代・助教授・工学系・修士課程まで・普通であった)

【学内組織(制度化)が必要】

- ・大学というところは中学、高校などの教育現場に比べて、学内の研究授業による教員同士の協力、協力関係がきわめて弱い。教育重視を掲げるとなれば、大学でも、研究授業を行い、教育指導方法の改善、視聴覚教材の利用など、工夫改善するための学内組織(制度化)が必要ではないか。お互いの教育研究領域を尊重するという建前で、実際には放任の傾向があるように思われる。(私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明)

【学生評価を公表する】

- ・教員に対する学生評価を公表する。(私立・40代・講師・総合科学系・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・教育の学生による評価を公表したほうがよい。学内では、ビデオを見せて帰る人や、1時間30

分の時間中半分くらいしかいかないひどい人がほんの一部だけで存在する。また、学生が事情があっておくれても入室を拒否する人などもある。担当教員にアンケートをやらせるのはまちがった(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【サバティカルリブの実施】

- ・サバティカルリブの実施。入試とカリキュラムと就職の一貫システム作り。(私立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・普通であった)

【教員が教育に熱心であること】

- ・教員が教育に熱心であることが、特に本学のようなマンモス校には重要です。(私立・40代・講師・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・大学教育の基本は、教員の意欲・熱意であり、その根源は、各教員の研究心であると思います。教育だけに熱意を持ち続けられる人もいますが少ないと思います。しかし、研究のみで教育を軽視する人も多く、高級な大学教授として権威をもっている。(私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【視聴覚・パソコン】【公開模範授業の実施】

- ・視聴覚、パソコン、P、Pの公開模範授業の実施。(私立・50代・教授・不明・博士課程まで・ある程度高い評価)
- ・基礎学力が低い学生が多いので、視覚教材を使った具体的な状況を目前に示す必要があると考えている。しかし、100名を越える学生に対して、一度に見せるのはかなりの工夫と努力が必要である。実演しながらビデオ撮影し、後方の学生に見せるなど。OHPやPower Pointを使った内容の多い授業を行ったが、効果の有無は疑問であった。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【教育目標を学生に理解させる】

- ・大学の各教育課程で取得すべき内容を明らかにし、学生にこのことを十分に理解させる。(私立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【人の交流を増すこと】

- ・教員、学生とも人の交流を増すこと。また、小人数教育は必須と思われるが、私立大では...(私立・30代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【以前は議論していたが、今は行っていない】

- ・教育の活性化は重要と痛感しています。個々の教員はそれぞれそれなりに努力していると思います。我々のところは理科系ですので、実験、実習についてはテーマ選択、方法等以前はかな

り時間をかけて議論したこともあります。しかし最近はやがたありません。これは、先に述べたように、教員の評価が研究業績に偏りすぎていることも原因になっていると思われる。新人教員を採用する場合も文部省は公募を強くほめています。この場合も研究業績で審査されます。それと、入試方式も考えなければなりません。学生の能力を引き出す入口として需要と思われる。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【「教育の活性化」に疑問がある】

- ・活性化の名のもとに規格品大学卒業生を作りだす恐れも感じます。義務教育は規格品のでもやむをえない面があるが、大学まで規格大量生産(?)学生の場合でよいのでしょうか。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・不明)

【学内会議を減らすこと】

- ・学内会議を減らすこと。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【授業方法の改善】

- ・1.話し方を明確にする;2.板書をはっきりとする;3.演習を行う;4.採点して返す;5.質問にこたえる(TAも含む);6.勉強をする雰囲気を作る(場所の提供のラウンジなど);7.学生(開く方)の感度を上げる方法を考える(意識を高める)(私立・50代・教授・不明・教養教育のみ・高い評価)

【教育のパラダイムを作る】

- ・現在、旧態依然とした。エゴはあるけど自身のない教員が多すぎます。FDに対する「最小限」のゼスチャーが見本ですので、早急な解決より、新しい「教育のパラダイム」を作り、「場ちがい」な教員を採用しないことです。(私立・50代・教授・農学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の意欲の相違による授業集団の区別が必要】

- ・学生の学習意欲の相違による授業集団の区別が必要と思われる。学生の達成感(自ら感じる部分)と教員の具体的アドバイスの適切さ(教え)をどのように測るのかは、1対1の対話が必要であるし、4年間(+)の継続的必要である。単発的、つまみくいの評価は、学生の成長、発展という目標に必ずしもつながらない。(私立・40代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【学習の動機づけ】

- ・入れる大学入って来る学生に学習の動機づけが重要。現実を体験させることは特に重要。(私立・60代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・

不明)

- ・入学してから、なるべく早い時期に、大学生生活とは何か?大学で勉強するとはどういうことか?に関するある種の自己啓発的活動を通して、学生の「動機づけ」が何より必要と考える。学生側に講義を聴こうとする、解かるとうする気持ちがなければ、どれだけ一つの(個別の)授業を工夫しても、学生の社会に対する付加価値はあがらない。又、授業改善も、学科全体(大学全体)で、全教員の意識が高まらないと効果は小さいように思う。(私立・30代・講師・工学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学力差に応じた指導】

- ・土台となる基礎学力がゆらいでいるので、大学初年度でまずこれをしっかり作りながら、自から学ぶ力を養う必要がある。そのためには一斉授業のやり方を各自努力して改善するとともに、学力差に応じて一人一人の学生をきめ細かく指導しなければならない。パソコン、マルチメディアを活用することで学習をサポートし、みずから学ぶ力を養う手助けが可能となる。また、教室では限界のある教員と学生の双互のコミュニケーションも活発にすることができる。(私立・50代・教授・理学系・修士課程まで・不明)

【学生の目標の明確化】

- ・学ぶ側(学生)の目標の明確化が必要だと思う。ただバクゼンと知識をうけいれるのではなく、「何を学びどういするか。」ということを通して自身自身が知ることが大事だと思います。教員は、知識のおしつけにならず、学生が学んでいこうとする力をひきだすために努力すべきであると思います。(私立・40代・講師・農学系・修士課程まで・普通であった)

【FDの具体的方法の啓蒙】【公平な評価法の確立】

- ・FDの具体的方法の啓蒙。公平な評価法の確立。(私立・50代・教授・農学系・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【現場で働いている人と大学教員との交流を深める】

- ・技術系大学のため、もっと現場で働いている人と大学教員との交流を深める。(私立・40代・助教授・その他・教養教育のみ・不明)

【視聴覚機器の設置】【経費の増額】【雑用を処置するパートタイマーの雇用】

- ・1.大学がスライド、OHPなどの教育用機器を全ての教室に設置すること。2.大学が教育に必要な経費を増額すること。3.大学が雑用を処置するパートタイマーを雇用し、教員の負担を軽減すること。4.大学院重点特別経費の学内申請を簡便にし、無駄な時間を費やさないこと。5.大学が研究に必要な経費をある程度支給すること。

6.教育、研究に用いる機器が購入できるように配慮すること(大学側)。(私立・50代・教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【教育に関するセミナーの受講】

・大学の先生は一般的に教育に関するトレーニングをうけていない教員の評価が研究に重点が置かれているため教育に無関心となりがちであった。今後は学内外の歌集のセミナーを受講するなど多方面から教育活性化の方策を取り入れていく必要があると思われる。社会的にも議論を活発化することや、学生の大学での勉学の目的意識の明確にも重要である。(私立・50代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・普通であった)

【教員による相互評価】

・教員による相互評価等、相互の刺激が必要である。(私立・60代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【他大学教育関係者による授業評価】

・全国の小中学校などで行っている、教育の視察のようなことや、他大学教育関係者による授業評価なども行えるようなシステム作りはどうか。(私立・50代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【国家試験を目的とする教育に疑問がある】

・所属が国家試験を目的とする学部であるため、何を犠牲にしても、それを優先させなければならぬ雰囲気や競争意識が顕著である。定期試験にしても多肢選択。これで何かを考えたり、創造できる人間を育てるのが疑問。本学、本学部のように国試を至上命題にしている以上、何といても無駄。いかに知識を売り切りするかのみ。であるとするならば、国試の形式をもう一度考えるべきであるが、丸暗記を強いる傾向は強まるのみ。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【実際の現状を公開する】

・公開だと思ふ。実際の現状をopenにする。これにつきる。(私立・40代・講師・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)

【職業人、社会人としての知恵を身につけさせるような教育】

・知識の切り売りにとどまらず、職業人、社会人としての知恵を身に付けさせるような教育、指導が不可欠と思われる。(私立・40代・助教授・社会科学系・修士課程まで・不明)

【教育職と研究職の時期を分ける】

・教育職と研究職を時期により明確に分離する。教育職は、教育技能で評価を行う。更に教育職については、教育体制の組織化を契約に折り込

む。(具体的なカリキュラム、シラバスにつき、専管者の指示、査定をうける。(私立・40代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【創造的な考え方とそのコスト効果を具体化するノウハウを身につけさせる】

・小生の教えている世界ではじめてまとめた「知識を知恵にかえる方法」を教えることにより、創造的な考え方とそのコスト効果を具体化することのノウハウを身につけること(必要であれば1時間15分のビデオとそのテキストを提供しています)。分析型の論文と構築型の論文の2つのパターンがあり、それをどのような考え方と?けばよいかの公式ガイドラインがほしい。(必要であればお手伝いします。これをバックアップする論文もあります。)(私立・70代・教授・工学系・教養教育のみ・高い評価)

【学生に中身のある情報を与える】

・小手先の技術的なことがらよりも大学教員側の考えている教育の目標と学生(特に新入生)の考えていることにズレを生じることがあり、これが教育にダメージを与えている。大学側は受験生にもう少し中身のある情報を与える努力をすべきと思うが。(私立・50代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【卒業要件を140~160単位へ戻すべき】

・文部省は、「ゆとり」教育を提唱されていますが、その主旨を理解して自分自身で努力する学生は少数であると考えられます。特に理系では、国が「技術立国」を提案されておられるなら、学部卒業要件を勝手にように、140~160単位へ戻すべきだと思います。人間性の形成のために、一般教養科目を重要視すべきであると考えます。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【実験さらには研究を通じて経験を教育の重要な一環として認識すべき】

・現在スクーリングが教育の手段として重要視されすぎて、実験さらには研究を通じて経験を教育の重要な一環として認識すべきである。卒業研究の学生の何人かは、非常に積極的勉強するようになる。講義で教えるのみでは身につけていない。特に工学系の学生に対しては卒業研究を通じての教育、人間的なふれあいこそが最も重要である。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教員の熱意と学生の意欲をマッチさせる】

・企業から大学に移って2年経ったところです。ビジネス最前線ではPowerPointによるプレゼンが当たり前になっていましたが、授業の世界ではまだ板書が主流です。私も1年目は板書で授

業をしましたが、2年目は教材をPowerPoint化しました。一部の教室は天井固定式の液晶プロジェクタが装備されていますが、大半は黒板とOHPしかなく、ポータブルのプロジェクタを持ち込んで授業を行っています。しかし、ビジネスプレゼンテーションと違って授業の場合は必ずしもマルチメディアを駆使すれば学生が興味を持って授業を聞くかということ必ずしもそうではないようです。テレビ化映画を見ているように受身になりがちだという意見もあります。板書のほうが教える側と教えられる側が作業を共有化できるというような面もあります。いずれにしてもツールは手段でありそれだけをいくら論じても手段と目的のはきちがえになってしまいます。一定レベル以上の装備、手段の充実が必要ですが、最後は教える側の熱意とハート（これがあってはじめて手段が生きる）。受講する側は意欲とそれなりの準備（大学以前の初等教育での学習成果も含めて）の双方をマッチさせる努力が重要だと思います。（私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・普通であった）

【管理・運営・教育環境の改善】【学生の学習意欲の向上】

- ・管理、運営・・・教育環境の改善。教育、研究・・・小人数の授業。受講学生・・・学習意欲の向上。（私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった）

【T Aの活用】

- ・T Aの活用。（私立・60代・教授・工学系・教養教育のみ・ある程度高い評価）

【学生に分かりやく、やる気を高めるカリキュラムづくり】

- ・私は、本年度開設の新学科について、カリキュラム、時間割作成を3年間ほど継続して担当してきました。学生に分かりやすい履習のしくみ、やる気を高め学生個々の将来設計に生かせるカリキュラムづくりを工夫したつもりです。幸い学部改組は好評をもって迎えられたらしく、受験生は倍増、予備校が示す予想ボーダーで既存学科は3段階（7.5ポイント）アップしました。講義はかなりやりやすくなり、充実してきました。カリキュラムや授業内容を明示して、受験生に選ばれる大学作りを目指し、うそいつわりのない成果を示す（授業でも、資格などの取得でも）ための努力が、まずすべての基本だと思います。（私立・40代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・不明）

【学生が理解しやすい授業の工夫】

- ・学生が理解しやすい授業の工夫。（私立・50代・教授・その他・修士課程まで・不明）
- ・分かりやすく、なおかつ、学生の知的欲求に込めうる講義がやはり基本だと思います。小

中・高の先生方の努力を我々大学の教員も見習う時期がやってきたように思います。（私は、〇〇時代、予備校講師をしておりましてので、尚更、その思いを強くしています。（私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価）

【教員間の自由な話し合いの場をつくる】

- ・所属の学科、専攻、系列等での教員間の自由な話し合いの場をつくる。そこで学生情報を収集、分析（インフォーマルな）が大事だと思う。リストラ状況の中で教員は個々人の業績を上げること、自己防衛に走りつつあり、学生情報を交換する機会は以前より少なくなってきた。教員間の協同、連携なくして学生は良くならないと思う。（私立・60代・助教授・社会科学系・修士課程まで・普通であった）
- ・学内や大学を越えて、授業改善のための研究会を定期的に行うなど、教職員間で大学教育について議論できる雰囲気をつくる。教員間でお互いの授業が公開できるようにする。（私立・30代・講師・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【中堅私学は、学生の教育を中心とした運営に徹するべき】

- ・我々のような中堅私学は、学生の教育を中心とした運営に徹するべきであると思う。研究は各個人の努力にまかせればよい。（私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【各大学がオリジナリティーを発揮すべき】

- ・大学の大量化に伴って、本来入学すべきでない学生とっても教育を受けるようになり、学力の低下は、大学のみならず、社会、国家の将来を暗くしている。各大学が画一的でなく、originalityを発揮すべきであり、それはできない教員は淘汰すべきであると考え。この三分の一各教育功献度評価を導入。（私立・50代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・不明）
- ・全入時代には、学力的にはこれまで想像も出来なかった学生が存在する。大学間の「すみわけ」が急速に進むと思われる。大学ごとの特徴をより明確にすることが今後の課題である。（私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【社会や産業の一線を見学、体験、触れ合いなどの機会を作る】

- ・初期段階で社会や産業の一線を見学、体験、触れ合いなどの機会を作るなどして、意欲を引き出し、自己啓発の姿勢をもたせると効果が期待できるように考える；教員は大学と学会活動だけでなく、常に社会や産業との交流とその維持に心かける。（私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・ある程度高い評価）

【学生にイニシアティブを与えるような教育】

- ・詰め込み、知識の注入主義の大学の講義から学生を解放して学び手である学生にイニシアティブを与えるような教育の転換。そのための学習環境の改革、IT導入に伴う多様な人材の投入（米国の大学で普通に見られるメディアスペシャリストのような専門職やTAの活用など）。以上は教授技術の小さな視点からの提言。（私立・60代・教授・不明・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【学生のレベル低下が著しく、教育方法・教育内容が大変である】

- ・ここ5年間における入学生のレベル低下が著しく、教育方法・内容共に大変である。また、学習障害生と思われる学生が増加している。対応と方策をいかにするか...。（私立・60代・教授・農学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【組織能力をつける、組織をくみなおす】

- ・組織能力をつける、組織をくみなおす（私立・50代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【教員の研究能力の向上】

- ・教員の研究能力の向上、それもidentityのある研究を展開すること、+哲学を持つこと。（私立・60代・教授・人文科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価）

【管理運営機構を民主化する】

- ・管理運営機構を真に民主化することが必要不可欠であるが、現行の流れはそのことを限りなくむずかしくしている。教師のやる気、生き甲斐を見い出せるような大学になっていない。そこどころにくい入るような改革が本当は求められているのではないか。（私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【興味深い問題を選び、考えさせる】

- ・意欲があれば知識情報は自分で得られる。知識情報の伝達に教員の意識が向かいすぎ、消化不良、拒食に陥っていると思われる。興味深い問題（将来自分と大きく関わるなど）を選び、考えさせる、概念的思考を訓練する、そしてこれこそ大学教育の重要な点であることを強調する。（私立・60代・教授・社会科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【勉強会】

- ・大学のカリキュラムを離れて、医療におけるコミュニケーションのあり方についての教員、学

生を含んで勉強会やcritical thinkingやdebateについての指導を行なっている。全ての学内の基礎としてのcritical thinkingやdebateの重要性が社会的に認知されているとは言い難く、ゲリラ的にやらなければ効率的な教育にできない。役人や管理者の理解不足が基本にある。（私立・40代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・不明）

【学習の成果を評価できるシステム】

- ・自主的な学習と、その成果を評価できるシステムが必要だと考えます。現在のシステムでは学部と大学院のギャップが大きすぎ、学部生のうちにもっと自主的に興味のある分野を掘り下げ、それを評価に(単位の)加えるシステムがあると良いと思います。（私立・40代・講師・理学系・修士課程まで・不明）
- ・学生の到達すべき目標を定め、そこまでの達成水準をこまめに評価すること、評価をその都度学生に正確にフィードバックするシステムを全学的に整えること。学生が力を抜ける場所を用意すること。本来、学生が自身でそのような場を見つけるべきだが、それができなくて心身ともに疲弊していく学生が多いように感じる。最近、大学教育のサービスとしての側面ばかりが重視される傾向があるが個人的にはあまり好ましくないと考えている。多様性に富む社会というものは個人にとって都合の良いものではない。例えば、話のかみ合わない相手に出会ったり、理不尽な仕打ちを受けたりすることがあるはずである。そうした社会で生きていける人間を育てるべき大学が、学生のサービスに徹していてよいのだろうかと思う事がある。正当な理屈を受け入れない偏屈な教員や学生にとって理不尽なシステムにぶつかりながら、ぶつづつ文句を言いながらも何とか切り抜けていくという経験も必要ではないか。（私立・30代・講師・人文科学系・修士課程まで・不明）

【学生の多様さ】

- ・大学教育の困難さは、学生層の多様さに、質の違いにつきると思う。これを一律に活性化するための方策を考える事は至難と思われる。（私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価）

【カリキュラム】

- ・大学の教育は、各教員が担当する授業科目が単体としてあるのではなく、カリキュラムという複数科目の有機的結合関係のもとで成り立っていると思います。複数の教員の集団が、個々の学生の教育にあたっていると見なすと、教員（科目）間の内容、目的、目標、実例、課題、演習との関係などの調整や確認、すりあわせが必要と考えます。それを通じて学生の動機、興味、必要感を向上させるべきと考えます。（私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・普通

であった)

代・教授・社会科学系・修士課程まで・不明)

【学生の学習水準と教員の考える大学生の水準に隔りがある】

- ・高等学校までの学習水準(学生)と教員が考える大学生のその水準の間に大きな隔りが存在する、また、学生は基本的に勉強をしない(私達が所属するような大学では)。これらが大きな問題で、大学の教員はそれを指導しなければならないため、授業レベルを下げて行っているが、どの程度まで下げるかが課題。その方策は見当らない。(私立・40代・助教授・不明・修士課程まで・ある程度高い評価)

【個別指導】

- ・教員が学生一人一人を大切に、個別指導を行って行くことが究極の大学教育の活性化につながる方法であると考えます。・日夜教員が、授業の改善に取り組む、準備をしっかりする、さらに学生には愛情をもって、時に厳しく指導することが大切であると考えます。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教育活動を中心にする】

- ・従来の考え方、すなわち大学教員は研究が主であるという発想を根本的に改める必要があると思います。教育が主となり教育活動が研究にも関連していくという形が私なりの理想です。(私立・40代・教授・教員養成系・修士課程まで・不明)

【学生の理解度・習熟度を観察】

- ・1. 学生の基礎学力の低下が著しい折に教員の押しつけではなく学生の理解度・習熟度をたえず観察すること。2. 自発的学習態度の育成。(私立・60代・教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)

【講義の公開】

- ・1. まず、自らの講義を公開すること。(私は"想定教科"については、全授業をインターネット上で学習者に対し公開 フクーではないしている) 2. 自らの授業シナリオを、できる限り詳細に記述し、その結果を記録として残すこと。3. 1, 2のような取り組みを組織的に支援するスタッフを配置し、授業の質の向上を、個人の責任にしないこと。そのためには、学生も参加させること。(私立・40代・教授・総合科学系・修士課程まで・高い評価)

【インターンシップ制度】

- ・情報メディア系は変化の激しい分野であり、実社会との連携を図る必要がある。このため、大学と企業が対等の立場に立ったインターンシップ制度の充実が望まれる。また教員相互、教員と学生のコラボレーションによる創造的活動の場を拡大することが必要と考える。(私立・60

【目標に応じた人事体制】

- ・大学は他の業界に比して、人事の即応性に欠けるとされます。教育目標や研究目標に応じた人事体制がとれるような施策が管理省庁に求められるのではないのでしょうか。経営責任のみに任せうる問題とは思えず、教育水準、研究水準の維持向上のためにも介入あってしかるべき問題かと思われます。何ごとも人材ください。(私立・40代・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【学生の興味】【世間の動向】

- ・学生の興味のあり方。世間の動向。細かい項目は答えにくい設問です。(私立・50代・教授・工学系・修士課程まで・少し低かった)

【教育と研究と社会的実践の一体化】

- ・本学は「デザイン系」の大学であるためにやや特殊な実情があるかもしれませんが、教育と研究と社会的な実践(社会で実際にデザイナーや建築家として仕事をしていること)が一体化していることが重要です。いわゆる「実務経験」に即した「教育方法」が効果をあげます。教育専門の研究者、研究方法とこの点が異なっているかもしれません。芸術系の大学、音楽系大学、体育系大学なども、本アンケートの質問内容は想定していないようですが...。(私立・40代・教授・その他・教養教育のみ・不明)

【学生の心にゆさぶりをかける】

- ・大学に入学している学生は高校には異なる何かを求めてやって来る。そのため高校の補習と同様のことをしてもあまり意味がないのではないかと思います。一言で言うのはむずかしいが、学生の心にゆさをぶりとかけることが必要ではないか。そのため現在苦慮している。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・高い評価)

【国立大学の方が余裕がある】

- ・国立大学は、私学の教員に比して、やはり、何事においても余裕がある。もっと乱暴な言葉をつかえば"楽をしている"。実際に自分の口から"何もなくても、一生懸命やらなくても、給料は一緒だから"という言葉が出てくるのが残念である。国立大学の運営システムがかわることは当然であると考えている。しかし、研究熱心な優秀な研究者もいることから、教員間に格差をつけるべきであると思う。(私立・30代・助教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)

【学長と理事長の意見交換】

- ・教学の最高責任者である学長と、経営の責任者である理事長が常に密接な連絡を保ち、学生の

必要と教職員の現実について意見交換し、信頼関係を保つことが最も重要なこと、考える。(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・普通であった)

【学部・学科レベルでカリキュラム化をはかる】

・学部、学科レベルでカリキュラム化をはかる。授業内容はおたがいにわからない。刊行されたシラバスは大雑把すぎる。学部、学科生に何を学ばせるかだけに焦点づけて、相互の授業を組み立てる必要がある。どの大学をみてもシラバスだけはカリキュラム化されているようにみえるが、実際に教員の恣意でおこなっている。(私立・50代・教授・人文科学系・修士課程まで・普通であった)

【大衆化への対応】

・大学が大衆化したことへの対応がまだ不十分ではないかと感じます。社会における大学の役割が問題になると思います。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・普通であった)

【資格のための講義とアカデミックな講義を担当する】

・資格試験、検定試験等の受験を前提に講義を行う授業と上記の試験以上のアカデミックな授業とを、それぞれ担当すべきである。一方は教育として、他方は研究者として講義を行うべきである。(私立・50代・教授・社会科学系・教養教育のみ・不明)

【大学が外に出ること】

・大学が外に出ること、(研究+実践) 1. 地域との結合一産、官、学による地域での企業起こし、ベンチャー育成にからむ。2. 社会人、外国人の積極受け入れ、-実務教育の取り入れ-刺激の増大; 3. 大学内行政(学内組織○学校という組織の不思議さ。生き延びるすべと考えるセクションがない○)の改革 大学は本来先生のためではなくて、学生のためなり、学校の理念に経営を専門に考える場所が学校には無い。企業なら、「企画」「調査」「社長室」ズバリ、「経営戦略室」などの機能が無い不思議な組織体が大学。(私立・60代・教授・社会科学系・教養教育のみ・普通であった)

【熱心でない教員の排除】

・熱心ではない人、従来の方法でまんざんと講義を行っている人の排除もしくは再教育。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【スタッフの増加】

・同時に診療、研究、教育を要求されても、少人数で行っており、どうしても効果のみ見にくい教育が後回しになる位置付にある。スタッフ数

の増加やローテートなどの役割分担が必要と思われる。(私立・40代・助教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【大学間の連携】

・同じ大学の学部・学科内の人間関係のなかでは、活性化に至る改善案や対策案が挙がりにくいと考えられる。他大学との大G買間交流や実際に、単位を互換して教員も行き来するような制度があれば、活性化につながるのではないか。(私立・50代・助教授・不明・修士課程まで・不明)

【大学の自由を守る】

・大学の自由を守るべきである。(私立・50代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・不明)

【マンパワーの不足】

・絶対的にマンパワーが不足している。私は医科系の教員であるが、研究、外来(ほぼ毎日)をこなしながらの教育活動(教育の改善を試みる等)は不可能に近い。(私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【何のために大学で学ぶのか教育されていない】

・小児期からの家庭生活や教育方針が根本からまちがった状態で、大学に入学しており、本人の人格や勉学の意志の欠落が多い。また個々に哲学がない。何のために大学で学ぶのかについて、国や社会に貢献することの大事さを教育、指導されていないことに最大の問題があると思われる。(私立・50代・教授・医歯薬学系・教養教育のみ・不明)

【総合的な教育目標】

・授業のコマ数を有効に用いるため、総合的な教育目標が必要、その目標にそって講義の分担を行い。(私立・60代・教授・医歯薬学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【豊かさを模索する雰囲気・環境】

・社会全体が手短かな実利追求よりも真の豊かさを模索する雰囲気、環境を有していること。社会全体のシステムに機会均等があり、勤勉さが反映される事。勉学の努力が着実に評価されるsystemが社会にあること。(私立・50代・教授・理学系・博士課程まで・不明)

【学生と先生の知識にギャップがある】

・視聴覚設備の多用はヘイ害があるのでは! 学生の知識と先生のそれとの間にGapを感じる人が多い。(私立・50代・助教授・医歯薬学系・修士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教育専門のスタッフを増やす】

・教育スタッフの充実、教育専門のスタッフ(ブ)を増やす。教育に力を入れているスタッフ

へのサポート、評価を上げる。良い教育法を学ぶ機会を増やす(サブティカルを与える)外国の優秀な教員をやと。第3者に教育のqualityを評価させる。開業医が学生教育に参加(久留米大小児科で積極的に進めている(とても好評)(私立・40代・講師・医歯薬学系・修士課程まで・普通であった)

【他大学合同でのFDの開催】

- ・FDの開催、それも自分の大学だけでなく、他大学と合同でやるのは意味がある。(私立・50代・教授・医歯薬学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【人事の活性化】

- ・人事の活性化、学生教育に対してもっと積極的にやる。(私立・40代・助教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【教師の自主性を尊重する】

- ・教師の自主性を尊重し(創意工夫を各自が行い)まがりなりとも、ステレオタイプな上がるの型に形式的にはまった教員を作るべきではない;教師の経験もない役人の意見など断じて聞くべきではない。(私立・50代・教授・社会科学系・修士課程まで・高い評価)

【図書館の研修会が参考になった】

- ・図書館の担当係として総会(研修会)に参加したなので、参加校の館員が"いかに学生のために役立つか、サービスをするか、いかに本を読んでもらうか、図書館に来てもらうか"など発表しているのを見て、大変啓発された体験がある。図書館協議会など研究会のなかで人が育っている。ただ大学教員間の問題としては分からない。最後に、外国で行われているところの入学試験をしない、入学後生き残ったものだけを卒業させる風土でのGPA制度をそのまま導入するのはどういうものかと疑問に感じています。(私立・不明・教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【研究と教育の両立】

- ・自分の研究活動と教育活動をいかに両立させていくかということに日々努力している現状であり、一般論的「大学教育」とのズレに少しとまどうこともあります。目の前の学生は、十人十色で、1人の学生も時間の経過とともに変化していきます。そこに、やりがいも感じるのですが、個性を尊重しつつ、能力や意欲のレベルの異なる学生との接し方に工夫が必要であることを痛感しています。授業には、パフォーマンスも大事ではと感じています。(私立・40代・助教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【研究・教育・社会活動の標準値を決めて評価

する】

- ・教員の評価において、研究、教育、社会活動など種々の項目があり、これまで論文数が最も重視されてきた。しかし、各教員が特色を持つ為には、夫々の項目の最低又は標準値を決め、どの項目も等価に評価し、各項目で基準をクリアしておれば、あとは個々が得意の分野に力を注ぎ、総合評価をすれば個性のある教員が増えると考え。これまでのように研究業績のみが高い評価を受け、昇格時もその比重が非常に大きいので論文のための研究をする教員が増えていたという弊害があり、地域貢献が軽視されていたが、最近は総合評価に傾いてきたのは喜ばしいと思う。(私立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【企業との連携】

- ・企業との連携による実学の効果的実施。(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【第三者評価】

- ・学部教育についての第三者評価をもっと積極に行い、その結果を公表すること。更に、教育力(各大学の)の保証(認定)等について、その方策を早急に検討し、公表すること。例えば、JABEEのような方策。(私立・60代・教授・理学系・修士課程まで・ある程度高い評価)

【教員が生き生きしていること】

- ・まずもって教員が生き生きしていること。知識はあるかもしれないが、本人自身の人生があまりにも単調であると、青年達にあまり魅力を感じさせない。子供の頃からひたすら優等生であったためか、そして単にそれだけであったがためか?(私立・50代・助教授・総合科学系・博士課程まで・高い評価)

【part time studentの制度の導入】

- ・part time studentの制度を充実して社会人学生を受入れ易くする。(私立・70代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

【JABEEの活動を活性化】

- ・JABEEの活動を活性化させる、認定に関らず、国際基準での授業運営を試みることは大学によって大きなインパクトになる。閉鎖的な組織を変えるのには「外圧」は有効である。(私立・40代・講師・工学系・修士課程まで・不明)

【演習・技術・日常の課題に重点を置く】

- ・(座学演習;知識技術;定期試験日常の課題)に重点を移くべきである(工学部に限って言えば);教員の保守的な考え方を変革すべく;ITができない、ホームページも作れない教員が多すぎる。これでは、授業の改善を思いつかないのも当然であろう。(私立・60代・教

授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

【生活・生産経験を豊かにするコースを重視】

- ・前提となる 生活・生産経験を豊かにするコースを重視すること。個々人に対する進路指導を充実させること。少人数教育により、学生とのやりとりの量を大幅に増やし基礎学力を高めつつ専門の分野の理解を助けることがまず必要と考えています。(私立・60代・教授・その他・学士課程専門教育・不明)

【60歳以上を常勤から排除】

- ・若干の責務の採用、大学役?者に講義をもたせぬこと、60歳以上の者を、常勤から排除し、有能者は非常勤として、高給で採用すること。(私立・60代・教授・その他・教養教育のみ・ある程度高い評価)

【システムアップが重要】

- ・なにごとにもボランティアは続かない、システムアップが重要である。大学教育の質改善は、教員雇用任期制；学生による授業評価；の教員処遇との連動制；優秀な教員に対する表彰制度等のシステムをつくるのが重要。しかし、総論賛成、各論反対が、日本の現実、また、現場に待っている、進まない。必要なのは、強力なトップダウン。私学においては、経営者トップの決断次第(学長に影響大なり)
- ・演習科目(設計)ではテーマを地域の課題とし、市民・行政の参加を求め、学生の責任感の向上、社会現実の理解向上。・私大(学科学生数150人)の環境で困難であるが、講義はマイクなし教室(70~80人)の小規模授業の希望。・研究教育準備時間の不足、費用の拡充(持ちコマ数の減、指導学生数・院生・ゼミ生の人数制限少人数化)。・演習の評価に外部講師の導入成果を上げている。・教育施設・設備の充実。(私立・60代・助教授・工学系・学士課程専門教育・不明)
- ・学生に実際のものをふわさせる教育をしたい。そのためには金と授業時間が不足する。(私立・50代・講師・工学系・修士課程まで・少し低かった)
- ・当大学は現在3大学統合に向けての改組時期にあり、本来の教育の活性化を強めていく矢先の改組となりそうで、学生もどうなるかを按じている現状です。将来的に大学の機能を活かす方向へと発展して欲しいと願っておりますが、17年度からの統合された様子をはっきりと見えてきておりませんので提案もできない状態です。(公立・50代・助教授・家政学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・問29ですが、前は私は学生と対応するのが楽しいと思えるらしく、教育活動に生きがいも少しは感じていたのです。しかし、プロモーションになると、全く学生に冷淡な者が研究業績の

- 多さで評価されるのを度々目にして考えが変わりました。学者は、やはり研究が一番であると今は考えています。もし、大学の教育に否があるとしたら、こういった点が原因ではないかとも一方で思います。(私立・40代・助教授・理学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・考えないと失敗し、けがをする。やけどをするから考えるようになる!!(私立・50代・教授・工学系・教養教育のみ・低かった)
- ・来春、定年退職するので、これは余りよい反応ではないと思います。(私立・70代・教授・工学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・本学のような体育学を専門とする大学は、健康の保持、増進を目的に教育・研究を行っている。一方、スポーツ活動も積極的に行われているので、健康を害することも多々ある。したがって、健康とスポーツ活動の両面を常に考えていかななくてはならないところに、教育・研究の難しさがある。今後検討していかなくてはならない課題が山積されいることも事実である。(私立・50代・教授・教員養成系・学士課程専門教育・不明)
- ・このアンケート用紙の前提となっている「教育の向上」の考え方そのものが私にはよく分からないように感じます。まずはお考えの礎を送っていただければよかったですかと思えます。何時間どうしているというように数値化できにくい人文系の研究にとって今日のFDの発想そのものが大きな疑問であり、そのうちに、自分のことばで自分の考えをとらわれなく、追っていくという基本的なことが学生も研究者もできなくなり、日本の教育の根本が崩壊するようにさえ感じ危惧せざるをえません。(私立・30代・助教授・人文科学系・修士課程まで・高い評価)
- ・(提案ではなく、感想です。)教員の業績は研究成果のみであり、教育に対する評価はないのが実情です。従って、じっくり考える機会も殆んどありませんでしたので、諸先生方の提案を期待しております。アンケートの各項目の一部についてはその意図や内容が明確でないため、適切に回答したかどうか判断できませんでした。例示があれば答え易いのではないかと思います。(私立・40代・講師・工学系・修士課程まで・少し低かった)
- ・新設3年でまだ確かなものが出せない状態。(私立・60代・教授・人文科学系・博士課程まで・不明)
- ・「活性化を必要とする」と認識しているのは永年の惰性によって機能が摩耗していると見做されているからであろう。前の時代(戦前)の教育の是非を問う要はない。しかし、極度にアメリカナイズされ大量一括処理、大量消費文化を大学教育に持ち込んだ弊は認めねばならない。ヨーロッパ(なかならずフランス)の教育制度、実態調査で発想を借りよう。(私立・60代・教授・社会科学系・学士課程専門教育・ある程度高い評価)

- ・現在学長職にあるので、"多々"ありますが、ここで記入するのは困難です。ご容赦ください。
(私立・60代・教授・不明・学士課程専門教育・ある程度高い評価)
- ・『山陽新聞』2003年6月2日付「オピニオン解説」-「大学改革のビジョン」を御参考していただければ幸いです。(私立・40代・助教授・人文科学系・修士課程まで・ある程度高い評価)
- ・時流として当課題への取り組みの重要性は了解するが、これが有効という方策は見出せてない。
(私立・60代・教授・工学系・学士課程専門教育・普通であった)

執筆者紹介

* 所属は本書刊行時点のもの

| | | | |
|----|----|----------------------------|------------|
| 有本 | 章 | 広島大学高等教育研究開発センター長・教授(編集代表) | |
| | | | 序章、第1章、終章 |
| 大膳 | 司 | 広島大学高等教育研究開発センター教授 | |
| | | | 第1章、第2章、終章 |
| 小方 | 直幸 | 広島大学高等教育研究開発センター助教授 | 第3章 |
| 福留 | 東土 | 日本学術振興会特別研究員 | 第4章 |

F D の制度化に関する研究(2)
- 2003年大学教員調査報告 -
(COE研究シリーズ10)

2004(平成16)年3月31日 発行

編 著 広島大学高等教育研究開発センター
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
電話 (082) 424-6240
印刷所 株式会社 タカトープ rintメディア
〒730-0052 広島市中区千田町3-2-30
電話 (082) 244-1110

ISBN4-938664-88-7



COE Publication Series No. 10

Study of the Institutionalization of Faculty Development Part2:

Report of the Nationwide Survey on University Faculty in 2003



**Research Institute for Higher Education
HIROSHIMA UNIVERSITY**

March 2004

ISBN4-938664-88-7